

平成 2 4 年度（第 2 0 回）
那覇市民意識調査報告書



2012 年（平成 24 年）12 月

那 覇 市

はじめに

ハイサイ！ グスーヨー チュウウガナビラ



那覇市では、市民の皆様の日常生活に関する意識と、市政運営に対する満足度と重要度についての評価を把握・分析して今後の市政運営に反映させるため、隔年ごとに市民意識調査を実施しています。

今回の調査では、多くの市民の皆様のご理解とご協力により、有意義な調査結果を取りまとめることができました。心より感謝申し上げます。

第4次総合計画もまもなく折り返しの6年目に入りますが、この調査結果を踏まえ、目標として掲げた6つの都市像の実現に向け、「いい暮らしより、楽しい暮らしを」という合言葉の下、市民が心豊かな生活が送れるよう、「市民との協働」で様々な施策に取り組んでいく所存であります。

市民の皆様には、本市の進める協働の取り組みへの積極的なご参加をお願い申し上げ、巻頭のあいさつといたします。

イッペーニフェーデービル

2012 年(平成 24 年) 12 月
那覇市長 翁 長 雄 志

～ 目 次 ～

I. 調査の設計と実施概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査設計	3
4. 調査業務スケジュール	3
5. 調査票の送付状況	4
6. 回収状況	4
7. 報告書の読み方	5
8. 調査票	5
II. 調査結果の概要	18
III. 基本調査結果	28
IV. 日常生活等に関する意識調査結果	33
V. 総合計画の指標調査結果	108
VI. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果 ...	148

資 料 編（別提供）

・ 自由意見	1
・ 調査結果データ	32

I．調査の設計と実施概要

I. 調査の設計と実施概要

1. 調査の目的

この調査は、日常生活に関する市民意識を把握するとともに、市が取り組んでいる政策に対する市民満足度と重要度についても把握・分析し、今後の市政運営に反映させるための参考資料とするものである。

また、「第4次那覇市総合計画」の進捗管理のため、施策ごとに設定された指標についても、本市民意識調査で行うと決定しているものについて、引き続き調査を実施した。

2. 調査項目

調査項目は、クロス集計による分析のための基本調査項目も含め、これまで通り、以下の4項目で構成した。

なお、設問の詳細と内容については、各部局へ照会を実施して、内容を確定させた。(質問総数は、分岐質問5問を含め、合計80問)

(1) 基本項目

- 1) 性別
- 2) 年齢層
- 3) 居住地区
- 4) 那覇市における居住年数
- 5) インターネット利用の有無

(2) 日常生活等に関する意識調査について

- 1) 住み心地について
- 2) 地域の自治会や地域における課題について
- 3) 市政への市民参加について
- 4) 都市計画について
- 5) 職員の対応について
- 6) 市街地活性化について
- 7) 福祉について
- 8) 子育て支援等について
- 9) 環境について
- 10) 平和行政・男女共同参画について
- 11) 防災行政について
- 12) 消防行政について
- 13) 上下水道について
- 14) その他

(3) 第4次那覇市総合計画の指標調査について

- 1) まちづくり活動に参加している市民の割合
- 2) 市政運営に対する満足度
- 3) 平和の発信・国際交流についての市政への満足度
- 4) 男女の地位が平等だと感じる人の割合

- 5) 市からの情報提供についての満足度
- 6) 行政サービスに満足している人の割合
- 7) 電子行政サービスを利用したことがある人の割合
- 8) 自分の適性体重に見合った食事量を理解している成人の割合
- 9) かかりつけ医を決めている人の割合
- 10) バリアフリーに配慮されていると感じる人の割合
- 11) 障がい者が共に暮らせる環境づくりの満足度
- 12) 「困ったときに助けてくれるまちである」と感じている人の割合
- 13) 地球環境保護のための実践項目数
- 14) 生涯学習施策に関する満足度
- 15) 子育て施策に対する満足度
- 16) 交通手段に占める自家用車の割合
- 17) 身近な道路の快適さ・使いやすさについての満足度
- 18) 自然と調和したまちづくりだと感じている人の割合
- 19) 地域に合ったまちづくりがなされていると感じる人の割合

(4) 市の政策に対する満足度・重要度調査について

- 1) 協働によるまちづくり
- 2) 幸せ感のあるまちの創出
- 3) 平和交流・男女共同参画
- 4) 市民に開かれた効率的な行政
- 5) 健康づくりと地域医療の充実
- 6) ユニバーサルデザインのまちづくり
- 7) とともに生きる心を育てる
- 8) 地域の支えあい
- 9) 自立を支援するサービス提供
- 10) 地球環境への配慮
- 11) 資源循環型社会
- 12) 自然環境の保全・再生・創造
- 13) 衛生的な環境の確保
- 14) 生涯学習の推進と地域の教育力の向上
- 15) 子育て支援と就学前教育・保育
- 16) 子どもの視点に立った環境づくり
- 17) 文化の継承と発展
- 18) 産業の振興
- 19) まちの活性化
- 20) 就労支援・相談体制
- 21) 都市防災と防犯
- 22) 市街地の整備
- 23) 交通体系の整備
- 24) 上下水道の整備
- 25) 自然と調和したまちなみ

3. 調査設計

(1) 調査対象	那覇市に居住する満 20 歳以上の男女
(2) 調査地域	那覇市全域
(3) 標本数	<u>1,500 人（回収率 30%）を目標とする</u>
(4) 抽出方法	年齢等間隔抽出法（住民基本台帳による等間隔抽出）による
(5) 調査方法	配布・回収共に郵送法による
(6) 調査期間	2012 年 9 月 1 日～9 月 20 日（20 日間）
(7) 調査実施機関	<u>株式会社沖縄チャンドラー</u> （一般競争入札により決定）
(8) 予算／経費	188 万円／183 万 7,500 円

4. 調査業務スケジュール

平成 24 年度調査の実施スケジュールは概ね下記の通りとなった。

4 月 12 日	（市民課へ）個人情報目的外利用許可申請
4 月 23 日	（市民課より）個人情報目的外利用決定通知書受理
5 月 2 日	（情報政策課へ）調査対象者抽出依頼
5 月 10 日	市民意識調査の調査項目について各部局へ照会
6 月 22 日	市民意識調査要求仕様書の決定
7 月 3 日	市民意識調査業務委託の一般競争入札実施と業務委託契約内容の決定
7 月 17 日	一般競争入札実施についての公告
7 月 24 日	調査概要とアンケート内容の決定
7 月 24 日	市民への協力依頼文に係る公印事前押印及び印影印刷承認申請
7 月 24 日	入札参加資格の確認申請書提出締め切り
7 月 27 日	競争入札参加資格認定通知書送付
7 月 30 日	市民意識調査委託業務に係る入札説明会
8 月 1 日	（情報政策課より）調査対象者抽出データ受領
8 月 2 日	一般競争入札実施・委託業者決定
8 月 3 日	市民意識調査業務委託契約締結／調査業務用封筒引渡
8 月 3 日	業者より工程表を受領
8 月 8 日	市民意識調査に係る個人情報の取り扱いを定める覚書締結
//	調査対象者データの提供
8 月 10～15 日	往復封筒宛名作成（業者）
8 月 17 日	アンケート用紙の印刷見本受領
8 月 10～22 日	アンケート用紙・依頼文印刷（業者）
8 月 23～27 日	配布準備実施（業者）
8 月 28 日	配達業者へ引き渡し（業者）
9 月 1 日	対象市民へアンケート到達（調査開始日）
9 月 1～20 日	市民意識調査実施期間
9 月 20 日	アンケート回答提出期限
11 月 8 日	アンケート用紙回収・データ取りまとめの締切
11 月 8 日	アンケート回答データの集計完了・報告（業者）
11 月 13 日	報告書印刷原稿の校正開始
12 月 14 日	報告書取りまとめデータ等成果品受領

5. 調査票の送付状況

住民基本台帳より年齢等間隔抽出法にて抽出を行った 5,000 人に調査票を送付して回答を依頼した。送付者の性別、年代別、居住地区の内訳は、概ね本市の人口構成に比例させて、以下の通りとなった。

		送付実数	送付比率
合 計		5,000 人	100 %
性別	男 性	2,373 人	47.5 %
	女 性	2,627 人	52.5 %
年代別	20 歳代	750 人	15.0 %
	30 歳代	904 人	18.1 %
	40 歳代	911 人	18.2 %
	50 歳代	814 人	16.3 %
	60 歳代	709 人	14.2 %
	70 歳以上	912 人	18.2 %
居住地区別	本 庁	1,559 人	31.2 %
	真 和 志	1,657 人	33.1 %
	小 祿	876 人	17.5 %
	首 里	908 人	18.2 %

6. 回収状況

(1) 回収実数と回収率

調査票の送付・回収は郵送法にて行った。総数で 1,355 の回収があった。有効回収実数、回収率、そして性別、年代別、居住地区別の回収実数、回収率は、以下の通りとなった。

送付時期が旧盆と重なった事もあり、目標とした標本数 1,500 人（回収率 30%）は達成できなかったが、標本数としては十分信頼できるものとなっている。

		回収実数	／ 送付実数	回収率 (%)
合 計		1,355 人	／ 5,000 人	27.1 %
性別	男 性	583 人	／ 2,373 人	24.6 %
	女 性	768 人	／ 2,627 人	29.2 %
	性別無回答	4 人	／ —	—
年代別	20 歳代	141 人	／ 750 人	18.8 %
	30 歳代	225 人	／ 904 人	24.9 %
	40 歳代	229 人	／ 911 人	25.1 %
	50 歳代	221 人	／ 814 人	27.1 %
	60 歳代	258 人	／ 709 人	36.4 %
	70 歳以上	277 人	／ 912 人	30.4 %
	年代無回答	4 人	／ —	—
居住地区別	本 庁	416 人	／ 1,559 人	26.7 %
	真 和 志	435 人	／ 1,657 人	26.3 %
	小 祿	200 人	／ 876 人	22.8 %
	首 里	289 人	／ 908 人	31.8 %
	居住地区無回答	15 人	／ —	—

(2) 集計方法

コンピュータによる単純集計・クロス集計

7. 報告書の読み方

- (1) 結果は百分率で表示した。少数第2位を四捨五入したため、合計が100%と一致しない場合がある。
- (2) 回答者を限定する質問では、限定質問該当者数を分母として用いた。
- (3) 経年変化に係る分析は、前回調査（「平成22年度市民意識調査」）等のデータを用いている。
- (4) 回答比率の小さいものは、グラフ表示などで読み取りづらい場合があり、数値表示を省略している場合がある。（詳細は、自由意見と共に別提供の資料編を参照していただきたい。）
- (5) 「わからない」及び無回答の解析は、特に必要がない限り行わない。
- (6) 指標調査は、「第4次那覇市総合計画」に掲げられた「めざそう値」の達成状況を中心に分析を行った。
- (7) 各質問の単純集計グラフの種類においては、特に意図がある場合を除き、選択肢を1つ回答の場合は円グラフによるパーセント表示を採用し、選択肢を複数回答の場合は横棒グラフによる個数表示を採用した。
- (8) 円グラフ等の表示においては、特に意図がある場合を除き、選択肢のトップから順に濃い色から薄い色へ変化するように表示の統一を行った。
- (9) 不適切な回答（選択肢にすべて○をつける、相反する選択肢に○をつける等）については、原則として無回答として処理しているが、回答者の意思の表明が読み取れるもの（訂正、取り消し等）は、できる限り反映させて処理した。
- (10) クロス集計においては、居住年数「1年未満」「1～2年」「3～5年」は、合算して「5年以下」として処理した。（それぞれ標本数が少ないため）

8. 調査票

次項に当該調査に使用した調査票を掲載する。

◆◆ アンケート用紙 ◆◆

調査概要とお願い

- 1 このアンケートは、市民の皆さまのご意見を市政に反映させるため、那覇市が2年ごとに実施しているものです。
- 2 ご回答は、協力をお願いしたご本人をお願いしております。事情により、ご本人の記入がむずかしい場合は、ご家族の方がご記入ください。
- 3 ご回答内容は、統計的に処理いたしますので、回答いただいた方にご迷惑をおかけすることは一切ありません。
- 4 記入いただいた調査票は、同封の小さい封筒（あて名 那覇市企画財務部企画調整課宛）に封入して、
9月20日（木）までに、ポストにご投函くださいますようお願いいたします。

◇調査に関する問い合わせ先 那覇市企画財務部企画調整課 担当 崎濱
TEL : 862-9937 fax : 862-4263
e-mail : m-gyousei001@neo.city.naha.okinawa.jp

◇調査委託実施機関 株式会社 沖縄チャンドラー 担当 安谷屋
TEL：862-5871 fax：866-0780
e-mail：chandler@orange.ocn.ne.jp

平成 24 年 9 月
那覇市企画財務部企画調整課

※以下の質問では、あてはまるものに○印をつけてお答えください。

例) あなたのお住まいは?

1. 那霸市内 2. 那霸市以外

【基本調査】

質問 1. あなたの性別は？

1. 男性 2. 女性

質問2. あなたの年齢は？

1. 20 歳代 2. 30 歳代 3. 40 歳代 4. 50 歳代
5. 60 歳代 6. 70 歳以上

質問3. あなたのお住まいはどの地区ですか？

1. 本庁 2. 真和志 3. 小禄 4. 首里

質問4. あなた的那覇市での居住年数は？

1. 1年未満 2. 1～2年 3. 3～5年
4. 6～10年 5. 11～20年 6. 21年以上

質問5. あなたはインターネットを利用していますか。

1. はい 2. いいえ

質問5-1. 「はい」と答えた方にお聞きします。あなたがインターネットを利用する時は何を使いますか。あてはまるものすべてを選んでください。

1. パソコン 2. 携帯端末（携帯電話、スマートフォンなど）
3. テレビ、ゲーム機など 4. その他（ ）

【日常生活等に関する意識調査】**（1）住み心地について****質問6. あなたは、那覇市に「自分のまち」として愛着を感じますか。**

1. 愛着を感じる 2. 愛着を感じない 3. どちらともいえない

質問7. 那覇市の住み心地について、次の中から1つお選びください。

1. 非常に住みよい 2. まあ住みよい 3. 普通だと思う
4. 少し住みづらい 5. 非常に住みづらい

（2）地域の自治会や地域における課題について**質問8. あなたのご家庭は、自治会・通里会などに加入していますか。**

1. 加入している 2. 加入していない（今後加入したい）
3. 加入していない（今後も加入しない） 4. わからない

質問8-1. 「加入していない」と答えた方は、次の中から1つ理由をお選びください。

1. 必要性を感じない 2. わずらわしい 3. 時間的にゆとりがない
4. 永住する気がない 5. 関心がない 6. 自治会がない
7. 勧誘がない 8. その他（具体的に： ）

質問9. あなたがお住まいの地域（小学校区）における課題で特に大きいと思うものを1つお選びください。

1. 地域の美化・清掃 2. 自治会、PTA、その他団体などの連携
3. 防犯活動 4. 防災活動 5. 非行対策 6. 一人暮らしのお年寄りへの援助
7. 交通安全 8. 住民同士の交流 9. その他（ ）

(3) 市政への市民参加について

質問 10. 市政への関心について、次の中から1つお選びください。

- | | | |
|--------------|--------------|-------------|
| 1. 非常に関心がある | 2. まあ関心がある | 3. あまり関心がない |
| 4. まったく関心がない | 5. どちらともいえない | |

質問 11. 市民の市政参加を促すために、市がすべきだと思うことを次の中から2つまでお選びください。

- | | |
|------------------------------|-----------------|
| 1. 参加の機会を増やす | 2. わかりやすい広報活動 |
| 3. 楽しく参加できる工夫 | 4. 参加の呼びかけを増やす |
| 5. インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる | |
| 6. 自治会活動の活性化 | 7. NPOなどの活動の活性化 |
| 8. その他 () | |

質問 12. あなたは、那覇市の情報を何から得ていますか。主なものを次の中から2つまでお選びください。

- | | |
|-------------------|---------------------------|
| 1. 新聞やテレビ・ラジオ | 2. インターネット（那覇市のホームページ） |
| 3. 広報紙「なは市民の友」 | 4. インターネット（那覇市のホームページ以外） |
| 5. ラジオ広報「那覇市民の時間」 | 6. 那覇市メールマガジン |
| 7. 市民便利帳 | 8. その他（市の配布するチラシやパンフレット等） |

(4) 都市計画について

質問 13. 那覇市を景観的に美しいまちとするために、どのような取り組みが必要だと思いますか。次の中から1つお選びください。

- | | | |
|----------------|-------------|---------------|
| 1. 建物の色をそろえる | 2. 緑を増やす | 3. 建物の高さをそろえる |
| 4. 看板の大きさを規制する | 5. 電線を地中化する | 6. その他 () |

質問 14. 子どもからお年寄りまで、誰でも快適に移動できるまちづくりのために、重要だと思うものを次の中から2つまでお選び下さい。

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1. 歩きやすい歩道を整備する | 2. 自転車を利用しやすくする |
| 3. バスを利用しやすくする | 4. モノレールを利用しやすくする |
| 5. タクシーを利用しやすくする | 6. オートバイを利用しやすくする |
| 7. 道路を整備する | 8. 路面電車等の新しい交通手段を導入する |
| 9. 駐車場を整備する | 10. その他 () |

質問 15. モノレールやバスなどをもっと利用しやすくするために、重要だと思うものを次の中から2つまでお選び下さい。

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 1. 時刻表などの発着案内の充実 | 2. 駅や停留所へベンチや屋根を設置する |
| 3. わかりやすい路線設定 | 4. ICカードの導入や乗り継ぎ割引の実施 |
| 5. お年寄りや交通弱者でも乗りやすい車種の導入 | 6. 専用レーンの拡充による定時性の確保 |
| 7. 他の交通手段への乗り継ぎ | 8. その他 () |

(5) 職員の対応について

質問 16. この1年以内の本市職員の対応（電話対応も含む）についての印象を次の中からお選びください。

- | | | | |
|-------|-------------|-------|-------------|
| 1. 良い | 2. 前より良くなった | 3. 普通 | 4. 前より悪くなった |
| 5. 悪い | 6. わからない | | |

質問 16-1. 「良い」または「前より良くなった」とお答えした方は、「良い」と感じたところを次の中から1つお選びください。

- | | | |
|-------------|--------------|------------|
| 1. 言葉づかいや態度 | 2. 説明がていねい | 3. 待ち時間の短縮 |
| 4. 身だしなみ | 5. たらいまわしがない | 6. その他 |

質問 16-2. 「前より悪くなった」、または「悪い」とお答えした方は、「悪い」と感じたところを次の中から1つお選びください。

- | | | |
|-------------|------------|------------|
| 1. 言葉づかいや態度 | 2. 説明が足りない | 3. 待ち時間が長い |
| 4. 身だしなみ | 5. たらいまわし | 6. その他 |

(6) 市街地活性化について

質問 17. あなたが、次の中心市街地商店街へ行く回数を教えて下さい。

- | | | | | |
|---------|---|----------|----------|-----------|
| 【国際通り】 | { | 1. ほぼ毎日 | 2. 週3～4回 | 3. 週1～2回 |
| | | 4. 月1～2回 | 5. 年1～2回 | 6. 全く行かない |
| 【マチグラー】 | { | 1. ほぼ毎日 | 2. 週3～4回 | 3. 週1～2回 |
| | | 4. 月1～2回 | 5. 年1～2回 | 6. 全く行かない |

※マチグラー：「市場」を意味する方言。ここでは、昔ながらの市場・商店街。
[例]第一牧志公設市場、平和通り商店街、沖映通り商店街、栄町市場商店街など。

質問 18. 国際通りやマチグラー等、中心市街地商店街を魅力あるものにするには、どのような方策が必要だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。

- | | |
|--------------------------------------|------------------|
| 1. 花や緑を増やす | 2. 案内表示板等を充実させる |
| 3. 定期的にイベント等を開く | 4. トランジットモールを続ける |
| 5. 気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす | |
| 6. 歩道や広場等でオープンカフェや屋台市を定期的で開催する | |
| 7. 新たな再開発を行うとともに、駐車場を整備する | |
| 8. 託児施設や子どもを自由に遊ばせられる場所を整備する | |
| 9. ファッション専門店やお洒落なカフェ等を誘致する | |
| 10. 映画館等アミューズメント施設を誘致する | |
| 11. 利用客へ共通サービス（駐車場割引券、ポイントカード等）を実施する | |
| 12. その他（ | ） |

質問 19. 喫煙マナー向上のため、路上喫煙防止条例が制定され、国際通りや沖映通り等が「路上喫煙禁止地区」として喫煙が規制されていますが、路上における喫煙マナーは守られていると思いますか。

- | | | |
|----------------|--------------|------------|
| 1. よく守られている | 2. まあ守られている | 3. 守られていない |
| 4. まったく守られていない | 5. どちらともいえない | |

(7) 福祉について

質問 20. あなたは、「発達障がい」について、ご存知ですか。

- | | | |
|-------------|--------------|-------------------|
| 1. よく知っている | 2. だいたい知っている | 3. 聞いたことはあるが詳しくない |
| 4. まったく知らない | | |

質問 21. 災害が起こり避難する時、高齢や障がいのため、近所の人による手助けが必要な方の個人情報取扱について、どのように考えますか。次の中から1つお選びください。

1. 条例を制定した上で、本人の同意の有無に関わらず、地域の自治会等に提供すべきである
2. 本人の同意の有無に関わらず、守秘義務のある民生委員に限り提供すべきである
3. 本人の同意を得て、地域の自治会等に提供すべきである
4. 災害に備えて、事前に情報提供する事は一切すべきでない

(8) 子育て支援等について

質問 22. 小学校就学前までの子育て支援策について、優先的に取り組んでほしい施策を、次の中から3つまでお選び下さい。

- | | |
|-----------------------------------|----------------------|
| 1. 公立保育所や認可保育所の受入児童数の拡大 | 2. 公立幼稚園での受入年齢などの拡充 |
| 3. 子育てについて相談や情報交換ができる地域子育て支援拠点の拡充 | |
| 4. 病中・病後保育（病児保育）の拡充 | 5. 障がい児保育の拡充 |
| 6. 育児休業制度や育児支援事業の啓発 | 7. 保育、教育に関する経済的負担の軽減 |
| 8. 乳幼児医療費助成制度の拡充（対象年齢の引き上げ等） | 9. その他 |

(9) 環境について

質問 23. 那覇市では、「緑のカーテン」事業を推進していますが、あなたのご家庭では壁面・屋上・ベランダ緑化など、できる範囲で緑化の取り組みを行っていますか。

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 行っている | 2. 行っていない |
|----------|-----------|

(10) 平和行政・男女共同参画について

質問 24. 平和行政について、重点的に取り組むべきだと思うものを1つお選びください。

- | | |
|---------------|-----------------------|
| 1. 米軍基地問題 | 2. 不発弾などの戦後処理問題 |
| 3. 戦争体験・記憶の継承 | 4. 長崎・広島など他都市との平和交流事業 |
| 5. 他国との平和交流 | 6. その他（ ） |

質問 25. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に対する、あなたの考えを次の中から、1つお選びください。

- | | | |
|---------------|---------------|----------|
| 1. 賛成 | 2. どちらかといえば賛成 | 3. わからない |
| 4. どちらかといえば反対 | 5. 反対 | |

(11) 防災行政について

質問 26. あなたは、災害に対してどのような備えをされていますか。あてはまるものを何個でも選んでください。

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. 避難場所・避難ルートの確認 | 2. ラジオ等（情報入手手段）の常備 |
| 3. 非常食、飲料水の備蓄 | 4. 非常用連絡手段の確保 |
| 5. 薬や医薬品、衛生用品の備蓄 | 6. 家具や備品の固定 |
| 7. 消火器等の消火用機器の整備 | 8. テントや非常用トイレの常備 |
| 9. 自家発電機などの非常用電源 | 10. ライトや乾電池の買い置き |
| 11. その他（ | ） |

(12) 消防行政について

質問 27. あなたは、応急手当（心肺蘇生法及び AED の取扱い）の講習を受けたことがありますか。

- | | |
|-------------|---------------------|
| 1. 受けたことがある | 2. 受けたことはないが、受けてみたい |
| 3. 受けたくない | 4. どちらともいえない |

(13) 上下水道について

質問 28. 市上下水道局発行の広報誌「なはの水」をご存知ですか。

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

質問 28-1. 「知っている」と答えた方にお聞きます。それはどちらで入手、またはご覧になりましたか？ 何個選んでも結構です。

- | | |
|------------------|--------------|
| 1. 「なは市民の友」の折り込み | 2. 本市関係機関の窓口 |
| 3. 小学校からの配布 | 4. 公民館・図書館等 |

(14) その他

質問 29. 那覇市は平成 25 年 4 月から中核市へ移行し、様々な業務分野でより市民に身近なサービスが提供できるようになります。あなたは、那覇市が中核市になることを知っていますか。

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

質問 30. 那覇市の魅力を再認識し、より愛着を深めてもらうため、市民・企業・行政が協働して、7 月 8 日を「なはの日」として、各種事業を開催し盛り上げています。あなたは、「なはの日」をご存知でしたか。

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

質問 31. 市長は、「いい暮らしより楽しい暮らしを」を提唱していますが、現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を 10 点、「とても不幸」を 0 点とすると、何点くらいになりますか。次の中から 1 つだけ点数を選んでください。(参考／全国調査の平均は 6.4 点)

とても不幸 ← 0 点 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 点 → とても幸せ

【総合計画の指標調査】

ここでは、第4次那覇市総合計画で設定された指標について調査します。以下の質問では、あなたの気持ちに最も近いものを1つ選んでください。（質問44については複数回答）

質問32. あなたは、行政や自治会、PTA等が行うまちづくり活動に参加したことがありますか。

1. よく参加している 2. 参加したことがある 3. 参加したことがない 4. わからない

質問33. 市民の声を行政に反映するしくみづくりについて、あなたはどのように思いますか。

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

質問34. 平和の発信や国際交流（姉妹友好都市との交流など）の推進について、あなたはどのように思いますか。

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

質問35. 社会全体でみた男女の平等について、あなたはどのように思いますか。

1. 男性の方が非常に優遇されている 2. どちらかという、男性の方が優遇されている
3. 平等である 4. どちらかという、女性の方が優遇されている
5. 女性の方が非常に優遇されている 6. わからない

質問36. あなたは、市の広報活動（広報紙「なは市民の友」、ラジオ広報、那覇市ホームページ等）について、どう思いますか。

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

質問37. あなたは、市の行政サービス全般について、満足していますか。

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

質問38. あなたは、市が提供する電子行政サービス（メールマガジンや電子相談システム、公共施設の予約システム、図書館の貸出予約システム等）を利用したことがありますか。

1. よく利用している 2. 利用したことがある 3. 利用したことがない

質問39. あなたは、自分の標準体重（適正体重）に見合った食事の量を知っていますか。

1. はい 2. いいえ

質問40. あなたは、かかりつけ医を決めていますか。

1. 決めている 2. 近いうちに決める 3. 決めていない 4. わからない

質問41. 市内の道路や公園、建物のバリアフリー化（高齢者や障がい者も使いやすくすること）について、配慮されていると思いますか。

1. 思う 2. どちらかといえば思う 3. どちらかといえば思えない
4. 思えない 5. わからない

質問 42. 那覇市は、障がい者が地域でともに暮らせる環境整備（相談体制の整備、障がい者の介護、心のバリアフリーなど）がすすんでいると思いますか。

- | | | |
|---------|---------------|-----------------|
| 1. 思う | 2. どちらかといえば思う | 3. どちらかといえば思えない |
| 4. 思えない | 5. わからない | |

質問 43. あなたは、行政や民間相談機関、地域の人などが「困ったときには助けてくれる（相談できる）」と感じていますか。

- | | | |
|---------|---------------|-----------------|
| 1. 思う | 2. どちらかといえば思う | 3. どちらかといえば思えない |
| 4. 思えない | 5. わからない | |

質問 44. 地球環境保護のため、あなたが実践していることを次の中から選びください。この質問では、何個選んでも結構です。

- | | | |
|----------------------|---------------------------|------------------|
| 1. 電気の節約 | 2. 水の節約 | 3. マイバッグの使用 |
| 4. ごみの減量 | 5. 紙・布・缶・ビン・ペットボトル・草木の分別 | |
| 6. 生ごみの堆肥化 | 7. エコドライブの実践 | 8. 公共交通の利用 |
| 9. ノーマイカーデーの実践 | 10. 地産地消の実践 | 11. 環境にやさしい商品の選択 |
| 12. ベランダ・屋上・壁面等緑化の実践 | 13. 太陽光発電の利用 | 14. 太陽熱温水器の利用 |
| 15. ハイブリッド車・低公害車等の利用 | 16. 省エネ家電・製品の利用 | |
| 17. エコ住宅の新築・エコ住宅への改築 | 18. その他（マイはし、マイボトル、裏紙使用他） | |

質問 45. 本市は、市民の学習意欲に応える学習機会づくりや地域活動の支援・促進を図っていると思いますか。

- | | | |
|---------|---------------|-----------------|
| 1. 思う | 2. どちらかといえば思う | 3. どちらかといえば思えない |
| 4. 思えない | 5. わからない | |

質問 46. 本市における子育て支援（保育所での延長保育、公立幼稚園での預かり保育、放課後児童クラブ等）の取り組みについて、満足していますか。

- | | | | | |
|-------|---------|---------|-------|----------|
| 1. 満足 | 2. まあ満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 | 5. わからない |
|-------|---------|---------|-------|----------|

質問 47. あなたが、ふだん使っている主な交通手段を次の中から 1 つお選びください。

- | | | | |
|--------|---------|----------|----------|
| 1. バス | 2. タクシー | 3. 自家用車 | 4. オートバイ |
| 5. 自転車 | 6. 徒歩 | 7. モノレール | |

質問 48. 市内の身近な道路の整備について、あなたは満足していますか。

- | | | | | |
|-------|---------|---------|-------|----------|
| 1. 満足 | 2. まあ満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 | 5. わからない |
|-------|---------|---------|-------|----------|

質問 49. 本市は、自然と調和したまちづくりが進んでいると思いますか。

- | | | |
|---------|---------------|-----------------|
| 1. 思う | 2. どちらかといえば思う | 3. どちらかといえば思えない |
| 4. 思えない | 5. わからない | |

質問 50. 本市では、赤瓦や石垣、樹木などをいかした、地域に合った個性豊かな景観づくりが行われていると思いますか。

1. 思う 2. どちらかといえば思う 3. どちらかといえば思えない
4. 思えない 5. わからない

【市の政策に対する満足度・重要度調査】

○ 那覇市では、第4次総合計画に基づき、様々な政策を展開しています。

以下の質問では、本市の取り組んでいるそれぞれの政策に対する満足の度合いと、重要性についてのあなたの考えを1つずつ選んでお答えください。

(回答例)

質問. 本市の第4次総合計画について、あなたはどのように思いますか。

- (満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

質問 51. 市が取り組んでいる「協働によるまちづくり」の政策（自治会等の活動への支援、行政への市民参加促進等）について、あなたはどのように思いますか。

- (満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

質問 52. 「幸せ感のあるまちの創出」(人権意識の普及、相談体制の整備等)の政策について、どう思いますか。

- (満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

質問 53. 「平和交流・男女共同参画」(平和学習、国際交流の推進等)の政策について、どう思いますか。

- (満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

質問 54. 「市民に開かれた効率的な行政」(職員の削減、組織の効率化、財政健全化の取り組み等)の政策について、どう思いますか。

- (満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

質問 55. 「健康づくりと地域医療の充実」の政策について、どう思いますか。

- (満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

質問 56. 「ユニバーサルデザインのまちづくり」の政策について、どう思いますか。

(※ ユニバーサルデザイン＝年齢、性別、国籍等に関わりなく、すべての人が利用しやすく、安全で快適なものをめざす考え方)

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

質問 57. 「ともに生きる心を育てる」(助け合いの心を育む取り組み等)の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

質問 58. 「地域の支えあい」(相談窓口、子育て支援策等)の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

質問 59. 「自立を支援するサービスの提供」(障がい者の自立、就労支援策等)の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

質問 60. 「地球環境への配慮」(省エネ等のエコライフの推進)の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

質問 61. 「資源循環型社会」(ごみ減量、リサイクル推進)の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

質問 62. 「自然環境の保全・再生・創造」(屋上・壁面緑化の推進等)の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

質問 63. 「衛生的な環境の確保」(し尿処理、害虫駆除等)の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

質問 64. 「生涯学習の推進と地域の教育力の向上」(図書館・スポーツ施設等の整備)の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

質問 65. 「子育て支援と就学前教育・保育」(保育所入所待機児童の解消、学童保育の充実等)の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

質問 66. 「子どもの視点に立った環境づくり」(学力向上、学習環境の整備等)の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

質問 67. 「文化の継承と発展」(文化財保護、文化芸術活動支援等)の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

質問 68. 「産業の振興」(観光振興、中小企業支援等)の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

質問 69. 「まちの活性化」(中心商店街の振興等)の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

質問 70. 「就労支援・相談体制」(雇用の促進等)の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

質問 71. 「都市防災と防犯」の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

質問 72. 「市街地の整備」(市街地再開発事業等)の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

質問 73. 「交通体系の整備」(市内の道路や公共交通の体系的な整備)について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

質問 74. 「上下水道の整備」の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

質問 75. 「自然と調和したまちなみ」(公園・緑地整備等)の政策について、どう思いますか。

- | | | | | | |
|-------|-------|---------|---------|-------|----------|
| (満足度) | 1. 満足 | 2. まあ満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 | 5. わからない |
| (重要度) | 1. 高い | 2. まあ高い | 3. やや低い | 4. 低い | 5. わからない |

その他、ご意見やご提言があれば、下記へお願いします。

以上です。
※アンケートへのご協力ありがとうございました。

前回の調査結果は、那覇市公式ホームページに掲載しています。

(「平成 22 年度那覇市民意識調査報告書」で検索してください。)

また、今回の調査結果につきましても、今年度中にホームページ上で公表し、報告書(冊子)を市立図書館へ配布しますので、ご覧ください。

Ⅱ. 調査結果の概要

II. 調査結果の概要

1. 日常生活等に関する意識調査結果の概要・要約

平成24年度実施の日常生活等に関する意識調査結果の概要は、下記の通りである。

(1) 住み心地について

約8割の市民が「自分のまち」として愛着を感じており、平成14年以降減少傾向にあった市民の愛着度は増加傾向に転じている。しかしながら、居住地区によって愛着度に差があることから、那覇市全体の愛着度向上を図るためにも、地域による問題点の改善が必要と思われる。

那覇市が「非常に住みよい」と感じている市民の割合は、これまでで最も高くなっており、着実に那覇市の住み心地が良くなっていると思われる。



- 77.7%の市民が那覇市に愛着を感じている。
- 愛着を感じない市民は3.2%で過去調査で最も少なくなっている。
- 居住地区では、首里地区の愛着度が高く、小禄地区が最も低い。
- 住み心地が普通以上と感じている市民は93.6%である。
- 「非常に住みよい」と感じている市民は19.2%で過去調査で最も高い。

(2) 地域の自治会や地域における課題について

自治会等へは、約5割近い市民が「加入している」と回答しているが、今回の調査時期や回答者の居住年数の偏りを考慮すると、今後の調査で、より正確なデータを得る必要がある。

自治会等へ加入していない理由として、今後加入したいと考えている市民の約5割は「自治会がない」「勧誘がない」と回答しており、今後も加入しないと考えている市民の約4割は「時間的にゆとりがない」「必要性を感じない」と回答している。

また、自治会等の設置率が高い首里地区でも「自治会がない」と回答している市民が多く、自治会等の存在を認識してもらうことや、活動内容を市民に広く理解してもらう必要がある。

地域（小学校区）の課題としては「地域の美化・清掃」「防犯活動」と回答した市民が多い。また、真和志地区では「住民同士の交流」、小禄地区では「交通安全」、首里地区では「自治会・PTAなどの連携」が比較的高く、居住地区によって課題が異なることから、それぞれに適した対策が求められている。



- 自治会、通り会等に参加している市民は 47.2%である。
- ほぼ年代や居住年数が高くなるのに比例して自治会等の加入率は高まっている。
- 今後自治会等へ加入したいと考えている市民の約 5 割が「自治会がない」「勧誘がない」を未加入の理由としてあげている。
- 今後も自治会等へ加入しないと考えている市民の約 4 割が「時間的にゆとりがない」「必要性を感じない」を未加入の理由としてあげている。
- 地域（小学校区）の課題としては「地域の美化・清掃」「防犯活動」の順である。

（３）市政への市民参加について

市政へ関心がある市民は約 6 割となっており、市民の市政へ対する関心は低くなる傾向がみられる。

市民が市政へ参加するために「わかりやすい広報活動」や「楽しく参加できる工夫」を望んでいる。

市民が市の情報を得るツールとしては、「新聞やテレビ・ラジオ」と「広報紙なは市民の友」が多く、全体の約 8 割となっている。



- 市政へ関心のある市民は 62.2%、関心がない市民は 25.9%である。
- 年代が高くなるのに比例して市政への関心は高まっている。
- 市民の市政参加として望まれている取り組みは「わかりやすい広報活動」「楽しく参加できる工夫」である。
- 若い世代は、比較的インターネットを活用した市政参加を望んでいる割合が高い。
- 市の情報を新聞等のマスメディアで得ている市民が 43.5%、「広報紙なは市民の友」で得ている市民が 35.5%である。
- 若い世代は、比較的インターネットから、年代が高い市民は「広報紙なは市民の友」から情報を得ている割合が高い。

（４）都市計画について



那覇市を景観的に美しいまちとするための取り組みとして、「緑を増やす」と「電線を地中化する」で全体の 8 割以上を占めている。居住地区別では、本庁地区が「緑を増やす」首里地区が「電線を地中化する」と回答した割合が高い。

快適に移動できるまちづくりのために市民に望まれているのは「歩きやすい歩道を整備」「バスを利用しやすく」「路面電車等新しい交通手段」の順となっている。

モノレール・バスを利用しやすくするためには「高齢者や交通弱者でも乗りやすい車種の導入」や「わかりやすい路線設定」が求められている。乗りやすい車種の導入は高い

年代が望んでおり、若い世代は比較的「ICカードの導入や乗り継ぎ割引の実施」を望んでいる割合が高い。

- 那覇市を景観的に美しいまちとするためには「緑を増やす」が43.7%、「電線を地中化する」が39.5%。
- 首里地区は「電線を地中化する」と回答した市民の割合が多い。
- 快適に移動できるまちづくりのためには「歩きやすい歩道を整備」が30.8%、「バスを利用しやすく」が15%、「路面電車等新しい交通手段」が13.3%である。
- 若い世代は「モノレール・オートバイを利用しやすく」と望んでいる割合が比較的高く、年代が高くなるにつれ「バスを利用しやすく」や「路面電車等の導入」を望む割合が高い。
- モノレールやバスを利用しやすくするためには、「お年寄りや交通弱者でも乗りやすい車種の導入」や「わかりやすい路線設定」が重要と市民は考えている
- 「ICカードの導入や乗り継ぎ割引の実施」は20代が12.9%、30代が8.9%と年代別では比較的高い。

(5) 職員の対応について

那覇市職員の対応については、良い・良くなったと評価している市民が約4割、普通以上と感じている市民が約4割となっており、市民の評価は年々良くなっている。また、年代が上がるのに比例して、市民の評価は高く、若い世代は悪い・悪くなっていると回答した割合が高い。

良い・良くなった点では「説明がていねい」「言葉づかいや態度」「待ち時間の短縮」の順で、3項目の評価は年々高くなる傾向にある。

悪い・悪くなった点では「言葉づかいや態度」「説明が足りない」「たらいまわし」の順で、「説明が足りない」「たらいまわし」は前回より割合が増え、評価は悪くなっている。



- 市職員の対応は「良い・良くなった」が38.4%、「悪い・悪くなった」が8.5%である。
- 年代が上がるのに比例して「良い・良くなった」と感じている市民が多い。
- 市民が良いと感じている職員の対応は「説明がていねい」「言葉づかいや態度」の順である。
- 居住年数が短い市民は「言葉づかいや態度」が良いと感じている割合が高い。
- 市民が悪いと感じている職員の対応は「言葉づかいや態度」「説明が足りない」の順である。
- 「言葉づかいや態度」が悪いと感じている年代は40代、60代が多い。

(6) 市街地活性化について



市民が国際通り、マチグー等の中心市街地商店街へ行く頻度は、「年 1～2 回」が最も多くなっている。「全く行かない」～「年 1～2 回」を合わせると、国際通りで 5 割近く、マチグーで 6 割となっており、中心市街地商店街へ殆ど行かない割合が年々増加している。

中心市街地商店街へ望む方策として、頻繁に行く市民は「トイレや休憩施設」「花や緑を増やす」が多く、殆ど行かない市民は「駐車場」や「共通サービス」と回答している市民が多い。

路上喫煙防止条例については、「守られている」と感じている市民は増加しており、浸透が進んでいるが、「どちらともいえない」等、明確な回答を避けている市民も多い。

- 市民が国際通り、マチグーへ行く頻度は「年 1～2 回」が最も多く、5 割以上の市民が、中心市街地商店街へ殆ど行かないと回答している。
- 中心市街地商店街へ行く頻度は、国際通りにおいては公共交通機関、マチグーにおいては自転車を主な交通手段とする市民が、比較的高くなっている。
- 市民が中心市街地商店街へ望む方策は「トイレや休憩施設」「駐車場」である。
- 中心市街地商店街へ頻繁に行く市民は「トイレや休憩施設」「花や緑を増やす」で、殆ど行かない市民は「駐車場」「共通サービス」を望んでいる。
- 4 割以上の市民が、路上喫煙防止条例が「守られている」と感じている。
- 路上喫煙防止条例が敷かれている中心市街地商店街へ殆ど行かない市民は、当該条例に対して「どちらともいえない」と回答している割合が高い。

(7) 福祉について

発達障がいについて、9 割以上の市民が何らかの認識があり、性別では女性のほうが認識度が高い。

災害避難時手助けが必要な、高齢者や障がい者の個人情報については、「同意を得て提供」が約 6 割、「同意有無に関わらず提供」が約 4 割となっている。ごくわずかだが、「同意を得て」や「提供すべきでない」が増加しており、プライバシーの尊重を重視する傾向がみられる。



- 発達障がいについて 91.7%の市民は、何らかの認識がある。
- 避難時の高齢者や障がい者の個人情報は、「本人の同意を得て自治会等に提供すべき」と回答した市民が最も多い。
- 「同意有無に関わらず提供すべき」が 37.1%、「同意を得て提供」が 58.6%、「提供すべきでない」は 1.8%となっている。

(8) 子育て支援等について

小学校就学前の支援に対する要望については、「公立・認可保育所の受入数拡大」が最も多く、次いで「経済的負担の軽減」となっている。

若い世代は「経済的負担の軽減」を望む割合も高いが、20代では比較的「育児休業制度や育児支援事業の啓発」を望む割合が高い。

- 要望の高い「公立・認可保育所の受入数拡大」は25.7%、「経済的負担の軽減」は18.3%である。
- 若い世代は、比較的「育児休業制度や育児支援事業の啓発」を望んでいる。



(9) 環境について



家庭で屋上緑化等を実施している市民の割合は、約5割となっており、概ね年代に比例して、実施している市民の割合は高くなっている。

- 壁面・屋上・ベランダ緑化等を行っている市民は47.1%である。
- 年代が高くなるにつれ実施度は高く、70代では54.9%となっている。

(10) 平和行政・男女共同参画について

市民は「米軍基地問題」を平和行政として、最も重点的に取り組むべきとしており、前回調査より大幅な増加となっている。比較的高い年代が「米軍基地問題」と回答しており、若い世代は「戦争体験・記憶の継承」と回答している割合が比較的高くなっている。

「夫が働き妻が家庭を守るべき」という考えに対する回答では、今回調査で初めて「反対」が「賛成」を上回る結果となった。

市では、当該質問に反対意識を持つ市民を増やしていく事が目標となっており、市の政策が浸透しているものと考えられる。

- 平和行政のために最も市民が望む取り組みは、「米軍基地問題」の44.1%である。
- 概ね年代が高くなるにつれ「米軍基地問題」をあげる市民が多い。
- 「夫が外で働き妻が家を守るべき」の考えに対しては、「賛成」が34.1%、「反対」が46.3%である。
- 「夫が外で働き妻が家を守るべき」の考えに対して、女性は「反対」の割合が高い。
- 「賛成」している市民の割合は、比較的高い年代に多い傾向がみられる。



(11) 防災行政について

市民が災害に対して行う備えは「ラジオ等の常備」「ライトや乾電池の買い置き」「避難ルートの確認」の順である。女性や、高い年代の市民は、災害に対する備えの数が市民の平均的個数より高い。



- 災害に対する備えは「ラジオ等の常備」が 800 人、「ライトや乾電池の買い置き」が 777 人となっている。
- 那覇市民の災害に対する備えの平均個数は、11 個中 2.55 個である。
- 女性や 50 代～70 代以上の市民は、平均個数 2.55 個を上回っている。
- 地区別では本庁地区、首里地区が、平均個数 2.55 個を上回っている。



(12) 消防行政について

応急手当（心肺蘇生法及び AED の取扱い）の講習は、市民の約 3 割は受講経験があり、約 5 割の市民が受講を希望している。

若い世代ほど受講経験の割合は高く、対して年代が高くなるにつれ、「受けたくない」と回答した市民が多い。

- 応急手当法の講習を「受けたことがある」市民は 28.9%、「受けてみたい」市民は 47.3%である。
- 応急手当法の受講経験は、若い世代ほど割合が高くなっている。
- 年代が高くなるのに従って、「受けたくない」と回答した市民の割合は高い。



(13) 上下水道について

那覇市上下水道局の広報誌「なはの水」を「知っている」市民は約 2 割、「知らない」市民は約 8 割となっている。

広報紙「なは市民の友」の折り込みによって「なはの水」を認識した市民が最も多く、次いで市の関係機関窓口となっている。

- 広報誌「なはの水」を知っている市民は 19.7%、知らない市民は 79.5%。
- 真和志地区の市民が、「なはの水」を知っている割合は高い。
- 「なはの水」を知ったきっかけは「なは市民の友」の折り込みが 70.2%となっている。
- 「なは市民の友」で認識した割合が高いのが、年代では 50 代、居住地区別では真和志地区となっている。

(14) その他

平成 25 年 4 月に那覇市が「中核市」へと移行することを「知っている」市民は 3 割弱となっており、最も認識度の高い 60 代でも 4 割に満たない。

市では、市民サービスの向上へ繋がる中核市への移行を、さらにアピールしていく必要がある。

7 月 8 日の「なはの日」を知っている市民の割合は 4 割を超えているが、若干「知らない」市民が上回る結果となった。市政へ関心がある市民は 5 割以上が「知っている」と回答しているが、さらなる周知を図る必要がある。

市民の幸福度については、那覇市の平均値が 6.05 点で、H23 の全国調査による平均値 6.41 点を下回る結果となった。

性別では男性、年代別では 40 代、50 代、居住地区別では小禄地区の市民の幸せ度が比較的低くなっている。



- 中核市への移行を「知っている」市民は 27.4%、「知らない」市民は 71.7%である。
- 男性や比較的高い年代は中核市へ移行することを知っている割合が高い。
- なはの日を「知っている」市民は 46.2%、「知らない」市民は 52.9%である。
- 市政に関心がある市民や、30 代～40 代は「なはの日」を知っている割合が高い。
- 市民の幸せ度の平均値は 6.05 点で、全国平均の 6.41 点を 0.36 ポイント下回っている。
- 全国平均を上回った属性は居住年数が 6～10 年の市民のみである。
- 幸せ度の平均値が最も低かった属性は居住地区が小禄地区の市民である。

2. 第4次総合計画の指標調査の概要・要約

平成24年度実施の第4次総合計画指標調査結果の概要は、下記の通りである。

第4次総合計画で掲げた指標のうち、今回の市民意識調査で確認した19の指標については、「わからない」無回答を含めて達成状況を判断するのか、除いて判断するのが未確定のため、2つの場合に分けて確認を行った。

結果として、

- 総数の比率で、2012年の「めざそう値」を達成したのは、

指標番号 2「まちづくり活動に参加している市民の割合」

15「市からの情報提供についての満足度」

22「自分の適正体重に見合った食事量を理解している成人の割合」

24「かかりつけ医を決めている人の割合」

28「バリアフリーに配慮されていると感じる人の割合」

の5つの指標

- 「わからない」無回答を除いた場合で、2012年の「めざそう値」を達成したのは、

指標番号 7「平和の発信・国際交流についての市政への満足度」

11「男女の地位が平等だと感じる人の割合」

16「行政サービスに満足している人の割合」

29「障がい者が共に暮らせる環境づくりの満足度」

31「困ったときに助けてくれるまちであると感じている人の割合」

52「生涯学習施策に関する市民満足度」

104「身近な道路の快適さ・使いやすさについての満足度」

の7つの指標となった。

3. 第4次総合計画の各政策に対する満足度・重要度調査の概要・要約

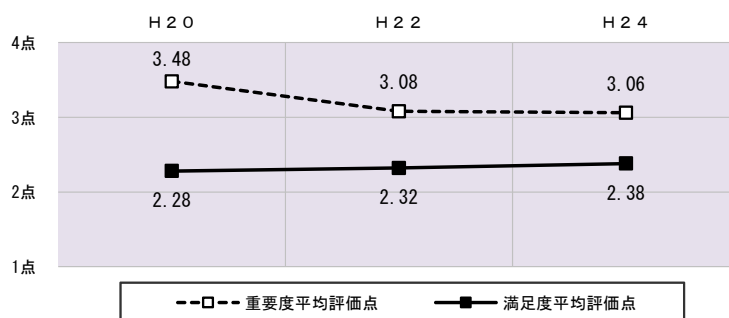
平成 24 年度実施の第4次総合計画各政策に対する満足度・重要度調査結果の概要は、下記の通りである。

第4次総合計画で掲げた25の政策に対する市民の満足度・重要度は、概ね重要度が高い領域で、満足度も平均値の周辺に集中して分布するという結果となった。

満足度の合計点数平均 = 1,944点
 満足度の有意回答者数平均 = 818人
満足度の一人当たり平均評価点 = 2.38点

重要度の合計点数平均 = 2,981点
 重要度の有意回答者数平均 = 975人
重要度の一人当たり平均評価点 = 3.06点

●満足度・重要度一人当たり平均評価点の経年変化グラフ（平成20年度～平成24年度）



満足度の一人当たり平均評価点は年々上昇し、重要度については減少している。政策に満足するほど意識は低くなると考えられるので、那覇市の政策については、概ね評価されていると捉えることができる。

しかしながら「都市防災と防犯」及び「文化の継承と発展」の政策については、満足度が減少し、重要度が増加しているため、今後重点的に取り組む必要があると思われる。

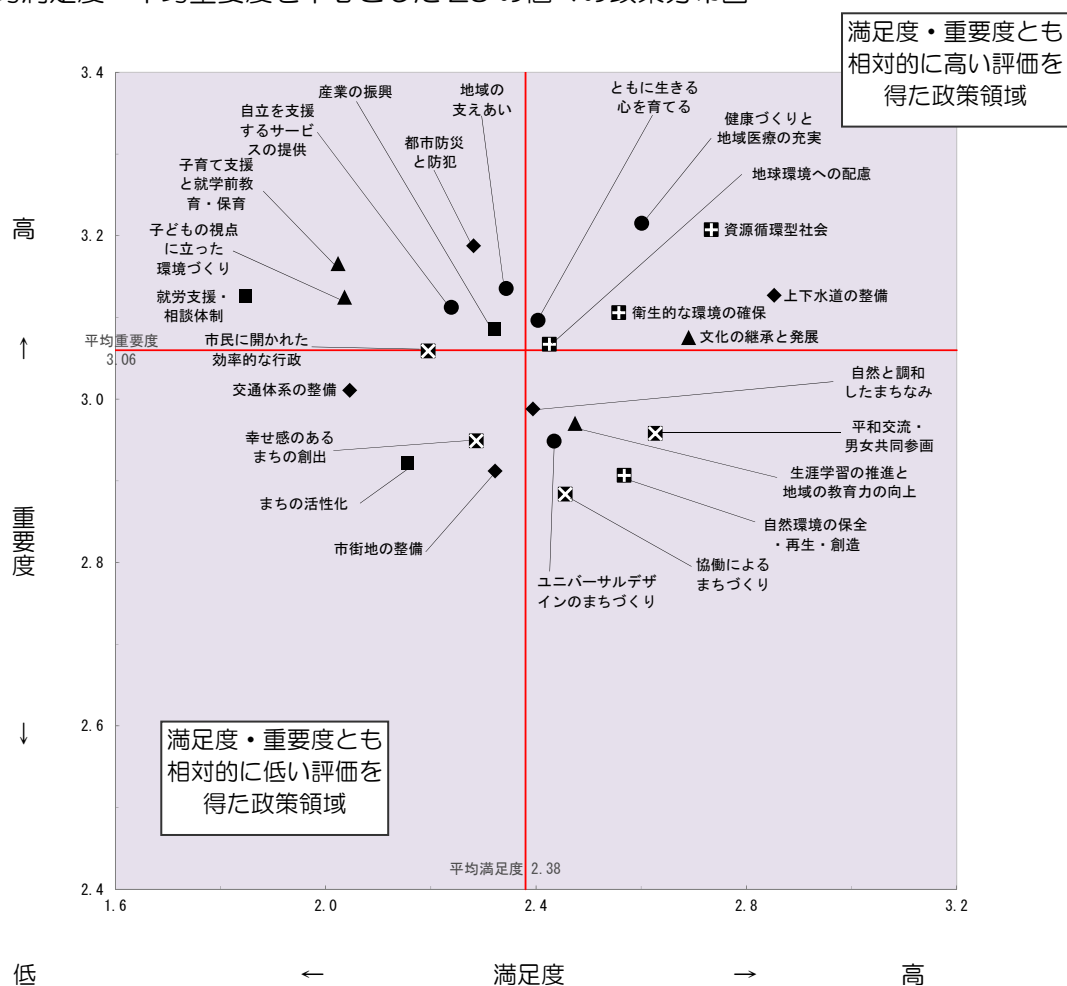
満足度・重要度とも相対的に高い評価を得た政策は、以下の7つの政策である。

- ともに生きる心を育てる
- 地球環境への配慮
- 衛生的な環境の確保
- 健康づくりと地域医療の充実
- 文化の継承と発展
- 資源循環型社会
- 上下水道の整備

満足度・重要度とも相対的に低い評価を得た政策は、以下の4つの政策である。

- 市街地の整備
- 幸せ感のあるまちの創出
- まちの活性化
- 交通体系の整備

●平均満足度・平均重要度を中心とした25の個々の政策分布図



Ⅲ. 基本調查結果

Ⅲ. 基本調査結果

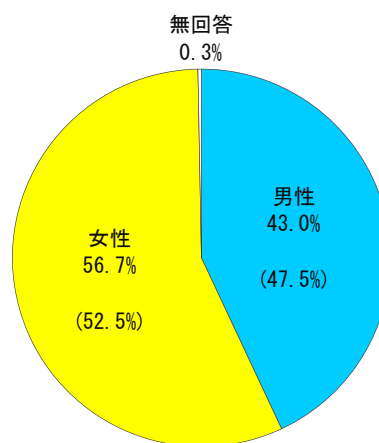
質問1. あなたの性別は？（1つ選択）

1. 男性 2. 女性

選択項目	回答数
男性	583
女性	768
無回答	4
合 計	1,355

性別の回答数については、「男性」583人（43.0%）、「女性」768人（56.7%）、「無回答」が4人（0.3%）となっている。

男女比については、那覇市の現状に近い標本数が確保されたと判断される。



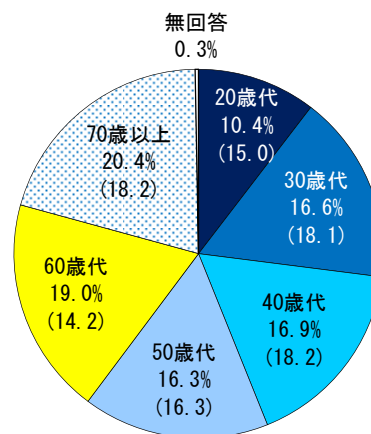
（ ）は送付率

質問2. あなたの年齢は？（1つ選択）

1. 20歳代 2. 30歳代 3. 40歳代 4. 50歳代
5. 60歳代 6. 70歳以上

選択項目	回答数
20歳代	141
30歳代	225
40歳代	229
50歳代	221
60歳代	258
70歳以上	277
無回答	4
合 計	1,355

年齢別では、「60歳代」と「70歳代以上」の回収率が高くなっているが、年代別の全体的な割合としては、ほぼバランスが取れており、年代別の比率についても概ね那覇市の現状に近い標本数が確保されたと判断される。



（ ）は送付率

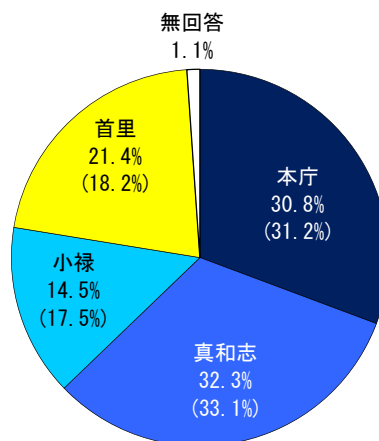
Ⅲ. 基本調査結果

質問3. あなたのお住まいはどの地区ですか？（1つ選択）

1. 本庁 2. 真和志 3. 小禄 4. 首里



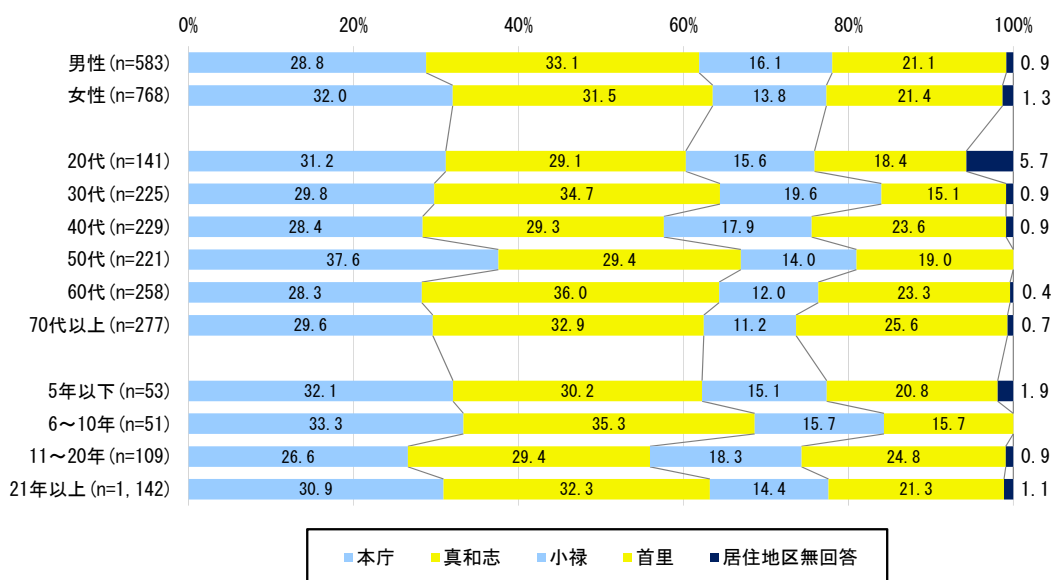
那覇市地区図



() は送付率

選択項目	回答数
本庁	416
真和志	435
小禄	200
首里	289
無回答	15
合 計	1,355

居住地区では、「首里地区」が高い回収率を示しているが、ほぼ那覇市の現状に近い標本比率が確保されたと判断される。また、無回答の中には自分の住んでいる地区が曖昧で回答出来なかった市民も含まれると推測され、上記結果を更に、属性（性、年代、居住年数）別に集計を行った。

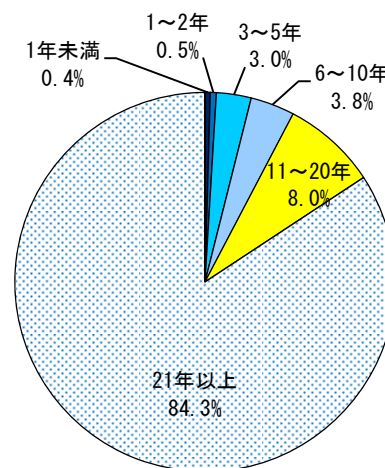


属性別でみると、性別では女性、年代では20代が居住地区について無回答の割合が高くなっており、若い世代は自分の住んでいる地区の認識度が若干低いことがわかる。

質問 4. あなた的那覇市での居住年数は？（1つ選択）

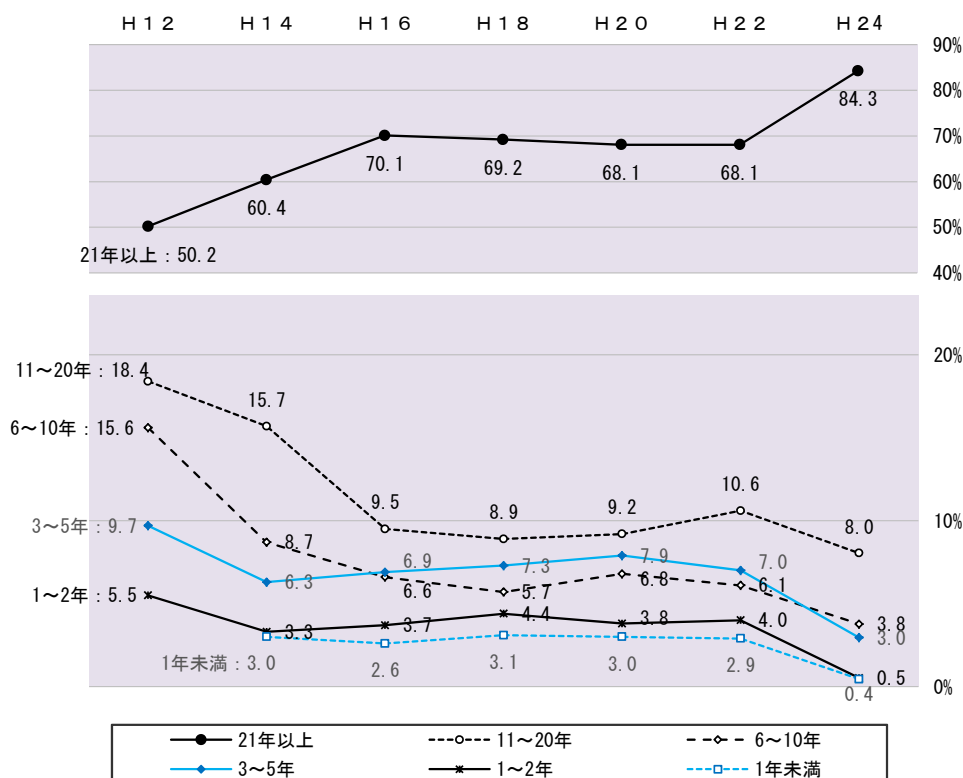
1. 1年未満 2. 1～2年 3. 3～5年
4. 6～10年 5. 11～20年 6. 21年以上

選択項目	回答数
1年未満	6
1～2年	7
3～5年	40
6～10年	51
11～20年	109
21年以上	1,142
無回答	0
合 計	1,355



居住年数について最も多い回答は「21 年以上」の 84.3%、次いで「11～20 年」の 8.0%、「6～10 年」の 3.8%となっており、居住年数に比例して回答数の割合が高いという結果となった。

上記結果を更に、経年変化グラフにて集計を行った。



経年変化でみると、H16 からH22 にかけて「21 年以上」は緩やかな減少を示しつつも 2 ポイント以内の変動範囲を維持していたが、今回調査で 16.2 ポイントの増加となっている。著しい増加の要因特定は難しいが、調査票の配布時期が旧盆と重なり、市外からの移住者が帰省する時期だった事も要因の 1 つと考えられる。

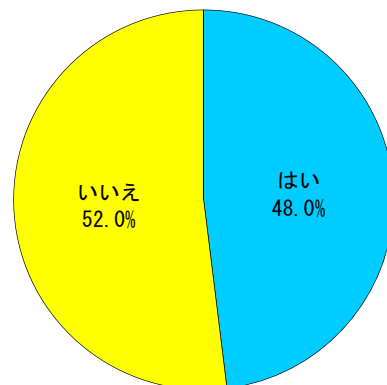
Ⅲ. 基本調査結果

質問5. あなたはインターネットを利用していますか？（1つ選択）

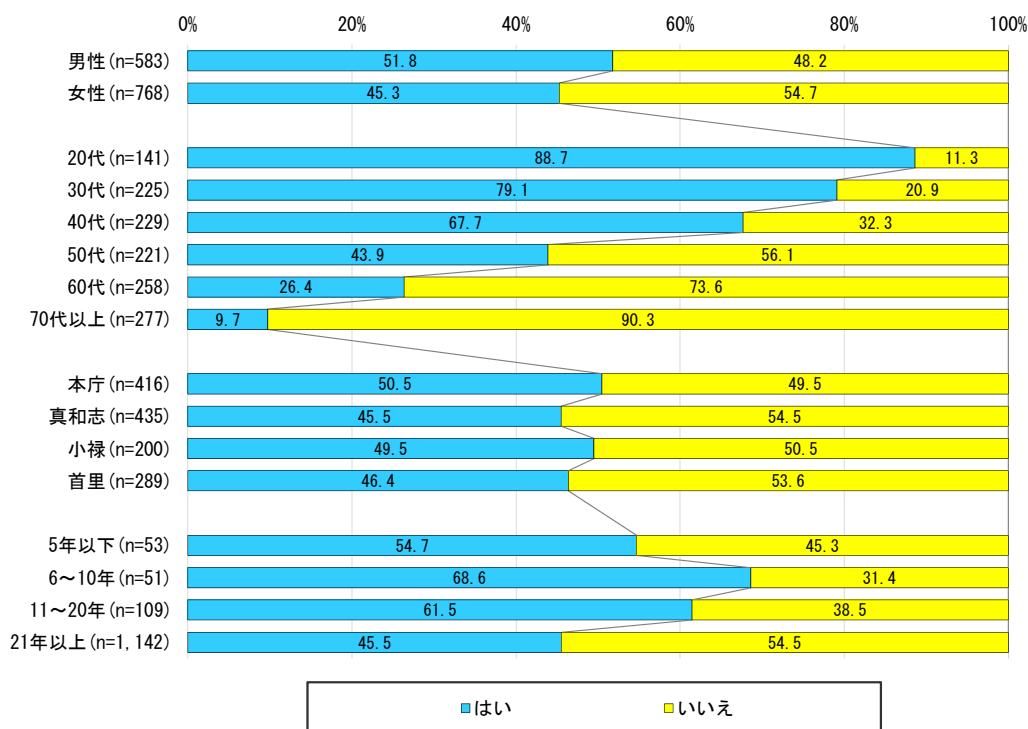
1. はい 2. いいえ

選択項目	回答数
はい	651
いいえ	704
合 計	1,355

インターネットを利用している市民は48%、
利用していない市民は52%となっており、
那覇市民の約半数はインターネットを利用してい
ることが確認された。



上記結果を更に、属性（性、年代、居住地区、居住年数）別に集計を行った。



年代別でみると、20代は約9割がインターネットを利用しており、若い世代ほど利用率は高く、20代～40代まで、インターネットの利用率は5割を超えている。

居住地区別でみると本庁地区が最も高く5割を超えており、次いで小禄地区となっている。

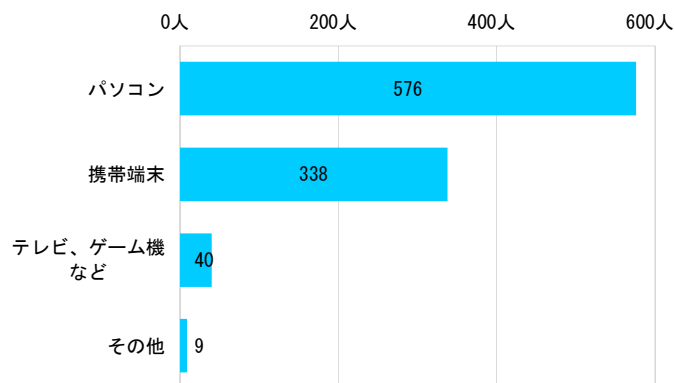
質問 5-1. 「はい」と答えた方にお聞きます。あなたがインターネットを利用する時は何を使いますか
(全て選択)

1. パソコン
2. 携帯端末 (携帯電話、スマートフォンなど)
3. テレビ、ゲーム機など
4. その他

選択項目	回答数
パソコン	576
携帯端末	338
テレビ、ゲーム機など	40
その他	9
合 計	963

その他

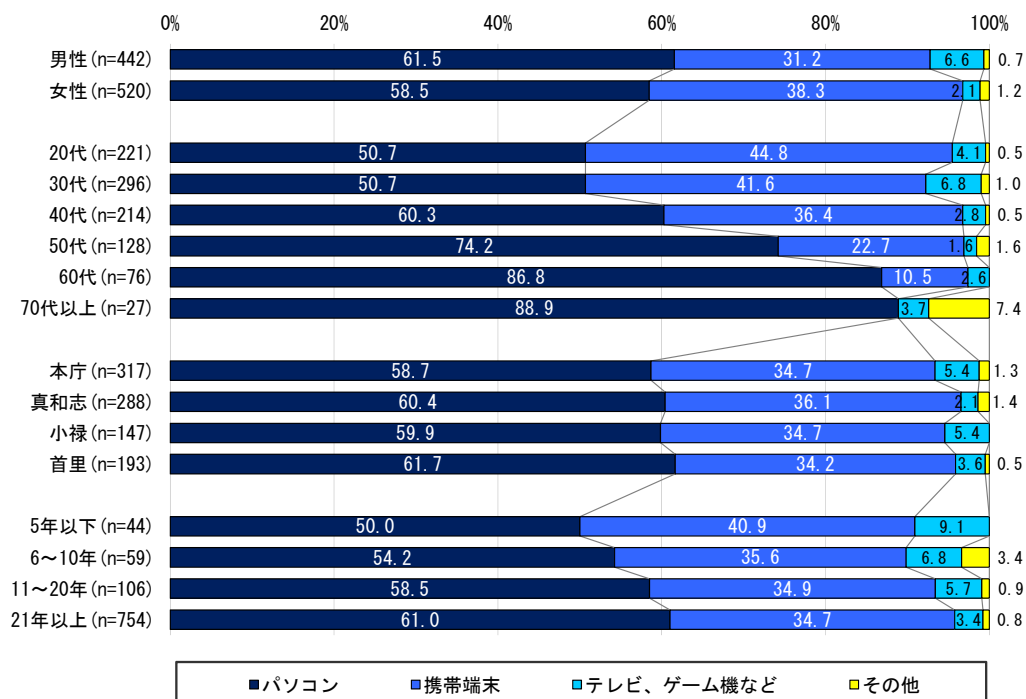
アイパッド・アイボッド等タブレット (5 名)
ネットカフェの端末 (1 名)
地図 (1 名)、無回答 (2 名)



当該質問は複数回答のため棒グラフによる掲載を行った。

インターネット利用媒体として最も多かった回答は「パソコン」の 576 人、次いで「携帯端末」の 388 人となっている。

上記結果をさらに、属性 (性、年代、居住地区、居住年数) 別に集計を行った。

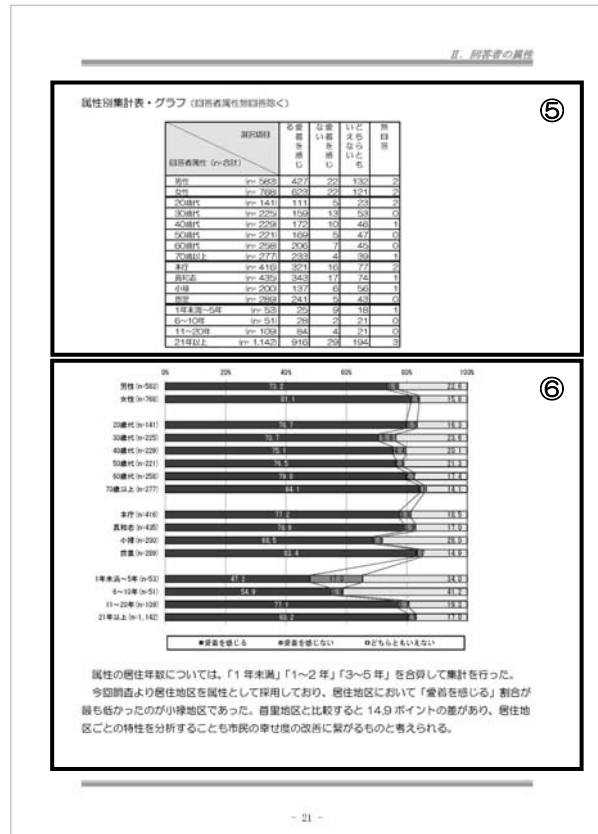
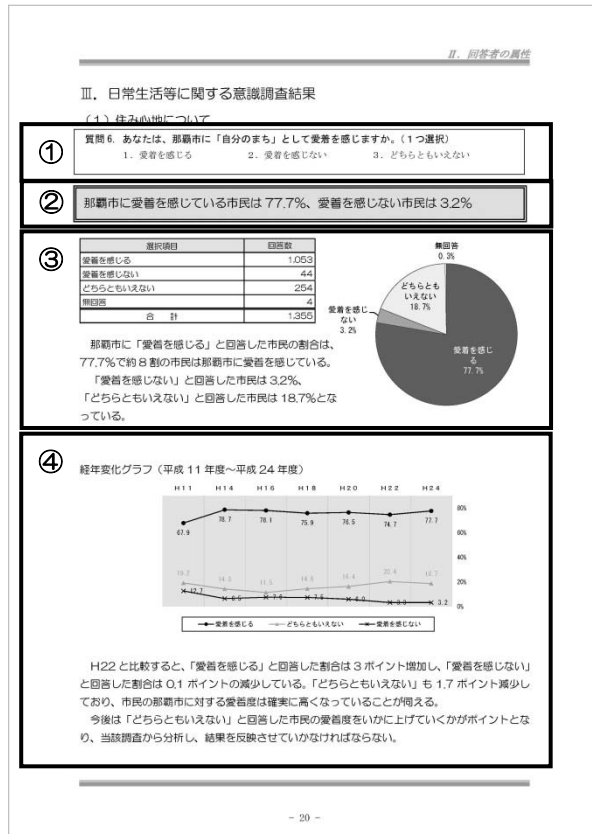


全ての属性において、「パソコン」の利用が 5 割を超えているが、若い世代は比較的「携帯端末」を利用する割合が高く、対象的に年代が高くなるにつれて「パソコン」の利用率が高くなっている。

IV. 日常生活等に関する市民 意識調査結果

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

報告書の見方について



- ① 今回調査に使用したアンケート用紙の質問を掲載。
- ② ①の質問に関し、③～⑥の表・グラフから分析した総括を掲載。
- ③ ①の質問に関する、回答数の集計及び集計グラフを掲載。
- ④ H11～H24までの、①と同種質問の経年変化グラフを掲載。
- ⑤ ①の質問に関する回答を、属性(性別、年代、居住地区、居住年数)別に集計し掲載。
- ⑥ ⑤において集計した結果を棒グラフにて掲載。

※今回の「経年変化グラフ」及び「属性別集計表・グラフ」では、過去調査同様、無回答を含めた百分率で算出しているが、グラフの見やすさ、やわかりやすさを考慮し、特に解析の必要が無い限り「無回答」「その他」等についてはグラフの表示を、比率の小さい選択項目については%表示を省略している。

日常生活等に関する意識調査結果

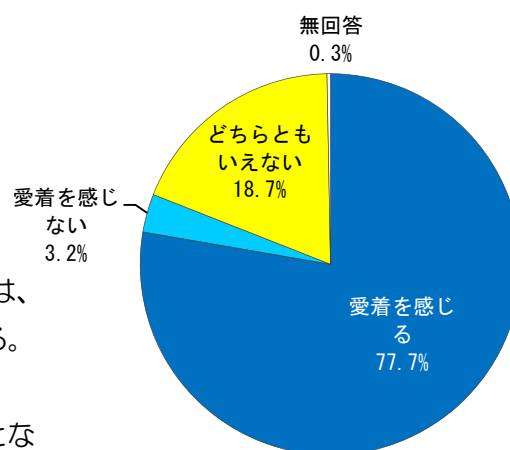
(1) 住み心地について

質問 6. あなたは、那覇市に「自分のまち」として愛着を感じますか。(1つ選択)

1. 愛着を感じる 2. 愛着を感じない 3. どちらともいえない

那覇市に愛着を感じている市民は 77.7%、愛着を感じない市民は 3.2%。

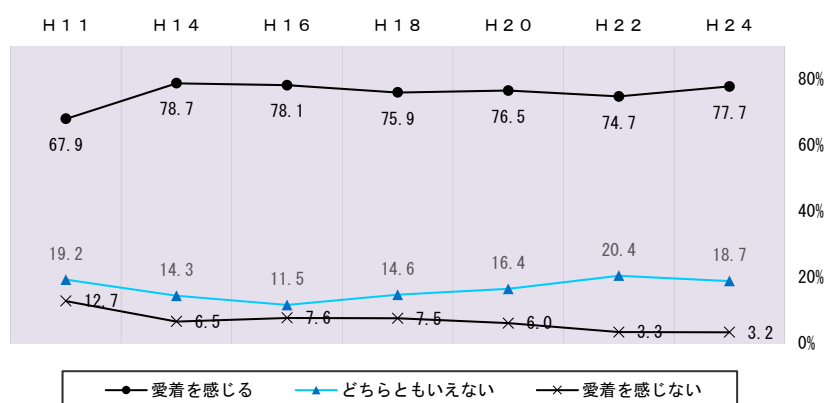
選択項目	回答数
愛着を感じる	1,053
愛着を感じない	44
どちらともいえない	254
無回答	4
合 計	1,355



那覇市に「愛着を感じる」と回答した市民の割合は、77.7%で約 8 割の市民是那覇市に愛着を感じている。

「愛着を感じない」と回答した市民は 3.2%、「どちらともいえない」と回答した市民は 18.7%となっている。

経年変化グラフ (平成 11 年度～平成 24 年度)

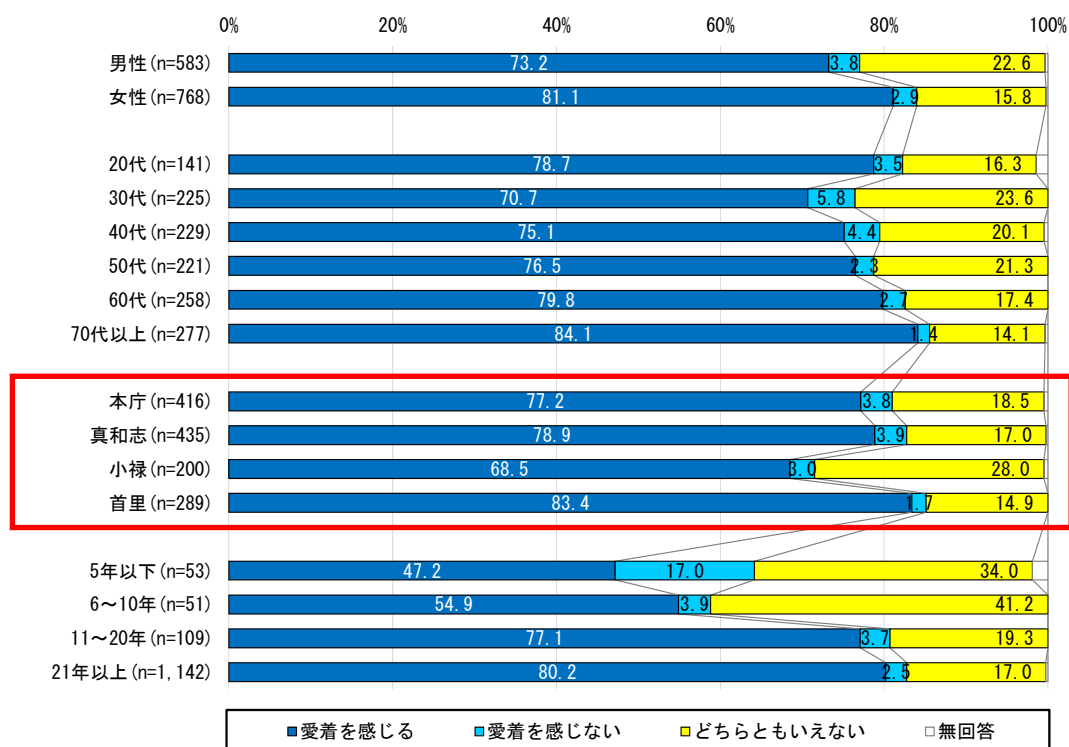


H22 と比較すると、「愛着を感じる」と回答した割合は 3 ポイント増加し、「愛着を感じない」と回答した割合は 0.1 ポイント減少している。「どちらともいえない」も 1.7 ポイント減少しており、市民的那覇市に対する愛着度は確実に高くなっていることが伺える。

今後は「どちらともいえない」と回答した市民の愛着度をいかに上げていくかがポイントとなり、当該調査等から分析し、結果を反映させていかなければならない。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

選択項目 回答者属性（n=合計）	る愛着を感じ	ない愛着を感じ	いどちらとも	無回答
男性（n= 583）	427	22	132	2
女性（n= 768）	623	22	121	2
20代（n= 141）	111	5	23	2
30代（n= 225）	159	13	53	0
40代（n= 229）	172	10	46	1
50代（n= 221）	169	5	47	0
60代（n= 258）	206	7	45	0
70代以上（n= 277）	233	4	39	1
本庁（n= 416）	321	16	77	2
真和志（n= 435）	343	17	74	1
小禄（n= 200）	137	6	56	1
首里（n= 289）	241	5	43	0
5年以下（n= 53）	25	9	18	1
6～10年（n= 51）	28	2	21	0
11～20年（n= 109）	84	4	21	0
21年以上（n= 1,142）	916	29	194	3



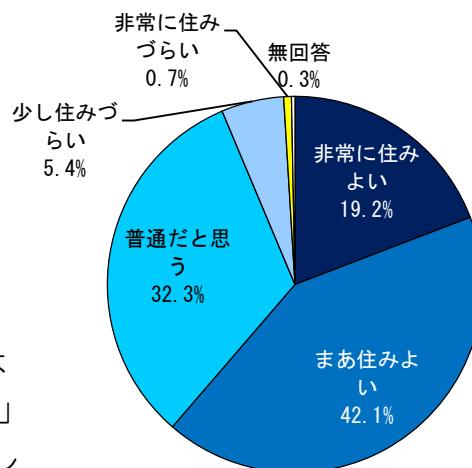
今回調査より居住地区を属性として採用しており、居住地区において「愛着を感じる」割合が最も低かったのが小禄地区であった。首里地区と比較すると 14.9 ポイントの差があり、居住地区ごとの特性を分析することも「那覇市への愛着」に繋がるものと考えられる。

質問 7. 那覇市の住み心地について、次の中から1つお選びください。

1. 非常に住みよい
2. まあ住みよい
3. 普通だと思う
4. 少し住みづらい
5. 非常に住みづらい

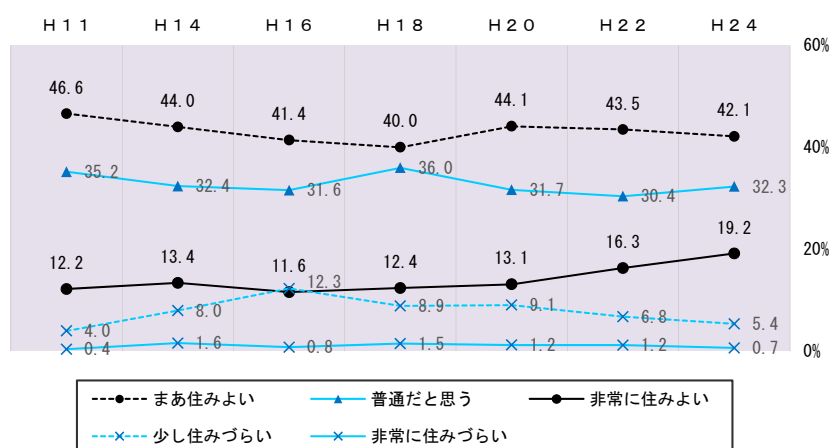
那覇市の住み心地が普通以上と感じている市民は 93.6%、少し・非常に住みづらいつと感じている市民は 6.1%。

選択項目	回答数
非常に住みよい	260
まあ住みよい	571
普通だと思う	438
少し住みづらい	73
非常に住みづらい	9
無回答	4
合 計	1,355



那覇市の住み心地について最も回答数が多かったのは「まあ住みよい」の 42.1%で、次いで「普通だと思う」が 32.3%、「非常に住みよい」が 19.2%と続く。「少し住みづらい」「非常に住みづらい」を合わせると 6.1%となっている。

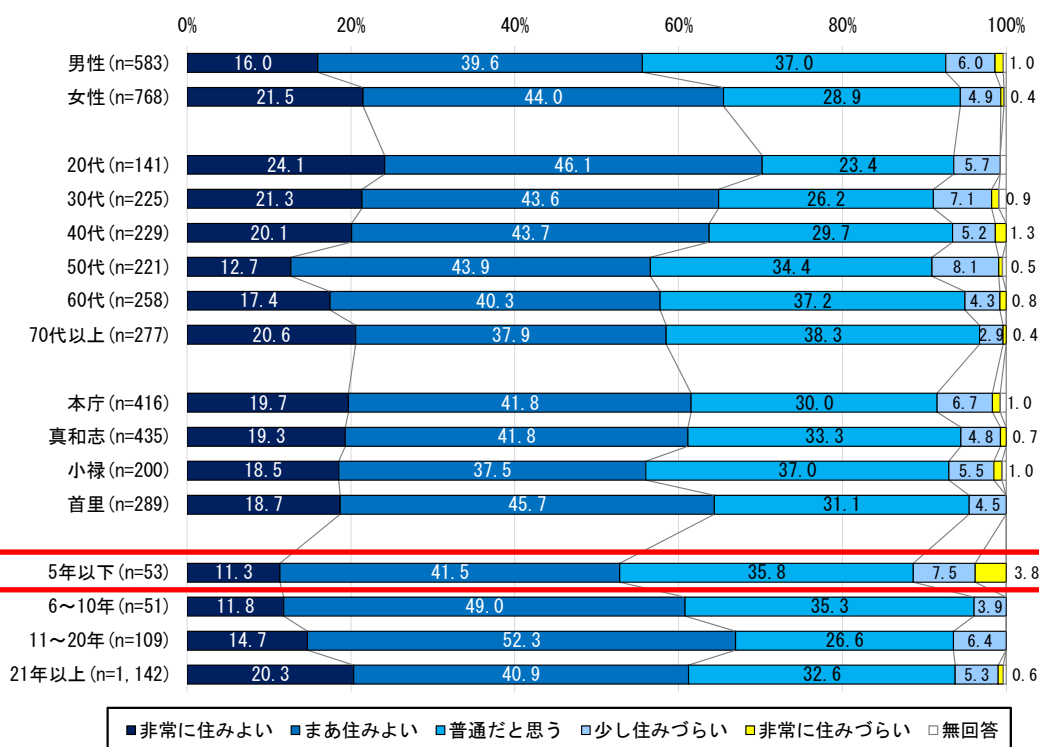
経年変化グラフ（平成 11 年度～平成 24 年度）



「非常に住みよい」と回答した市民の割合は H18 以降、増加している。「少し住みづらい」と「非常に住みづらい」が前回調査より減少しており、市民が那覇市に感じる住み心地は、着実に良くなっているものと考えられる。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	選択項目	よ非 い常 に住 み	いま あ住 みよ	う普 通だ と思	ら少 いし 住み づ	づ非 ら常 に住 み	無 回 答
男性 (n= 583)		93	231	216	35	6	2
女性 (n= 768)		165	338	222	38	3	2
20代 (n= 141)		34	65	33	8	0	1
30代 (n= 225)		48	98	59	16	2	2
40代 (n= 229)		46	100	68	12	3	0
50代 (n= 221)		28	97	76	18	1	1
60代 (n= 258)		45	104	96	11	2	0
70代以上 (n= 277)		57	105	106	8	1	0
本庁 (n= 416)		82	174	125	28	4	3
真和志 (n= 435)		84	182	145	21	3	0
小禄 (n= 200)		37	75	74	11	2	1
首里 (n= 289)		54	132	90	13	0	0
5年以下 (n= 53)		6	22	19	4	2	0
6～10年 (n= 51)		6	25	18	2	0	0
11～20年 (n= 109)		16	57	29	7	0	0
21年以上 (n= 1,142)		232	467	372	60	7	4



居住地区でみると、首里地区が「非常に・まあ住みよい」と感じている割合が高くなっている。

居住年数において「少し・非常に住みづらい」と感じている割合が最も高いのが5年以下、特に「非常に住みづらい」と感じている割合が高い。那覇市に長く住んでもらうことで住み心地が改善される可能性もあるが、移住者の意見等も積極的に吸い上げ、那覇市の住み心地を改善していくことも重要と思われる。

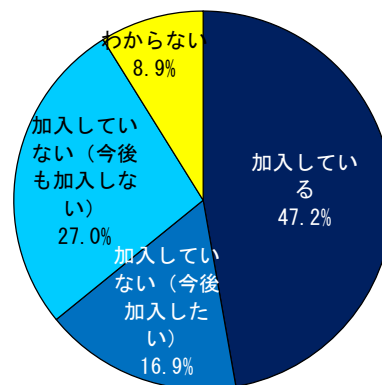
(2) 地域の自治会や地域における課題について

質問 8. あなたのご家庭は、自治会・通り会などに加入していますか。

1. 加入している
2. 加入していない（今後加入したい）
3. 加入していない（今後も加入しない）
4. わからない

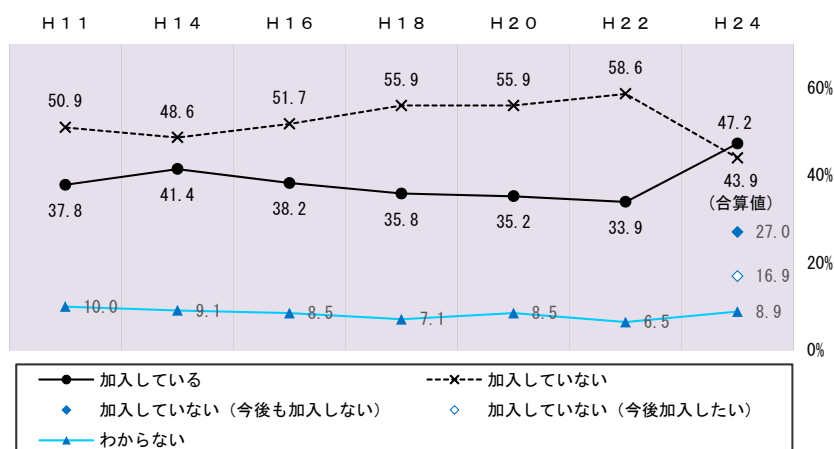
自治会、通り会等に参加している市民は 47.2%、加入していない市民は 43.9%。

選択項目	回答数
加入している	640
加入していない（今後加入したい）	229
加入していない（今後も加入しない）	366
わからない	120
合 計	1,355



自治会、通り会に「加入している」市民は 47.2%、
「加入していない（今後加入したい）・（今後も加入しない）」
市民の割合は 43.9%となっている。

経年変化グラフ（平成 11 年度～平成 24 年度）



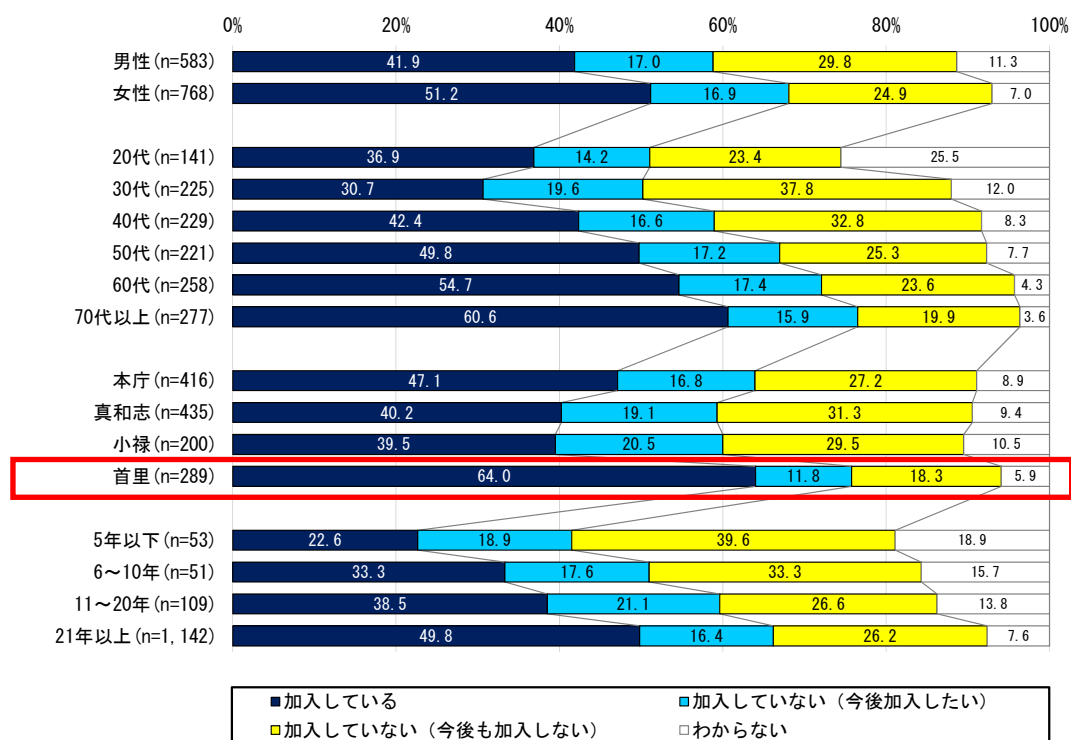
H22 以前は「加入していない」選択肢は 1 つだったため、今回調査における「加入していない（今後加入したい）」「加入していない（今後も加入しない）」と回答した割合の合算値を「加入していない」に置き換えて比較を行った。

経年変化グラフからみると、「加入している」市民の割合は、過去調査の中で最も高い 47.2% となっており、「加入していない」の 43.9% を逆転する結果となった。

自治会の加入率は H24.4 月現在 21.5% である。今回加入割合が高くなったのは、アンケート回答者が、居住年数の長い方の割合が高くなった事や、商店街組合や地域の通り会等に参加している方が増えたものではないかと推測される。しかし依然として半分以上の市民が加入しておらず、「今後加入したい」や「わからない」と回答した市民の分析を行い、加入率を上げる努力が必要といえる。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	選択項目	る加入 してい	い加な加 入い入 しへし た今て 後い	いもな加 入い入 しへし 今て な後い	わ から ない
男性 (n= 583)		244	99	174	66
女性 (n= 768)		393	130	191	54
20代 (n= 141)		52	20	33	36
30代 (n= 225)		69	44	85	27
40代 (n= 229)		97	38	75	19
50代 (n= 221)		110	38	56	17
60代 (n= 258)		141	45	61	11
70代以上 (n= 277)		168	44	55	10
本庁 (n= 416)		196	70	113	37
真和志 (n= 435)		175	83	136	41
小禄 (n= 200)		79	41	59	21
首里 (n= 289)		185	34	53	17
5年以下 (n= 53)		12	10	21	10
6～10年 (n= 51)		17	9	17	8
11～20年 (n= 109)		42	23	29	15
21年以上 (n= 1,142)		569	187	299	87



年代別でみると「加入している」市民の割合は、20代を除くと年代に比例して割合が高くなっており、居住地区では首里地区が64%と最も高くなっている。

「加入していない（今後も加入しない）」と回答した市民を居住年数別でみると、居住年数が短い市民の割合が高くなっている。

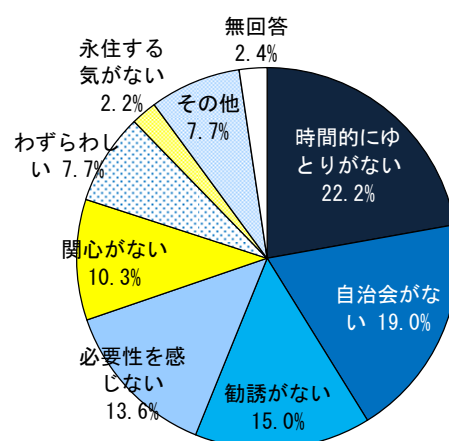
自治会等の加入率を向上させるには長く住んでもらうことがポイントのひとつと考えられる。

質問 8-1. 「加入していない」と答えた方は、次の中から 1 つ理由をお選びください。

- | | | |
|-------------|--------------|---------------|
| 1. 必要性を感じない | 2. わずらわしい | 3. 時間的にゆとりがない |
| 4. 永住する気がない | 5. 関心がない | 6. 自治会がない |
| 7. 勧誘がない | 8. その他（具体的に： |) |

個人の意思で加入していない市民は 56%、地域の事情「勧誘がない」「自治会がない」で加入していない市民は 34%。

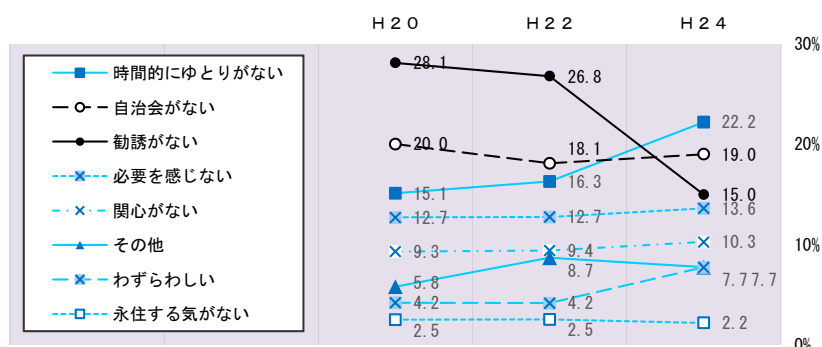
順位	選択項目	回答数
1位	時間的にゆとりがない	132
2位	自治会がない	113
3位	勧誘がない	89
4位	必要性を感じない	81
5位	関心がない	61
6位	わずらわしい	46
7位	永住する気がない	13
-	その他	46
-	無回答	14
合 計		595



当該調査は、「その他」「無回答」を除き回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

自治会・通り会に加入していない理由の回答で最も割合が高かったのは、「時間的にゆとりがない」の 22.2%、続いて「自治会がない」の 19%、「勧誘がない」の 15%となっている。

経年変化グラフ（平成 20 年度～平成 24 年度）



前回調査まで最も割合が高かった「勧誘がない」が 11.8 ポイント減少し、「自治会がない」は 0.9 ポイント増加しているものの、「時間的にゆとりがない」が 5.9 ポイント増加している他、「わずらわしい」「関心がない」「必要を感じない」等個人の意志で加入しない割合は H20 意向上昇傾向にある。

自治会等の整備と同時に、市民に対する啓発もポイントと思われる。

選択肢「その他」の主な内容

男性-30代-本庁地区 転勤があるため。
 男性-60代-本庁地区 なかなか意見がまとまらなさそう。
 女性-20代-本庁地区 活動内容がよくわからない。
 女性-40代-本庁地区 自治会がどこにあるのか、詳しいことがわからない。
 女性-60代-本庁地区 役員の交代が長年無し、意見の改善無し。
 女性-70代-本庁地区 以前は加入していたが、何の役にも立たなかった為、脱会
 女性-70代-本庁地区 生活に支障をきたしていない。
 男性-60代-本庁地区 病気・障がいがあるため。

男性-30代-真和志地区 手続き等不明。
 男性-40代-真和志地区 自治会の案内が無く、自治会がどのような活動を行っているか分からないから。
 男性-50代-真和志地区 商店街用の通り会の為。
 男性-50代-真和志地区 以前は加入していた。
 男性-70代-真和志地区 私物的で選挙母体の様で。
 女性-60代-真和志地区 会費を集めるのにおっくう。
 女性-60代-真和志地区 自然退会。
 女性-60代-真和志地区 最近出来たと聞くが、活動の実態が分からない。
 女性-60代-真和志地区 徹底しておらず、会費だけ請求された。
 女性-70代-真和志地区 加入させてもらえない。
 女性-70代-真和志地区 引っ越してきたばかりなので周りの事情がよくわからない。

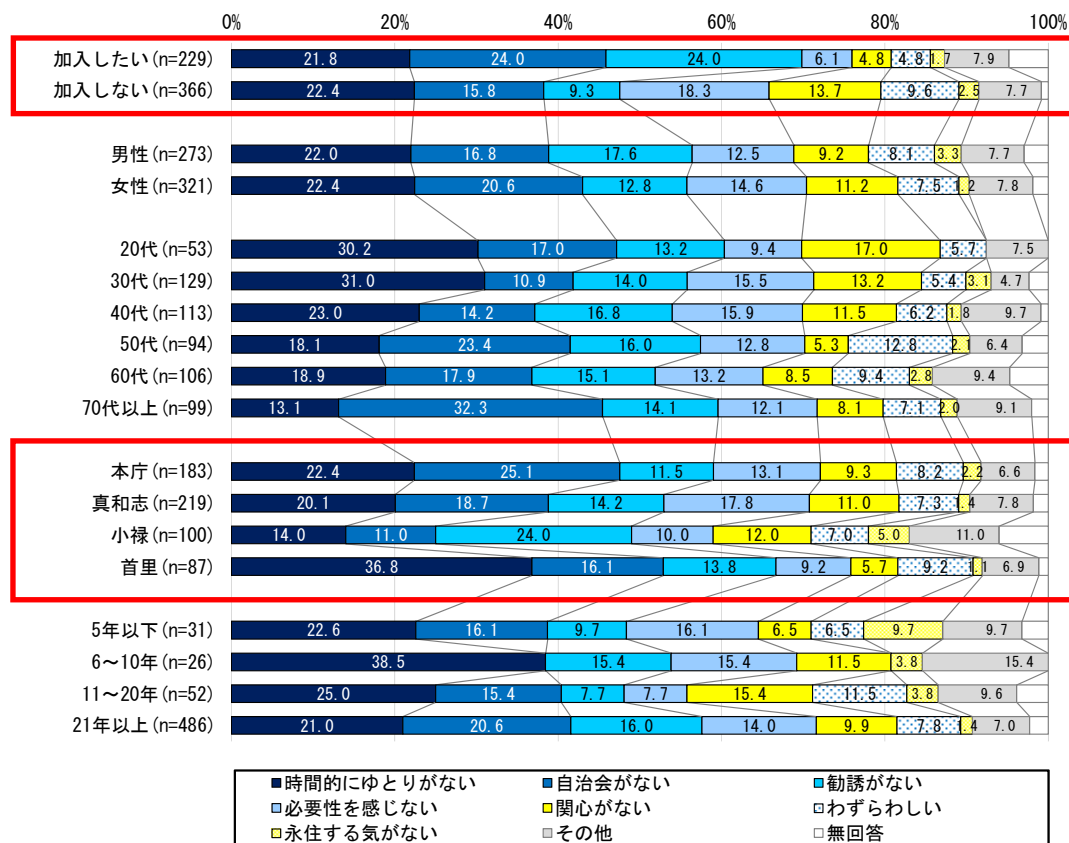
男性-60代-小祿地区 地域の長年の慣習で、新居住者を受け入れる空気が弱い。
 女性-20代-小祿地区 自治会の活動がよくわからない。
 女性-40代-小祿地区 かなり高齢の母と2人なので難しい。
 女性-40代-小祿地区 断られた。
 女性-40代-小祿地区 加入方法が分からない。賃貸アパートに住んでいる。

女性-30代-首里地区 住まいが自治体の境目にあり、複数からの呼びかけがあるので、フレキシブルに活動出来るように現在未加入。
 女性-50代-首里地区 現自治会は名前だけで何もしてないので、嫌になりました。
 首里地区 年なので年齢的に無理。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性（n=合計）	選択項目	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	-	-
		と時 り間 が 的 な に い ゆ	い 自 治 会 が な い	勧 誘 が な い	じ 必 な い 性 を 感 じ	関 心 が な い	い わ ず ら わ し	が 永 住 す る 気 が な い	そ の 他	無 回 答
加入したい (n= 229)		50	55	55	14	11	11	4	18	11
加入しない (n= 366)		82	58	34	67	50	35	9	28	3
男性 (n= 273)		60	46	48	34	25	22	9	21	8
女性 (n= 321)		72	66	41	47	36	24	4	25	6
20代 (n= 53)		16	9	7	5	9	3	0	4	0
30代 (n= 129)		40	14	18	20	17	7	4	6	3
40代 (n= 113)		26	16	19	18	13	7	2	11	1
50代 (n= 94)		17	22	15	12	5	12	2	6	3
60代 (n= 106)		20	19	16	14	9	10	3	10	5
70代以上 (n= 99)		13	32	14	12	8	7	2	9	2
本庁 (n= 183)		41	46	21	24	17	15	4	12	3
真和志 (n= 219)		44	41	31	39	24	16	3	17	4
小禄 (n= 100)		14	11	24	10	12	7	5	11	6
首里 (n= 87)		32	14	12	8	5	8	1	6	1
5年以下 (n= 31)		7	5	3	5	2	2	3	3	1
6～10年 (n= 26)		10	0	4	4	3	0	1	4	0
11～20年 (n= 52)		13	8	4	4	8	6	2	5	2
21年以上 (n= 486)		102	100	78	68	48	38	7	34	11

ここでは質問 8. で「今後加入したい」「今後も加入しない」と回答した市民を属性に加えて分析を行った。

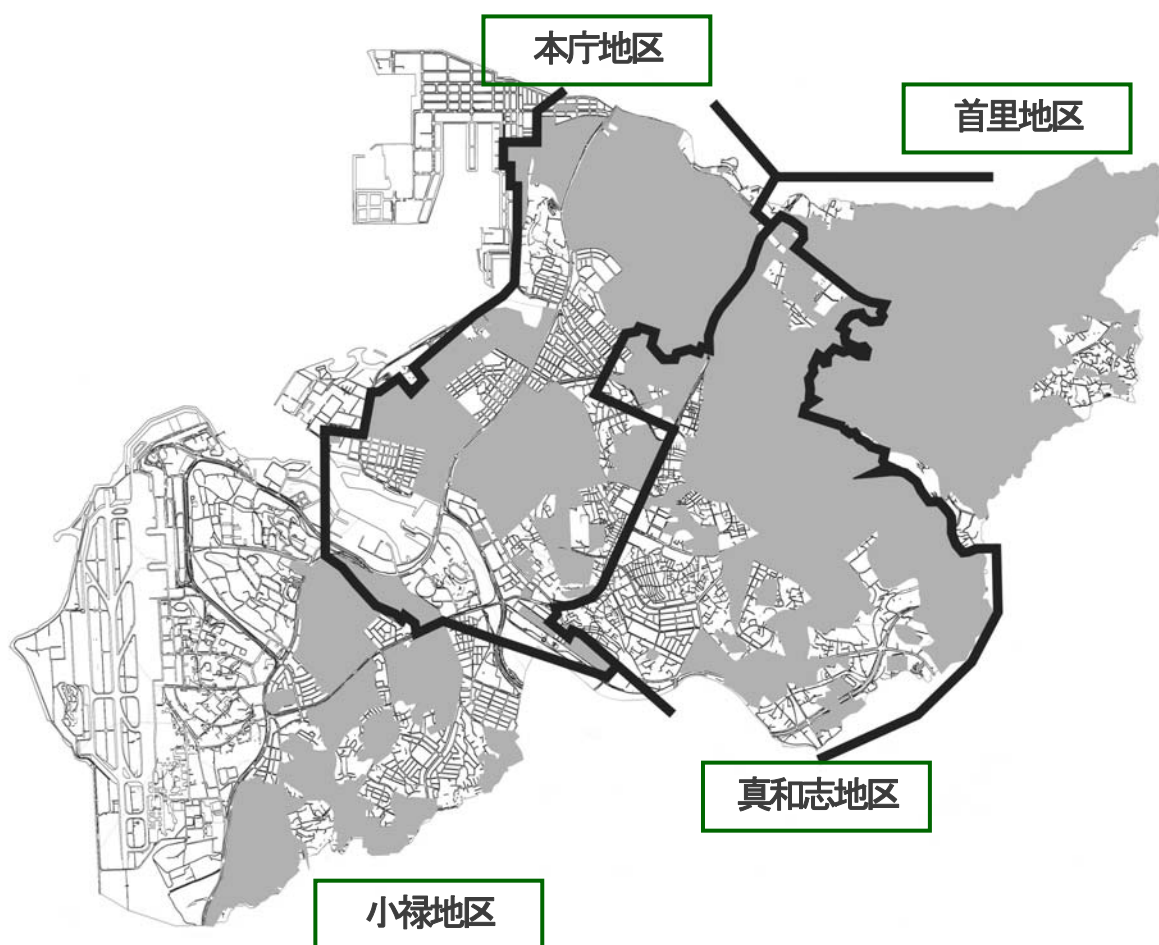


今後加入したいと考えている市民は、加入していない理由として約 5 割が「自治会がない」「勧誘がない」と回答しており、今後も加入を考えていない市民は「時間的にゆとりがない」「必要性を感じない」と回答している割合が高い。

地区ごとに「自治会がない」と回答した市民の割合を比較すると、「本庁地区」が 25.1%と最も高く、続いて「真和志地区」の 18.7%、首里地区の 16.1%、小禄地区の 11%となっている。

那覇市の地域別による自治会等設置エリア図と比較すると、「本庁地区」は商業区域等が点在し、自治会等が存在しない地区が多くみられる。「首里地区」は殆どの地域において自治会等が存在し、質問 8 の自治会加入率でも、他の居住地区と比較して高かったが、自治会がないと回答した市民の割合は小禄地区より高くなっている。また、小禄地区や居住年数が 10 年以下においては、「勧誘が無い」と回答した割合が比較的多く、勧誘を期待している市民もまだまだ存在している事が伺える。

自治会の加入率を向上させるためには、市民へ自分が住んでいる地域に自治会・通り会が存在するのかを認識してもらい、その活動内容の理解を深めてもらうことや、新規加入者を受け入れる体制の整備等も必要となってくる。



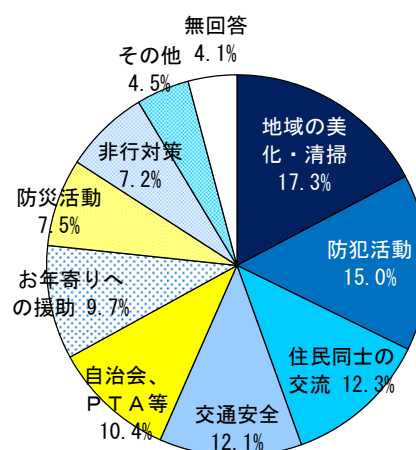
那覇市の地域別による自治会等設置エリア図

質問 9. あなたがお住まいの地域（小学校区）における課題で特に大きいと思うものを1つお選びください。

- | | |
|-------------|-----------------------|
| 1. 地域の美化・清掃 | 2. 自治会、PTA、その他団体などの連携 |
| 3. 防犯活動 | 4. 防災活動 |
| 5. 非行対策 | 6. 一人暮らしのお年寄りへの援助 |
| 7. 交通安全 | 8. 住民同士の交流 |
| 9. その他（ | ） |

市民が住まいの地域（小学校区）における課題で最も大きいと思うものは「地域の美化・清掃」の17.3%。

順位	選択項目	回答数
1位	地域の美化・清掃	234
2位	防犯活動	203
3位	住民同士の交流	166
4位	交通安全	164
5位	自治会、PTA等	141
6位	お年寄りへの援助	131
7位	防災活動	101
8位	非行対策	98
-	その他	61
-	無回答	56
合 計		1,355



当該調査は回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

市民が地域の小学校区における課題だと回答した割合が最も高いのが「地域の美化・清掃」の17.3%、続いて「防犯活動」の15%となっている。

選択肢「その他」の主な内容

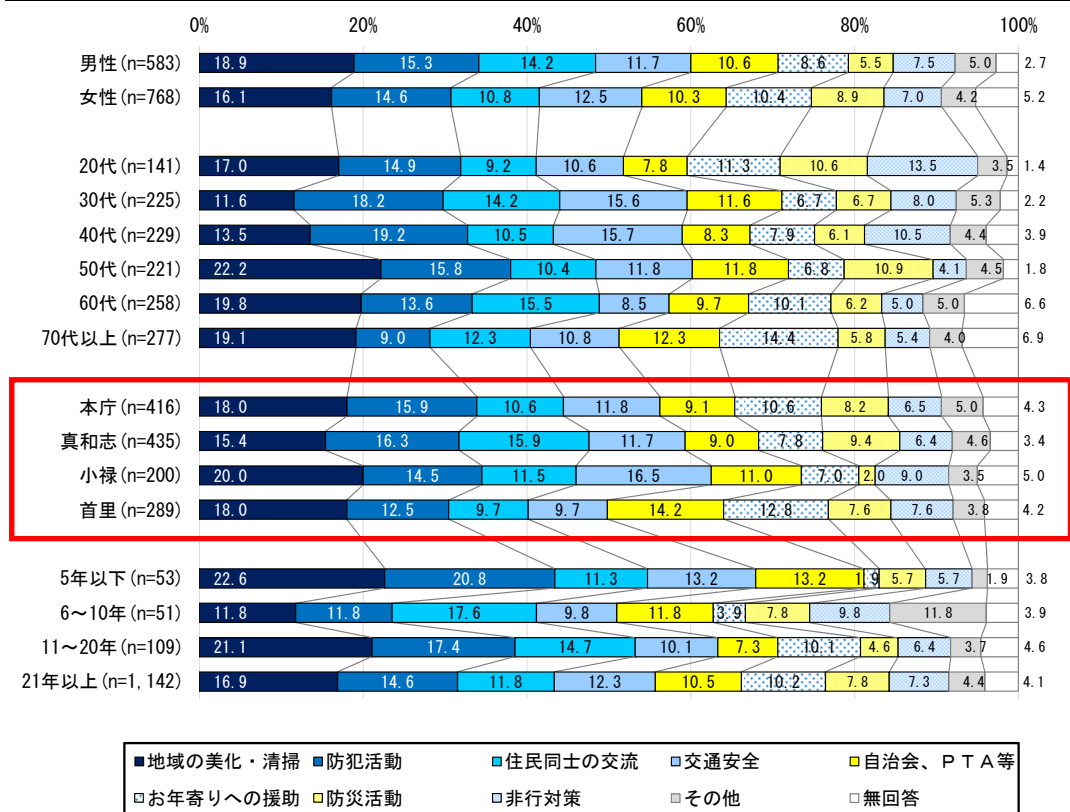
- 男性-70代-本庁地区 空き地の雑草等刈り取り。
- 女性-30代-本庁地区 生活環境の悪化。高層マンションの乱立や飲食店等の増加。
- 女性-40代-本庁地区 統合。
- 女性-50代-本庁地区 緑化。
- 女性-70代-本庁地区 住宅地への外灯設置。
- 男性-30代-本庁地区 騒音対策。

- 男性-20代-真和志地区 交通渋滞対策。
- 男性-70代-真和志地区 区画整理。
- 女性-30代-真和志地区 教育環境の整備。
- 女性-30代-真和志地区 地元について勉強すること。
- 女性-40代-真和志地区 福祉に関する活動、関心。
- 女性-60代-真和志地区 教育関係の退職者が多いのに、その方達の活動が無い。

- 男性-50代-首里地区 迷惑駐車への措置。
- 男性-60代-首里地区 隣近所の交流をしよう。
- 女性-40代-首里地区 子育て支援。
- 女性-60代-首里地区 地域に集会所が無く交流する場所が無い。
- 女性-20代-首里地区 通学路の整備。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性（n=合計）	選択項目									
	1位 化地・域 清の掃美	2位 防犯活動	3位 交流住民 同士の	4位 交通安全	5位 T自治会、 A等、 P	6位 のお年 助寄りへ	7位 防災活動	8位 非行対策	- その他	- 無回答
男性 (n= 583)	110	89	83	68	62	50	32	44	29	16
女性 (n= 768)	124	112	83	96	79	80	68	54	32	40
20代 (n= 141)	24	21	13	15	11	16	15	19	5	2
30代 (n= 225)	26	41	32	35	26	15	15	18	12	5
40代 (n= 229)	31	44	24	36	19	18	14	24	10	9
50代 (n= 221)	49	35	23	26	26	15	24	9	10	4
60代 (n= 258)	51	35	40	22	25	26	16	13	13	17
70代以上 (n= 277)	53	25	34	30	34	40	16	15	11	19
本庁 (n= 416)	75	66	44	49	38	44	34	27	21	18
真和志 (n= 435)	67	71	69	51	39	34	41	28	20	15
小禄 (n= 200)	40	29	23	33	22	14	4	18	7	10
首里 (n= 289)	52	36	28	28	41	37	22	22	11	12
5年以下 (n= 53)	12	11	6	7	7	1	3	3	1	2
6～10年 (n= 51)	6	6	9	5	6	2	4	5	6	2
11～20年 (n= 109)	23	19	16	11	8	11	5	7	4	5
21年以上 (n= 1,142)	193	167	135	141	120	117	89	83	50	47



年代別でみると、50代から70代以上の市民は「地域の美化・清掃」と回答した割合が高くなっており、30代から40代の年代は「防犯活動」と回答した割合が高くなっている。

真和志地区では「住民同士の交流」、小禄地区では「交通安全」、首里地区では「自治会・PTA等の連携」や「お年寄りへの援助」が、他地区より課題があると認識しており、各地区の実情にあった対策が求められる。

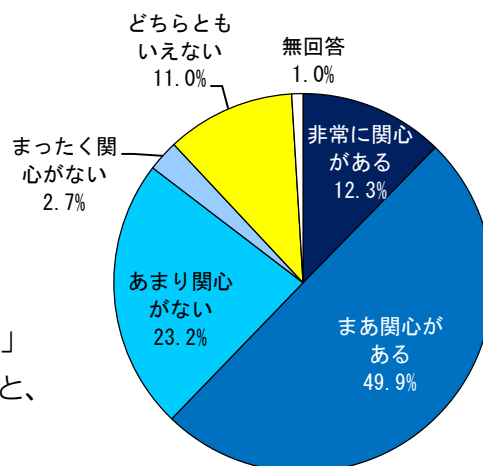
(3) 市政への市民参加について

質問 10. 市政への関心について、次の中から 1 つお選びください。

- | | | |
|--------------|--------------|-------------|
| 1. 非常に関心がある | 2. まあ関心がある | 3. あまり関心がない |
| 4. まったく関心がない | 5. どちらともいえない | |

市政へ関心のある市民は 62.2%、関心がない市民は 25.9%。

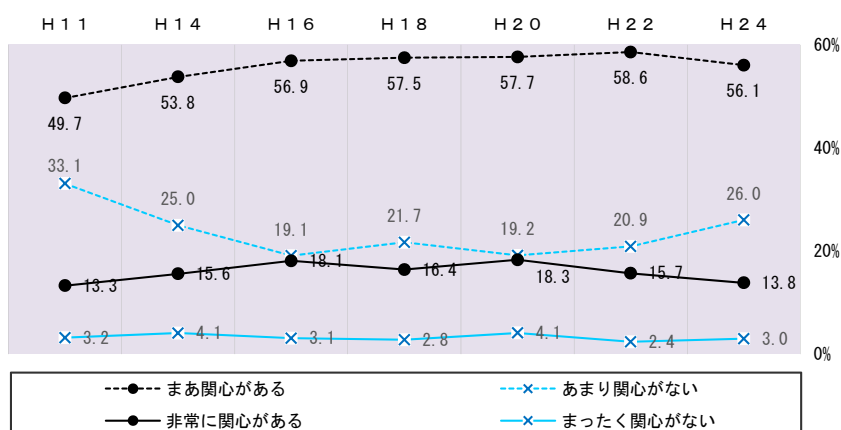
選択項目	回答数
非常に関心がある	167
まあ関心がある	676
あまり関心がない	314
まったく関心がない	36
どちらともいえない	149
無回答	13
合 計	1,355



市政に関心がある市民の割合は、「非常に関心がある」の 12.3%と「まあ関心がある」の 49.9%を合計すると、62.2%となっている。

対して関心がない市民の割合は、「あまり関心がない」の 23.2%と、「まったく関心がない」の 2.7%を合計すると、25.9%となっている。

経年変化グラフ（平成 11 年度～平成 24 年度）

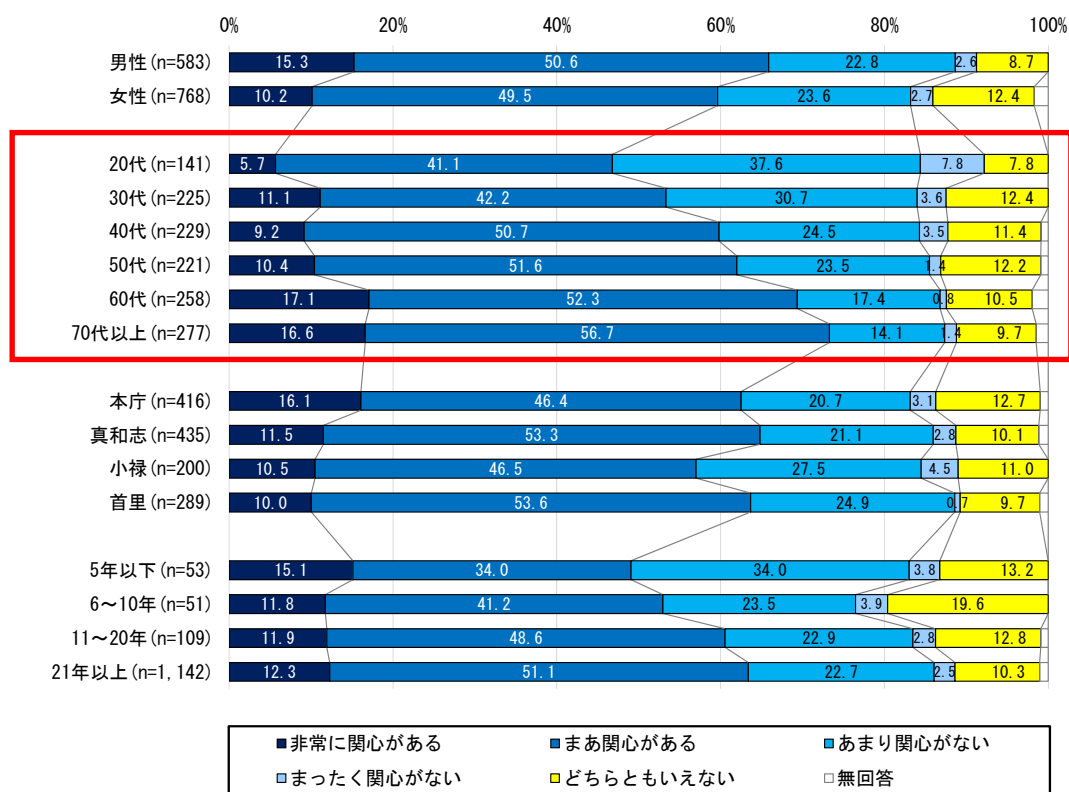


経年変化では、H20 以前には選択肢が無かった「どちらともいえない」を除いた割合で比較を行った（H22、H24）。

前回調査と比較すると、「非常に関心がある」が 1.9 ポイント、「まあ関心がある」が 2.5 ポイント減少している。対して「あまり関心がない」は 5.1 ポイント、「まったく関心がない」は 0.6 ポイント増加しており、市民の市政に対する関心は低下しつつある傾向がみられる。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	選択項目	が非常に あるに 関心	まあ ある あ 関 心 が	が あ ま り 関 心	心 ま つ が な い く 関	い ど え ち ら な い と も	無 回 答
男性 (n= 583)		89	295	133	15	51	0
女性 (n= 768)		78	380	181	21	95	13
20代 (n= 141)		8	58	53	11	11	0
30代 (n= 225)		25	95	69	8	28	0
40代 (n= 229)		21	116	56	8	26	2
50代 (n= 221)		23	114	52	3	27	2
60代 (n= 258)		44	135	45	2	27	5
70代以上 (n= 277)		46	157	39	4	27	4
本庁 (n= 416)		67	193	86	13	53	4
真和志 (n= 435)		50	232	92	12	44	5
小禄 (n= 200)		21	93	55	9	22	0
首里 (n= 289)		29	155	72	2	28	3
5年以下 (n= 53)		8	18	18	2	7	0
6～10年 (n= 51)		6	21	12	2	10	0
11～20年 (n= 109)		13	53	25	3	14	1
21年以上 (n= 1,142)		140	584	259	29	118	12



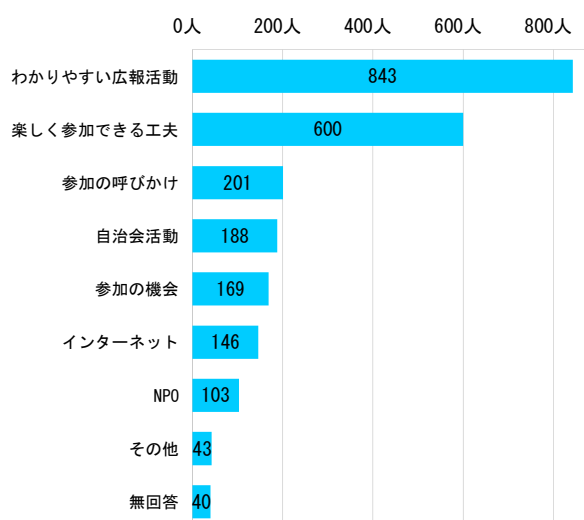
年代別でみると、年代が高くなるに従って、市政への関心が高くなる傾向がみられる。20代は「まったく・あまり関心がない」と回答した割合が最も高く、市政について若い世代に興味、関心を持ってもらう方策が今後重要と思われる。

質問 11. 市民の市政参加を促すために、市がすべきだと思うことを次の中から2つまでお選びください。

1. 参加の機会を増やす
2. わかりやすい広報活動
3. 楽しく参加できる工夫
4. 参加の呼びかけを増やす
5. インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる
6. 自治会活動の活性化
7. NPOなどの活動の活性化
8. その他（ ）

市民の市政参加を促すために、市がすべきことは「わかりやすい広報活動」や「楽しく参加できる工夫」。

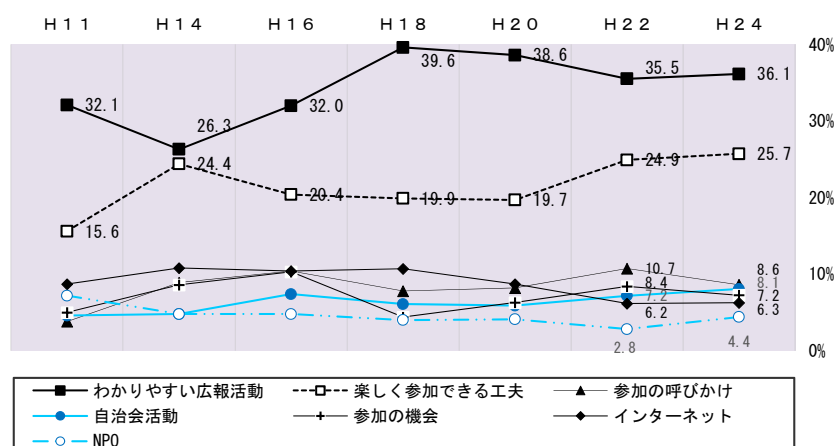
順位	選択項目	回答数
1位	わかりやすい広報活動	843
2位	楽しく参加できる工夫	600
3位	参加の呼びかけを増やす	201
4位	自治会活動の活性化	188
5位	参加の機会を増やす	169
6位	インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる	146
7位	NPOなどの活動の活性化	103
-	その他	43
-	無回答	40
合 計		2,333



当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

その結果、1位は「わかりやすい広報活動」、2位は「楽しく参加できる工夫」となっている。

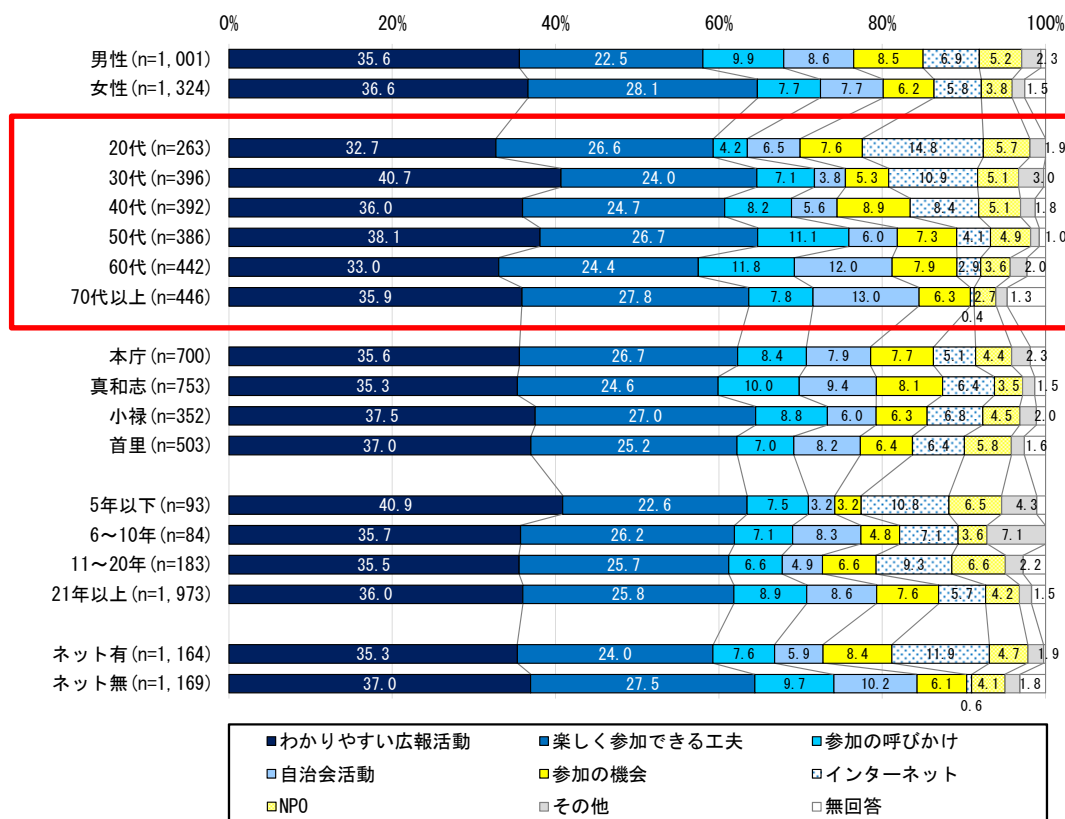
経年変化グラフ（平成 11 年度～平成 24 年度）



前回調査と比較すると、「自治会活動の活性化」「NPO などの活動の活性化」が、増加の割合が高くなっている。那覇市が推進している「協働によるまちづくり」をさらに強化していくことが重要と思われる。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

選択項目 回答者属性 (n=合計)	1位 活すわ 動いか 広り 報や	2位 工加 夫でし きる参	3位 楽 び参 か加 けの呼	4位 動自 治会 活	5位 会参 加の 機	6位 ネッ ット タ ー	7位 N P O	- そ の 他	- 無 回 答
男性 (n= 1,001)	356	225	99	86	85	69	52	23	6
女性 (n= 1,324)	485	372	102	102	82	77	50	20	34
20代 (n= 263)	86	70	11	17	20	39	15	5	0
30代 (n= 396)	161	95	28	15	21	43	20	12	1
40代 (n= 392)	141	97	32	22	35	33	20	7	5
50代 (n= 386)	147	103	43	23	28	16	19	4	3
60代 (n= 442)	146	108	52	53	35	13	16	9	10
70代以上 (n= 446)	160	124	35	58	28	2	12	6	21
本庁 (n= 700)	249	187	59	55	54	36	31	16	13
真和志 (n= 753)	266	185	75	71	61	48	26	11	10
小禄 (n= 352)	132	95	31	21	22	24	16	7	4
首里 (n= 503)	186	127	35	41	32	32	29	8	13
5年以下 (n= 93)	38	21	7	3	3	10	6	4	1
6～10年 (n= 84)	30	22	6	7	4	6	3	6	0
11～20年 (n= 183)	65	47	12	9	12	17	12	4	5
21年以上 (n= 1,973)	710	510	176	169	150	113	82	29	34
ネット有 (n= 1,164)	411	279	88	69	98	139	55	22	3
ネット無 (n= 1,169)	432	321	113	119	71	7	48	21	37



全ての属性別で、「わかりやすい広報活動」が1位、「楽しく参加できる工夫」が2位となっているが、年代別でみると、20代～30代は「インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる」が3位となっており、若い世代へ市政への参加を促すツールとしては有効だと考えられる。60代と70代以上では、「自治会活動の活性化」が3位となっており、概ね年代に比例して高くなる傾向がみられる。

選択肢「その他」の主な内容

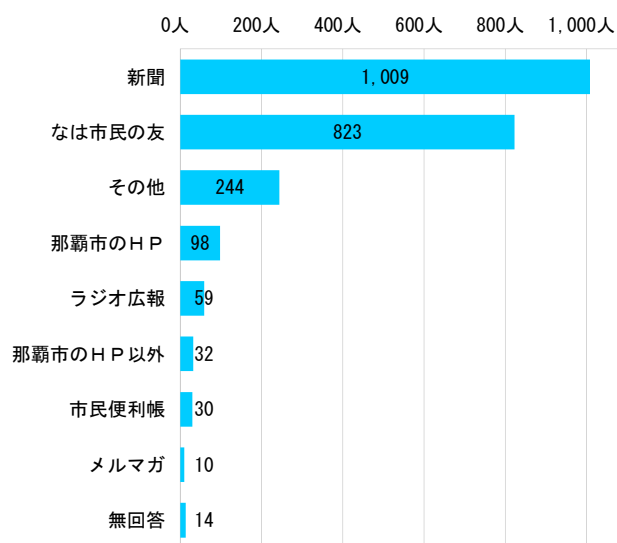
男性-30代-本庁	市長と管理職の意識を改革、理想を高く現実的に。社会を豊かにする為の環境作りとコスト意識を同時推進。
男性-30代-本庁	明確な、かつ具体的な方針の広報。アグリーを得てから実現するための活動。してほしい事を提言する。
男性-30代-本庁	市民中心。そして市税を那覇市民に具体的に分配すること。必ず無駄を省くこと。
男性-60代-本庁	市政と結果を頻繁に報告すべき。
女性-30代-本庁	子供も参加出来るような催事。
女性-30代-本庁	体験教室等、親子で参加出来るものを増やす。
女性-30代-本庁	市民が声を発しても聞いて貰えない事が多い。市長中心の市政になっている。
女性-50代-本庁	勝手に一方通行や木の植え込みをせず、住んでいる方の意見を聞いてほしい。
男性-30代-真和志	毎月テレビで市長が市政状況を発表する。
男性-40代-真和志	障がい者による意見もくみ取るべき！
女性-20代-真和志	新聞へのイベント掲載。
女性-40代-真和志	何の為に市政参加が必要か分かりやすく周知、指導して欲しい。自分の為に何がどう良くなる、変えていく等。
女性-50代-真和志	市民の意見を真剣にくみ上げる柔軟な姿勢を持つ。
男性-20代-小禄	小・中の教育等で市政・県政への関心を持たせる。
男性-60代-小禄	市議が直接自治会に参加して市政活動の講話をすること。
女性-40代-小禄	市民に必要なものや情報がないこと。
女性-40代-小禄	身体障がい者が外出しやすいように、弱い者に優しい那覇市でいてほしい。
男性-60代-首里	投書箱等を設置して意見を提言出来るように。聞き流すだけではだめ。良い意見はくみ取る。
女性-30代-首里	市政に参加すると具体的にどんなメリットがあるが広報して下さい。
女性-60代-首里	「何でも電話窓口相談」みたいな。
女性-30代-首里	視点を変える。

質問 12. あなたは、那覇市の情報を何から得ていますか。主なものを次の中から 2 つまでお選びください。

- | | |
|-------------------|---------------------------|
| 1. 新聞やテレビ・ラジオ | 2. インターネット（那覇市のホームページ） |
| 3. 広報紙「なは市民の友」 | 4. インターネット（那覇市のホームページ以外） |
| 5. ラジオ広報「那覇市民の時間」 | 6. 那覇市メールマガジン |
| 7. 市民便利帳 | 8. その他（市の配布するチラシやパンフレット等） |

市民は那覇市の情報を主に「新聞やテレビ・ラジオ」、広報紙「なは市民の友」から得ている。

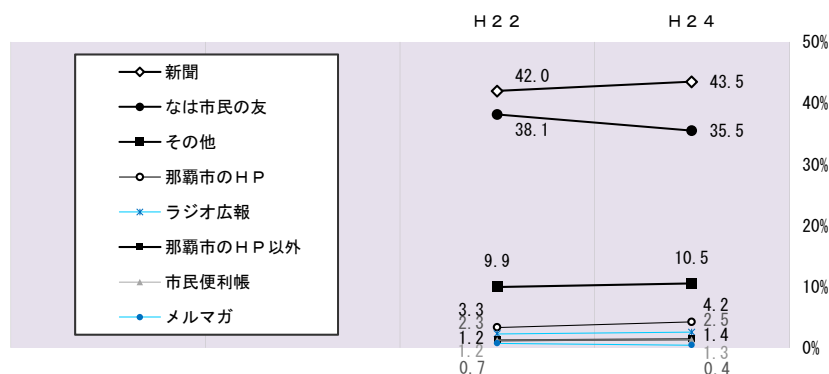
順位	選択項目	回答数
1位	新聞やテレビ・ラジオ	1,009
2位	広報紙「なは市民の友」	823
3位	その他（市の配布するチラシやパンフレット等）	244
4位	インターネット（那覇市のHP）	98
5位	ラジオ広報「那覇市民の時間」	59
6位	インターネット（那覇市のHP以外）	32
7位	市民便利帳	30
8位	那覇市メールマガジン	10
-	無回答	14
合 計		2,319



当該調査は、「無回答」を除き回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

市民が那覇市の情報を得るツールとして、1 位は「新聞やテレビ・ラジオ」、2 位は「広報紙なは市民の友」となっている。また、「その他」の割合も高くなっており、各課からの定期的な情報提供も重要なツールとなっている。

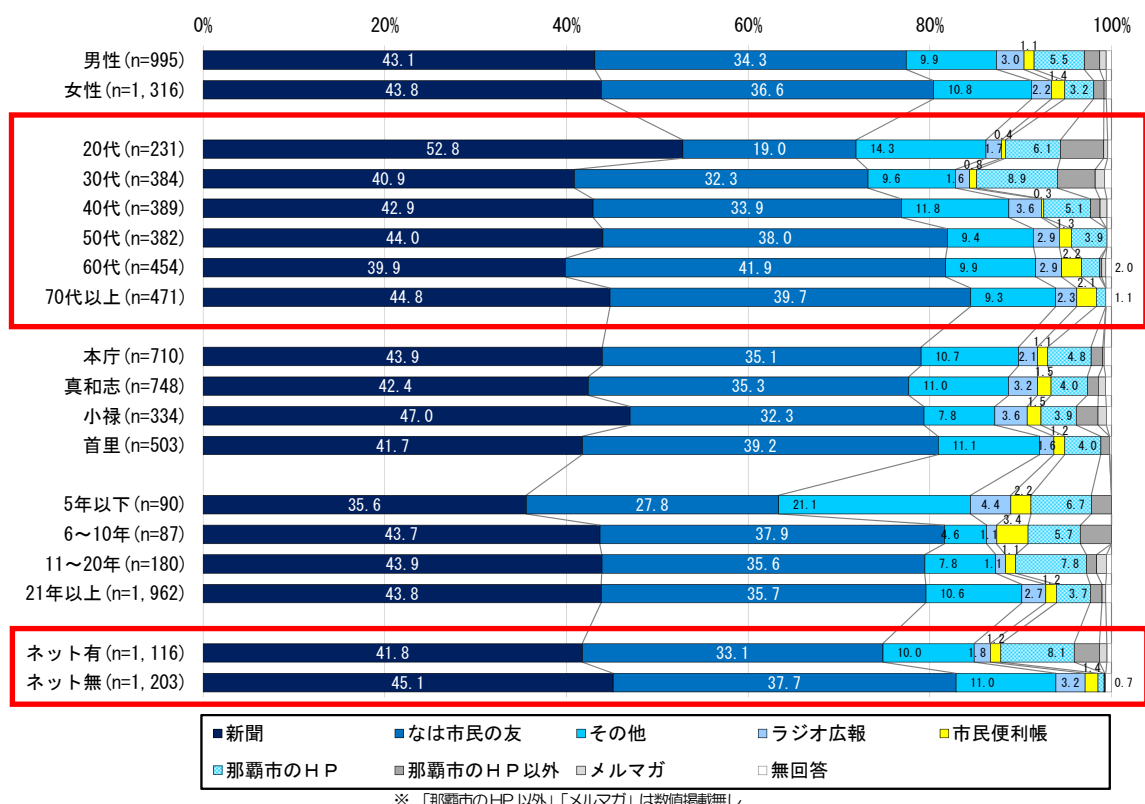
経年変化グラフ（平成 22 年度～平成 24 年度）



経年変化でみると、「新聞やテレビ・ラジオ」は前回調査より 1.5 ポイント増加し、「なは市民の友」は 2.6 ポイント減少している。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性（n=合計）	選択項目	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	-
		新聞	友なは市民の	その他	P那覇市のH	ラジオ広報	P那覇市外のH	市民便利帳	メルマガ	無回答
男性 (n= 995)		429	341	99	55	30	17	11	7	6
女性 (n= 1,316)		577	481	142	42	29	15	19	3	8
20代 (n= 231)		122	44	33	14	4	11	1	1	1
30代 (n= 384)		157	124	37	34	6	16	3	4	3
40代 (n= 389)		167	132	46	20	14	4	1	3	2
50代 (n= 382)		168	145	36	15	11	0	5	0	2
60代 (n= 454)		181	190	45	9	13	1	10	2	3
70代以上 (n= 471)		211	187	44	5	11	0	10	0	3
本庁 (n= 710)		312	249	76	34	15	9	8	1	6
真和志 (n= 748)		317	264	82	30	24	9	11	6	5
小禄 (n= 334)		157	108	26	13	12	8	5	3	2
首里 (n= 503)		210	197	56	20	8	5	6	0	1
5年以下 (n= 90)		32	25	19	6	4	2	2	0	0
6～10年 (n= 87)		38	33	4	5	1	3	3	0	0
11～20年 (n= 180)		79	64	14	14	2	2	2	2	1
21年以上 (n= 1,962)		860	701	207	73	52	25	23	8	13
ネット利用有り (n= 1,116)		466	369	112	90	20	31	13	9	6
ネット利用無し (n= 1,203)		543	454	132	8	39	1	17	1	8



30代及びインターネット利用者は、比較的ネット環境を利用し情報を得ている割合が高く、「なは市民の友」は、高い年代が利用していることから、属性に適した広報の方策を取り入れていくことも有効と思われる。

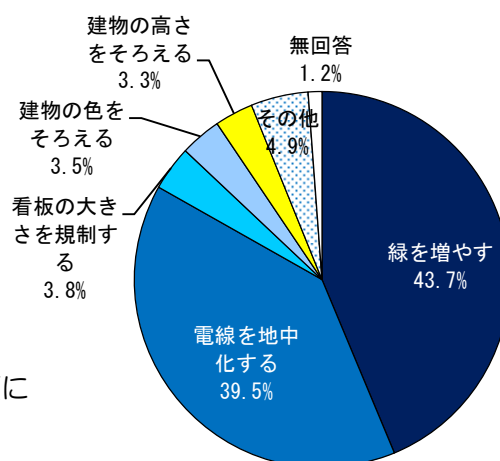
(4) 都市計画について

質問 13. 那覇市を景観的に美しいまちとするために、どのような取り組みが必要だと思いますか。
次の中から1つお選びください。

1. 建物の色をそろえる 2. 緑を増やす 3. 建物の高さをそろえる
4. 看板の大きさを規制する 5. 電線を地中化する 6. その他 ()

市民が那覇市の景観を美しくするために望む取り組みは「緑を増やす」が43.7%、「電線を地中化する」が39.5%。

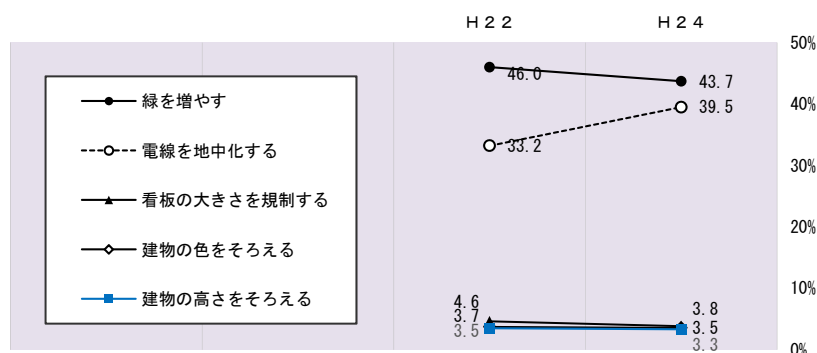
順位	選択項目	回答数
1位	緑を増やす	592
2位	電線を地中化する	535
3位	看板の大きさを規制する	52
4位	建物の色をそろえる	48
5位	建物の高さをそろえる	45
-	その他	67
-	無回答	16
合 計		1,355



当該調査は、「その他」「無回答」を除き回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

那覇市の景観を美しくするために望む取り組みで最も多かった回答が「緑を増やす」の43.7%、次いで「電線を地中化する」の39.5%となっている。

経年変化グラフ（平成22年度～平成24年度）

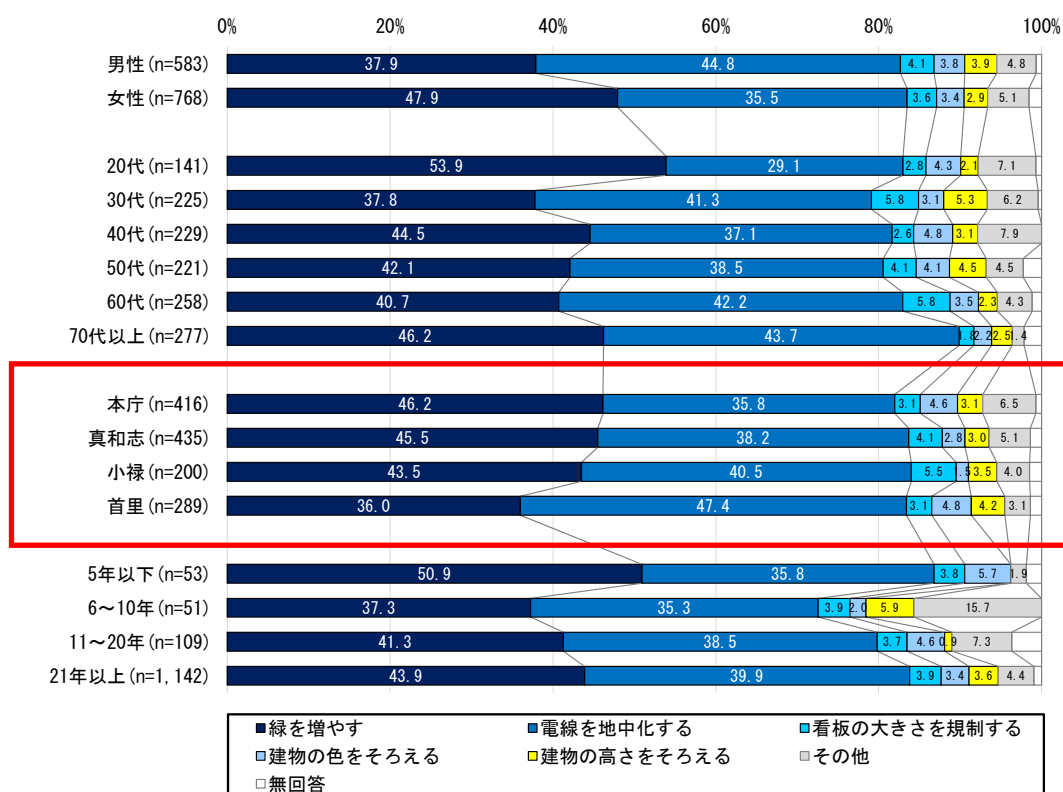


経年変化でみると、「緑を増やす」は前回調査より2.3ポイント減少し、「電線を地中化する」は前回調査より6.3ポイント増加している。

台風時の停電や狭い道路事情から今回「電線を地中化する」が増加したと考えらるが、依然「緑を増やす」と回答した市民が多く、景観を美しくする他、ヒートアイランド現象の緩和等、人・自然・地球にやさしい環境共生都市を目指す那覇市の施策が支持されていると判断できる。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性（n=合計）	選択項目						
	1位 緑を増やす	2位 電線を地中化する	3位 看板の規制を大にする	4位 建物の色をそろえる	5位 建物の高さをそろえる	- その他	- 無回答
男性 (n= 583)	221	261	24	22	23	28	4
女性 (n= 768)	368	273	28	26	22	39	12
20代 (n= 141)	76	41	4	6	3	10	1
30代 (n= 225)	85	93	13	7	12	14	1
40代 (n= 229)	102	85	6	11	7	18	0
50代 (n= 221)	93	85	9	9	10	10	5
60代 (n= 258)	105	109	15	9	6	11	3
70代以上 (n= 277)	128	121	5	6	7	4	6
本庁 (n= 416)	192	149	13	19	13	27	3
真和志 (n= 435)	198	166	18	12	13	22	6
小禄 (n= 200)	87	81	11	3	7	8	3
首里 (n= 289)	104	137	9	14	12	9	4
5年以下 (n= 53)	27	19	2	3	0	1	1
6～10年 (n= 51)	19	18	2	1	3	8	0
11～20年 (n= 109)	45	42	4	5	1	8	4
21年以上 (n= 1,142)	501	456	44	39	41	50	11



居住地区別でみると「緑を増やす」と回答した割合が最も高かったのが本庁地区で、「電線を地中化する」と回答した割合が最も高かったのが首里地区となっている。住宅事情や道路事情等により市民が要望する取り組みは異なるため、各地域にあった都市計画が必要と思われる。

選択肢「その他」の主な内容

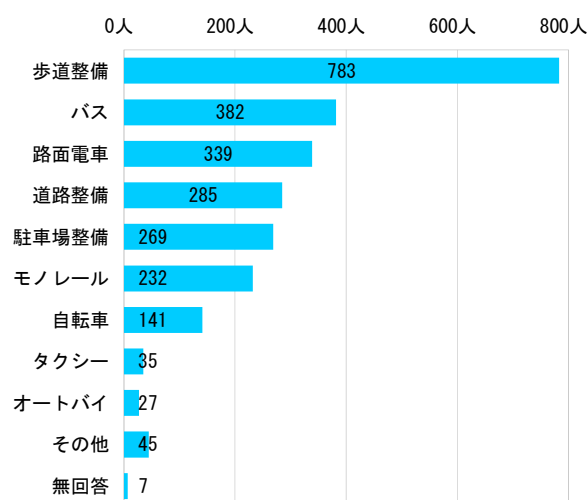
男性-20代-本庁	老朽化した建物を直すように呼びかける。
女性-60代-本庁	建物と建物の距離をちゃんとしてほしい。
男性-50代-本庁	街路樹の統一。
男性-30代-本庁	道路、空き地等の清掃・草刈り。
女性-60代-本庁	落書を消す。
男性-30代-本庁	ゴミの減量。
女性-20代-本庁	ゴミ箱の設置。
女性-30代-本庁	ゴミ拾い・清掃運動。
男性-30代-本庁	久茂地川をきれいにする。
男性-30代-本庁	沖縄の杜等、公園の活性化と保存。
男性-30代-本庁	景観的に美しくする必要がない。その土地の良さがあるので、そこに重点を置く必要はない。他にやるべきことにお金を使って下さい。
女性-40代-本庁	車が多すぎる。
男性-40代-本庁	歩道（バリアフリー）の充実。
女性-50代-本庁	歩道のタイルを単色に揃える。多くの色を使っていて見苦しい。
女性-20代-本庁	歩行者の為に道を広くする。
本庁-30代-女性	台風時の災害が減るなら、電線の地中化、看板の大きさ規制、緑化の見直しの取り組み等必要だと思う。
女性-60代-真和志	新都心の高層ビルは必要ないと思う。
女性-20代-真和志	過疎化している地域を立て直す。
女性-20代-真和志	テーマを持ったまちづくり。
男性-30代-真和志	交差点の緑は運転手の死角になるのでやめたほうがいい。
男性-60代-真和志	大公園を各地域に作る。
女性-60代-真和志	チラシ等の配布をなくす。
女性-40代-真和志	歩道、道幅の整備。
女性-30代-真和志	きれいにしすぎない。
女性-60代-真和志	今まで通りで充分だと思う。
男性-20代-小祿	美しいよりは、見る楽しみを増やす。ラスベガスの噴水ショーみたいな所を作る。人が集まれる所が必要。
男性-30代-小祿	沖縄らしい建物。
男性-40代-小祿	住宅街の街灯。
男性-70代-小祿	旧集落の緑ではなく、コンクリート化が増えている地域の緑を増やす工夫が必要。
女性-20代-首里	ポイ捨ての取締り強化。
女性-70代-首里	建物の色は殆ど白っぽいので気にならない。緑を増やすだけでは困る。電線を地中化にするのは理想的だが資金は？

質問 14. 子どもからお年寄りまで、誰でも快適に移動できるまちづくりのために、重要だと思うものを次の中から2つまでお選び下さい。

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1. 歩きやすい歩道を整備する | 2. 自転車を利用しやすくする |
| 3. バスを利用しやすくする | 4. モノレールを利用しやすくする |
| 5. タクシーを利用しやすくする | 6. オートバイを利用しやすくする |
| 7. 道路を整備する | 8. 路面電車等の新しい交通手段を導入する |
| 9. 駐車場を整備する | 10. その他 () |

誰でも快適に移動できるまちづくりのために重要だと思うものは、主に「歩きやすい歩道を整備する」、「バスを利用しやすくする」。

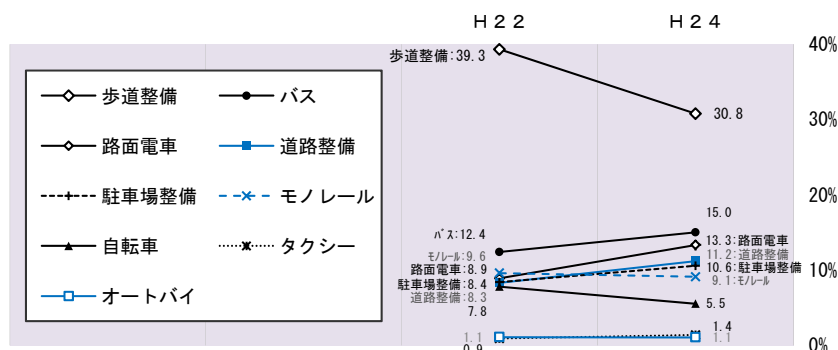
順位	選択項目	回答数
1位	歩きやすい歩道を整備する	783
2位	バスを利用しやすくする	382
3位	路面電車等の新しい交通手段を導入する	339
4位	道路を整備する	285
5位	駐車場を整備する	269
6位	モノレールを利用しやすくする	232
7位	自転車を利用しやすくする	141
8位	タクシーを利用しやすくする	35
9位	オートバイを利用しやすくする	27
-	その他	45
-	無回答	7
合 計		2,545



当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

市民が快適に移動できるまちづくりのために重要だと感じているものは、1 位が「歩きやすい歩道を整備する」、2 位は「バスを利用しやすくする」となっている。

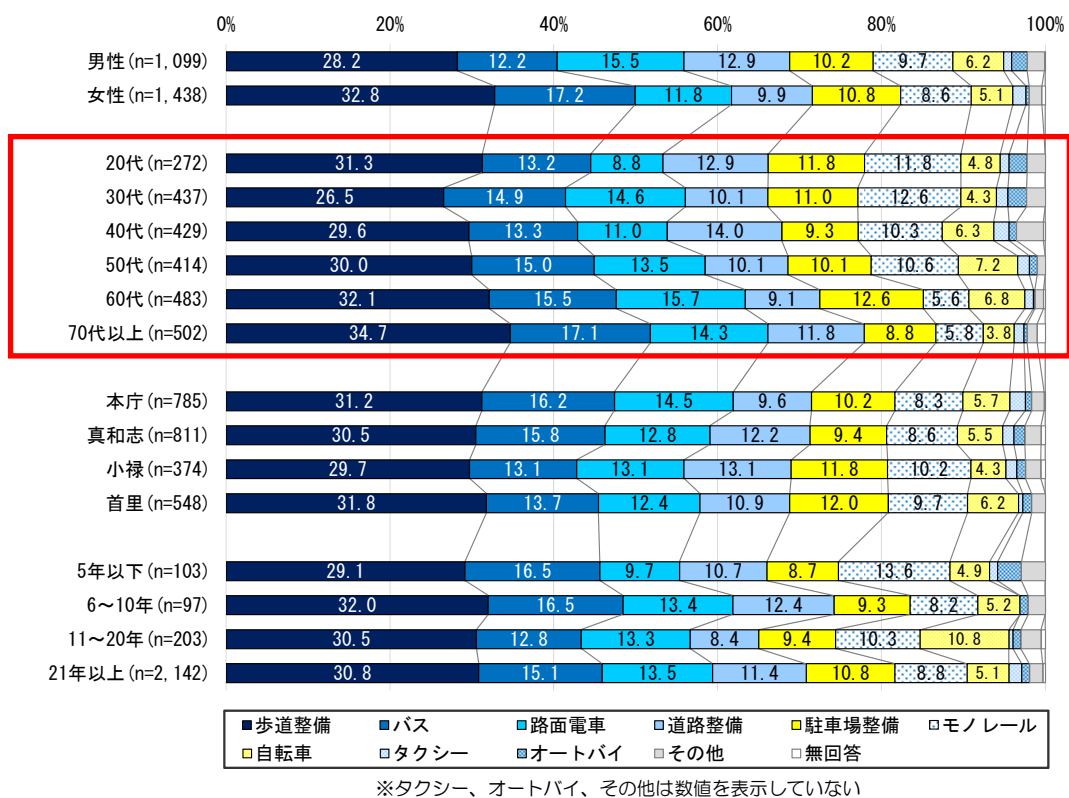
経年変化グラフ（平成 22 年度～平成 24 年度）



今回「バス」「路面電車」が増加し、「モノレール」が減少している。モノレールが利用出来ない地域もあるため、「路面電車」への期待や地域の利便性の高い「バス」等が選択されていることが伺える。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性（n=合計）	選択項目										
	1位 歩道 整備	2位 バス	3位 路面 電車	4位 道路 整備	5位 駐車 場 整備	6位 モノ レール	7位 自転車	8位 タクシー	9位 オート バイ	- その他	- 無 回答
男性 (n= 1,099)	310	134	170	142	112	107	68	11	21	23	1
女性 (n= 1,438)	471	247	169	142	155	124	73	23	6	22	6
20代 (n= 272)	85	36	24	35	32	32	13	3	6	6	0
30代 (n= 437)	116	65	64	44	48	55	19	6	10	10	0
40代 (n= 429)	127	57	47	60	40	44	27	8	4	14	1
50代 (n= 414)	124	62	56	42	42	44	30	6	4	4	0
60代 (n= 483)	155	75	76	44	61	27	33	5	1	5	1
70代以上 (n= 502)	174	86	72	59	44	29	19	6	2	6	5
本庁 (n= 785)	245	127	114	75	80	65	45	15	6	12	1
真和志 (n= 811)	247	128	104	99	76	70	45	11	11	16	4
小祿 (n= 374)	111	49	49	49	44	38	16	5	4	7	2
首里 (n= 548)	174	75	68	60	66	53	34	3	6	9	0
5年以下 (n= 103)	30	17	10	11	9	14	5	1	3	3	0
6～10年 (n= 97)	31	16	13	12	9	8	5	0	1	2	0
11～20年 (n= 203)	62	26	27	17	19	21	22	1	2	5	1
21年以上 (n= 2,142)	660	323	289	245	232	189	109	33	21	35	6



年代別でみると、50代～70代以上は比較的「バス」や「路面電車」を望む割合が高く、若い世代は「モノレール」や「オートバイ」を望む割合が高くなっている。

選択肢「その他」の主な内容

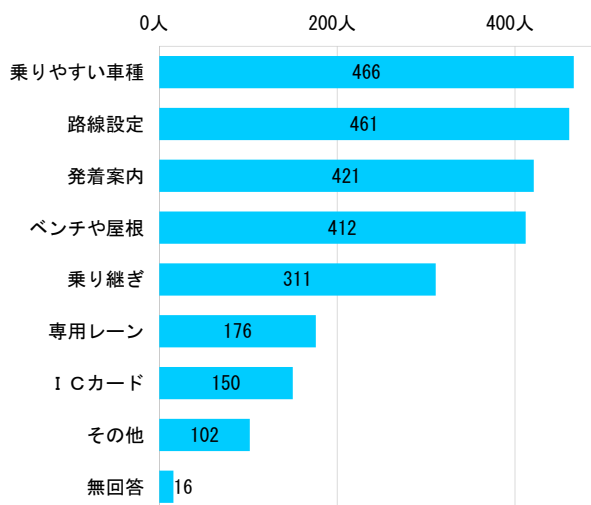
男性-30代-本庁	バリアフリー。歩道と車道の分離。ガードレール等金属で囲う。
男性-30代-本庁	街路樹を増やし日陰を増やす。
男性-50代-本庁	電柱を無くして歩道線を引く。
男性-50代-本庁	子供、お年寄りを守る意識、交通ルールマナーの向上。
男性-50代-本庁	自転車利用者の教育。
女性-40代-本庁	学校の側に交番を作る。
女性-40代-本庁	違法駐車を取り締まる。
女性-40代-本庁	平和通り近辺にオートバイでも止められる駐車を。
女性-60代-本庁	国際通りのみ車の交通禁止。ただし、営業・搬入・許可車（大型バス含む）はその限りではない。
男性-20代-真和志	信号を減らし歩道橋を増設する。
男性-20代-真和志	バリアフリーを意識した道路、公園づくり。（他40代男性 計2名）
男性-30代-真和志	コミュニティバスの導入。
男性-30代-真和志	点字ブロック等バリアフリー関係。
男性-30代-真和志	モノレールを環状線にした方がいいと思う。
男性-30代-真和志	歩行者用の信号の切り替えが早すぎてお年寄りが渡りきれない場合がある。
男性-30代-真和志	歩道の狭い道路のバス禁止。危険！
男性-70代-真和志	道路のデコボコを無くすこと。
男性-60代-真和志	公園を増やす。
男性-70代-真和志	年寄りが行動しやすい交通手段の導入。
女性-30代-真和志	ドライバーのマナー向上。
女性-40代-真和志	場所によって、信号の変わる時間が違うため、信号が変わるのが遅く、何度かバスを逃したことがある。
女性-30代-真和志	市民であれば、料金を安くする等の交通チケット配布等。
女性-30代-真和志	バス停に日影を作って欲しい。
女性-40代-真和志	沖縄本島（南部→北部まで）にモノレールを通す。
男性-20代-小禄	お年寄りはバス無料。
女性-40代-小禄	横断時の信号が早く変わり、傷病中や足の不自由な者にとっても不親切だと思う事がある。
女性-40代-小禄	車椅子のスロープが少ない。重要と思われる。
女性-40代-小禄	夜、暗い所が多いので外灯を増やしてほしい。
女性-60代-小禄	陰が出来る様な街路樹を工夫。
男性-40代-首里	交通渋滞の緩和。
男性-40代-首里	車椅子で利用可能なバスを出来る限り増やすべき。
男性-60代-首里	木陰、アーケード等日差しを避けることのまちづくり。
女性-20代-首里	公共交通機関の整備。
女性-40代-首里	交通渋滞に左右されない乗り物の導入。
女性-50代-首里	バス停の照明設置。
女性-70代-首里	モノレールを利用しやすい運賃にする。
女性-20代-無回答	車が多く、歩かない人が多すぎる。車が通行しない道路を増やす。小規模なラドバーンシステムを取り入れてみる（バス、モノレール、タクシーは通行可）。

質問 15. モノレールやバスなどをもっと利用しやすくするために、重要だと思うものを次の中から2つまでお選び下さい。

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 1. 時刻表などの発着案内の充実 | 2. 駅や停留所へベンチや屋根を設置する |
| 3. わかりやすい路線設定 | 4. ICカードの導入や乗り継ぎ割引の実施 |
| 5. お年寄りや交通弱者でも乗りやすい車種の導入 | 6. 専用レーンの拡充による定時性の確保 |
| 7. 他の交通手段への乗り継ぎ | 8. その他 () |

モノレールやバス利用のために市民が重要と思うのは、「お年寄りや交通弱者でも乗りやすい車種の導入」や「わかりやすい路線の設定」。

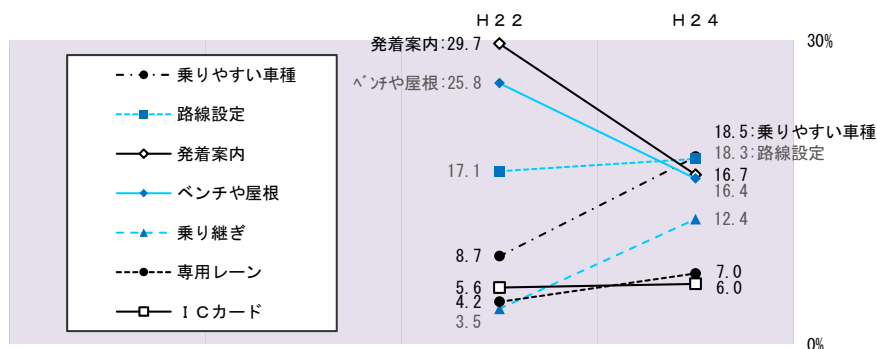
順位	選択項目	回答数
1位	お年寄りや交通弱者でも乗りやすい車種の導入	466
2位	わかりやすい路線設定	461
3位	時刻表などの発着案内の充実	421
4位	駅や停留所へベンチや屋根を設置する	412
5位	他の交通手段への乗り継ぎ	311
6位	専用レーンの拡充による定時性の確保	176
7位	ICカードの導入や乗り継ぎ割引の実施	150
-	その他	102
-	無回答	16
合 計		2,515



当該調査は、回答の多い順に表・グラフによる掲載を行った。

市民がモノレールやバスなどをもっと利用しやすくするために、重要だと思うものは、1 位が「お年寄りや交通弱者でも乗りやすい車種の導入」、2 位が「わかりやすい路線の設定」となっている。

経年変化グラフ（平成 22 年度～平成 24 年度）

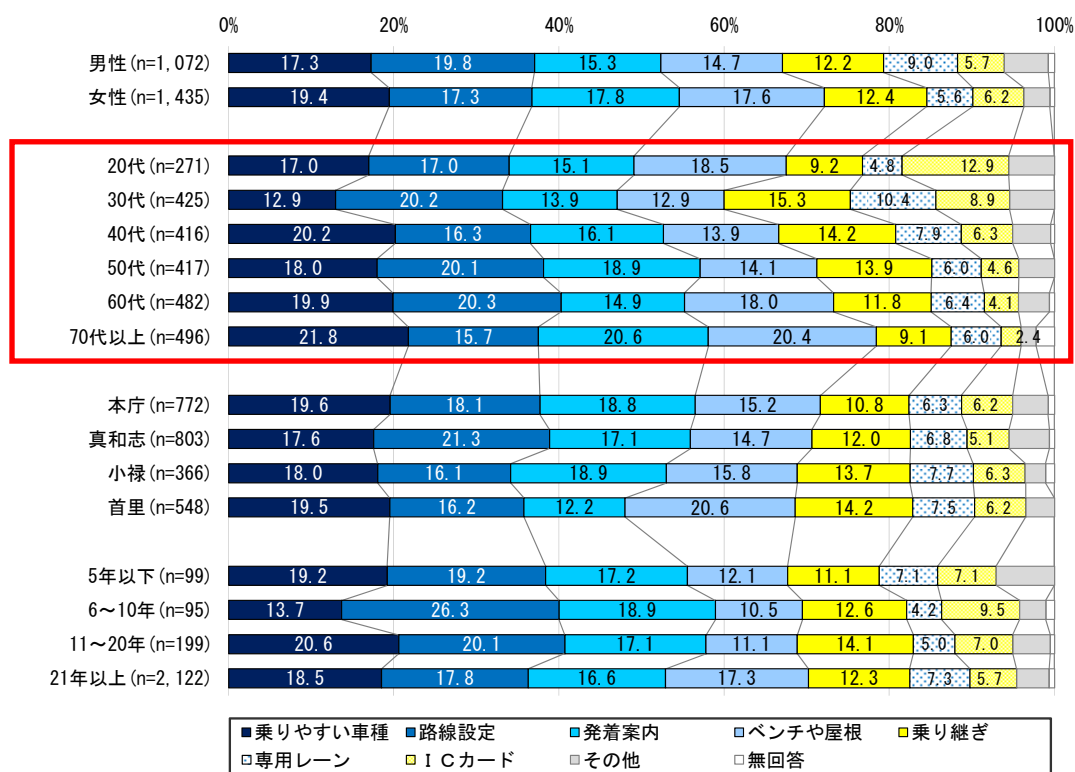


前回上位だった「発着案内」「ベンチや屋根」は大幅に減少し、「乗りやすい車種」「乗り継ぎ」が大幅に増加しており、既存の施設やシステムの改善に加え、新たな車種や路線の設定を望む声が高くなっていることが伺える。

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性（n=合計）	選択項目	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	-	-
		車 乗 種 り や す い	路 線 設 定	発 着 案 内	根 ベン チ や 屋	乗 り 継 ぎ	専 用 レ ー ン	IC カ ー ド	そ の 他	無 回 答
男性 (n= 1,072)		185	212	164	158	131	96	61	57	8
女性 (n= 1,435)		279	248	256	252	178	80	89	45	8
20代 (n= 271)		46	46	41	50	25	13	35	15	0
30代 (n= 425)		55	86	59	55	65	44	38	23	0
40代 (n= 416)		84	68	67	58	59	33	26	19	2
50代 (n= 417)		75	84	79	59	58	25	19	18	0
60代 (n= 482)		96	98	72	87	57	31	20	18	3
70代以上 (n= 496)		108	78	102	101	45	30	12	9	11
本庁 (n= 772)		151	140	145	117	83	49	48	33	6
真和志 (n= 803)		141	171	137	118	96	55	41	39	5
小祿 (n= 366)		66	59	69	58	50	28	23	9	4
首里 (n= 548)		107	89	67	113	78	41	34	19	0
5年以下 (n= 99)		19	19	17	12	11	7	7	7	0
6～10年 (n= 95)		13	25	18	10	12	4	9	3	1
11～20年 (n= 199)		41	40	34	22	28	10	14	9	1
21年以上 (n= 2,122)		393	377	352	368	260	155	120	83	14



「お年寄りや交通弱者でも乗りやすい車種の導入」と回答した割合は、70代以上及び40代が高く、「ICカードの導入や乗り継ぎ割引の実施」は比較的若い世代が望んでいる。

居住地区別でみると、首里地区は「駅や停留所へベンチや屋根を設置する」と回答した割合が高くなっている。

選択肢「その他」の主な内容

男性-30代-本庁	時間通りに来る。
男性-20代-本庁	路線の見直しや拡大・延長。
男性-30代-本庁	バスの運行本数を増やす。
男性-50代-本庁	モノレールやバスを日曜日だけは半額デーにすると、利用する人々が多くなり活動が広がる。
女性-40代-本庁	運賃を下げる。
女性-50代-本庁	乗り継ぎの際乗り継ぎ料金を設定して、安くなるような工夫があるといい。
男性-40代-本庁	利便性のアピール。
男性-50代-本庁	時間の延長。
女性-20代-本庁	モノレール駅周辺の活性化・イベントの充実。
男性-30代-本庁	路面地図や運転手の案内を充実させる。
女性-40代-本庁	バス、タクシー運転手の乗車拒否を無くす事。
女性-50代-本庁	停留所周辺の美化。
女性-50代-本庁	時刻表が破れ、時間の発着が見えないバス停もある中、大道バス停は発着案内も充実して快適です。最高。モデルにしてみても如何でしょうか。
女性-60代-本庁	近隣地域への循環に小さいバスの数を増やす。
女性-60代-本庁	駅周辺にパーキング場を設定。
男性-40代-真和志	市民・子連れ、お年寄りの無料化や引き下げ。
男性-50代-真和志	モノレールを中北部まで延ばして。
男性-40代-真和志	駅の増加。
女性-20代-真和志	モノレール環状化。
男性-50代-真和志	駐車・駐輪場。
男性-40代-真和志	各駅のイベント及び催し、持ち回りで地域の取り組み。安里駅の栄町屋台？イベント面白い！
女性-40代-真和志	お年寄りの階段への負担を無くすため、歩道橋をなるべく少なくし、横断歩道を多くする。
男性-30代-真和志	ハワイのように利用しやすく、乗り換えもOKにする。
男性-30代-真和志	バスの良さの啓蒙活動と、終発をもっと遅い時間にする。
男性-50代-真和志	バスを市営バスにすること。
女性-50代-真和志	ミニバス等を利用して、少人数でも赤字がでないような車を走らせる。
女性-30代-真和志	タクシーを減らす。
男性-20代-小禄	58号線にモノレールを配置する。または、地下鉄を配置する。
男性-60代-小禄	バスの時間厳守。
女性-30代-小禄	乗り継ぎしやすい路線の設定。
女性-50代-首里	バスの昼間の時間帯の本数を増やす事！
女性-20代-無回答	バスが時間通りに着けるように努力すべきだと思う。車社会の沖縄では難しい課題だとは思いますが。バスを待つ時間が結構長い。
女性-30代-首里	バス営業所の職員の対応指導が必要。
男性-30代-首里	バスが時間通りに来る事や本数を増やす事は道路事情やバス経営を考えても難しいと思うので、如何に待ち時間を快適に過ごせるかを充実した方が良いと思う。
男性-30代-首里	渋滞を無くす。
男性-60代-首里	古い車種を本土から持ってこない。古すぎて排気ガスがすごい。

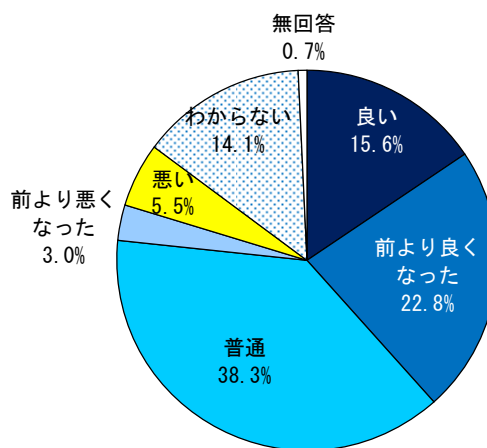
(5) 職員の対応について

質問 16. この1年以内の本市職員の対応（電話応対も含む）についての印象を次の中からお選びください。

1. 良い 2. 前より良くなった 3. 普通 4. 前より悪くなった
5. 悪い 6. わからない

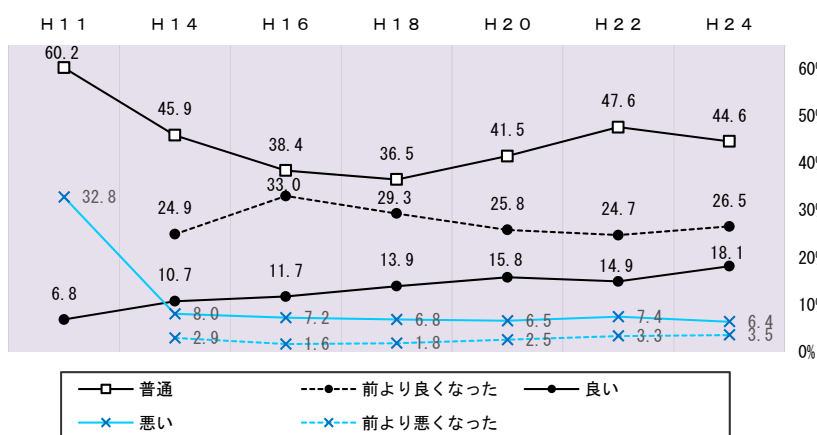
那覇市の職員の対応が「良い・前より良くなった」と感じている市民は 38.4%、「前より悪くなった・悪い」と感じている市民は 8.5%。

選択項目	回答数
良い	211
前より良くなった	309
普通	519
前より悪くなった	41
悪い	74
わからない	191
無回答	10
合 計	1,355



那覇市の職員の対応について最も多かった回答は、「普通」の38.3%、続いて「前より良くなった」が22.8%、「良い」が15.6%となっている。

経年変化グラフ（平成11年度～平成24年度）



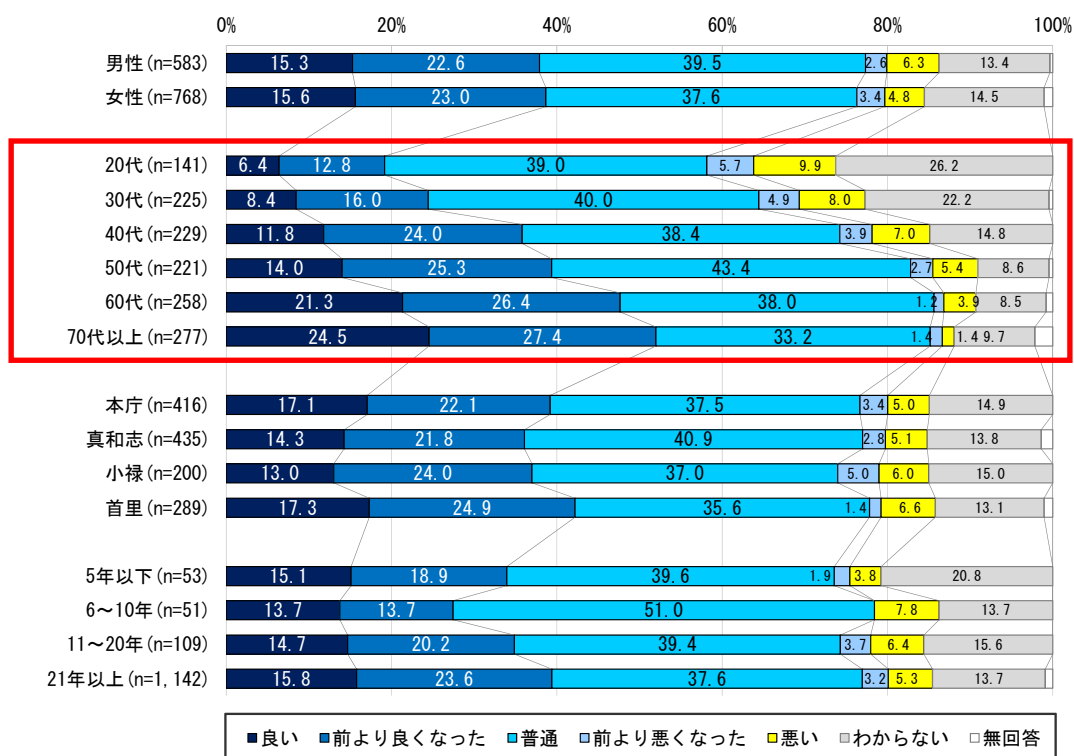
経年変化では、H20以前には選択肢が無かった「わからない」を除いた割合で比較を行った（H22、H24）。

前回調査と比較すると、「良い」は3.2ポイント、「前より良くなった」は1.8ポイント増加している。

対して「悪い」「前より悪くなった」は0.8ポイント減少しているため、市民の那覇市職員に対する印象は、改善されていると考えられる。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

選択項目 回答者属性（n=合計）	良い	前より 良くなる	普通	前より 悪くなる	悪い	わからない	無回答
男性 (n= 583)	89	132	230	15	37	78	2
女性 (n= 768)	120	177	289	26	37	111	8
20代 (n= 141)	9	18	55	8	14	37	0
30代 (n= 225)	19	36	90	11	18	50	1
40代 (n= 229)	27	55	88	9	16	34	0
50代 (n= 221)	31	56	96	6	12	19	1
60代 (n= 258)	55	68	98	3	10	22	2
70代以上 (n= 277)	68	76	92	4	4	27	6
本庁 (n= 416)	71	92	156	14	21	62	0
真和志 (n= 435)	62	95	178	12	22	60	6
小禄 (n= 200)	26	48	74	10	12	30	0
首里 (n= 289)	50	72	103	4	19	38	3
5年以下 (n= 53)	8	10	21	1	2	11	0
6～10年 (n= 51)	7	7	26	0	4	7	0
11～20年 (n= 109)	16	22	43	4	7	17	0
21年以上 (n= 1,142)	180	270	429	36	61	156	10



年代別でみると、年代が高くなるにつれ「良い」「前より良くなった」と回答する割合は高く、年代が低くなるにつれ「前より悪くなった」「悪い」と回答する割合が高くなっている。また、若い年代は「わからない」と回答した割合も高くなっている。

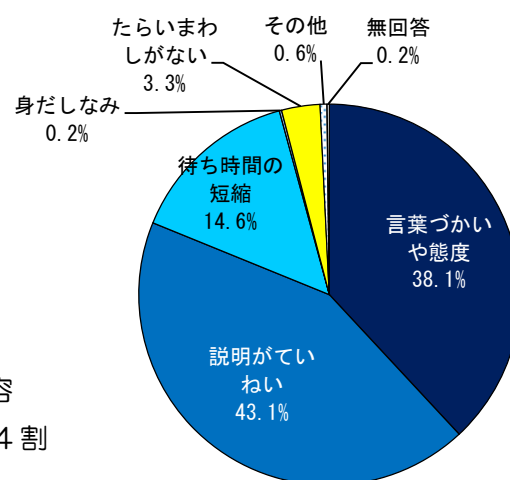
居住地区では、首里地区が「良い・良くなった」と感じている割合が高く、「悪い・悪くなった」と感じている割合が高いのは小禄地区となっている。

質問 16-1. 「良い」または「前より良くなった」とお答えした方は、「良い」と感じたところを次の中から1つお選びください。

- | | | |
|-------------|--------------|------------|
| 1. 言葉づかいや態度 | 2. 説明がていねい | 3. 待ち時間の短縮 |
| 4. 身だしなみ | 5. たらいまわしがない | 6. その他 |

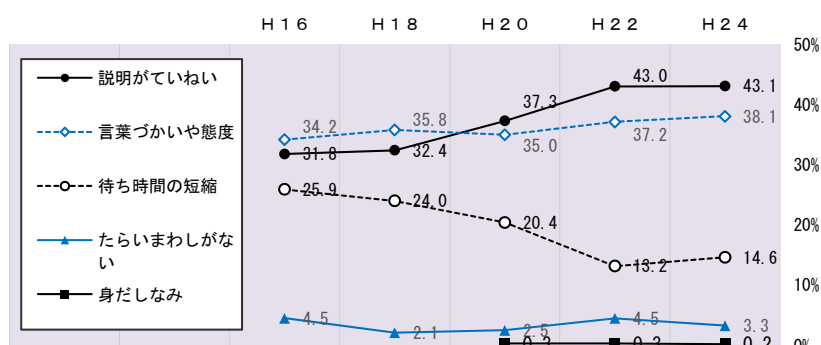
市民が那覇市職員の対応で良い・前より良くなったと感じているのは「説明がていねい」の43.1%、「言葉づかいや態度」の38.1%。

選択項目	回答数
言葉づかいや態度	198
説明がていねい	224
待ち時間の短縮	76
身だしなみ	1
たらいまわしがない	17
その他	3
無回答	1
合 計	520



那覇市職員の対応が良い・良くなったと感じる内容では、「説明がていねい」「言葉づかいや態度」が各4割程度となっている。

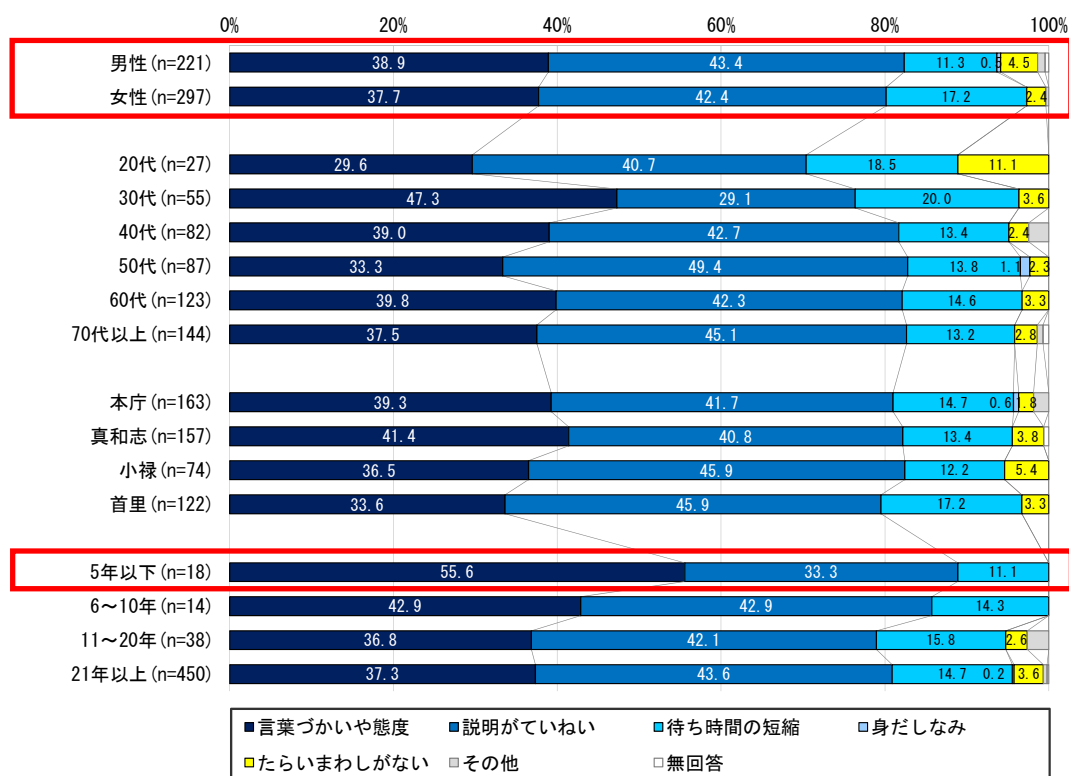
経年変化グラフ（平成16年度～平成24年度）



経年変化でみると「説明がていねい」「言葉づかいや態度」「待ち時間の短縮」は、増加しており、中でも「待ち時間の短縮」は、1.4ポイントの増加と割合が高く、最も改善されたと市民が感じていると伺える。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	選択項目	言葉づかい	説明がてい	待ち時間の短縮	身だしなみ	したらないまわ	その他	無回答
男性 (n= 221)		86	96	25	1	10	2	1
女性 (n= 297)		112	126	51	0	7	1	0
20代 (n= 27)		8	11	5	0	3	0	0
30代 (n= 55)		26	16	11	0	2	0	0
40代 (n= 82)		32	35	11	0	2	2	0
50代 (n= 87)		29	43	12	1	2	0	0
60代 (n= 123)		49	52	18	0	4	0	0
70代以上 (n= 144)		54	65	19	0	4	1	1
本庁 (n= 163)		64	68	24	1	3	3	0
真和志 (n= 157)		65	64	21	0	6	0	1
小禄 (n= 74)		27	34	9	0	4	0	0
首里 (n= 122)		41	56	21	0	4	0	0
5年以下 (n= 18)		10	6	2	0	0	0	0
6～10年 (n= 14)		6	6	2	0	0	0	0
11～20年 (n= 38)		14	16	6	0	1	1	0
21年以上 (n= 450)		168	196	66	1	16	2	1



性別でみると、男性は「言葉づかいや態度」「説明がていねい」と感じている割合が高く、女性は「待ち時間の短縮」と回答している割合が高くなっている。

居住年数では 5 年以下が「言葉づかいや態度」「説明がていねい」と感じている割合が高くなっている。これは、以前住んでいた市町村と比べた可能性もあり那覇市職員への評価とも考えられる。

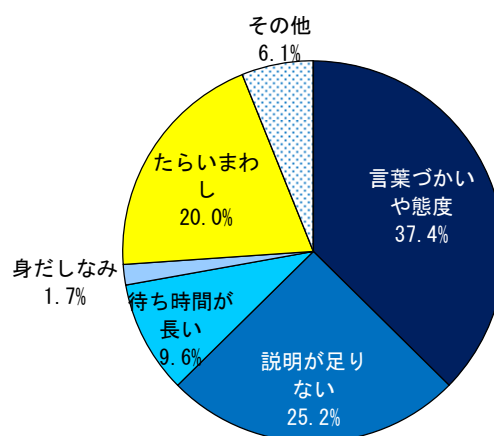
質問 16-2. 「前より悪くなった」、または「悪い」とお答えした方は、「悪い」と感じたところを次の中から1つお選びください。

- | | | |
|-------------|------------|------------|
| 1. 言葉づかいや態度 | 2. 説明が足りない | 3. 待ち時間が長い |
| 4. 身だしなみ | 5. たらいまわし | 6. その他 |

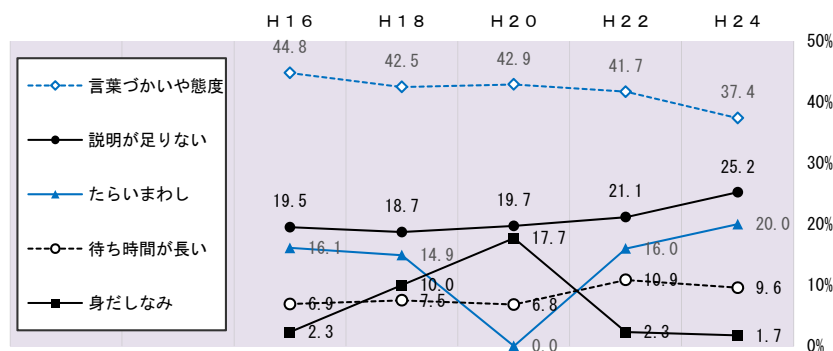
市民が那覇市職員の対応で前より悪くなった・悪いと感じているのは「言葉づかいや態度」の37.4%、「説明が足りない」の25.2%。

選択項目	回答数
言葉づかいや態度	43
説明が足りない	29
待ち時間が長い	11
身だしなみ	2
たらいまわし	23
その他	7
合 計	115

那覇市職員の対応で悪い・悪くなったと感じている内容は、「言葉づかいや態度」の37.4%、「説明が足りない」の25.2%となっている。



経年変化グラフ（平成 16 年度～平成 24 年度）

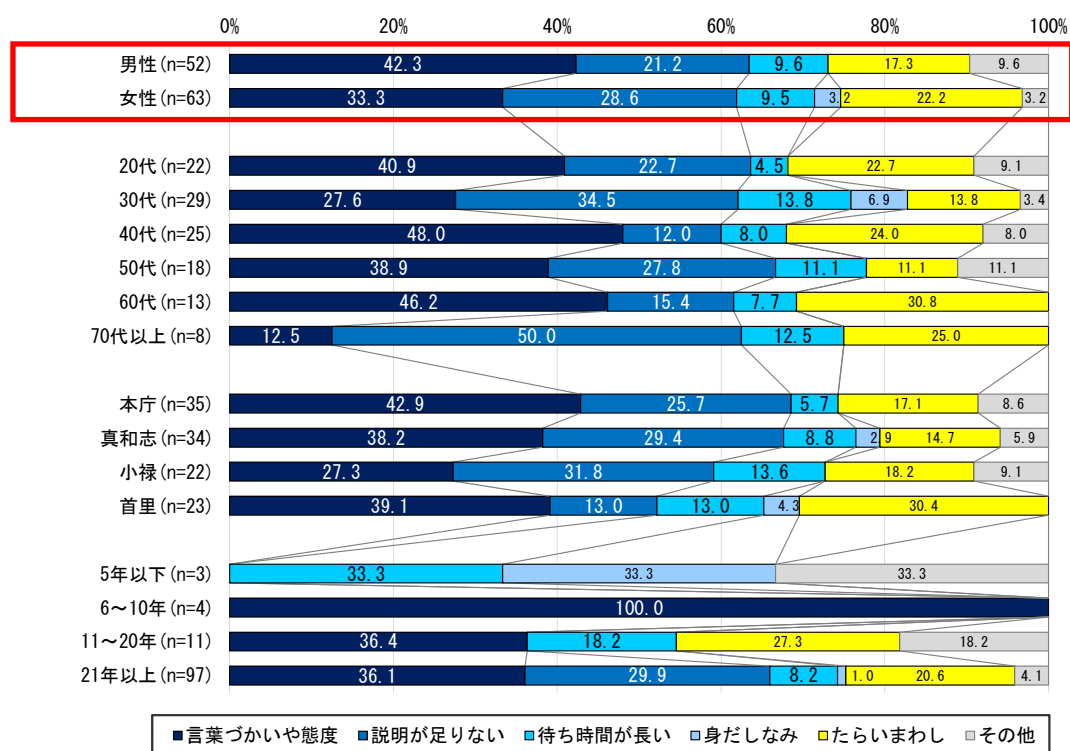


今回調査において「言葉づかいや態度」は4.3ポイント、「待ち時間が長い」「身だしなみ」も減少していることから、前述3つは改善されていると判断される。

対して、「説明が足りない」「たらいまわし」については前回調査より増加しており、「たらいまわし」については、質問 16-1 の、良い・良くなった内容でも、前回より割合が減少していることから、市民の印象は悪くなっていると判断され、今後の改善が必要と考えられる。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	選択項目	言葉づかいや態度	説明が足りない	待ち時間が長い	身だしなみ	したらいまわ	その他
男性 (n= 52)		22	11	5	0	9	5
女性 (n= 63)		21	18	6	2	14	2
20代 (n= 22)		9	5	1	0	5	2
30代 (n= 29)		8	10	4	2	4	1
40代 (n= 25)		12	3	2	0	6	2
50代 (n= 18)		7	5	2	0	2	2
60代 (n= 13)		6	2	1	0	4	0
70代以上 (n= 8)		1	4	1	0	2	0
本庁 (n= 35)		15	9	2	0	6	3
真和志 (n= 34)		13	10	3	1	5	2
小禄 (n= 22)		6	7	3	0	4	2
首里 (n= 23)		9	3	3	1	7	0
5年以下 (n= 3)		0	0	1	1	0	1
6～10年 (n= 4)		4	0	0	0	0	0
11～20年 (n= 11)		4	0	2	0	3	2
21年以上 (n= 97)		35	29	8	1	20	4



性別でみると、男性は「言葉づかいや態度」が悪い・悪くなったと回答している割合が高く、女性は「説明が足りない」と回答している割合が高くなっている。

居住地区別では「言葉づかいや態度」と回答している割合が高いのは本庁地区となっている。

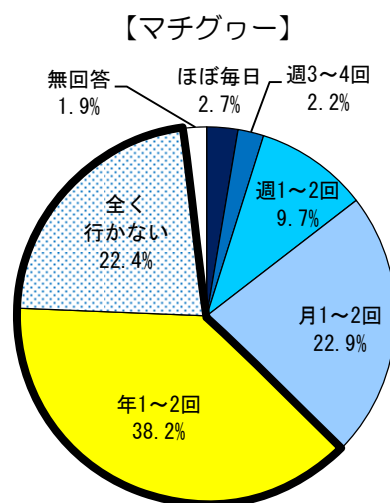
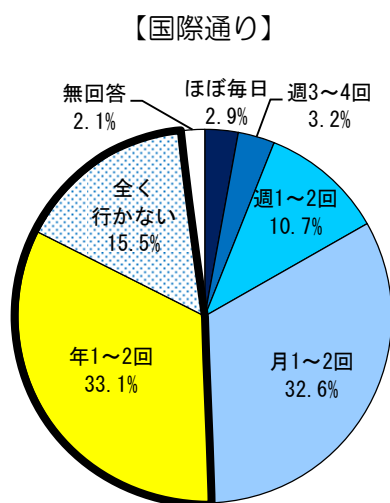
(6) 市街地活性化について

質問 17. あなたが、次の中心市街地商店街へ行く回数を教えてください。

- | | | | |
|---------|------------|------------|------------|
| 【国際通り】 | 1. ほぼ毎日 | 2. 週 3～4 回 | 3. 週 1～2 回 |
| | 4. 月 1～2 回 | 5. 年 1～2 回 | 6. 全く行かない |
| 【マチグラー】 | 1. ほぼ毎日 | 2. 週 3～4 回 | 3. 週 1～2 回 |
| | 4. 月 1～2 回 | 5. 年 1～2 回 | 6. 全く行かない |

市民が国際通りに行く回数で最も多い回答は「年 1～2 回」の 33.1%、マチグラーに行く回数で最も多い回答は「年 1～2 回」の 38.2%。

選択項目	国際通り	マチグラー
ほぼ毎日	39	36
週3～4回	43	30
週1～2回	145	131
月1～2回	442	310
年1～2回	448	518
全く行かない	210	304
無回答	28	26
合 計	1,355	1,355



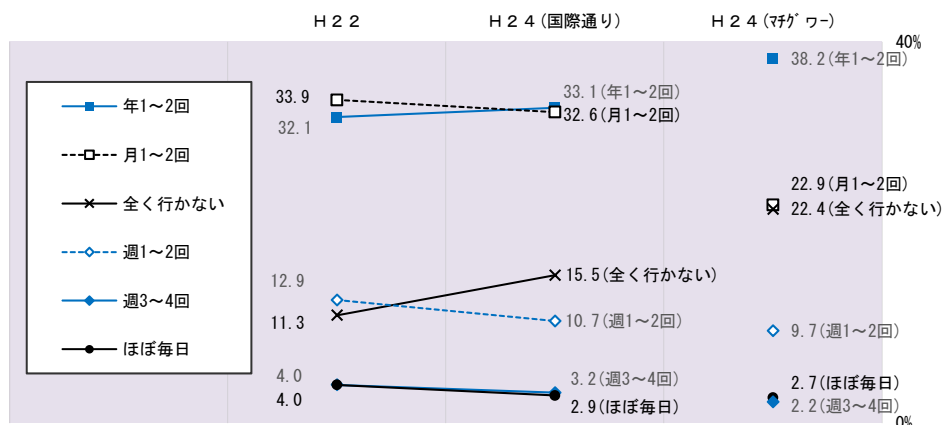
中心市街地を、国際通りとマチグラーに分けて市民が行く回数を掲載した。

国際通りについては「年 1～2 回」の 33.1%が最も多く、次いで「月 1～2 回」の 32.6%となっている。

マチグラーについては「年 1～2 回」の 38.2%に次いで「月 1～2 回」の 22.9%となっているが、「全く行かない」が 22.4%で「月 1～2 回」とほぼ同数となっている。

「年 1～2 回」と「全く行かない」市民の合計は、国際通りで 48.6%、マチグラーで 60.6%となっており、中心市街地商店街が市民の日常生活から確実に離れつつある実態が浮き彫りとなった。

経年変化グラフ（平成 22 年度～平成 24 年度）



前回調査の質問は、「国際通り等中心市街地へ行く回数」となっており、国際通りとマチグーに分割した調査は行っていないため、前回質問の「国際通り等中心市街地」を今回質問の国際通りに置き換え、マチグーについての回答は、国際通りと比較するために右欄に掲載した。

国際通りについては、「ほぼ毎日」と回答した割合は、前回調査より 1.1 ポイント減少しており、「週 1～2 回」は 2.2 ポイント、「週 3～4 回」は 0.8 ポイント減少している。

対して「年 1～2 回」は 1 ポイント、「全く行かない」は 4.2 ポイント増加しており、市民が国際通りへ行く頻度は減少傾向にある。

また、マチグーについても、「ほぼ毎日」「週 3～4 回」「週 1～2 回」の、いわゆる通う頻度が高いと回答した割合は、国際通りにおける同回答より低く、「全く行かない」「年 1～2 回」と回答した割合は高くなっており、国際通り以上にマチグーへ通う頻度は低いという結果となった。

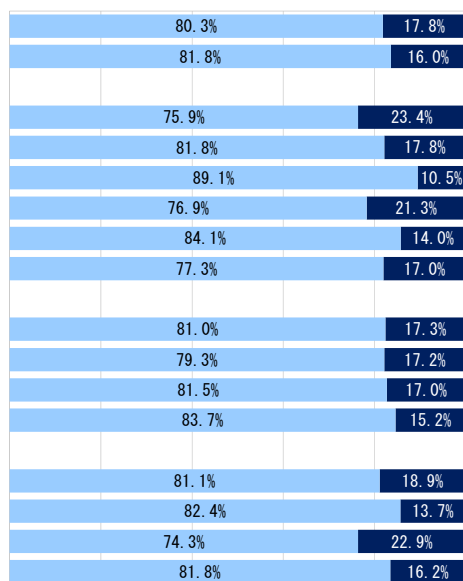
今回の意識調査であらゆる角度からの分析を試み、市民が中心市街地から離れる原因を洗い出していくことで、どうすれば市民が国際通りやマチグーへ集い、中心市街地の活性化へ繋がっていくかを検討する必要がある。

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

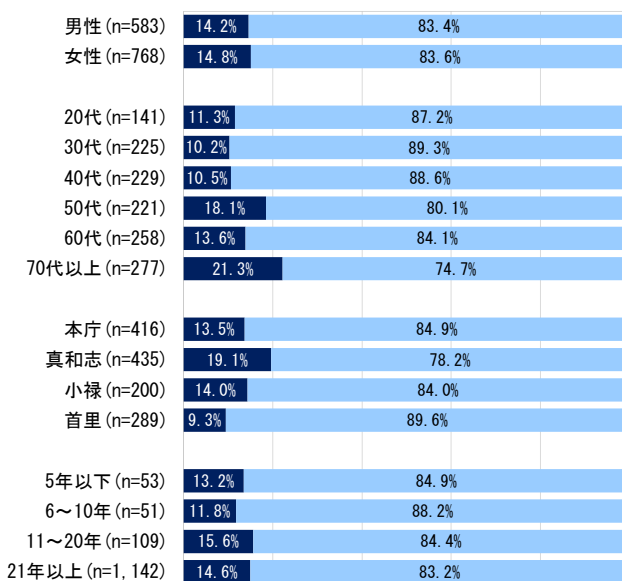
属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

無回答	国際通り						選択項目 回答者属性（n=合計）	マチグー						無回答
	い全く行かない	年1～2回	月1～2回	週1～2回	週3～4回	ほぼ毎日		ほぼ毎日	週3～4回	週1～2回	月1～2回	年1～2回	い全く行かない	
11	112	192	164	64	26	14	男性 (n= 583)	13	18	52	113	215	158	14
17	98	253	277	81	17	25	女性 (n= 768)	23	12	79	197	302	143	12
1	7	37	63	21	4	8	20代 (n= 141)	6	1	9	30	57	36	2
1	44	75	65	28	4	8	30代 (n= 225)	4	3	16	39	92	70	1
1	53	85	66	15	5	4	40代 (n= 229)	0	3	21	40	95	68	2
4	30	82	58	23	13	11	50代 (n= 221)	10	7	23	50	83	44	4
5	34	92	91	22	8	6	60代 (n= 258)	7	6	22	67	108	42	6
16	42	74	98	36	9	2	70代以上 (n= 277)	9	10	40	84	82	41	11
7	66	145	126	41	15	16	本庁 (n= 416)	12	9	35	98	169	86	7
15	55	124	166	51	14	10	真和志 (n= 435)	18	13	52	110	154	76	12
3	34	71	58	23	6	5	小禄 (n= 200)	2	3	23	45	73	50	4
3	52	104	86	28	8	8	首里 (n= 289)	2	5	20	55	117	87	3
0	12	15	16	8	2	0	5年以下 (n= 53)	0	2	5	10	20	15	1
2	8	17	17	4	1	2	6～10年 (n= 51)	0	1	5	9	23	13	0
3	13	33	35	15	6	4	11～20年 (n= 109)	6	3	8	24	47	21	0
23	177	383	374	118	34	33	21年以上 (n= 1,142)	30	24	113	267	428	255	25

【国際通り】



【マチグー】



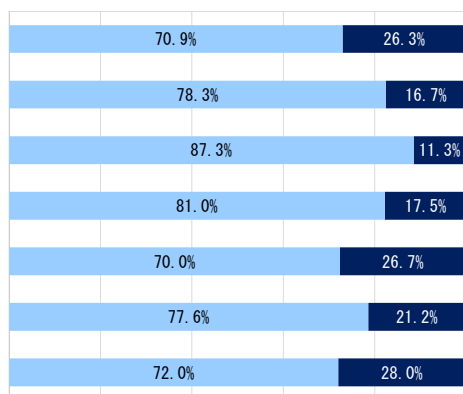
■ほぼ毎日～週1～2回 ■月1～2回～全く行かない

属性別グラフについては、比較がしやすいように、国際通り、マチグーに通う頻度が高い「ほぼ毎日」「週3～4回」「週1～2回」と、相対する「月1～2回」「年1～2回」「全く行かない」に分けて表示し分析を行った。

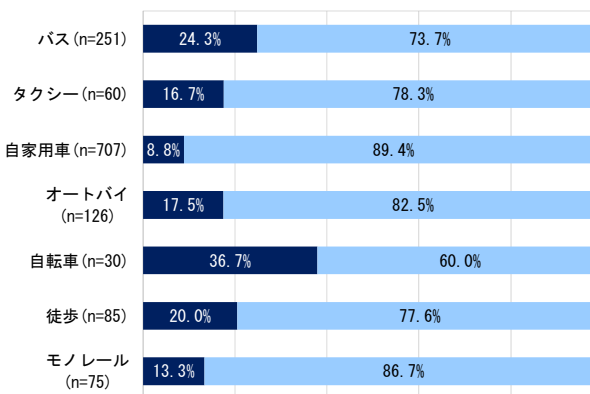
年代別でみると、国際通りへ通う頻度が高いのは20代、マチグーへ通う頻度が高いのは70代以上となっている。地区別でみると、首里地区は国際通り、マチグー共に行く頻度が低くなっている。

国際通り							選択項目 回答者属性 (n=合計)	マチグー						
無回答	い全く行かない	年1回	月1回	週1回	週3回	ほぼ毎日		ほぼ毎日	週3回	週1回	月1回	年1回	い全く行かない	無回答
7	20	60	98	43	9	14	バス (n= 251)	9	9	43	77	77	31	5
3	16	22	9	4	5	1	タクシー (n= 60)	3	3	4	8	22	17	3
10	122	282	213	56	12	12	自家用車 (n= 707)	10	8	44	141	314	177	13
2	23	33	46	14	4	4	オートバイ (n= 126)	6	3	13	27	38	39	0
1	5	6	10	4	3	1	自転車 (n= 30)	1	2	8	5	8	5	1
1	14	23	29	9	5	4	徒歩 (n= 85)	5	1	11	25	23	18	2
0	7	18	29	13	5	3	モノレール (n= 75)	1	3	6	21	30	14	0

【国際通り】



【マチグー】



■ ほぼ毎日～週1～2回 ■ 月1～2回～全く行かない

中心市街地商店街へ通う頻度を、「ほぼ毎日～週 1～2 回」の頻繁に通う市民と、「月 1～2 回～全く行かない」の殆ど行かない市民に分け、今回調査項目である「質問 47.市民の主な交通手段」とクロス集計を行った。

モノレール、自転車、バスを主な交通手段とする市民ほど国際通りに行く頻度は高くなっている。マチグーにおいては、自転車、バス、徒歩の順となっている。

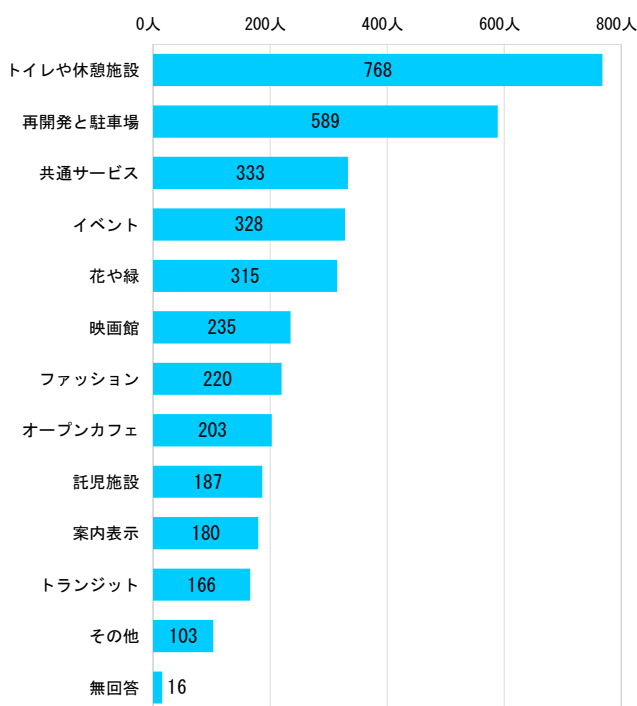
国際通りにおいては、モノレールやバスの公共交通機関利用者、マチグーにおいては、自転車利用者を見据えた活性化のあり方も検討する必要があると思われる。

質問 18. 国際通りやマチグー等、中心市街地商店街を魅力あるものにするには、どのような方策が必要だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。

1. 花や緑を増やす
2. 案内表示板等を充実させる
3. 定期的にイベント等を開く
4. トランジットモールを続ける
5. 気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす
6. 歩道や広場等でオープンカフェや屋台市を定期的開催する
7. 新たな再開発を行うとともに、駐車場を整備する
8. 託児施設や子どもを自由に遊ばせられる場所を整備する
9. ファッション専門店やお洒落なカフェ等を誘致する
10. 映画館等アミューズメント施設を誘致する
11. 利用客へ共通サービス（駐車場割引券、ポイントカード等）を実施する
12. その他（ ）

市民にとって国際通りやマチグーを魅力あるものにするために必要な方策は「気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす」や「新たな再開発を行うとともに、駐車場を整備する」。

順位	選択項目	回答数
1位	気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす	768
2位	新たな再開発を行うとともに駐車場を整備する	589
3位	利用客へ共通サービス（駐車場割引券、ポイントカード等）を実施する	333
4位	定期的にイベント等を開く	328
5位	花や緑を増やす	315
6位	映画館等アミューズメント施設を誘致する	235
7位	ファッション専門店やお洒落なカフェ等を誘致する	220
8位	歩道や広場等でオープンカフェや屋台市を定期的開催する	203
9位	託児施設や子どもを自由に遊ばせられる場所を整備する	187
10位	案内表示板等を充実させる	180
11位	トランジットモールを続ける	166
-	その他	103
-	無回答	16
合 計		3,643



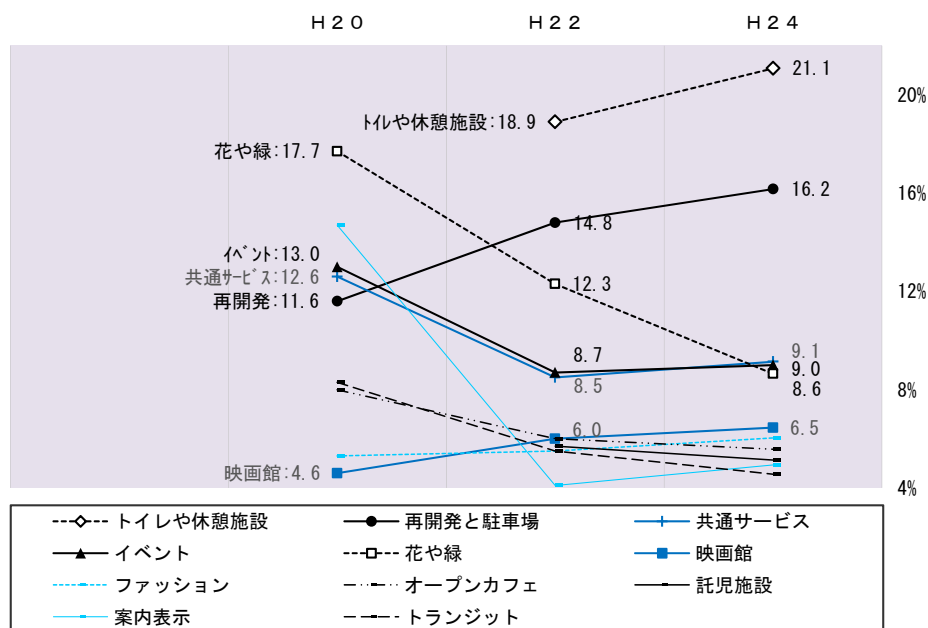
当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

最も多かった回答が「気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす」の768人、次いで「新たな再開発を行うとともに、駐車場を整備する」の589人となっている。

選択肢「その他」の主な内容

女性-20代-本庁	観光客向けのお店が多いので、地元の人でも楽しめるような施設を増やしてほしい。
女性-40代-本庁	市場は食料品の買い出しで利用しますが、国際通りは観光客相手の店ばかりで地元の人々にとっては魅力がないと思います。
女性-40代-本庁	マチグーも今は、観光客向けになって値段も高い。地元の買い物客を大事にしたほうが良い。
男性-50代-本庁	国際通りや市場の呼び込みの規制。
男性-50代-本庁	特に市場内は、商品を歩道まで出しすぎで危険。同じような商品を取り扱っている店舗が多いので規制すべき。
女性-40代-本庁	国際通り、マチグーの持つ本来の魅力を活かすべき。新しい魅力を作るよりも、清掃美化、建物修繕（特にマチグー）等、沖縄の歴史から生まれた良さを理解するべきだと思う。
女性-20代-本庁	沖縄っぽさを前面に出すような専門店街になってほしい。
男性-20代-本庁	地元の人達が集まるようなまちの作り方をする。
男性-60代-本庁	スポット的にオープンカフェ等のイベントを行い、かつ市民が休憩出来る広場を整備することで、人が集まりやがて民間事業者で開発も進み活性化していくのでは。
女性-50代-本庁	那覇市が許可書を出すような形で、離島フェアみたいな、昔の露天商みたいなイベントを行うと毎週楽しみで行きます。
女性-50代-本庁	センスのある魅力的な商品・店舗を出す事が出来る若者に借りやすい条件を整えてあげる。
女性-30代-本庁	無料パーキング。駐車料金を払ってまで行く気にはなれない。
男性-50代-本庁	モノレールの路線を増やし、居住地からモノレールで行けるようにする。
男性-50代-本庁	バス、タクシー、営業・配達車のみの通行にする。レンタカーは通行させない様にする。
男性-50代-本庁	国際通りをバス以外通行禁止にする。
女性-30代-本庁	マチグーへのバス路線等の導入。
女性-30代-本庁	トランジットモールの廃止。
女性-70代-本庁	トランジットモール時の、自転車等の規制。
男性-60代-本庁	喫煙所の設置。
男性-50代-本庁	ゴミ、チリの無い清潔なまちづくり。
男性-70代-本庁	国際通りにアーケードを作り歩行者用商店街にする。安心して買い物が出来ると毎日散歩しながら行ける。
男性-30代-本庁	どのような店か、分かりやすい全体の地図・案内の設置。
男性-30代-本庁	wifiを導入しその地域に居ればネットし放題にする。外国人にも配慮する。
男性-30代-本庁	小さな緑地を増やし、強い陽差しを防ぐ公園や日陰の設置。
女性-30代-真和志	夜飲みに行くときだけ国際通りを利用。那覇市民が利用したいまちにしてほしい。
男性-30代-真和志	マチグーは、若者が時間をかけて行くメリットがない。
男性-60代-真和志	国際通りは地元の客はいかない。そうであれば、徹底的に観光化した方が得策と思う。
男性-50代-真和志	オリオン通りを「那覇中華街」にすると良いと思う。
男性-50代-真和志	駐車場の整備。有料駐車場料金の見直し
男性-20代-真和志	国際通りとマチグー周辺の車道を片道5車線にし、歩道橋を増設する。
男性-50代-真和志	自転車を自由に借りたり、返したり出来るようにする。
女性-30代-真和志	トランジットモールでは国際通りを移動する手段が限られて不便なので、以前のように車もバスも通れるようにしてほしいです。
男性-50代-真和志	トランジットモールの平日実施。
女性-30代-真和志	交通安全。
男性-30代-真和志	子供達が安全に遊べる公園の設置や「行きたい！」と興味を示してくれば行く機会が増える。
女性-70代-真和志	年配向けのイベントを増やす。
女性-40代-小禄	地元の人が足を運びやすい生活に密着した施設、スポーツ施設とか。
女性-40代-小禄	観光客と地元人のどちらも満足出来るお店やイベント等が必要だと思います。
女性-50代-小禄	車椅子や体に障がいがある人でも行きやすい場所。
男性-50代-小禄	マチグー等の店の商品等の魅力あるチラシ等。
男性-40代-小禄	ゴミ箱が足りない。
男性-60代-小禄	現状で良いと思う。
男性-30代-首里	ターゲット、年齢層を絞り目的を定め、その人達のニーズに合うまちづくりをしてほしい。
女性-60代-首里	リピーターを呼べる店が見つからない。
女性-40代-首里	今の国際通りは、観光土産品店だらけになってしまった感じがします。30年程前までは、魅力的なファッション専門店や、コーヒーの美味しいカフェもあって楽しい場所でした。
女性-60代-首里	バス停留所のベンチの設置。
男性-50代-首里	歩道を広くする（国際通りを一通化等で実現）。
男性-60代-首里	トランジットモールでイベントをやる等人が集まるようにする。NPOや団体を活用する。

経年変化グラフ（平成 20 年度～平成 24 年度）



グラフの見やすさを優先するために、上位 6 つのみ数値を掲載する。

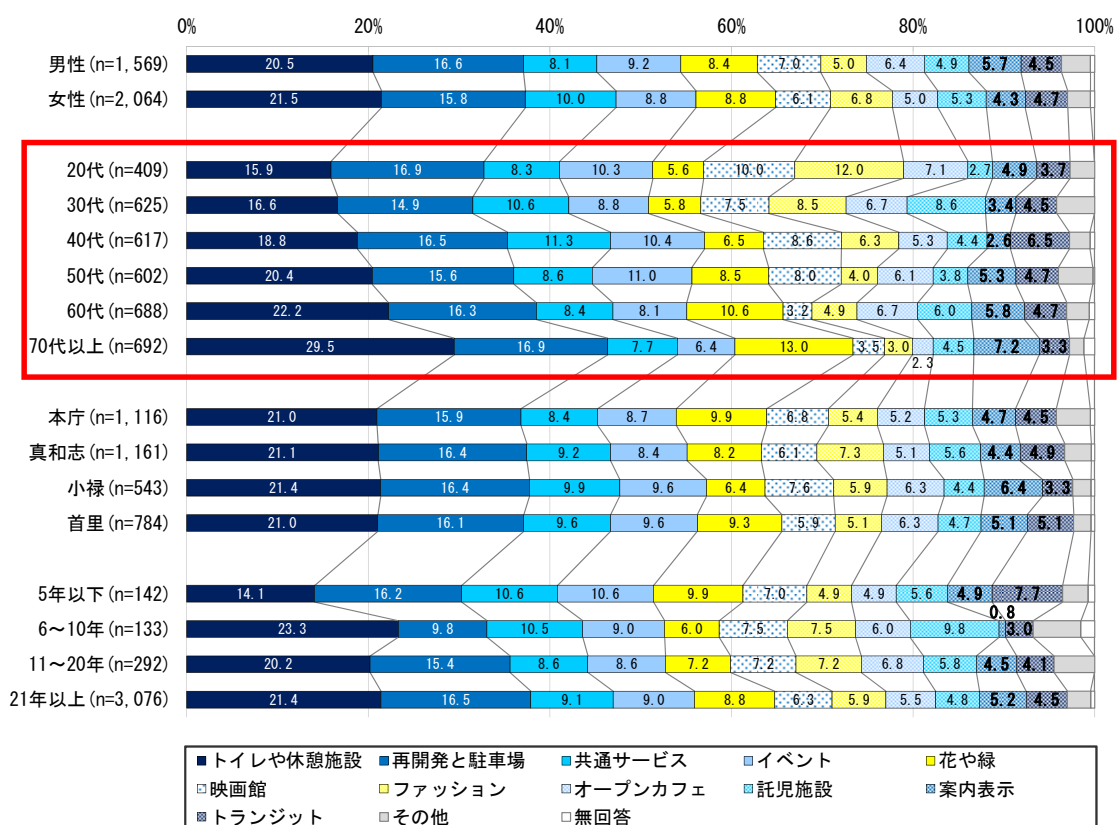
12 個の選択肢中、大幅に割合の高い「気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす」は 2.2 ポイント、「新たな再開発を行うとともに、駐車場を整備する」は 1.4 ポイント増加しており、魅力ある中心市街地商店街に対する市民の要望が高く、年々増え続けている。

H20、H22 と比較的割合の高かった「花や緑を増やす」は前回調査より 3.7 ポイント減少し、H20 からみると、9.1 ポイントと大幅に減少している。

その他、「定期的にイベント等を開く」や「映画館等アミューズメント施設を誘致する」が増加しており、市民が楽しめる催しや、施設を誘致することで、市街地商店街へ通う頻度も高くなるのではないかとと思われる。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

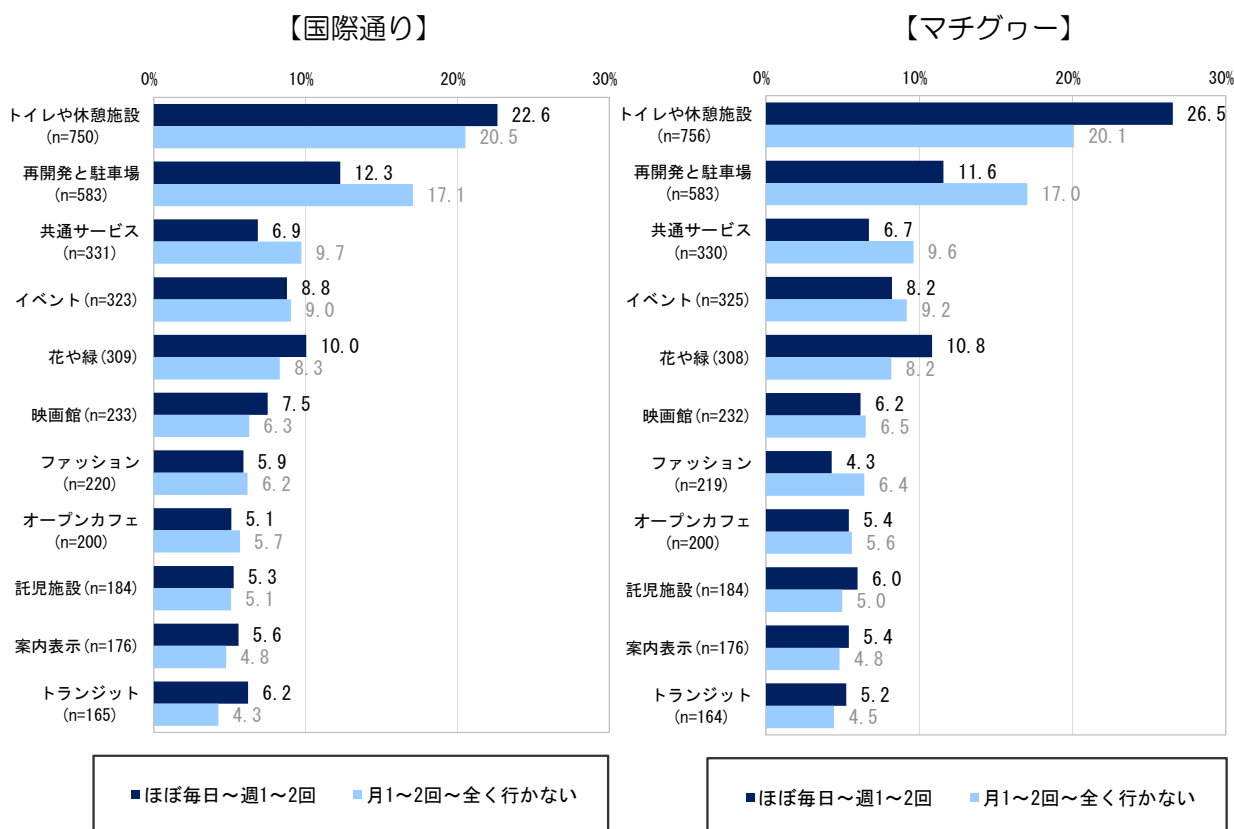
回答者属性 (n=合計)	1位 トイレ 施設 や休	2位 車 場 再 開 発 と 駐	3位 ス 共 通 サ ー ビ	4位 イ バ ン ト	5位 花 や 緑	6位 映 画 館	7位 ン フ ア ッ シ ョ	8位 フ オ ー プ ン カ	9位 託 児 施 設	10位 案 内 表 示	11位 ト ラ ン ジ ツ	- そ の 他	- 無 回 答
男性 (n= 1,569)	322	260	127	145	132	110	79	100	77	90	70	50	7
女性 (n= 2,064)	443	327	206	182	181	125	141	103	110	89	96	52	9
20代 (n= 409)	65	69	34	42	23	41	49	29	11	20	15	11	0
30代 (n= 625)	104	93	66	55	36	47	53	42	54	21	28	26	0
40代 (n= 617)	116	102	70	64	40	53	39	33	27	16	40	14	3
50代 (n= 602)	123	94	52	66	51	48	24	37	23	32	28	23	1
60代 (n= 688)	153	112	58	56	73	22	34	46	41	40	32	17	4
70代以上 (n= 692)	204	117	53	44	90	24	21	16	31	50	23	11	8
本庁 (n= 1,116)	234	177	94	97	111	76	60	58	59	53	50	42	5
真和志 (n= 1,161)	245	190	107	98	95	71	85	59	65	51	57	34	4
小禄 (n= 543)	116	89	54	52	35	41	32	34	24	35	18	11	2
首里 (n= 784)	165	126	75	75	73	46	40	49	37	40	40	15	3
5年以下 (n= 142)	20	23	15	15	14	10	7	7	8	7	11	4	1
6～10年 (n= 133)	31	13	14	12	8	10	10	8	13	1	4	7	2
11～20年 (n= 292)	59	45	25	25	21	21	21	20	17	13	12	13	0
21年以上 (n= 3,076)	658	508	279	276	272	194	182	168	149	159	139	79	13



年代別でみると、70代以上は「トイレや休憩施設」「花や緑を増やす」が高く、若い世代は「映画館」や「ファッション専門店」を望む割合が高い。

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

回答者属性 (n=合計)		選択項目													
		1位 憩 施 トイ レ や 休	2位 車 場 再 開 発 と 駐	3位 ス 共 通 サ ー ビ	4位 イ ベ ン ト	5位 花 や 緑	6位 映 画 館	7位 ン フ ァ ッ シ ヨ	8位 フ ォ ー ブ ン カ	9位 託 児 施 設	10位 案 内 表 示	11位 ト ト ラン ジ ッ	- そ の 他	- 無 回 答	
国際通り	合 計	750	583	331	323	309	233	220	200	184	176	165	103	12	
	ほぼ毎日～週1～2回 (n= 627)	142	77	43	55	63	47	37	32	33	35	39	22	2	
	月1～2回～全く行かない (n= 2,962)	608	506	288	268	246	186	183	168	151	141	126	81	10	
マチグー	合 計	756	583	330	325	308	232	219	200	184	176	164	103	11	
	ほぼ毎日～週1～2回 (n= 535)	142	62	36	44	58	33	23	29	32	29	28	17	2	
	月1～2回～全く行かない (n= 3,056)	614	521	294	281	250	199	196	171	152	147	136	86	9	



中心市街地商店街を魅力あるものにするための方策について、「質問 17.国際通り、マチグーに行く回数」で、頻繁に通う市民と殆ど行かない市民に分けクロス集計を行った。

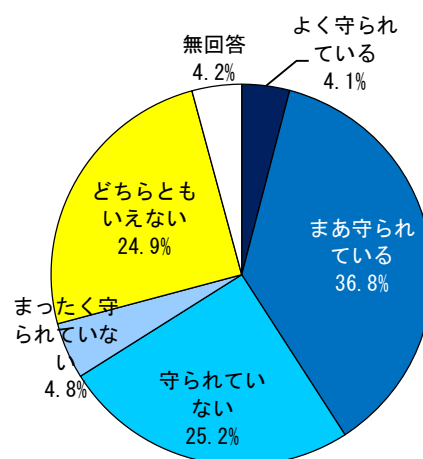
国際通りやマチグーへ頻繁に通う市民は「トイレや休憩施設」「花や緑」「トランジットモール」等を望んでおり、殆ど行かない市民は「再開発と駐車場」「共通サービス」「ファッション専門店」等を望んでいる。

質問 19. 喫煙マナー向上のため、路上喫煙防止条例が制定され、国際通りや沖映通り等が「路上喫煙禁止地区」として喫煙が規制されていますが、路上における喫煙マナーは守られていると思いますか。

1. よく守られている 2. まあ守られている 3. 守られていない
4. まったく守られていない 5. どちらともいえない

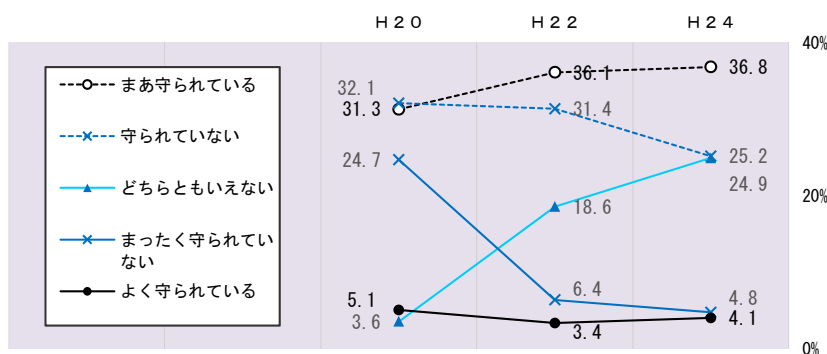
路上における喫煙マナーが守られていると感じている市民は 40.9%、守られていないと感じている市民は 30%。

選択項目	回答数
よく守られている	55
まあ守られている	499
守られていない	341
まったく守られていない	65
どちらともいえない	338
無回答	57
合 計	1,355



路上における喫煙マナーについては 4 割の市民が「よく・まあ守られている」と感じている。「まったく・守られていない」と感じている市民は 3 割となっており、路上喫煙防止条例は守られていると感じている市民の割合が多い。

経年変化グラフ（平成20年度～平成24年度）

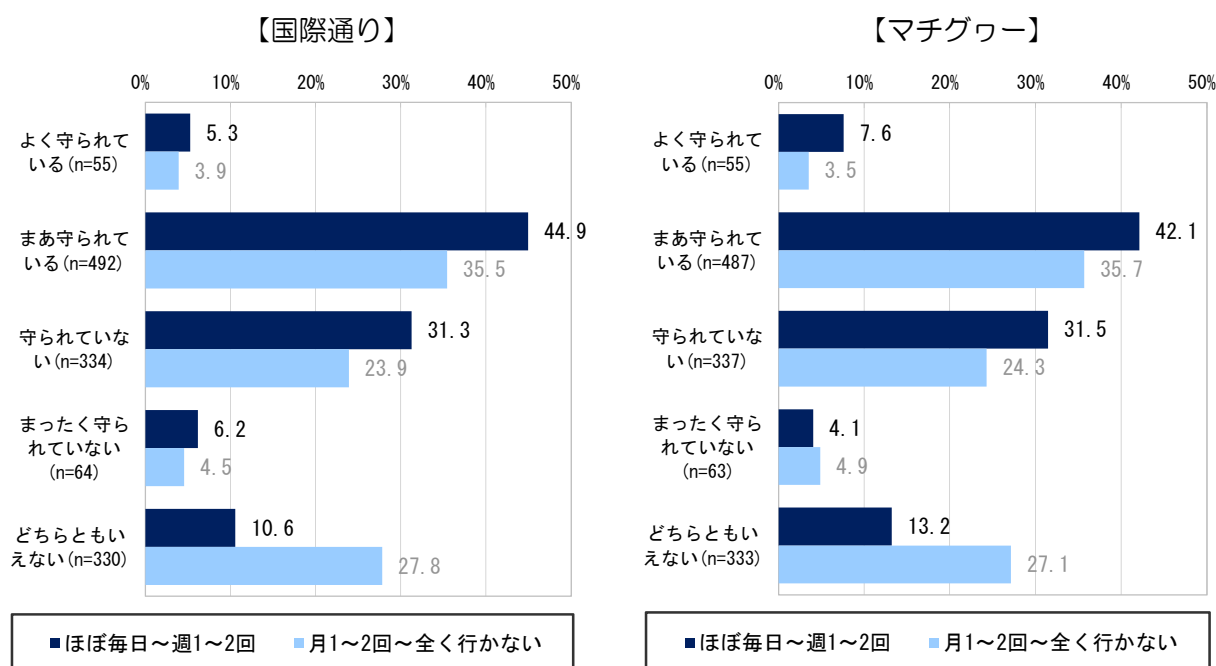


H20 の調査以降、「まあ守られている」は増加しており、「よく守られている」も前回調査より 0.7 ポイント増加している。「まったく守られていない」「守られていない」共に減少しており、年々条例の浸透は進んでいると思われる。

しかしながら、「どちらともいえない」と回答した中には国際通りや沖映通り等に殆ど行かない市民も含まれていると思われ、中心市街地商店街へ通う市民が増えるとともに市民の意識や評価に変動がある可能性もあり、今後の動向を見守る必要がある。

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

回答者属性 (n=合計)		選択項目	よく守られている	まあ守られている	守られていない	まったく守られていない	どちらともいえない	無回答
国際通り	合 計		55	492	334	64	330	52
	ほぼ毎日～週1～2回 (n= 227)		12	102	71	14	24	4
	月1～2回～全く行かない (n= 1,100)		43	390	263	50	306	48
マチグー	合 計		55	487	337	63	333	54
	ほぼ毎日～週1～2回 (n= 197)		15	83	62	8	26	3
	月1～2回～全く行かない (n= 1,132)		40	404	275	55	307	51



今回は路上喫煙禁止地区が国際通りや沖映通り等であることから「質問 17.国際通り、マチグーに行く回数」で、頻繁に通う市民と殆ど行かない市民に分けクロス集計を行った。

中心市街地商店街へ頻繁に通う市民と、殆ど行かない市民との間で、最も回答に差がついたのは「どちらともいえない」で、国際通り等へ殆ど通わない市民は、路上喫煙についての返答は難しいと考えられる。

今後多くの市民の目で条例の効果を判断し、意見を出してもらうことで、より快適な市街地商店街へとになっていくものと考えられる。

そのためにも市街地商店街を、市民にとって魅力あるまちにしていける努力が必要である。

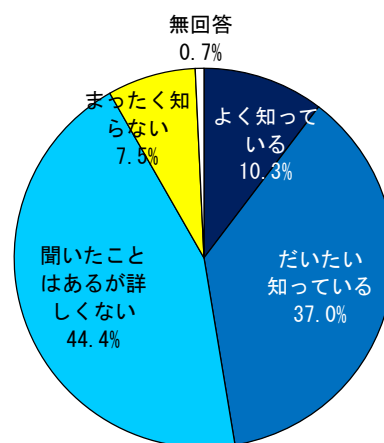
(7) 福祉について

質問 20. あなたは、「発達障がい」について、ご存知ですか。

1. よく知っている 2. だいたい知っている 3. 聞いたことはあるが詳しくない
4. まったく知らない

発達障がいについて少しでも知っている市民は91.7%、まったく知らない市民は7.5%。

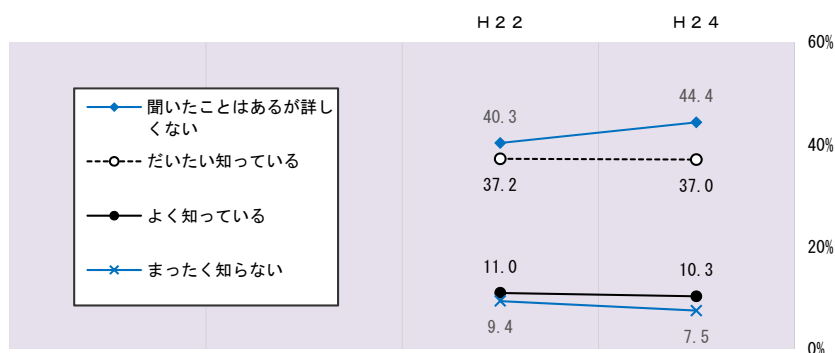
選択項目	回答数
よく知っている	140
だいたい知っている	502
聞いたことはあるが詳しくない	601
まったく知らない	102
無回答	10
合 計	1,355



発達障がいについて「よく・だいたい知っている」と回答した市民の割合は47.3%となっており、「聞いたことはあるが詳しくない」と回答した市民は44.4%となっている。

約9割の市民が発達障がいについて、なんらかの知識や、理解を持っていることが伺える。

経年変化グラフ（平成22年度～平成24年度）

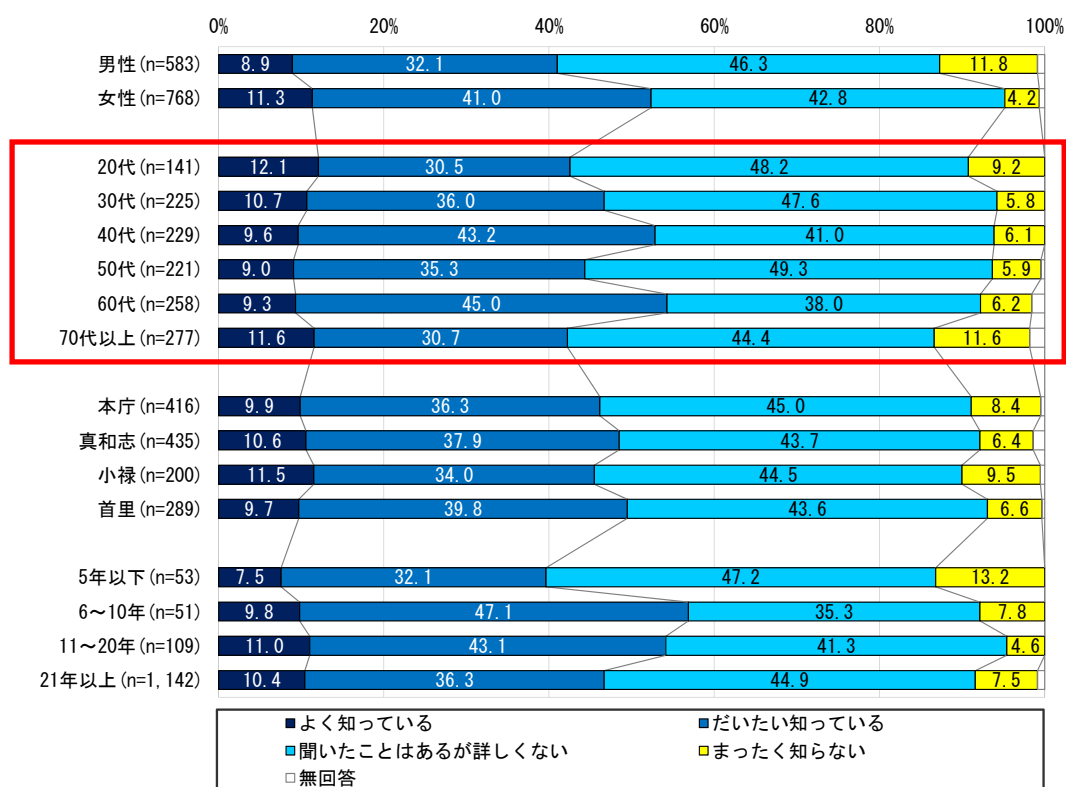


今回調査では、「よく知っている」が0.7ポイント、「だいたい知っている」が0.2ポイント減少しているが、「聞いたことはあるが詳しくない」が4.1ポイント増加していることから、専門的知識とまではいかなくとも、発達障がいに関する情報は着実に浸透しているものと考えられる。

今後市民への周知、広報を推進していくことで、理解と関心が広まり、障がい者が住みよいまちがつくられていくものと思われる。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	選択項目	よく知っている	だいたい知っている	聞いたことはあるが詳しくない	まったく知らない	無回答
男性 (n= 583)		52	187	270	69	5
女性 (n= 768)		87	315	329	32	5
20代 (n= 141)		17	43	68	13	0
30代 (n= 225)		24	81	107	13	0
40代 (n= 229)		22	99	94	14	0
50代 (n= 221)		20	78	109	13	1
60代 (n= 258)		24	116	98	16	4
70代以上 (n= 277)		32	85	123	32	5
本庁 (n= 416)		41	151	187	35	2
真和志 (n= 435)		46	165	190	28	6
小禄 (n= 200)		23	68	89	19	1
首里 (n= 289)		28	115	126	19	1
5年以下 (n= 53)		4	17	25	7	0
6～10年 (n= 51)		5	24	18	4	0
11～20年 (n= 109)		12	47	45	5	0
21年以上 (n= 1,142)		119	414	513	86	10



「まったく知らない」と回答した割合は、性別では男性、年代別では20代と70代以上が高く、子育てに対する関心の度合いも影響しているものと思われる。

居住年数別でみると、5年以下の転居してきた市民の理解度が低くなっている。

質問 21. 災害が起こり避難する時、高齢や障がいのため、近所の人による手助けが必要な方の個人情報の取扱について、どのように考えますか。次の中から1つお選びください。

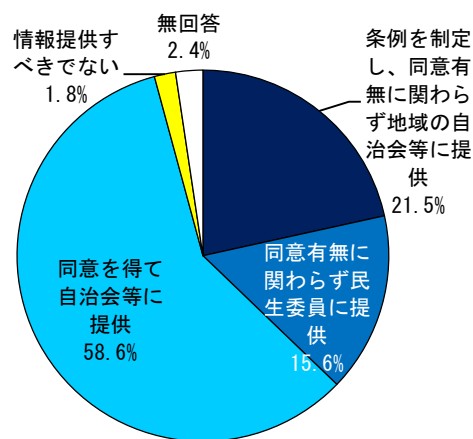
1. 条例を制定した上で、本人の同意の有無に関わらず、地域の自治会等に提供すべきである
2. 本人の同意の有無に関わらず、守秘義務のある民生委員に限り提供すべきである
3. 本人の同意を得て、地域の自治会等に提供すべきである
4. 災害に備えて、事前に情報提供の事は一切すべきでない

災害時に手助けが必要な方の個人情報は、「同意有無に関らず自治会や民生委員等に提供すべき」は37.1%、「同意を得て提供すべき」は58.6%、「提供すべきではない」が1.8%。

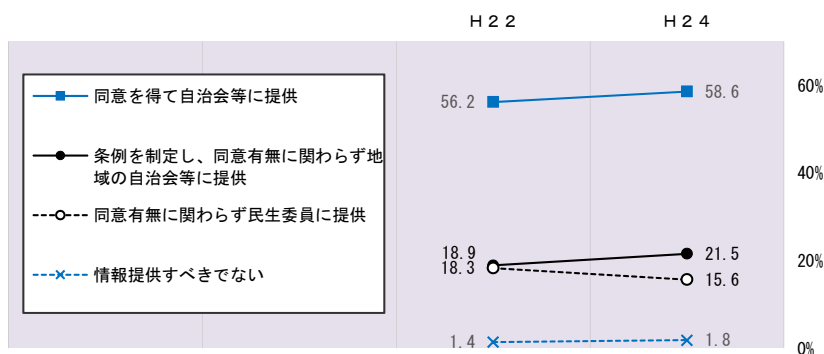
選択項目	回答数
条例を制定した上で、本人の同意の有無に関わらず、地域の自治会等に提供すべきである	292
本人の同意の有無に関わらず、守秘義務のある民生委員に限り提供すべきである	212
本人の同意を得て、地域の自治会等に提供すべきである	794
災害に備えて、事前に情報提供の事は一切すべきでない	25
無回答	32
合 計	1,355

選択肢「その他」の主な内容

- 真和志-40代-男性 高齢者や障がい者個人に対応するべき。
 本庁-50代-女性 親族の同意を得るべき。
 本庁-50代-女性 高齢、障がい者に家族がいる場合は、同意は本人でなくてもいいのでは？



経年変化グラフ（平成22年度～平成24年度）



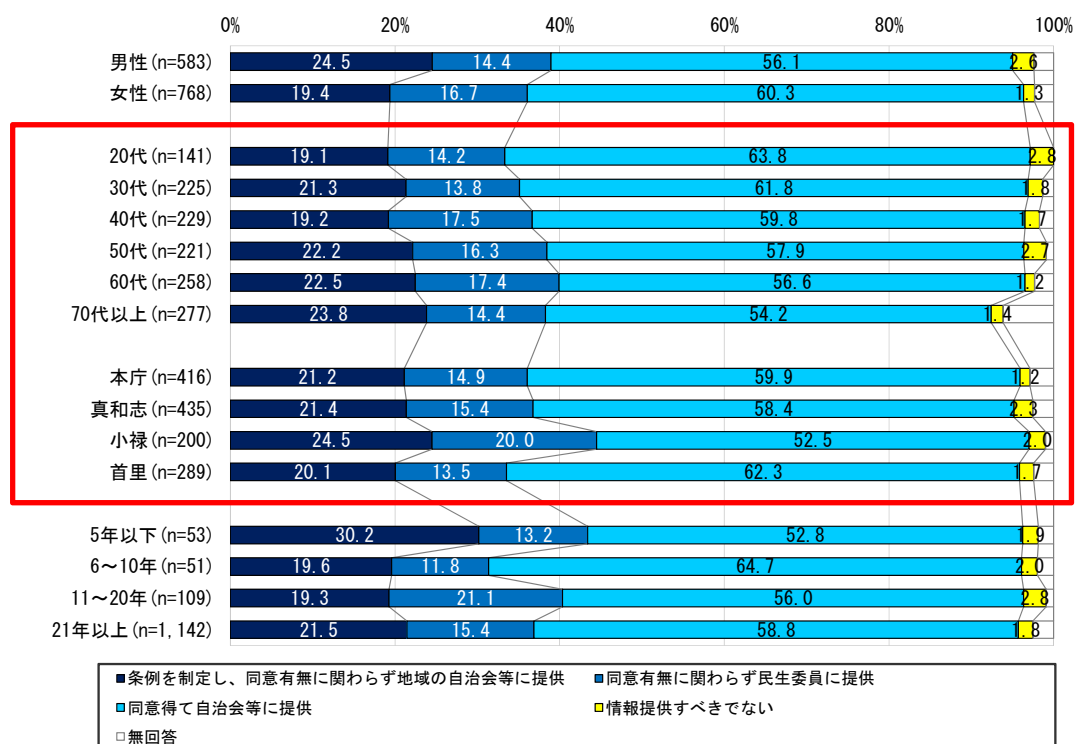
災害時に手助けが必要な方の個人情報について大きく分けると「同意有無に関わらず提供」が37.1%、「同意を得て提供」が58.6%、「提供すべきでない」が1.8%となった。

「同意を得て提供」や「提供すべきでない」は前回調査より増加しており、人命を優先させつつ、個人のプライバシーを尊重するためにも、高齢・障がい者やその家族への周知、説明を迅速に行い、地域の理解と連携を深める事が重要となってくる。

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

選択項目 回答者属性（n=合計）	供治す無し条 会地に、例 等域関同を にのわ意制 提自ら有定	供生関同 委わ意 員ら有 にす無 提民に	供治同 会意 等得 にて 提自	ベ情 き報 で提 ない す	無 回 答
男性 (n= 583)	143	84	327	15	14
女性 (n= 768)	149	128	463	10	18
20代 (n= 141)	27	20	90	4	0
30代 (n= 225)	48	31	139	4	3
40代 (n= 229)	44	40	137	4	4
50代 (n= 221)	49	36	128	6	2
60代 (n= 258)	58	45	146	3	6
70代以上 (n= 277)	66	40	150	4	17
本庁 (n= 416)	88	62	249	5	12
真和志 (n= 435)	93	67	254	10	11
小禄 (n= 200)	49	40	105	4	2
首里 (n= 289)	58	39	180	5	7
5年以下 (n= 53)	16	7	28	1	1
6～10年 (n= 51)	10	6	33	1	1
11～20年 (n= 109)	21	23	61	3	1
21年以上 (n= 1,142)	245	176	672	20	29



年代が高くなるに従って「同意有無に関わらず提供」と回答した市民の割合が高く、若い世代は「同意を得て提供」と回答した割合が比較的高くなっている。

居住地区別でみると、小禄地区は「同意有無に関わらず提供」と回答した割合が高く、「同意を得て提供」と回答した割合が高いのが首里地区となっている。

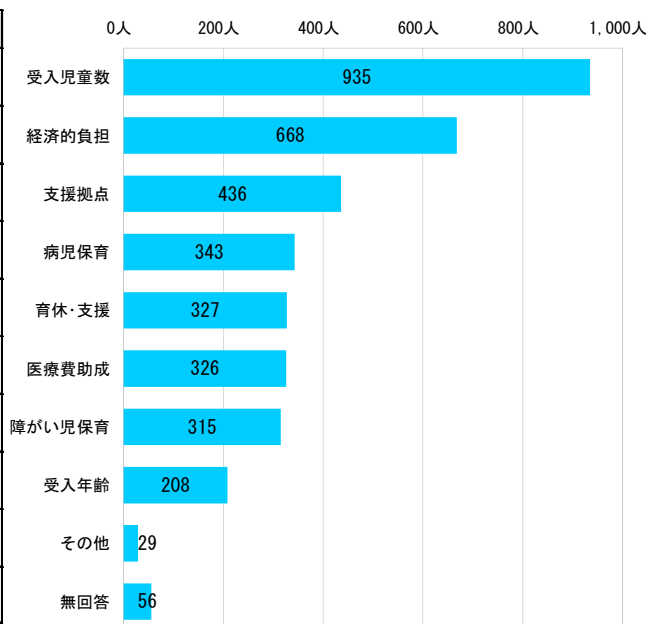
(8) 子育て支援等について

質問 22. 小学校就学前までの子育て支援策について、優先的に取り組んでほしい施策を、次の中から3つまでお選び下さい。

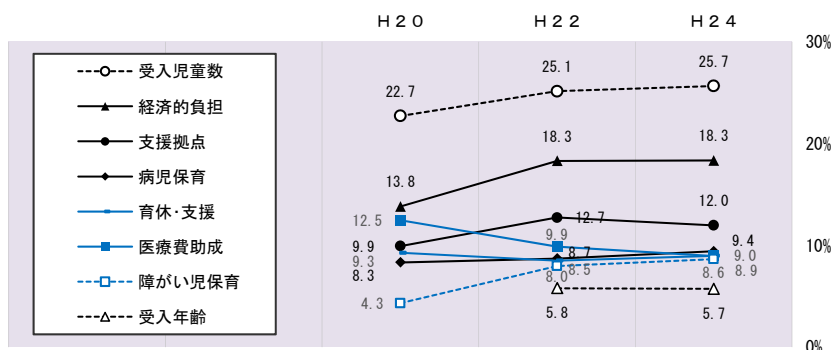
1. 公立保育所や認可保育所の受入児童数の拡大
2. 公立幼稚園での受入年齢などの拡充
3. 子育てについて相談や情報交換ができる地域子育て支援拠点の拡充
4. 病中・病後保育（病児保育）の拡充
5. 障がい児保育の拡充
6. 育児休業制度や育児支援事業の啓発
7. 保育、教育に関する経済的負担の軽減
8. 乳幼児医療費助成制度の拡充（対象年齢の引き上げ等）
9. その他

小学校就学前の子育て支援について、市民が一番取り組んでほしい施策は「公立・認可保育所の受入児童数の拡大」の25.7%。

順位	選択項目	回答数
1位	公立保育所や認可保育所の受入児童数の拡大	935
2位	保育、教育に関する経済的負担の軽減	668
3位	子育てについて相談や情報交換ができる地域子育て支援拠点の拡充	436
4位	病中・病後保育（病児保育）の拡充	343
5位	育児休業制度や育児支援事業の啓発	327
6位	乳幼児医療費助成制度の拡充（対象年齢の引き上げ等）	326
7位	障がい児保育の拡充	315
8位	公立幼稚園での受入年齢などの拡充	208
-	その他	29
-	無回答	56
合 計		3,643



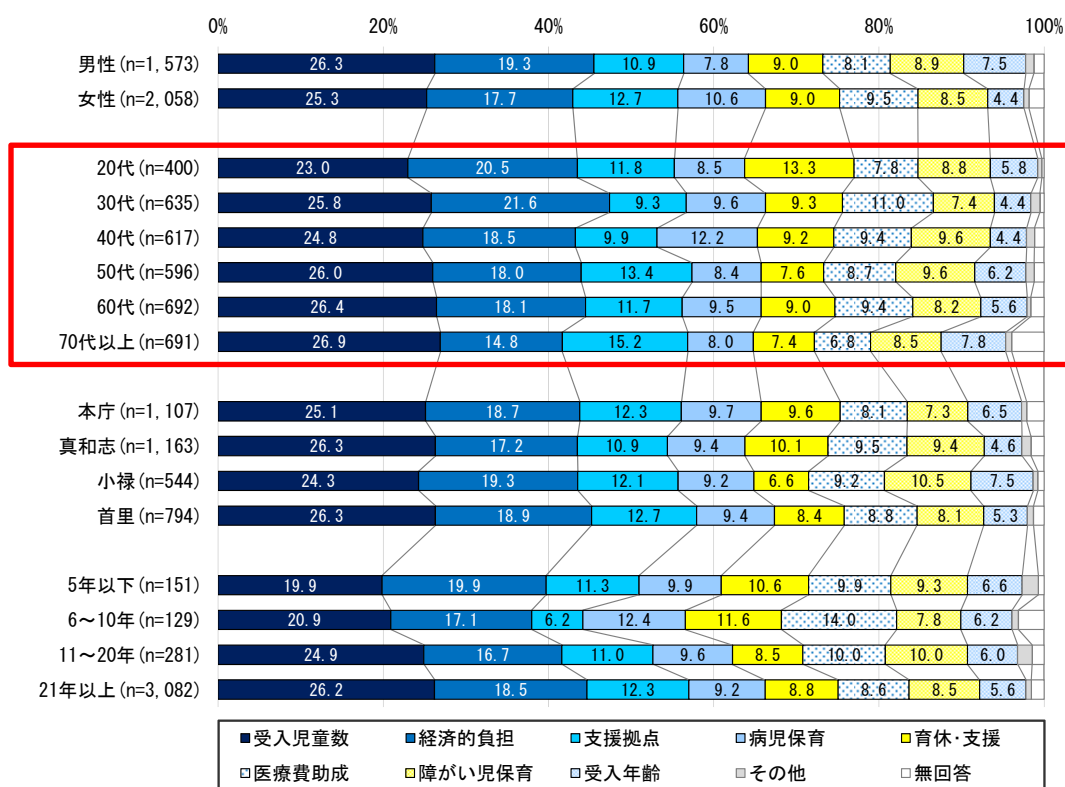
経年変化グラフ（平成 20 年度～平成 24 年度）



H20 の調査以降、上位 2 つの選択肢は変わらず、割合も増加傾向にあり、「受入児童数の拡大」と「経済的負担の軽減」に対する市民の要望は、高いことが伺える。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	1位 受入児童数	2位 経済的負担	3位 支援拠点	4位 病児保育	5位 育休・支援	6位 医療費助成	7位 育障がい児保	8位 受入年齢	- その他	- 無回答
男性 (n= 1,573)	413	303	171	123	142	128	140	118	16	19
女性 (n= 2,058)	520	364	262	218	185	195	174	90	13	37
20代 (n= 400)	92	82	47	34	53	31	35	23	2	1
30代 (n= 635)	164	137	59	61	59	70	47	28	7	3
40代 (n= 617)	153	114	61	75	57	58	59	27	6	7
50代 (n= 596)	155	107	80	50	45	52	57	37	6	7
60代 (n= 692)	183	125	81	66	62	65	57	39	3	11
70代以上 (n= 691)	186	102	105	55	51	47	59	54	5	27
本庁 (n= 1,107)	278	207	136	107	106	90	81	72	7	23
真和志 (n= 1,163)	306	200	127	109	117	111	109	53	13	18
小祿 (n= 544)	132	105	66	50	36	50	57	41	3	4
首里 (n= 794)	209	150	101	75	67	70	64	42	6	10
5年以下 (n= 151)	30	30	17	15	16	15	14	10	3	1
6～10年 (n= 129)	27	22	8	16	15	18	10	8	1	4
11～20年 (n= 281)	70	47	31	27	24	28	28	17	5	4
21年以上 (n= 3,082)	808	569	380	285	272	265	263	173	20	47



年代別で見ると、20代は「育児休業制度や育児支援事業の啓発」と回答している割合が比較的高く、「受け入れ児童数」や「経済的負担」はもちろん、これから子育てをしていく世代の不安を解消していくことも重要と考えられる。

(9) 環境について

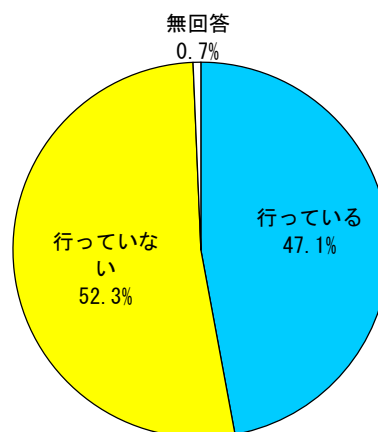
質問 23. 那覇市では、「緑のカーテン」事業を推進していますが、あなたのご家庭では壁面・屋上・ベランダ緑化など、できる範囲で緑化の取り組みを行っていますか。

1. 行っている

2. 行っていない

壁面・屋上・ベランダ緑化等を行っている市民は 47.1%。

選択項目	回答数
行っている	638
行っていない	708
無回答	9
合 計	1,355



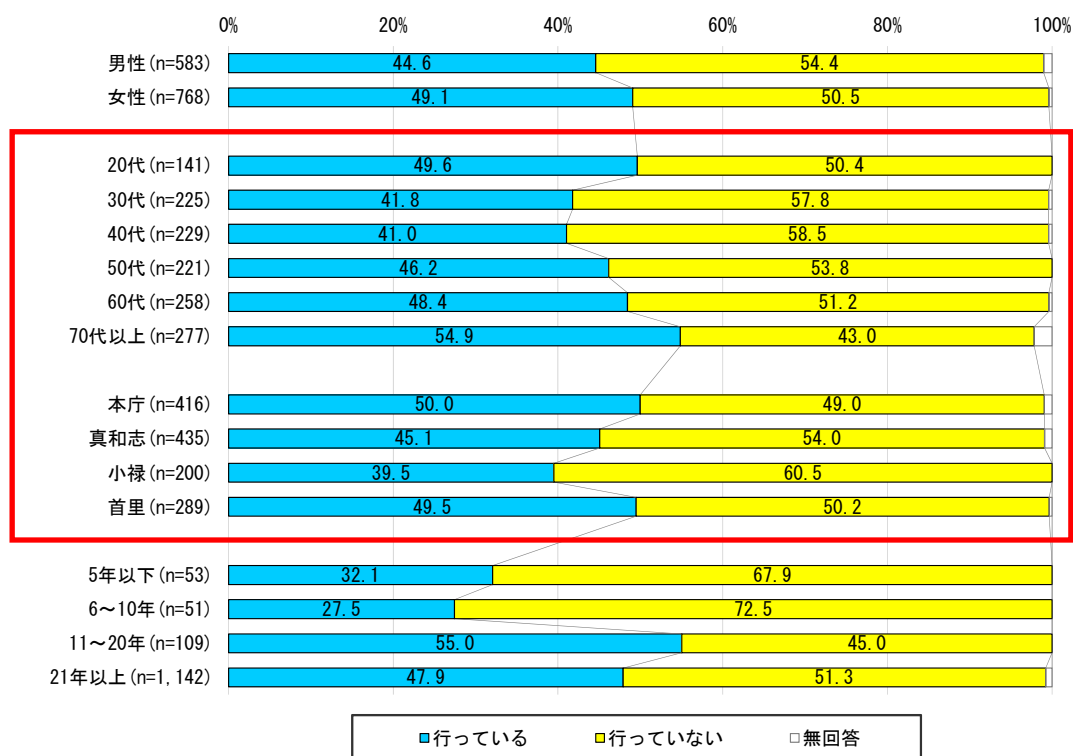
家庭で壁面・屋上・ベランダ緑化の取り組みを「行っている」と回答した市民は 47.1%、「行っていない」と回答した市民は 52.3%となっている。

約半数の市民は緑化の取り組みを行っており、今後、緑のカーテン事業を推進していくことで、さらなる広がりが期待できる。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	選択項目	行っている	行っていない	無回答
男性 (n= 583)		260	317	6
女性 (n= 768)		377	388	3
20代 (n= 141)		70	71	0
30代 (n= 225)		94	130	1
40代 (n= 229)		94	134	1
50代 (n= 221)		102	119	0
60代 (n= 258)		125	132	1
70代以上 (n= 277)		152	119	6
本庁 (n= 416)		208	204	4
真和志 (n= 435)		196	235	4
小禄 (n= 200)		79	121	0
首里 (n= 289)		143	145	1
5年以下 (n= 53)		17	36	0
6～10年 (n= 51)		14	37	0
11～20年 (n= 109)		60	49	0
21年以上 (n= 1,142)		547	586	9

IV. 日常生活等に関する意識調査結果



年代別でみると、20代が、壁面・屋上・ベランダ緑化などを「行っている」と回答した割合が比較的高くなっており、緑化の取り組みが若い世代にも浸透しているものと思われる。

20代以外では、概ね年代が高くなるに従って、緑化の取り組みを行っている市民の割合が高くなっている。

居住地区別でみると、壁面・屋上・ベランダ緑化などを「行っている」と回答した割合が高いのが、本庁地区、首里地区となっており、最も低かったのが小禄地区となっている。

今後、緑化への取り組みが弱い地域への対応も必要と考えられる。

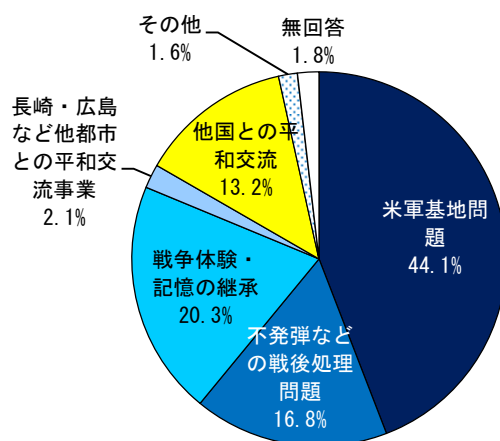
(10) 平和行政・男女共同参画について

質問 24. 平和行政について、重点的に取り組むべきだと思うものを1つお選びください。

- | | |
|---------------|-----------------------|
| 1. 米軍基地問題 | 2. 不発弾などの戦後処理問題 |
| 3. 戦争体験・記憶の継承 | 4. 長崎・広島など他都市との平和交流事業 |
| 5. 他国との平和交流 | 6. その他 () |

市民が、平和行政について重点的に取り組むべきだと思うのは「米軍基地問題」の44.1%。

選択項目	回答数
米軍基地問題	598
不発弾などの戦後処理問題	228
戦争体験・記憶の継承	275
長崎・広島など他都市との平和交流事業	28
他国との平和交流	179
その他	22
無回答	25
合 計	1,355

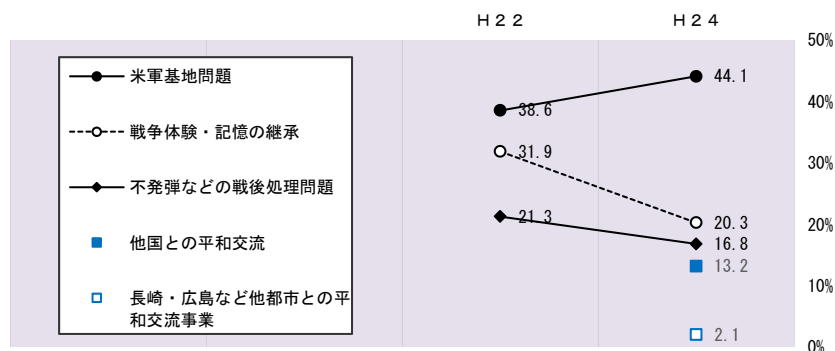


選択肢「その他」の主な内容

- | | |
|------------|------------------------------------|
| 男性-30代-真和志 | 自衛隊との共存・協力。 |
| 男性-60代-本庁 | 防衛力強化。 |
| 男性-50代-本庁 | 公平公正な広報。 |
| 男性-60代-小禄 | 国がやるべき。 |
| 男性-60代-小禄 | 返還軍用地の現状回復。 |
| 女性-50代-真和志 | 那覇軍港の再利用。 |
| 男性-30代-本庁 | マザーテレサのような平和活動強化。 |
| 男性-50代-小禄 | 人と人との関係。つながり。 |
| 女性-50代-真和志 | 宇宙は1つ、武器は要りません。人類皆が心安らかに生きるための教育を。 |
| 小禄-70代-男性 | 他市町村、全県の問題として。 |

平和行政について重点的に取り組むべきと回答した割合が高かったのが「米軍基地問題」の44.1%、次いで「戦争体験・記憶の継承」の20.3%、「不発弾などの戦後処理問題」の16.8%となっている。

経年変化グラフ（平成 22 年度～平成 24 年度）



前回調査における「平和教育」を今回調査の「戦争体験・記憶の継承」に置き換え、今回新たに「他国との平和交流」と「他都市との平和交流」を追加した。

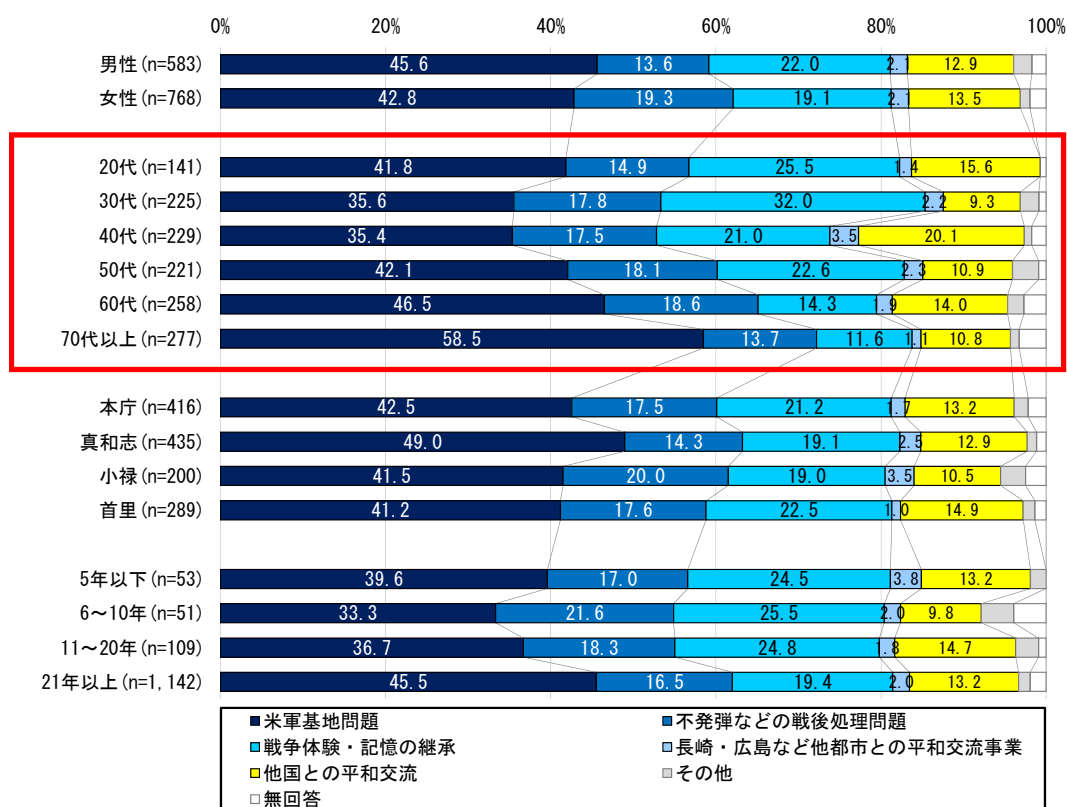
「戦争体験・記憶の継承」「不発弾処理」は前回調査と比較し、減少する結果となったが、「米軍基地問題」は前回調査と比較して 5.5 ポイント増加している。

当該調査項目は情勢やメディアによる影響も大きいと思われる、今後調査を続けていくことで、本来の市民の意思や傾向が読み取れるものと思われる。

また、他国との平和交流が高くなっている要因として、8 月～9 月にかけて韓国との「竹島問題」や、中国との「尖閣諸島問題」等が緊迫化した影響もあると考えられる。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

選択項目 回答者属性 (n=合計)	米軍 基地 問題	不 発 弾 な ど の 戦 後 処 理 問 題	戦 争 体 験 ・ 記 憶 の 継 承	長 崎 ・ 広 島 な ど 他 都 市 と の 平 和 交 流 事 業	他 国 と の 平 和 交 流	そ の 他	無 回 答
男性 (n= 583)	266	79	128	12	75	13	10
女性 (n= 768)	329	148	147	16	104	9	15
20代 (n= 141)	59	21	36	2	22	0	1
30代 (n= 225)	80	40	72	5	21	5	2
40代 (n= 229)	81	40	48	8	46	2	4
50代 (n= 221)	93	40	50	5	24	7	2
60代 (n= 258)	120	48	37	5	36	5	7
70代以上 (n= 277)	162	38	32	3	30	3	9
本庁 (n= 416)	177	73	88	7	55	7	9
真和志 (n= 435)	213	62	83	11	56	5	5
小禄 (n= 200)	83	40	38	7	21	6	5
首里 (n= 289)	119	51	65	3	43	4	4
5年以下 (n= 53)	21	9	13	2	7	1	0
6～10年 (n= 51)	17	11	13	1	5	2	2
11～20年 (n= 109)	40	20	27	2	16	3	1
21年以上 (n= 1,142)	520	188	222	23	151	16	22



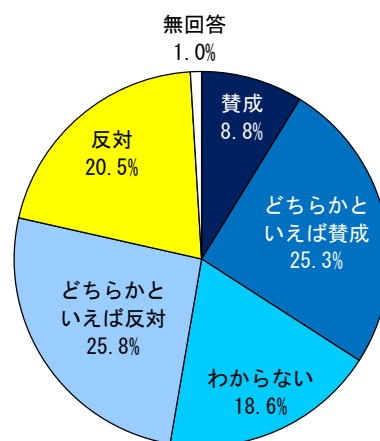
年代別でみると、「米軍基地問題」と回答した割合が高かったのが70代以上となっている。
「他国との平和交流」と回答した割合が最も高かったのが40代となっている。

質問 25. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に対する、あなたの考えを次の中から、1つお選びください。

- | | | |
|---------------|---------------|----------|
| 1. 賛成 | 2. どちらかといえば賛成 | 3. わからない |
| 4. どちらかといえば反対 | 5. 反対 | |

夫が外で働き妻は家庭を守るべきという考えに賛成の市民は 34.1%、反対の市民は 46.3%。

選択項目	回答数
賛成	119
どちらかといえば賛成	343
わからない	252
どちらかといえば反対	350
反対	278
無回答	13
合 計	1,355

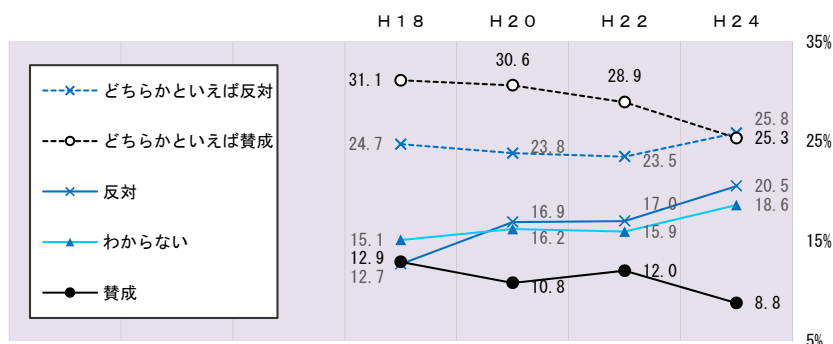


夫は外で働き妻は家庭を守るべきという考え方では、「賛成・どちらかといえば賛成」が 34.1%、「反対・どちらかといえば反対」が 46.3%となり、「反対・どちらかという」という市民が若干上回る結果となった。

今回自由意見の欄は設けていないが、書き込みをして頂いた市民の声を下記に掲載した。

- | | |
|------------|--|
| 真和志-60代-男性 | ケースバイケース。家庭状況にもよる。 |
| 首里-30代-女性 | 家庭の事情による。そのような考え方を強調されるのは難しいです。 |
| 本庁-30代-女性 | 共働じゃないと無理だと思う。 |
| 本庁-40代-女性 | それぞれの家庭で役割が出来ていけばいいことなので、賛成反対では答えられない。 |
| 本庁-50代-女性 | 理想的だが現実はどうだろうか？子育ての間は、母親として家庭を守りたいが。経済的に余裕があればの話。 |
| 首里-60代-女性 | 子供が3歳になるまでは、公的な経済支援も含め、母親はしっかりスキンシップ出来る環境を整え、その後は能力を発揮する為にも外に出るべきだと思う。 |
| 本庁-70代-女性 | それぞれで対応すべき。 |
| 首里-70代-女性 | 妻も働かないとやっていけないのでは？ |

経年変化グラフ（平成 22 年度～平成 24 年度）



経年変化でみると、H18 から H22 までは、「賛成・どちらかといえば賛成」の割合が常に上回っていたが、今回調査では「反対・どちらかといえば反対」が「賛成・どちらかといえば賛成」を 12.2 ポイント上回る結果となった。

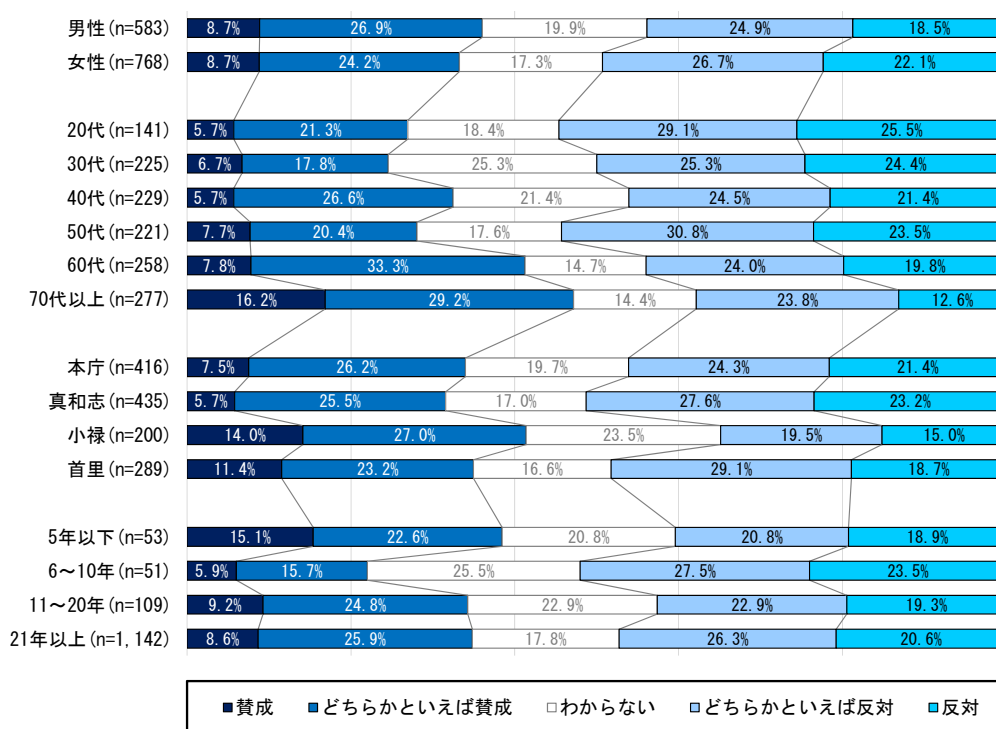
前述の自由意見にもあるように、個人の意志や各家庭のスタイル、経済事情等様々な背景から今回の結果に繋がったものと考えられる。

那覇市では、男女が共に等しく、あらゆる分野に参画できる社会の実現を目指して、第 3 次男女共同参画計画「なは男女平等推進プラン」を策定し、計画関連指標として、同質問に反対する市民意識の割合を高める目標を掲げている。

今回の調査結果においては、その計画推進が市民に対して徐々に浸透しているものと考えられる。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

選択項目 回答者属性（n=合計）	賛成	どちら えちら ばら 賛か 成と	わ か ら な い	いど えち らば 反対と	反対	無 回 答
男性（n= 583）	51	157	116	145	108	6
女性（n= 768）	67	186	133	205	170	7
20代（n= 141）	8	30	26	41	36	0
30代（n= 225）	15	40	57	57	55	1
40代（n= 229）	13	61	49	56	49	1
50代（n= 221）	17	45	39	68	52	0
60代（n= 258）	20	86	38	62	51	1
70代以上（n= 277）	45	81	40	66	35	10
本庁（n= 416）	31	109	82	101	89	4
真和志（n= 435）	25	111	74	120	101	4
小禄（n= 200）	28	54	47	39	30	2
首里（n= 289）	33	67	48	84	54	3
5年以下（n= 53）	8	12	11	11	10	1
6～10年（n= 51）	3	8	13	14	12	1
11～20年（n= 109）	10	27	25	25	21	1
21年以上（n= 1,142）	98	296	203	300	235	10



性別でみると、「賛成」は同数、「どちらかという賛成」は、男性のほうが2.6ポイント高い。
年代別では、「どちらかといえば反対」「反対」の割合は比較的若い年代が高くなっており、経済状況等時代の変化によって、若い世代の男女平等に対する意識が強まっているものと考えられる。

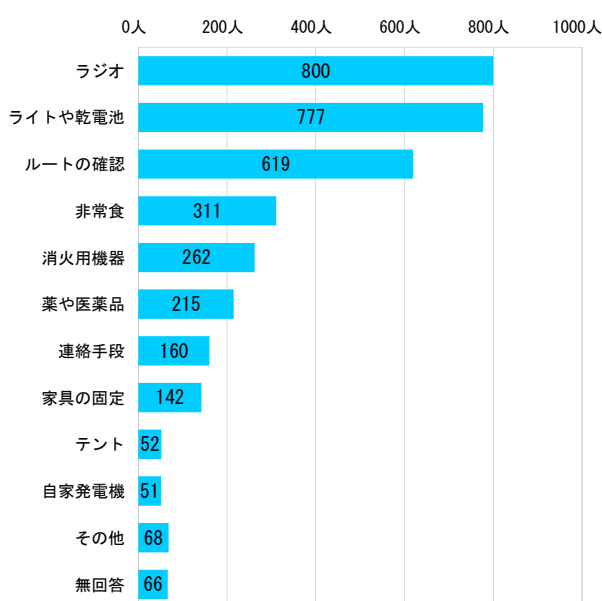
(11) 防災行政について

質問 26. あなたは、災害に対してどのような備えをされていますか。あてはまるものを何個でも選んでください。

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. 避難場所・避難ルートの確認 | 2. ラジオ等（情報入手手段）の常備 |
| 3. 非常食、飲料水の備蓄 | 4. 非常用連絡手段の確保 |
| 5. 薬や医薬品、衛生用品の備蓄 | 6. 家具や備品の固定 |
| 7. 消火器等の消火用機器の整備 | 8. テントや非常用トイレの常備 |
| 9. 自家発電機などの非常用電源 | 10. ライトや乾電池の買い置き |
| 11. その他（ | ） |

災害に対しての備えは「ラジオ等（情報入手手段）の常備」「ライトや乾電池の買い置き」など。

順位	選択項目	回答数
1位	ラジオ等(情報入手手段)の常備	800
2位	ライトや乾電池の買い置き	777
3位	避難場所・避難ルートの確認	619
4位	非常食、飲料水の備蓄	311
5位	消火器等の消火用機器の整備	262
6位	薬や医薬品、衛生用品の備蓄	215
7位	非常用連絡手段の確保	160
8位	家具や備品の固定	142
9位	テントや非常用トイレの常備	52
10位	自家発電機などの非常用電源	51
-	その他	68
-	無回答	66
合 計		3,523



選択肢「その他」の主な内容

- 何もしていない（55名）
- 男性-20代-本庁 避難ルートの確認はしているが、実際に頭の中で考えている通り行動出来るかわからない。
- 男性-30代-真和志 避難行動のイメージトレーニング。結果見れば命以外持ち出す事は出来ない。
- 男性-30代-本庁 貴重品の確保・携帯
- 男性-40代-本庁 テレビ等情報入手手段の常備。
- 男性-50代-本庁 緊急速報メール（地震、災害、避難）受信。
- 女性-40代-小祿 出入り口に非常用バッグを家族分置いてあります。
- 女性-50代-本庁 避難ルートマップの作成。
- 女性-70代-真和志 大切な品々、通帳、印鑑、キャッシュ等頭の中に入れておく。

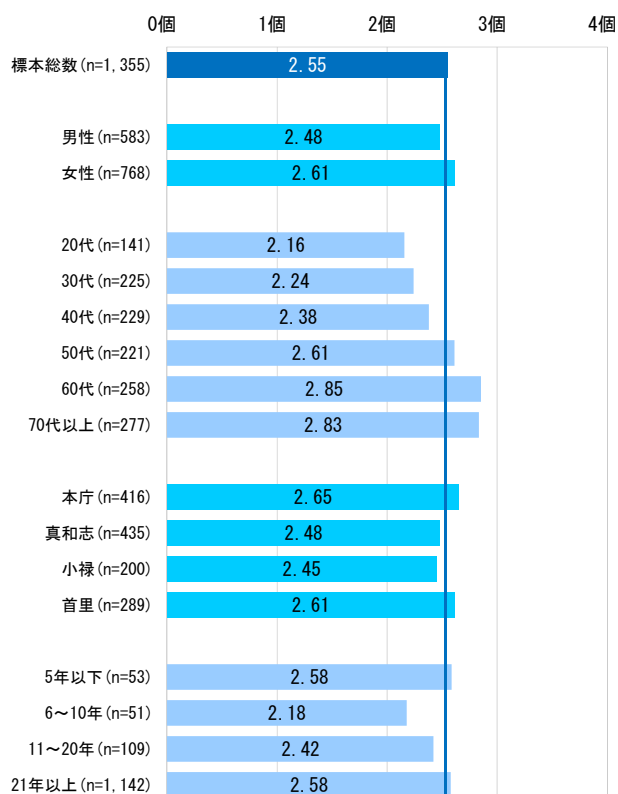
当該調査は、「その他」「無回答」を除き、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

最も多かった回答が「ラジオ等（情報入手手段）の常備」の 800 人で、次いで「ライトや乾電池の買い置き」の 777 人、「避難場所・避難ルートの確認」の 619 人となっている。

「避難場所・避難ルートの確認」については、東日本大震災の影響もあり、高い数値となっている。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=標本数)	回答個数	1人当り個数
標本総数 (n= 1,355)	3,457	2.55
男性 (n= 583)	1,444	2.48
女性 (n= 768)	2,007	2.61
20代 (n= 141)	304	2.16
30代 (n= 225)	504	2.24
40代 (n= 229)	545	2.38
50代 (n= 221)	577	2.61
60代 (n= 258)	736	2.85
70代以上 (n= 277)	785	2.83
本庁 (n= 416)	1,102	2.65
真和志 (n= 435)	1,078	2.48
小禄 (n= 200)	489	2.45
首里 (n= 289)	754	2.61
5年以下 (n= 53)	137	2.58
6～10年 (n= 51)	111	2.18
11～20年 (n= 109)	264	2.42
21年以上 (n= 1,142)	2,945	2.58



市民の災害対策個数を、属性別に、平均値で分析を行った。

那覇市民全体の災害対策個数は 2.55 個となっている。今回平均値である 2.55 個を上回ったのは、性別では女性、年代では 50 代～70 代以上、居住地区別では本庁地区と首里地区、居住年数では 5 年以下、21 年以上となっている。

備えが多いほど防災意識が高いと考ええると、属性によって意識に違いがあることが鮮明になった。

近年、社会全体の災害に対する意識、関心が高まりつつあり、那覇市民も年代や地域による意識、関心の差を無くしていかなければならない。

そのためにも災害対策に関する正しい知識や周知を、市も率先して行っていく必要がある。

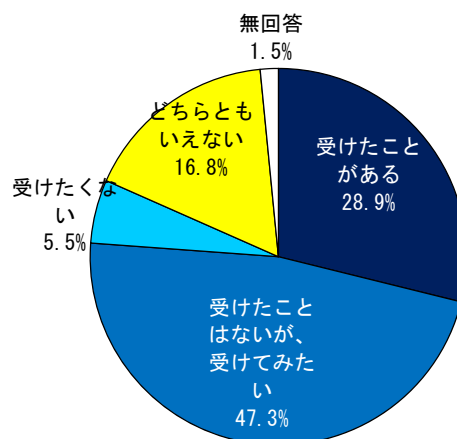
(12) 消防行政について

質問 27. あなたは、応急手当（心肺蘇生法及び AED の取扱い）の講習を受けたことがありますか。

1. 受けたことがある
2. 受けたことはないが、受けてみたい
3. 受けたくない
4. どちらともいえない

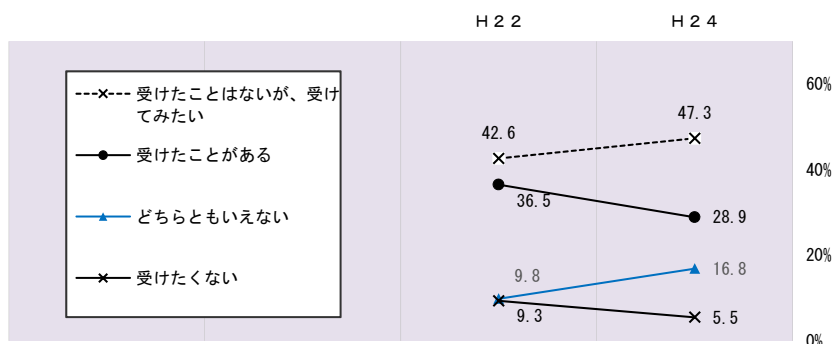
応急手当の講習を「受けたことがある」市民は 28.9%、「受けてみたい」市民が 47.3%。

選択項目	回答数
受けたことがある	391
受けたことはないが、受けてみたい	641
受けたくない	74
どちらともいえない	228
無回答	21
合 計	1,355



応急手当の講習については、「受けたことがある」と回答した市民が 28.9%、「受けたことはないが受けてみたい」と回答した市民が 47.3%と、市民の約 8 割は、心肺蘇生法及び AED の講習に対して意欲的である。

経年変化グラフ（平成 22 年度～平成 24 年度）



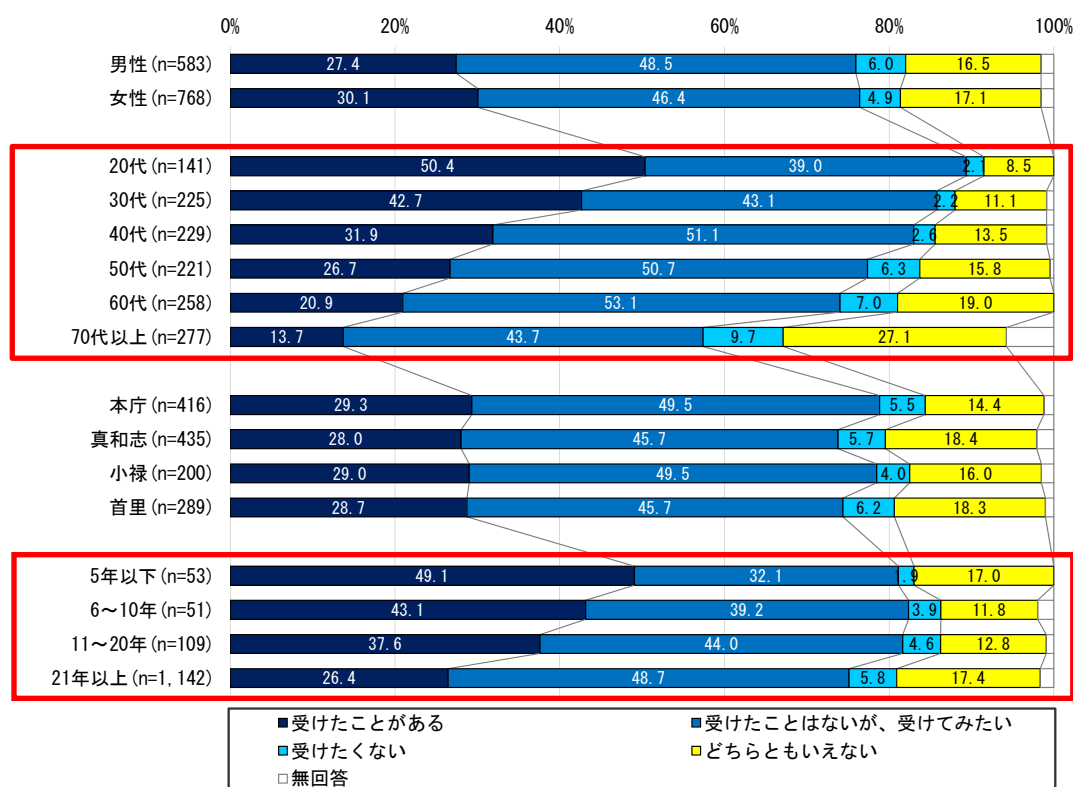
前回調査の選択肢「受けたこともないし、受けたいとも思わない」を今回調査の選択肢「受けたくない」に置き換えて比較を行った。

「受けたことがある」と回答した市民は 7.6 ポイント減少しているが、「受けたくない」が 3.8 ポイント減少し、「受けてみたい」が 4.7 ポイント増加している。

今回 7 ポイント増加している「どちらともいえない」を「受けてみたい」へ移行させていくためには、今後、講習会や呼びかけを工夫し、いかに市民に啓蒙していくかが重要と考えられる。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

選択項目 回答者属性（n=合計）	受けたことがある	受けたことがないが、受けてみたい	受けたくない	どちらともいえない	無回答
男性（n= 583）	160	283	35	96	9
女性（n= 768）	231	356	38	131	12
20代（n= 141）	71	55	3	12	0
30代（n= 225）	96	97	5	25	2
40代（n= 229）	73	117	6	31	2
50代（n= 221）	59	112	14	35	1
60代（n= 258）	54	137	18	49	0
70代以上（n= 277）	38	121	27	75	16
本庁（n= 416）	122	206	23	60	5
真和志（n= 435）	122	199	25	80	9
小禄（n= 200）	58	99	8	32	3
首里（n= 289）	83	132	18	53	3
5年以下（n= 53）	26	17	1	9	0
6～10年（n= 51）	22	20	2	6	1
11～20年（n= 109）	41	48	5	14	1
21年以上（n= 1,142）	302	556	66	199	19



年代別でみると、若い世代は教育機関や自動車教習所等で講習が実施されていることから、受講経験が高くなっていると考えられる。

「受けたくない」と回答した割合は年代に比例して高くなっている。

居住年数が長い市民ほど受講機会が少なくなっているため、出来るだけ地域密着型の受講体制を執る必要があると思われる。

(13) 上下水道について

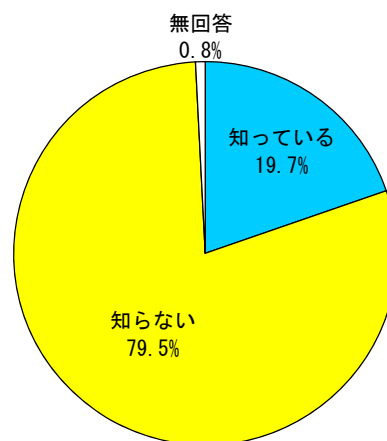
質問 28. 市上下水道局発行の広報誌「なはの水」をご存知ですか。

1. 知っている

2. 知らない

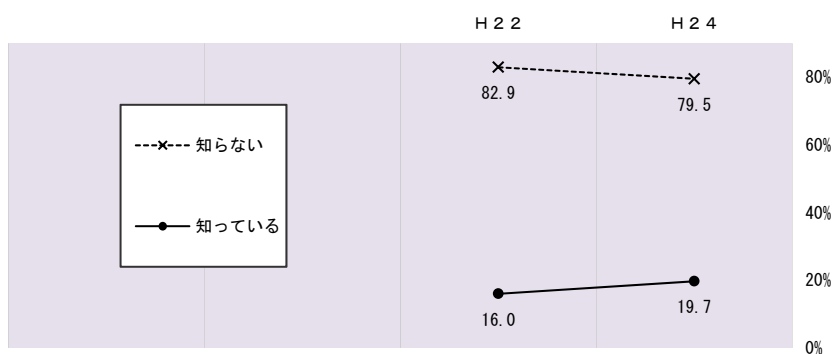
那覇市上下水道局の広報誌「なはの水」を知っている市民は 19.7%、知らない市民は 79.5%。

選択項目	回答数
知っている	267
知らない	1,077
無回答	11
合 計	1,355



那覇市の上下水道広報誌「なはの水」について、「知っている」と回答した市民が 19.7%、「知らない」と回答した市民が 79.5%と、約 8 割の市民が上下水道広報誌「なはの水」を知らないという結果となった。

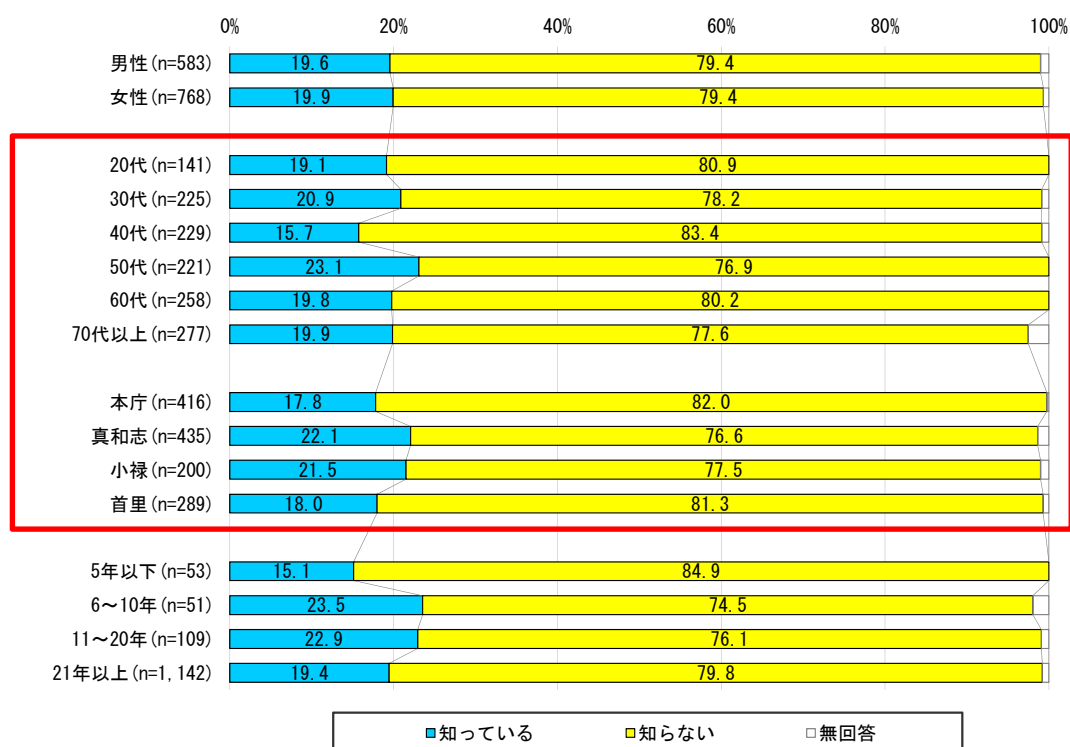
経年変化グラフ（平成 22 年度～平成 24 年度）



経年変化でみると、前回調査より「知っている」と回答した市民の割合は 3.7 ポイント増加しており、2 年間で、わずかながら市民への周知は改善しているものと思われるが、周知を高める根本的な解決策を展開することが必要である。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

選択項目 回答者属性（n=合計）		知っている	知らない	無回答
男性	(n= 583)	114	463	6
女性	(n= 768)	153	610	5
20代	(n= 141)	27	114	0
30代	(n= 225)	47	176	2
40代	(n= 229)	36	191	2
50代	(n= 221)	51	170	0
60代	(n= 258)	51	207	0
70代以上	(n= 277)	55	215	7
本庁	(n= 416)	74	341	1
真和志	(n= 435)	96	333	6
小禄	(n= 200)	43	155	2
首里	(n= 289)	52	235	2
5年以下	(n= 53)	8	45	0
6～10年	(n= 51)	12	38	1
11～20年	(n= 109)	25	83	1
21年以上	(n= 1,142)	222	911	9



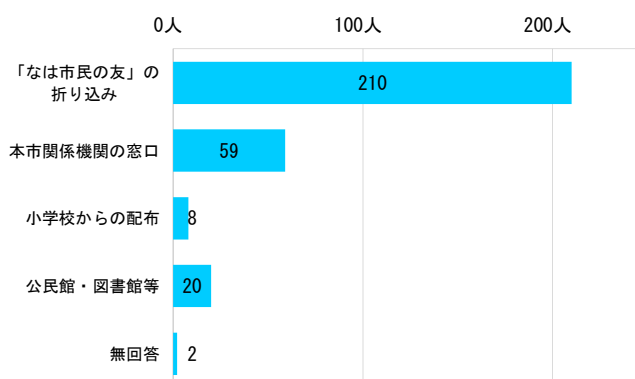
年代別でみると 50 代が、居住地区別でみると真和志地区が「知っている」と回答した割合が高くなっている。元々、那覇市水道局として真和志地区に機関が置かれていたことから広報誌等も市民の目に触れる機会が多かったのではないかと考えられる。

質問 28-1. 「知っている」と答えた方にお聞きます。それはどちらで入手、またはご覧になりましたか？ 何個選んでも結構です。

- | | |
|------------------|--------------|
| 1. 「なは市民の友」の折り込み | 2. 本市関係機関の窓口 |
| 3. 小学校からの配布 | 4. 公民館・図書館等 |

那覇市上下水道広報誌「なはの水」は「なは市民の友の折り込み」で見ている市民が多い。

選択項目	回答数
「なは市民の友」の折り込み	210
本市関係機関の窓口	59
小学校からの配布	8
公民館・図書館等	20
無回答	2
合 計	299

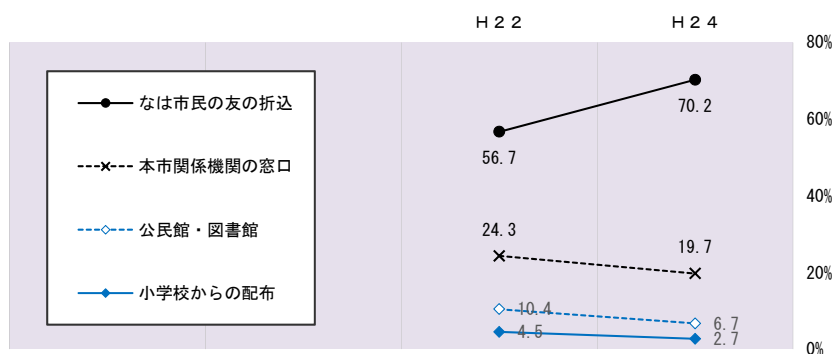


当該調査は、回答の多い順に表・グラフの掲載を行った。

広報誌「なはの水」の入手・閲覧先について最も多かった回答が「なは市民の友の折り込み」の210人で、次いで「本市関係機関の窓口」の59人、「公民館・図書館等」の20人となっている。

割合でみると約7割の市民は「なは市民の友の折り込み」で「なはの水」を認識している。

経年変化グラフ（平成22年度～平成24年度）



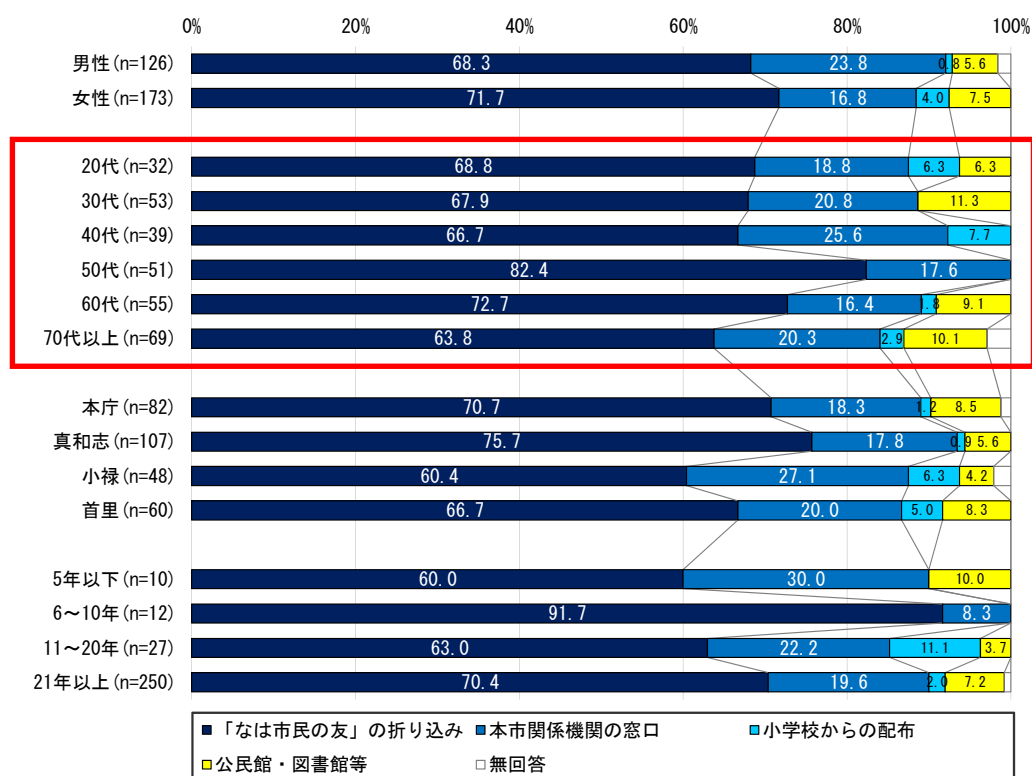
「なは市民の友の折り込み」は13.5ポイント増加しており、その他は減少傾向にある結果となった。

今後は「小学校からの配布」を如何にして成人の目に触れてもらうか、また、「公民館・図書館等」公的機関の効果的な利用について検討が必要と思われる。

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	選択項目	「なは市民の友」の折り込み	本市関係機関の窓口	小学校からの配布	公民館・図書館等	無回答
男性 (n= 126)		86	30	1	7	2
女性 (n= 173)		124	29	7	13	0
20代 (n= 32)		22	6	2	2	0
30代 (n= 53)		36	11	0	6	0
40代 (n= 39)		26	10	3	0	0
50代 (n= 51)		42	9	0	0	0
60代 (n= 55)		40	9	1	5	0
70代以上 (n= 69)		44	14	2	7	2
本庁 (n= 82)		58	15	1	7	1
真和志 (n= 107)		81	19	1	6	0
小禄 (n= 48)		29	13	3	2	1
首里 (n= 60)		40	12	3	5	0
5年以下 (n= 10)		6	3	0	1	0
6～10年 (n= 12)		11	1	0	0	0
11～20年 (n= 27)		17	6	3	1	0
21年以上 (n= 250)		176	49	5	18	2



年代別でみると「なは市民の友の折り込み」は50代が最も多く、「小学校からの配布」は40代、次いで20代が多い結果となった。「小学校からの配布」については、30代を含めた、親世代の割合を、如何に上げていくかがポイントになる。

居住地区別でみると、小禄地区が「市の機関窓口」と回答した割合が高くなっている。

(14) その他

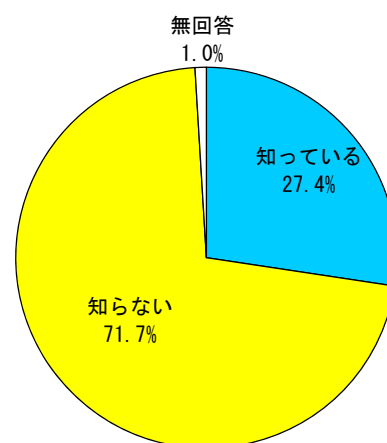
質問 29. 那覇市は平成 25 年 4 月から中核市へ移行し、様々な業務分野でより市民に身近なサービスが提供できるようになります。あなたは、那覇市が中核市になることを知っていますか。

1. 知っている

2. 知らない

那覇市が中核市になることを知っている市民は 27.4%、知らない市民は 71.7%。

選択項目	回答数
知っている	371
知らない	971
無回答	13
合 計	1,355

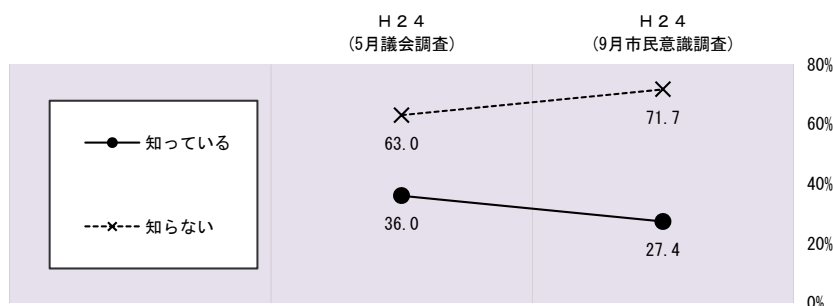


那覇市が中核市へ移行することを「知っている」と回答した市民は 27.4%、「知らない」と回答した市民は 71.7%となっている。

那覇市が中核市へ移行することを認識している市民は 3 割弱となっており、認知度はまだまだ低いといえる。

中核市への移行は、市民へのサービス向上に繋がるものであり、今後さらなる広報・周知を行い、広めていく必要がある

経年変化グラフ（平成 24 年 5 月～平成 24 年 9 月）



当該質問については、今年 5 月に「那覇市議会に関するアンケート」にて市民に同質問を行っており、およそ 4 ヶ月の経年という形で比較を行った。

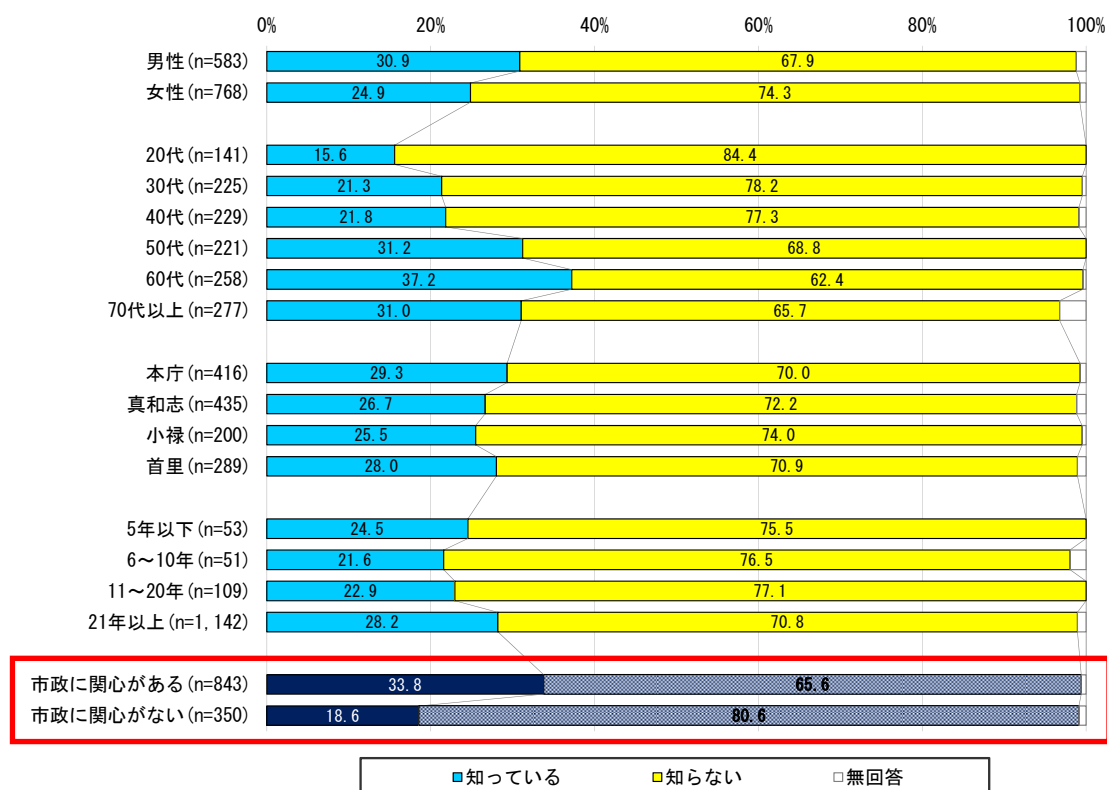
結果は「知っている」と回答した市民の割合が 8.6 ポイント減少となり、特に 20 代、30 代の若い世代で 10 ポイント以上の差がついた。

「那覇市議会に関するアンケート」は当該調査同様、無作為抽出による調査であるが、標本数や年代の比率が当該調査と若干異なることから、一概に比較するのは難しいと考えられる。

両調査からは、3 割から 4 割の認知度ということになり、今後の広報・周知活動がさらに重要となってくる。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

回答者属性 (n=合計)	選択項目	知っている	知らない	無回答
男性 (n= 583)		180	396	7
女性 (n= 768)		191	571	6
20代 (n= 141)		22	119	0
30代 (n= 225)		48	176	1
40代 (n= 229)		50	177	2
50代 (n= 221)		69	152	0
60代 (n= 258)		96	161	1
70代以上 (n= 277)		86	182	9
本庁 (n= 416)		122	291	3
真和志 (n= 435)		116	314	5
小禄 (n= 200)		51	148	1
首里 (n= 289)		81	205	3
5年以下 (n= 53)		13	40	0
6～10年 (n= 51)		11	39	1
11～20年 (n= 109)		25	84	0
21年以上 (n= 1,142)		322	808	12
市政に関心がある (n= 843)		285	553	5
市政に関心がない (n= 350)		65	282	3



今回属性に質問 10 の、市政に関心がある市民と、関心がない市民を加え分析を行った。

市政に関心がある市民は、関心がない市民と比較すると、中核市へ移行することを「知っている」と回答した割合は高く、市政に関心がある市民と認知度には相関関係があると考えられ、中核市移行の認知度を上げることにより、市政への関心がより高まるものと思われる。

質問 30. 那覇市の魅力を再認識し、より愛着を深めてもらうため、市民・企業・行政が協働して、7月8日を「なはの日」として、各種事業を開催し盛り上げています。あなたは、「なはの日」をご存知でしたか。

1. 知っている

2. 知らない

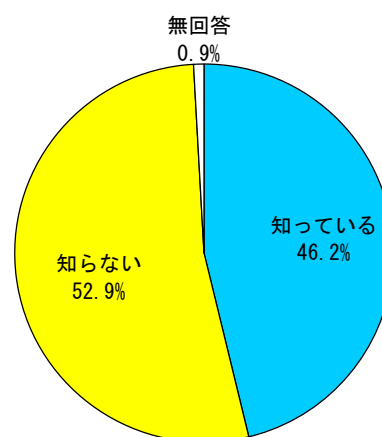
「なはの日」を知っている市民は 46.2%、知らない市民は 52.9%。

選択項目	回答数
知っている	626
知らない	717
無回答	12
合 計	1,355

なはの日を「知っている」と回答した市民の割合は 46.2%、「知らない」と回答した市民は 52.9% となっており、若干「知らない」市民が上回る結果となった。

1999 年のスタートから 13 年が経過している

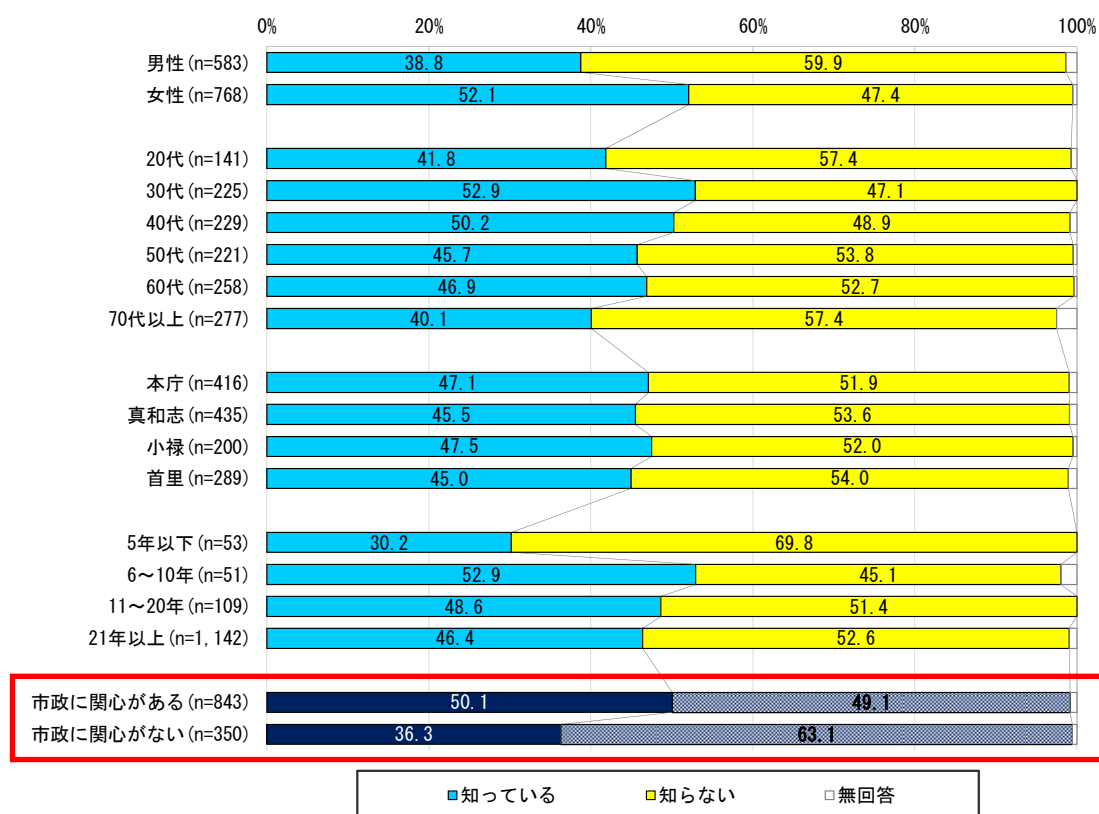
「なはの日」事業は、市民や民間主体の事業展開となっており、そのような中での結果としては、かなりの認知度があると思われる。



属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

選択項目		知 っ て い る	知 ら な い	無 回 答
回答者属性 (n=合計)				
男性	(n= 583)	226	349	8
女性	(n= 768)	400	364	4
20代	(n= 141)	59	81	1
30代	(n= 225)	119	106	0
40代	(n= 229)	115	112	2
50代	(n= 221)	101	119	1
60代	(n= 258)	121	136	1
70代以上	(n= 277)	111	159	7
本庁	(n= 416)	196	216	4
真和志	(n= 435)	198	233	4
小禄	(n= 200)	95	104	1
首里	(n= 289)	130	156	3
5年以下	(n= 53)	16	37	0
6～10年	(n= 51)	27	23	1
11～20年	(n= 109)	53	56	0
21年以上	(n= 1,142)	530	601	11
市政に関心がある	(n= 843)	422	414	7
市政に関心がない	(n= 350)	127	221	2

IV. 日常生活等に関する意識調査結果



質問 29 同様、属性に質問 10 の、市政に関心がある市民と、関心がない市民を加え分析を行った。

比較的市政に関心がある市民は「なはの日」を知っている割合が高く、市政に関心がない市民と比較するとその差は大きい。

性別でみると女性、年代別でみると 30 代が「知っている」と回答した割合が高くなっている。

今回の調査目的は、「なはの日」の市民への浸透の程度を確認することにあった。

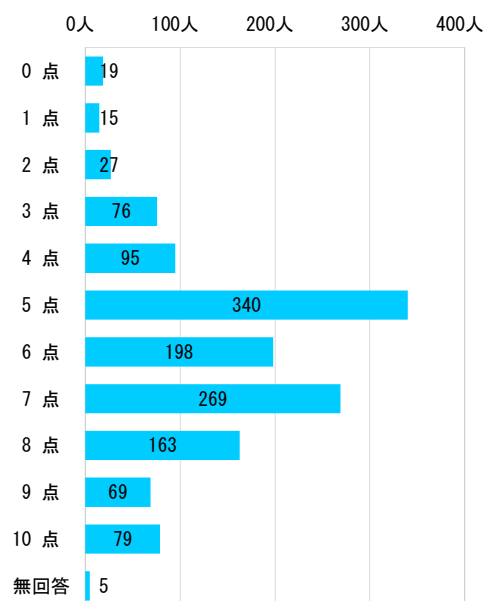
およそ半数が認識しているという現状にあるため、今後「なはの日」の取り扱いについて、市として検討する余地があるものとする。

質問 31. 市長は、「いい暮らしより 楽しい暮らしを」を提唱していますが、現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を 10 点、「とても不幸」を 0 点とすると、何点くらいになりますか。次の中から 1 つだけ点数を選んでください。

とても不幸 ← 0 点 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 点 → とても幸せ

那覇市民の平均幸せ点数は、10 点満点中 6.05 点。

選択項目	回答者数	各点数計	有意回答数	平均点
0 点	19人	0点	1,350人	6.05点
1 点	15人	15点		
2 点	27人	54点		
3 点	76人	228点		
4 点	95人	380点		
5 点	340人	1,700点		
6 点	198人	1,188点		
7 点	269人	1,883点		
8 点	163人	1,304点		
9 点	69人	621点		
10 点	79人	790点		
無回答	5人	—		
計	1,355人	8,163点		



当該質問による平均点は、次の式により算出した。

$$\text{平均点} = \frac{\text{各点数計の合計}}{\text{回答者数の合計}}$$

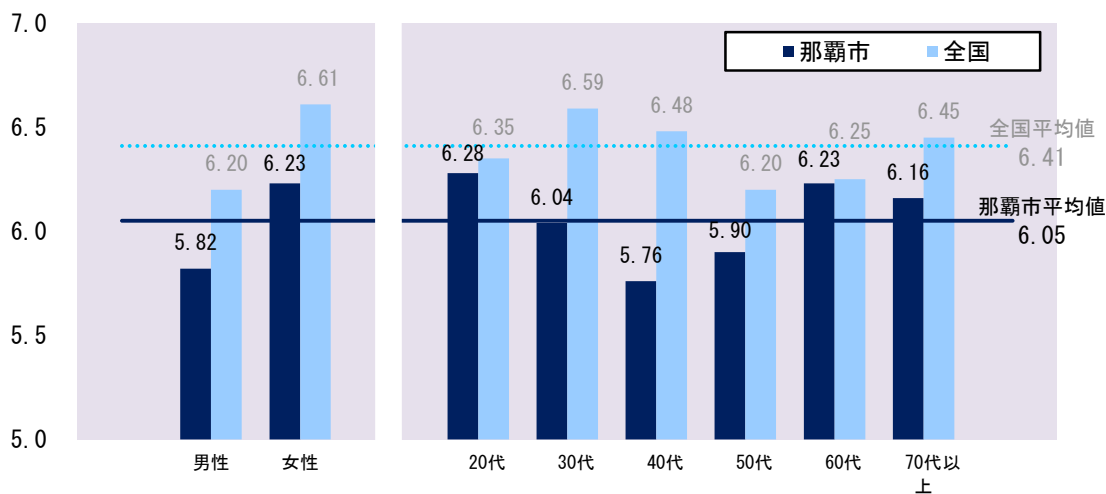
内閣府が行った平成 23 年度の国民生活選好度調査における全国平均値 6.41 と比較すると、市民の平均幸せ度は 0.36 ポイント低い結果となった。

今回の回答では「5 点」をつけた 340 人が最も多く、次いで「7 点」をつけた 269 人、「6 点」をつけた 198 人、「8 点」をつけた 163 人と続く。

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

（全国平均値は平成 23 年度国民生活選好度調査参照）



市民の幸せ度数を、内閣府が行った「平成 23 年度国民生活選好度調査」と比較を行った。全ての属性において全国平均値の 6.41 点を下回っており、最も差が大きい 40 代は 0.65 ポイントの差がつく結果となった。

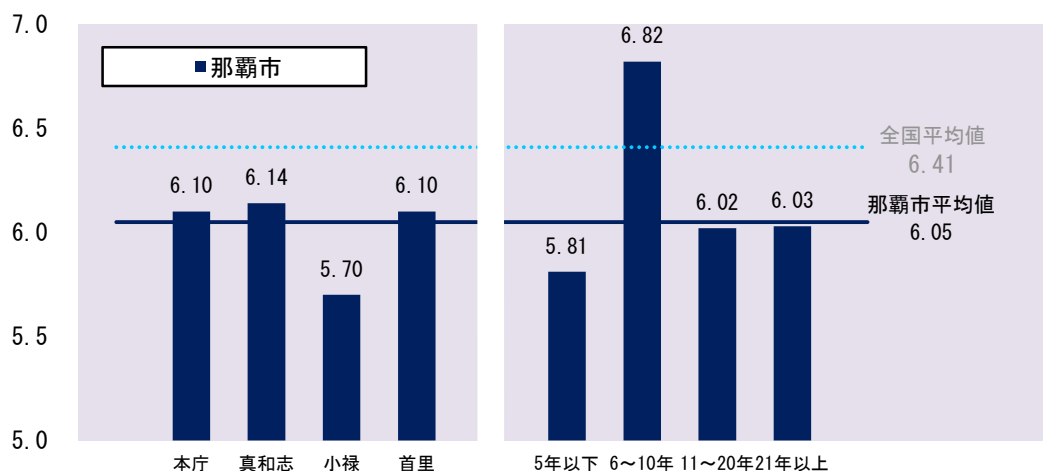
那覇市の平均値でみると、性別では男性、年代では 30 代から 50 代が下回り、40 代と那覇市平均値の差は 0.29 ポイントとなっている。

働き世代である 30 代～50 代で低くなっていることから、雇用環境にも一因があると思われる。

選択項目 回答者属性 (n=合計)	0 点	1 点	2 点	3 点	4 点	5 点	6 点	7 点	8 点	9 点	10 点	無回答	平均値	市 H 平 2 均 2 値 那 覇	平 H 均 2 値 3 全 国
男性 (n= 583)	11	5	12	49	45	146	99	102	63	13	38	0	5.82	5.96	6.20
女性 (n= 768)	8	9	15	26	49	193	99	167	100	56	41	5	6.23	6.42	6.61
20代 (n= 141)	1	0	1	9	12	29	16	39	19	7	8	0	6.28	6.00	6.35
30代 (n= 225)	7	1	5	11	16	55	35	40	25	10	19	1	6.04	6.78	6.59
40代 (n= 229)	3	2	10	15	22	55	31	53	21	6	11	0	5.76	6.42	6.48
50代 (n= 221)	4	6	8	15	9	52	38	39	26	9	15	0	5.90	6.01	6.20
60代 (n= 258)	0	4	2	18	20	59	39	48	24	23	19	2	6.23	5.96	6.25
70代以上 (n= 277)	4	1	1	7	15	89	39	50	48	14	7	2	6.16	6.13	6.45
本庁 (n= 416)	6	8	7	22	28	87	77	80	51	18	30	2	6.10	—	—
真和志 (n= 435)	7	2	11	23	22	115	59	87	51	28	28	2	6.14	—	—
小禄 (n= 200)	2	2	6	15	19	65	22	32	20	7	10	0	5.70	—	—
首里 (n= 289)	4	3	2	15	24	70	36	68	39	16	11	1	6.10	—	—
5年以下 (n= 53)	1	0	0	7	5	10	10	12	3	1	4	0	5.81	6.55	—
6～10年 (n= 51)	1	0	2	2	2	7	4	12	8	7	6	0	6.82	6.48	—
11～20年 (n= 109)	3	1	4	4	8	29	15	16	15	4	10	0	6.02	6.10	—
21年以上 (n= 1,142)	14	14	21	63	80	294	169	229	137	57	59	5	6.03	6.18	—

那覇市民の幸せ度数を、前回調査の平均値と共に表でみると、今回の平均値では、性別、年代別では、20 代と 60 代～70 代以上を除く全ての属性で H22 の平均値を下回る結果となった。特に差が大きいのが 30 代で、マイナス 0.74 ポイントとなっている。

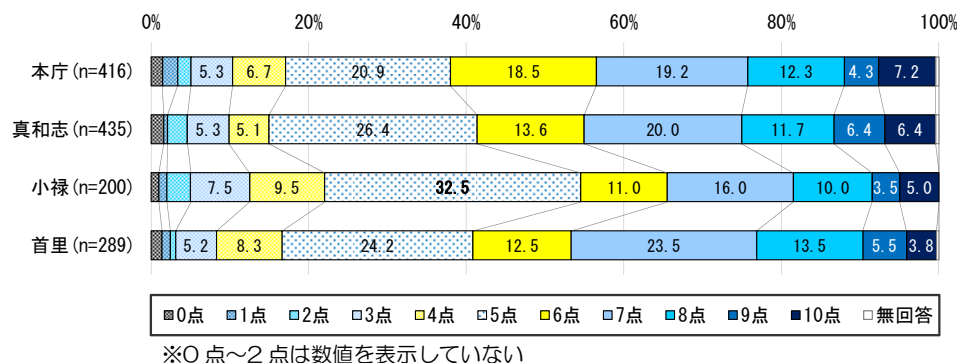
居住地区別でみると、居住年数が 6～10 年の市民を除き、H22 の平均値を下回る結果となった。特に差が大きいのが、5 年以下の 0.74 ポイントとなっている。



那覇市平均値と、居住地区、居住年数の平均値との比較を行った。

居住地区において那覇市の平均値を下回ったのは小禄地区で、那覇市平均値 6.05 との差は 0.35 ポイントとなっている。

居住年数では 6～10 年が最も高く、全国平均値の 6.41 を上回っているが、その他は全て那覇市平均値の 6.05 を下回っている。



属性を居住地区に絞り、点数の割合を確認した。

居住地区別でみると、小禄地区は 5 点の割合が他地域に比べ圧倒的に高くなっている。5 点という点数は、少しの変化で、改善される範囲と捉えれば、今回 5 点とつけた市民を、いかに「楽しい暮らし」と感じる方向へ導くかが鍵であると思われる。

今回居住地区を属性に加えたことで前回調査より詳細なデータを得ることが出来た。この結果を踏まえ市政へ反映させていくことで、市民の生活にも好影響をもたらす、幸せ度の指数も全国平均値に近づいていくものと思われる。

V. 総合計画の指標調査結果

V. 総合計画の指標調査結果

施策体系別の19の指標についての調査結果は、以下のとおりである。なお、指標目標数値は、「わからない」や無回答の影響を考慮して設定されていないので、ここでは、その影響を受ける場合（以下「全回答」という）と、その影響を除いた場合（以下、「有意回答」という）について分けて検証を行っている。

（1）まちづくり活動に参加している市民の割合（指標番号2）

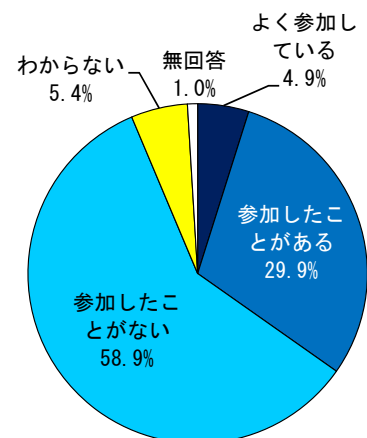
政策体系	都市像	心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市
	政策	協働によるまちづくり
	施策	自治会やNPO、ボランティアが活躍できる機会を増やす

質問 32. あなたは、行政や自治会、PTA等が行うまちづくり活動に参加したことがありますか

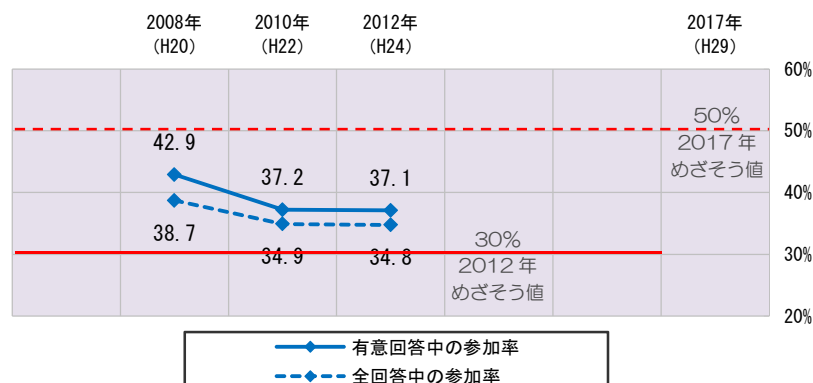
1. よく参加している 2. 参加したことがある 3. 参加したことがない 4. わからない

〔今回調査における指標「めざそう値」の達成状況〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
よく参加している	66人 (4.9%)	471人 (37.1%)	2012年目標値 (30.0%) ↓ (50.0%) 2017年目標値
参加したことがある	405人 (29.9%)		
参加したことがない	798人 (58.9%)		
有意回答 計	1,269人 (93.7%)	1,269人 (100%)	
わからない	73人 (5.4%)	—	
無回答	13人 (1.0%)		
合 計	1,355人 (100.1%)		



まちづくり活動に参加したことがある市民の割合は、全回答で2012年の「めざそう値」30%を上回っているが、前回調査から減少傾向にあり、2017年の「めざそう値」を達成するには、市民へ積極的な参加を促す取り組みが必要である。



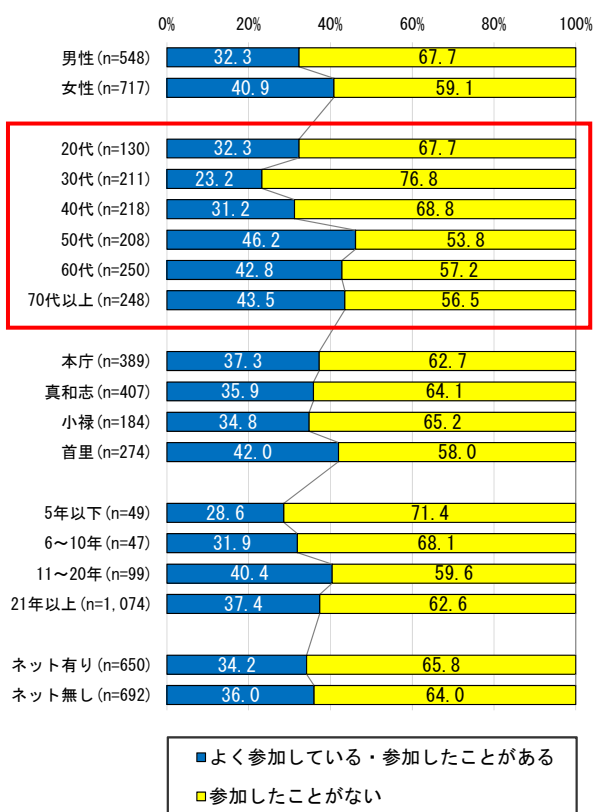
まちづくり活動に参加したことがある市民は 34.8%(有意回答は 37.1%)で、2012 年の「めざそう値」を達成している。

〔今後の課題〕

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、「わからない」無回答を除いた有意回答のみで割合を算出した。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

選択項目	とるよ が・く あ参参 る加加 しし たて こい	な参 い加 した こと が
回答者属性 (n=合計)		
男性 (n= 548)	177	371
女性 (n= 717)	293	424
20代 (n= 130)	42	88
30代 (n= 211)	49	162
40代 (n= 218)	68	150
50代 (n= 208)	96	112
60代 (n= 250)	107	143
70代以上 (n= 248)	108	140
本庁 (n= 389)	145	244
真和志 (n= 407)	146	261
小禄 (n= 184)	64	120
首里 (n= 274)	115	159
5年以下 (n= 49)	14	35
6～10年 (n= 47)	15	32
11～20年 (n= 99)	40	59
21年以上 (n= 1,074)	402	672
ネット有り (n= 650)	222	428
ネット無し (n= 692)	249	443



年代別でみると、参加経験の割合が最も高いのが50代で、次いで70代以上、60代の順となっており、比較的年代が高い方の割合が高くなっている。

参加経験の割合が最も低いのが30代で、2012年の「めざそう値」30%を下回っている。働き盛りを中心に比較的若い世代は、自治会やボランティア活動への参加経験が低くなっていることから、若い世代へ、如何にしてまちづくり活動への参加を促していくかが重要といえる。

居住年数別では、概ね居住年数に比例して参加している割合が高くなっており、那覇市への定住者を増やすことで、まちづくり活動へ参加する機会も増えると思われる。

(2) 市政運営に対する満足度（指標番号 4）

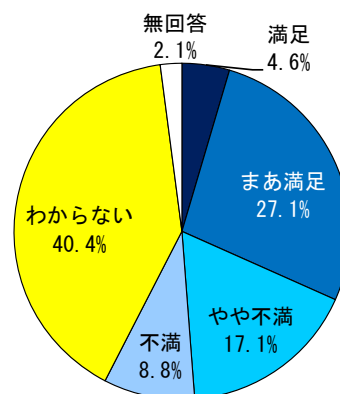
政策体系	都市像	心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市
	政策	協働によるまちづくり
	施策	市民の声がまちづくりに反映させる仕組みをつくる

質問 33. 市民の声を行政に反映するしくみづくりについて、あなたはどのように思いますか。

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

〔今回調査における指標「めざそう値」の達成状況〕

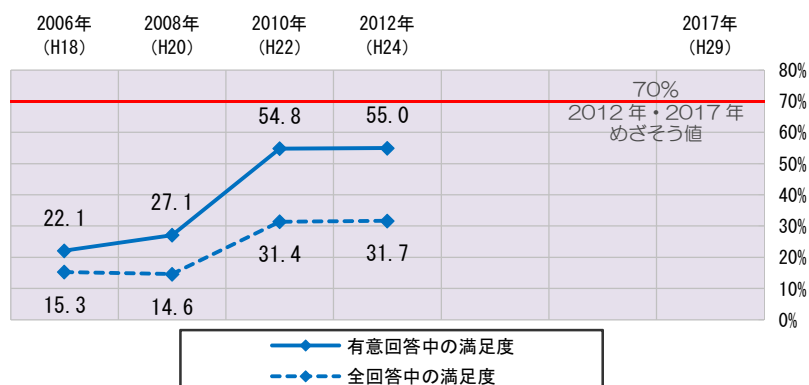
選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
満足	62人 (4.6%)	429 人 (55.0%)	2012年目標値 (70.0%) ↓ (70.0%) 2017年目標値
まあ満足	367人 (27.1%)		
やや不満	232人 (17.1%)	351 人 (45.0%)	
不満	119人 (8.8%)		
有意回答 計	780人 (57.6%)	780 人 (100%)	
わからない	547人 (40.4%)	—	
無回答	28人 (2.1%)		
合 計	1,355人 (100.1%)		



全回答でみた場合、「まあ満足」以上と回答した市民の割合は31.7%となっており、有意回答でも55%と、2012年の「めざそう値」70%を達成出来ない結果となった。

前回調査と比較すると、全回答では0.3ポイント、有意回答では0.2ポイント増加しているが、現状の伸び率では2017年の達成も難しいと思われる。

今後「わからない」と回答した約4割の市民を、いかに有意回答へ導き、満足度を上げていくかが重要と考えられ、そのためにも、市民が市政運営へ興味を抱く取り組みを打ち出していく必要がある。



市政運営に対する満足度は、31.7%(有意回答で 55%)で、2012 年の「めざそう値」70%を達成していない。

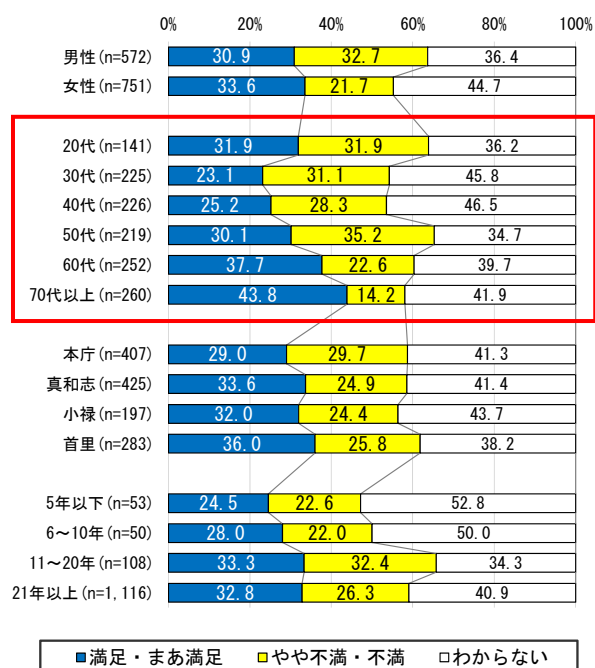
2017 年に「めざそう値」を達成するためには、市民が市政運営に興味を抱く取り組みを打ち出す必要がある。

【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、回答数が多かった「わからない」を含めた割合で算出した。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

選択項目 回答者属性 (n=合計)		満足・まあ満足	やや不満・不満	わからない
男性	(n= 572)	177	187	208
女性	(n= 751)	252	163	336
20代	(n= 141)	45	45	51
30代	(n= 225)	52	70	103
40代	(n= 226)	57	64	105
50代	(n= 219)	66	77	76
60代	(n= 252)	95	57	100
70代以上	(n= 260)	114	37	109
本庁	(n= 407)	118	121	168
真和志	(n= 425)	143	106	176
小禄	(n= 197)	63	48	86
首里	(n= 283)	102	73	108
5年以下	(n= 53)	13	12	28
6～10年	(n= 50)	14	11	25
11～20年	(n= 108)	36	35	37
21年以上	(n= 1,116)	366	293	457



性別でみると、満足度が高いのは女性で、「わからない」と回答した割合も女性の方が高くなっている。

年代別で満足度が最も低いのは30代で、次いで40代となっており、概ね年代が高くなるにつれて満足度も高くなっている。「やや不満・不満」と回答した割合が高いのが50代で、前回調査でも年代の中で不満度が高い傾向にある。「わからない」と回答している割合が高いのは40代、次いで30代、70代以上となっており、中間世代が市政運営に対する関心が低くなっている。

今後2017年の「めざそう値」70%を達成するためにも、30代、40代の市政への関心を高める方策や、50代の市政に対する不満の原因を明らかにしていくこと等が重要と考えられる。

(3) 平和の発信・国際交流についての市政への満足度（指標番号 7）

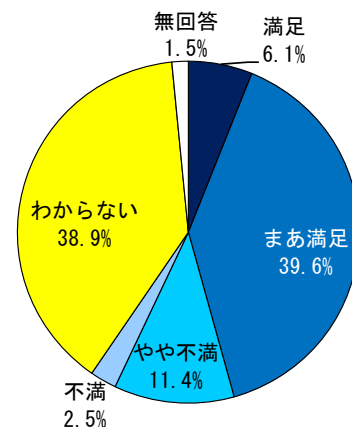
政策体系	都市像	心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市
	政策	平和交流・男女共同参画
	施策	平和都市の実現と発信の取り組みをすすめる

質問 34. 平和の発信や国際交流（姉妹友好都市との交流など）の推進について、あなたはどのように思いますか。

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

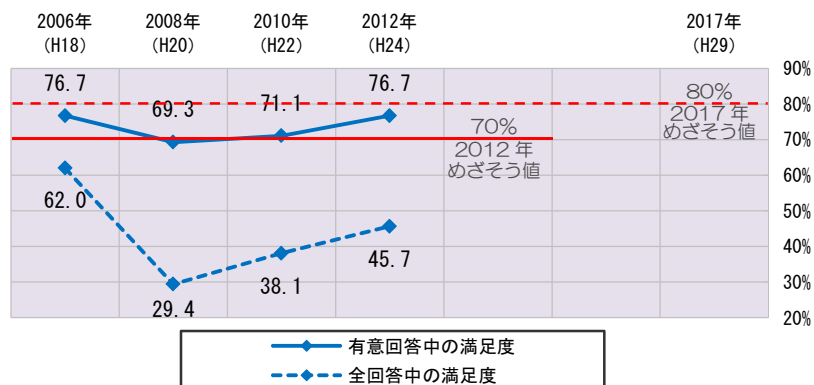
〔今回調査における指標「めざそう値」の達成状況〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
満足	82人 (6.1%)	619 人 (76.7%)	2012年目標値 (70.0%) ↓ (80.0%) 2017年目標値
まあ満足	537人 (39.6%)		
やや不満	154人 (11.4%)	188 人 (23.3%)	
不満	34人 (2.5%)		
有意回答 計	807人 (59.6%)	807 人 (100%)	
わからない	527人 (38.9%)	—	
無回答	21人 (1.5%)		
合 計	1,355人 (100.0%)		



有意回答でみると、市民の満足度は 76.7%と、2012 年の「めざそう値」である 70%を達成しているが、全回答でみた場合の満足度 45.7%との開きは大きく、今後「わからない」や無回答の無効回答次第で 2017 年の「めざそう値」達成も左右される可能性がある。

「不満」や「やや不満」の割合は前回調査より減少しており、2017 年の「めざそう値」80%を達成するためにも「わからない」や無回答の市民への方策含め、今後の取り組みが重要と思われる。



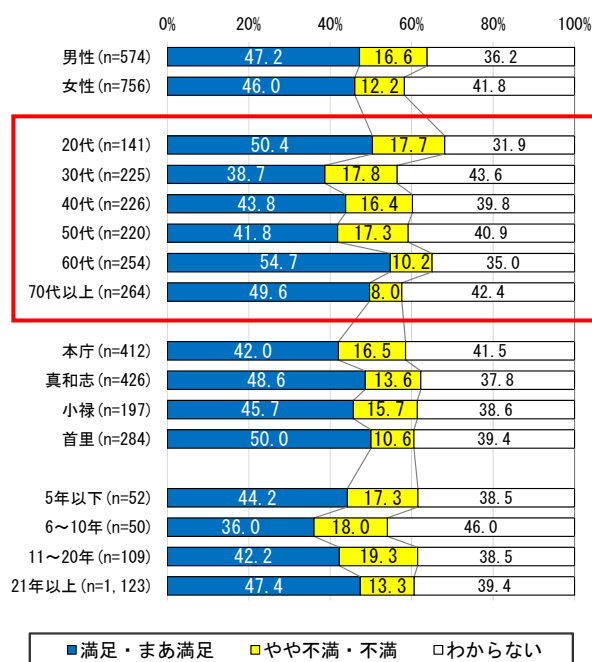
平和の発信や国際交流についての市民の満足度は、45.7%(有意回答で 76.7%)で、有意回答では 2012 年の「めざそう値」を達成している。

【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、回答数が多かった「わからない」を含めた割合で算出した。

属性別集計表・グラフ（回答者属性無回答除く）

選択項目 回答者属性 (n=合計)	満足・まあ満足	やや不満・不満	わからない
男性 (n= 574)	271	95	208
女性 (n= 756)	348	92	316
20代 (n= 141)	71	25	45
30代 (n= 225)	87	40	98
40代 (n= 226)	99	37	90
50代 (n= 220)	92	38	90
60代 (n= 254)	139	26	89
70代以上 (n= 264)	131	21	112
本庁 (n= 412)	173	68	171
真和志 (n= 426)	207	58	161
小禄 (n= 197)	90	31	76
首里 (n= 284)	142	30	112
5年以下 (n= 52)	23	9	20
6～10年 (n= 50)	18	9	23
11～20年 (n= 109)	46	21	42
21年以上 (n= 1,123)	532	149	442



性別では女性が「わからない」と回答している割合が高く、満足度も男性に比べて若干低くなっている。

年代では 30 代～50 代の中間世代が、比較的「わからない」と回答した割合が高くなっており、最も低いのは 20 代という結果となった。

年代別で満足度を見ると、60 代が最も高く、次いで 20 代、70 代となっており、年代別では満足度にかんがりのばらつきが見られる。これには、当該質問に「平和の発信」と「国際交流」という 2 つの評価対象があり、年代によってどちらを主に評価の対象にしたかによるものと考えられるが、今回調査ではそこまでは明らかに出来ない。

2017 年の「めざそう値」80%を達成するためには、30 代～50 代及び、女性が関心を持てる広報等を取り入れ、平和を希求する市の体制等を広く市民に周知していく必要がある。

(4) 男女の地位が平等だと感じる人の割合（指標番号 11）

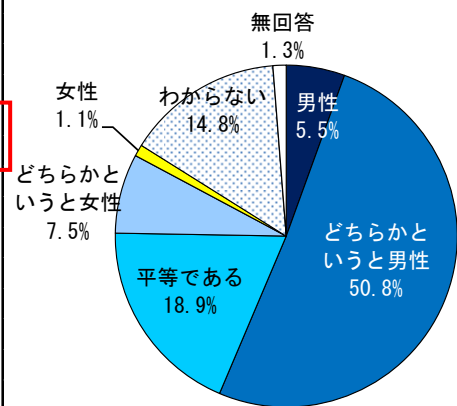
政策体系 都市像 心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市
 政策 平和交流・男女共同参画
 施策 男女共同参画社会の実現をめざす

質問 35. 社会全体でみた男女の平等について、あなたはどのように思いますか。

1. 男性の方が非常に優遇されている
2. どちらかという、男性の方が優遇されている
3. 平等である
4. どちらかという、女性の方が優遇されている
5. 女性の方が非常に優遇されている
6. わからない

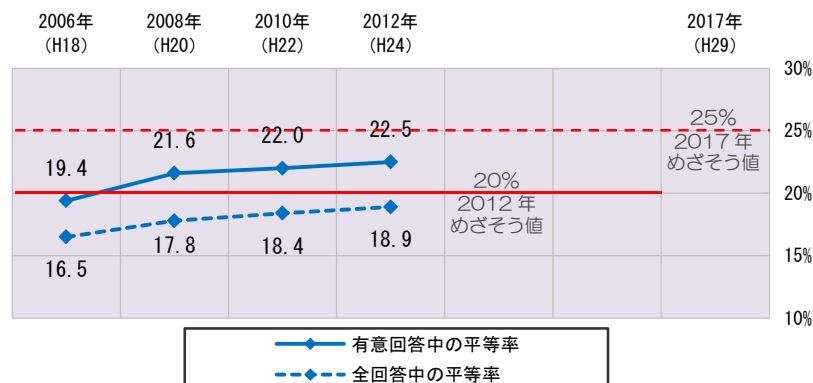
〔今回調査における指標「めざそう値」の達成状況〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
男性の方が非常に優遇されている	75人 (5.5%)	764 人 (67.2%)	
どちらかという、男性の方が優遇されている	689人 (50.8%)		
平等である	256人 (18.9%)	256 人 (22.5%)	2012年目標値 (20.0%)
どちらかという、女性の方が優遇されている	102人 (7.5%)	117 人 (10.3%)	↓ (25.0%) 2017年目標値
女性の方が非常に優遇されている	15人 (1.1%)		
有意回答 計	1,137人 (83.9%)	1,137 人 (100%)	
わからない	201人 (14.8%)	—	
無回答	17人 (1.3%)		
合 計	1,355人 (100.0%)		



男女の地位が「平等である」と感じている市民の割合は、全回答では 18.9%だが、有意回答では 22.5%となっており、2012 年の「めざそう値」を達成している。

しかしながら「平等である」と感じている割合は年々増加しているものの、伸び率が非常に緩やかで、男女平等の浸透がなかなか進んでいない。要因の 1 つとして、5 割を超える市民が「男性優遇」と感じており、2017 年の「めざそう値」を達成するには、市民が男女平等であると感じる取り組みをさらに打ち出していく必要がある。

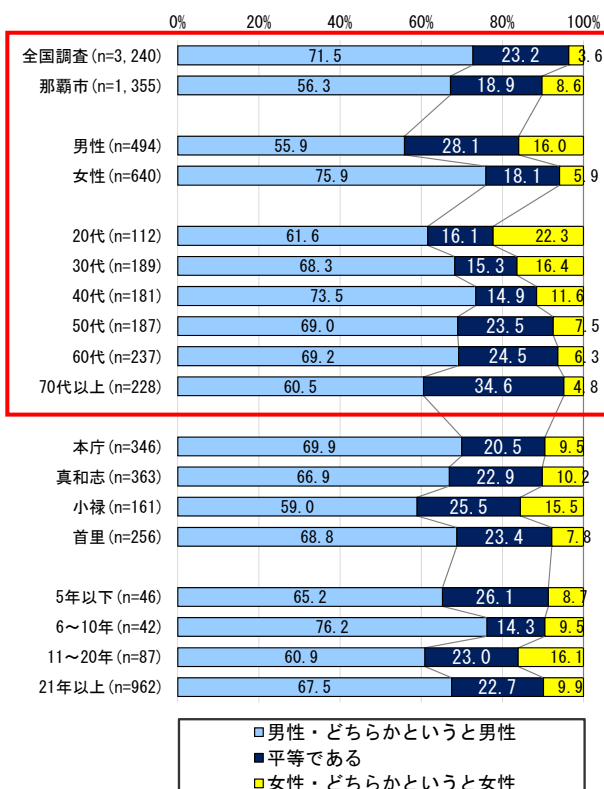


男女の地位が平等だと感じる市民は 18.9%(有意回答で 22.5%)で、有意回答では 2012 年の「めざそう値」を達成している。

【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、「わからない」無回答を除いた有意回答のみで割合を算出した。

回答者属性 (n=合計)	選択項目	と男 い性 う・ とど 男ち 性ら か	平 等 で あ る	と女 い性 う・ とど 女ち 性ら か
男性 (n= 494)		276	139	79
女性 (n= 640)		486	116	38
20代 (n= 112)		69	18	25
30代 (n= 189)		129	29	31
40代 (n= 181)		133	27	21
50代 (n= 187)		129	44	14
60代 (n= 237)		164	58	15
70代以上 (n= 228)		138	79	11
本庁 (n= 346)		242	71	33
真和志 (n= 363)		243	83	37
小禄 (n= 161)		95	41	25
首里 (n= 256)		176	60	20
5年以下 (n= 46)		30	12	4
6～10年 (n= 42)		32	6	4
11～20年 (n= 87)		53	20	14
21年以上 (n= 962)		649	218	95



※属性の全国調査と那覇市は「わからない」無回答を含む割合で算出しているがグラフには表示していない。

ここでは属性に、内閣府が全国調査で実施した「社会全体における男女の地位の平等感」の調査結果 (H21.10) と、那覇市全体の結果を加えて、比較、分析を行うこととした。

那覇市全体では「平等である」と感じている割合は全国より低いが、全国に比べて、男性より女性が優遇されていると感じている割合が高くなっている。

「平等である」と感じている割合が全国を上回ったのは、性別では男性、年代では 50 代～70 代以上となっており、比較的高い年代は男女平等と感じている割合が高い。

若い年代は「平等である」と感じている割合は低いが、「女性が優遇されている」と感じている割合が高くなっており、20 代と 30 代は前回調査より割合が増加している。

若い世代が男女平等だと感じられる社会の形成と、これまでの慣習による意識を改善していくことが 2017 年の「めざそう値」達成の鍵である。

(5) 市からの情報提供についての満足度（指標番号 15）

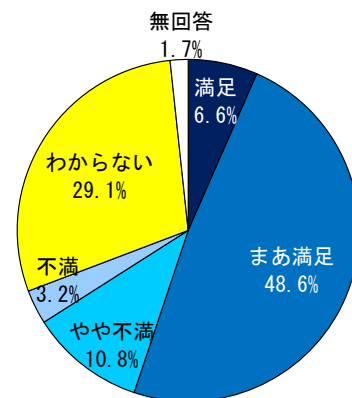
政策体系	都市像	心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市
	政策	市民に関かれた効率的な行政
	施策	行政情報を様々な方法でわかりやすく受けとれるようにする

質問 36. あなたは、市の広報活動（広報紙「なは市民の友」、ラジオ広報、那覇市ホームページ等）について、どう思いますか。

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

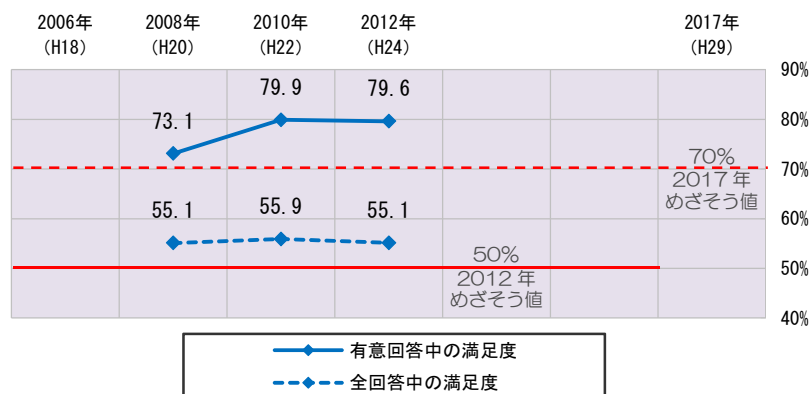
〔今回調査における指標「めざそう値」の達成状況〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
満足	89人 (6.6%)	747 人 (79.6%)	2012年目標値 (50.0%) ↓ (70.0%) 2017年目標値
まあ満足	658人 (48.6%)		
やや不満	147人 (10.8%)	191 人 (20.4%)	
不満	44人 (3.2%)		
有意回答 計	938人 (69.2%)	938 人 (100%)	
わからない	394人 (29.1%)	—	
無回答	23人 (1.7%)		
合 計	1,355人 (100.0%)		



市からの情報提供についての満足度は、有意回答数で 79.6%、全回答数で 55.1%と、どちらも 2012 年の「めざそう値」を達成している。

有意回答における満足度を維持、増加させつつ、全回答で 2017 年の「めざそう値」を達成するためには、「わからない」や無回答を「まあ満足」以上へ転換させていく必要がある。

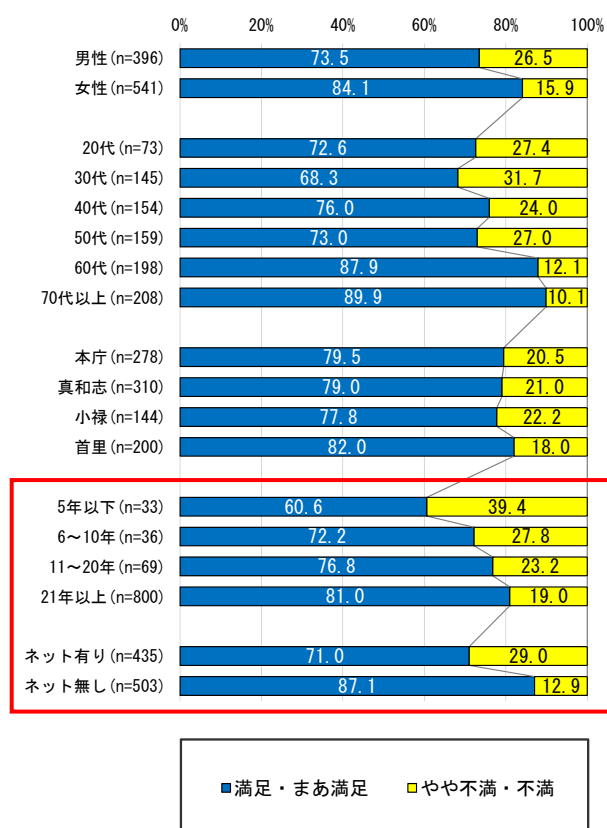


市からの情報提供についての満足度は、55.1%(有意回答で 79.6%)で、2012 年の「めざそう値」を達成している

[今後の課題]

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、「わからない」無回答を除いた有意回答のみで割合を算出した。

選択項目 回答者属性 (n=合計)	満足・まあ満足	やや不満・不満
男性 (n= 396)	291	105
女性 (n= 541)	455	86
20代 (n= 73)	53	20
30代 (n= 145)	99	46
40代 (n= 154)	117	37
50代 (n= 159)	116	43
60代 (n= 198)	174	24
70代以上 (n= 208)	187	21
本庁 (n= 278)	221	57
真和志 (n= 310)	245	65
小禄 (n= 144)	112	32
首里 (n= 200)	164	36
5年以下 (n= 33)	20	13
6～10年 (n= 36)	26	10
11～20年 (n= 69)	53	16
21年以上 (n= 800)	648	152
ネット有り (n= 435)	309	126
ネット無し (n= 503)	438	65



年代別で見ると、比較的高い年代は満足度が高く、低い年代は不満度が高い結果となった。

居住年数別では、年数が長くなるにつれて満足度が高くなっており、那覇市に長く住むことで市民は各々のスタイルに合った情報提供を受けていると推測される。

インターネット環境を有する市民と有しない市民では、インターネット環境を有しない市民のほうが満足度が高くなっており、インターネットが無くても、なほ市民の友やマスメディア等から十分な情報を得られているか、インターネットで得られる情報が、満足のいくものでなかったか今回調査ではこれ以上の分析は出来ないが、一概に情報収集ツールが多いほど満足度が高いというわけではないことがわかった。

今後 2017 年の「めざそう値」達成を維持、向上させるためにも、若い世代や新規居住者へ対する、情報提供の充実等が必要である。

(6) 行政サービスに満足している人の割合（指標番号 16）

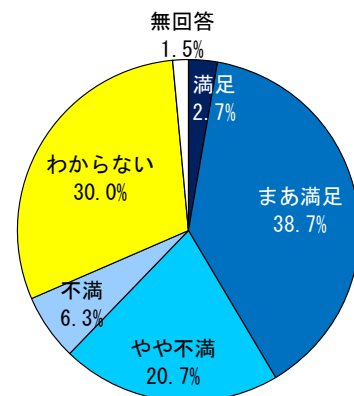
政策体系	都市像	心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市
	政策	市民に開かれた効率的な行政
	施策	効率的で満足度の高い行政サービスをおこなう

質問 37. あなたは、市の行政サービス全般について、満足していますか。

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

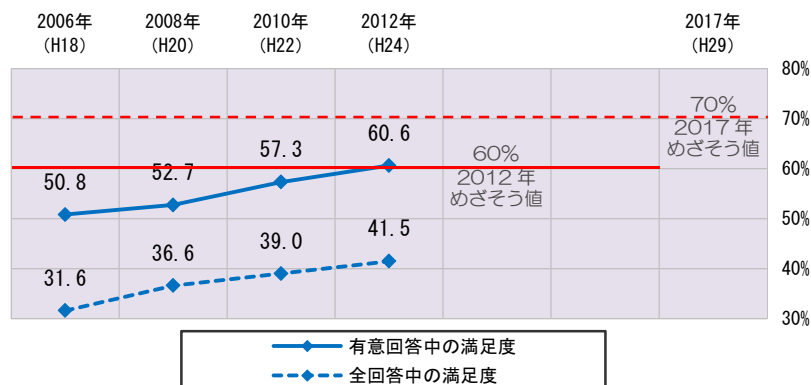
〔今回調査における指標「めざそう値」の達成状況〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
満足	37人 (2.7%)	562 人 (60.6%)	2012年目標値 (60.0%) ↓ (70.0%) 2017年目標値
まあ満足	525人 (38.7%)		
やや不満	281人 (20.7%)	366 人 (39.4%)	
不満	85人 (6.3%)		
有意回答 計	928人 (68.5%)	928 人 (100%)	
わからない	407人 (30.0%)	—	
無回答	20人 (1.5%)		
合 計	1,355人 (100.0%)		



全回答でみると、市民の行政サービスに対する満足度は 41.5% で、有意回答でみると 60.6% となっており、有意回答では 2012 年の「めざそう値」を達成している。

2017 年の「めざそう値」達成には、これまでの増加率を維持しつつ、「わからない」と回答した市民を「満足・まあ満足」へと移行させる取り組みが重要となってくる。

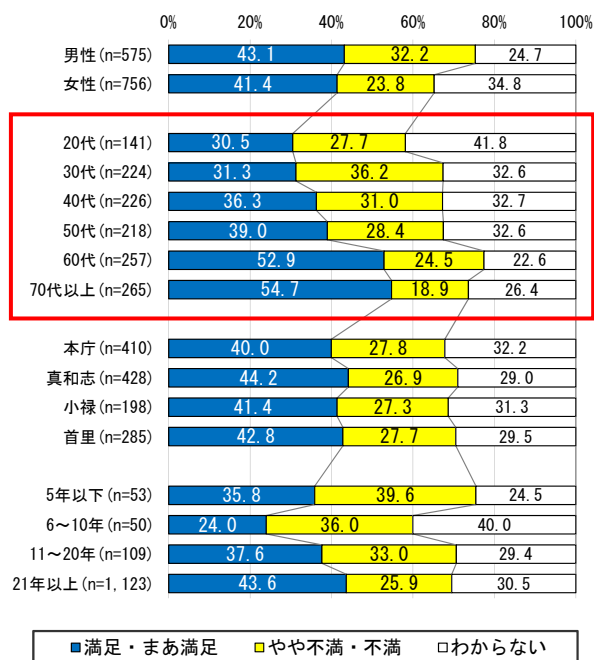


行政サービスに対する満足度は、41.5%(有意回答で 60.6%)で、有意回答では 2012 年の「めざそう値」を達成している

[今後の課題]

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。
ここでは、回答数が多かった「わからない」を含めた割合で算出した。

選択項目 回答者属性 (n=合計)		満足・まあ満足	やや不満・不満	わからない
男性	(n= 575)	248	185	142
女性	(n= 756)	313	180	263
20代	(n= 141)	43	39	59
30代	(n= 224)	70	81	73
40代	(n= 226)	82	70	74
50代	(n= 218)	85	62	71
60代	(n= 257)	136	63	58
70代以上	(n= 265)	145	50	70
本庁	(n= 410)	164	114	132
真和志	(n= 428)	189	115	124
小禄	(n= 198)	82	54	62
首里	(n= 285)	122	79	84
5年以下	(n= 53)	19	21	13
6～10年	(n= 50)	12	18	20
11～20年	(n= 109)	41	36	32
21年以上	(n= 1,123)	490	291	342



年代別でみると、行政サービスに満足している割合が最も高いのは、70代以上で次いで60代となっている。行政サービスに対する満足度は、年代に比例して高くなっており、これについては、那覇市の高齢者へ対する行政サービスが、充実している結果とも捉えられる。

対して、不満度が高いのは30代、40代の中間世代となっており、年代によってどのような行政サービスを望んでいるのかを把握することで満足度の増加が期待できると考える。

「わからない」と回答した割合は20代で4割、30代～50代で3割を超え、若い世代～中間世代の行政サービスに対する認識度の低さが伺える。

若い世代から中間世代に行政サービスの内容を広く周知し、有意の評価を得る事が必要であり、その評価を元に分析、改善を行っていくことで2017年の「めざそう値」である70%の達成も可能ではないかと思われる。

(7) 電子行政サービスを利用したことがある人の割合（指標番号 18）

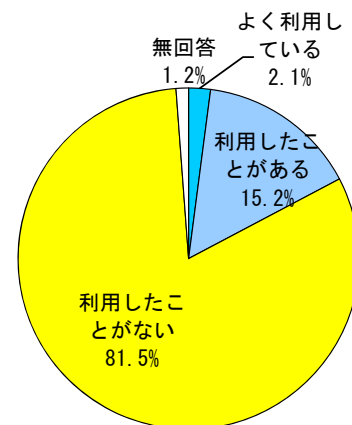
政策体系	都市像	心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市
	政策	市民に開かれた効率的な行政
	施策	電子化による行政サービスの向上をすすめる

質問 38. あなたは、市が提供する電子行政サービス（メールマガジンや電子相談システム、公共施設の予約システム、図書館の貸出予約システム等）を利用したことがありますか

1. よく利用している 2. 利用したことがある 3. 利用したことがない

〔今回調査における指標「めざそう値」の達成状況〕

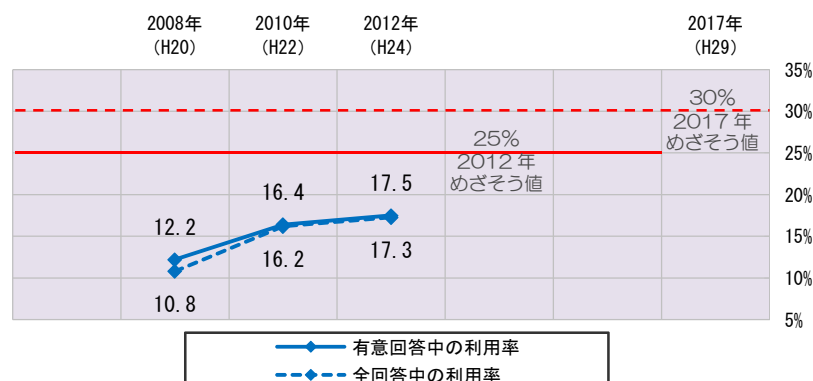
選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
よく利用している	28人 (2.1%)	234人 (17.5%)	2012年目標値 (25.0%)
利用したことがある	206人 (15.2%)		
利用したことがない	1,105人 (81.5%)	1,105人 (82.5%)	↓ (30.0%) 2017年目標値
有意回答 計	1,339人 (98.8%)	1,339人 (100%)	
無回答	16人 (1.2%)	—	
合 計	1,355人 (100.0%)		



今回の調査結果を有意回答でみると、利用率は 17.5%となっており、2012 年の「めざそう値」は達成出来ない結果となった。経年変化では H20 の調査以降、利用率は増加し続けているが、期待していた伸び率が得られなかった。

今回の調査において、約半数の市民がインターネット環境を有し、電子行政サービスを利用出来る環境にある。しかし、電子行政サービスを利用している市民は全回答で 17.3%となっており、電子行政サービスの認識度はまだまだ低いといえる。

今後、那覇市のホームページや、メールマガジンの利用者を増やすことや、電子行政サービスの存在を知っていながら利用する機会がなかった市民に対し、活用方法等の周知やサービス内容を充実させる取り組みも重要となってくる。



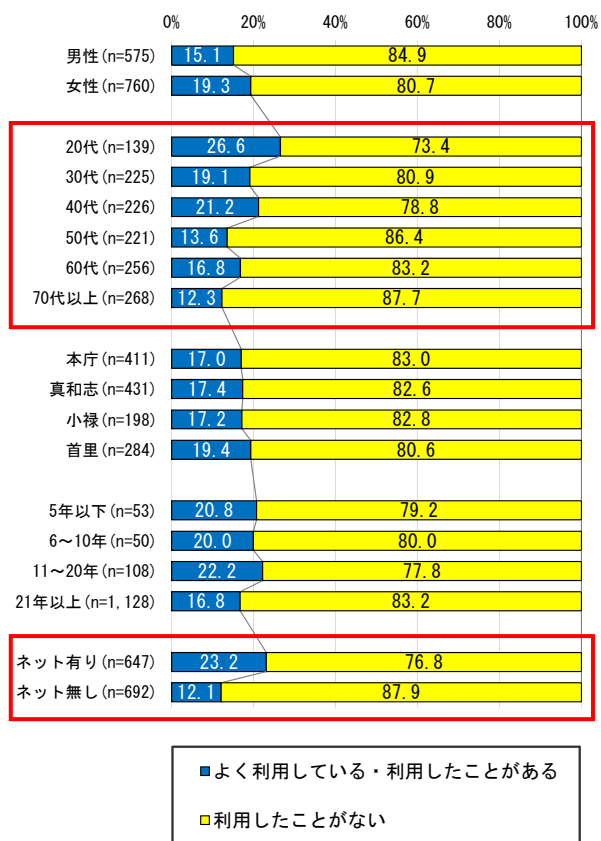
電子行政サービスを利用したことがある人の割合は、17.3%(有意回答で17.5%)で、2012年の「めざそう値」は達成していない。

2017年の「めざそう値」達成に向けて、さらなる周知やサービス内容の充実が必要である

[今後の課題]

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、無回答を除いた有意回答のみで割合を算出した。

回答者属性 (n=合計)	選択項目	とるよ が・く あ利 る用 しし たて こい		な利 い 用 し た こ と が	
男性	(n= 575)	87	488		
女性	(n= 760)	147	613		
20代	(n= 139)	37	102		
30代	(n= 225)	43	182		
40代	(n= 226)	48	178		
50代	(n= 221)	30	191		
60代	(n= 256)	43	213		
70代以上	(n= 268)	33	235		
本庁	(n= 411)	70	341		
真和志	(n= 431)	75	356		
小禄	(n= 198)	34	164		
首里	(n= 284)	55	229		
5年以下	(n= 53)	11	42		
6～10年	(n= 50)	10	40		
11～20年	(n= 108)	24	84		
21年以上	(n= 1,128)	189	939		
ネット有り	(n= 647)	150	497		
ネット無し	(n= 692)	84	608		



年代別でみると20代が電子行政サービスの利用率が最も高く、次いで40代、30代の順となっている。比較的若い世代は、電子行政サービスの利用率が高いことが伺える。しかしながら2017年の「めざそう値」である30%には、全ての年代においてまだまだ開きがあることから、若い世代へ対してさらなる活用の促進や、比較的利用率の低い高齢者に対して、利用しやすい環境を整える対策も必要と思われる。

インターネット環境の有無でみると、インターネット環境を有する市民は、有しない市民の2倍近い利用率となっている。2017年の「めざそう値」30%を達成するには、インターネットの普及も重要な要因のひとつである。

(8) 自分の適正体重に見合った食事量を理解している成人の割合（指標番号 22）

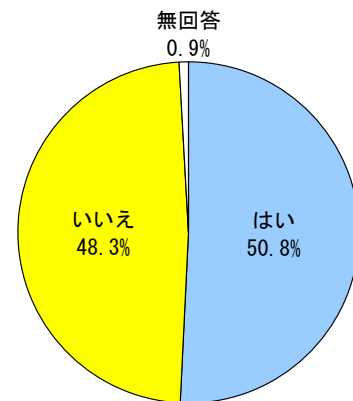
政策体系	都市像	地域力を活かし、生きがいをもって支えあう健康都市
	政策	健康づくりと地域医療の充実
	施策	市民自ら健康の保持と増進を図れるよう支援する

質問 39. あなたは、自分の標準体重（適正体重）に見合った食事の量を知っていますか？

1. はい 2. いいえ

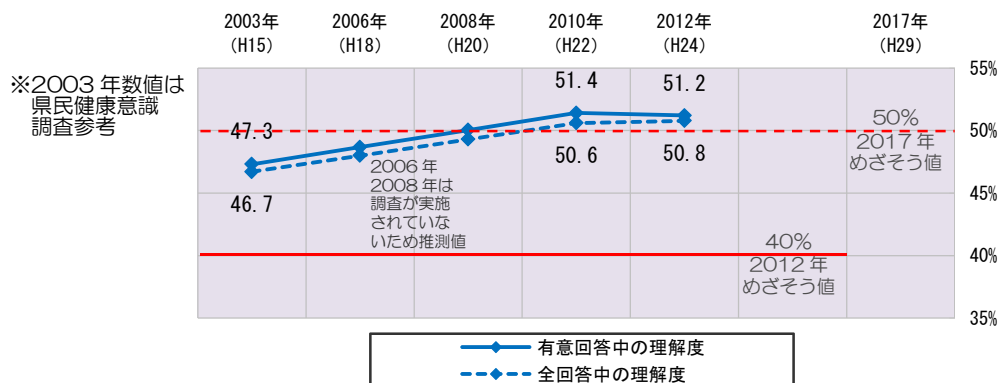
〔今回調査における指標「めざそう値」の達成状況〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
はい	688人 (50.8%)	688人 (51.2%)	2012年目標値 (40.0%)
いいえ	655人 (48.3%)	655人 (48.8%)	↓
有意回答 計	1,343人 (99.1%)	1,343人 (100.0%)	(50.0%)
無回答	12人 (0.9%)	—	2017年目標値
合 計	1,355人 (100.0%)	—	



当該調査は、H15に「県民健康意識調査」により実施され、H22以降本調査で確認を行っているものである。

H22の調査以降、全回答で2012年の「めざそう値」40%、2017年の「めざそう値」50%を達成しているが、前回と比較して有意回答では0.2ポイント減少しており、減少傾向が続くと2017年の「めざそう値」を達成出来なくなる可能性があることから、現状の維持、向上を図らなければならない。

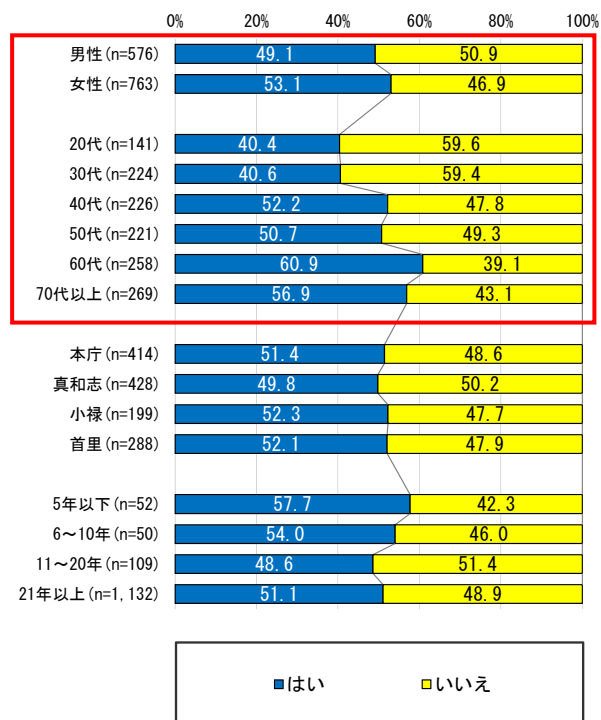


自分の適正体重に見合った食事量を理解している市民は 50.8%(有意回答で 51.2%)で、2012 年の「めざそう値」を達成しているが、2017 年の「めざそう値」を達成するには、現在の把握率を維持、向上を図る必要がある。

[今後の課題]

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。
ここでは、無回答を除いた有意回答のみで割合を算出した。

選択項目	はい	いいえ
回答者属性 (n=合計)		
男性 (n= 576)	283	293
女性 (n= 763)	405	358
20代 (n= 141)	57	84
30代 (n= 224)	91	133
40代 (n= 226)	118	108
50代 (n= 221)	112	109
60代 (n= 258)	157	101
70代以上 (n= 269)	153	116
本庁 (n= 414)	213	201
真和志 (n= 428)	213	215
小禄 (n= 199)	104	95
首里 (n= 288)	150	138
5年以下 (n= 52)	30	22
6～10年 (n= 50)	27	23
11～20年 (n= 109)	53	56
21年以上 (n= 1,132)	578	554



性別でみると、体重に見合った食事量を把握している割合が高いのは女性となっている。

年代別では、60代が最も高く、比較的高い年代は、自分の適正な食事量を把握していることが伺える。20代～30代の若い世代は、自分の体重に見合った適正な食事量を把握している割合が低く、男性及び20代、30代に重点的に周知を行う必要がある。

沖縄県の肥満度は、男女共に全国1位と言われており、生活習慣病の予防や、健康管理に対する意識啓発を推進していかなければならない。

自分の適正体重に見合った食事量の把握については、男性や、20代～30代の若い世代に対する周知、指導が2017年の「めざそう値」達成のためのポイントである。

(9) かかりつけ医を決めている人の割合（指標番号 24）

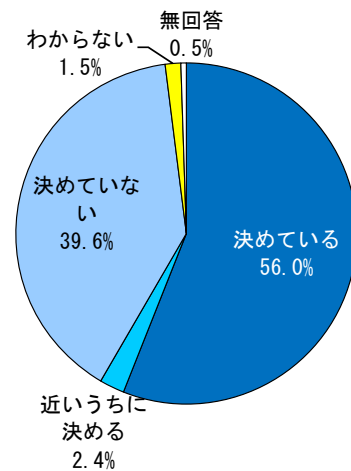
政策体系	都市像	地域力をいかし、生きがいをもって支えあう健康都市
	政策	健康づくりと地域医療の充実
	施策	かかりつけ医など身近な地域で医療の相談ができる

質問 40. あなたは、かかりつけ医を決めていますか。

1. 決めている 2. 近いうちに決める 3. 決めていない 4. わからない

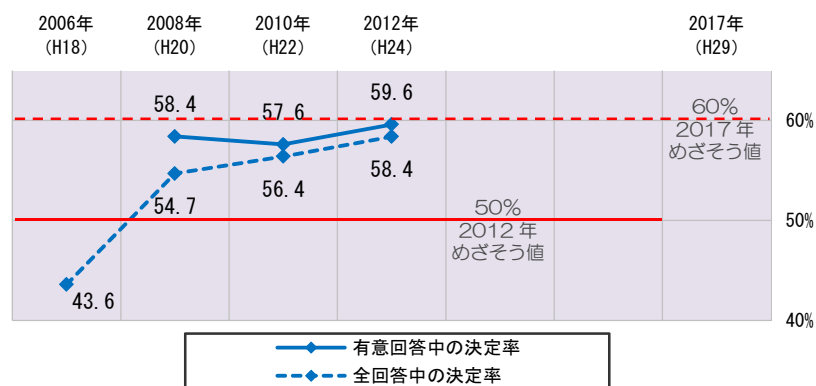
〔今回調査における指標「めざそう値」の達成状況〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
決めている	759人 (56.0%)	791 人 (59.6%)	2012年目標値 (50.0%)
近いうちに決める	32人 (2.4%)		
決めていない	537人 (39.6%)	537 人 (40.4%)	↓ (60.0%) 2017年目標値
有意回答 計	1,328人 (98.0%)	1,328 人 (100%)	
わからない	20人 (1.5%)	—	
無回答	7人 (0.5%)		
合 計	1,355人 (100.0%)		



かかりつけ医を「決めている・近いうちに決める」と回答した市民の割合は、全回答で 58.4% となっており、H20 以降 2012 年の「めざそう値」50%以上を継続しており、概ね良好な経過と考えられる。

今後 2017 年の「めざそう値」達成に向けて、約 4 割近い「決めていない」と回答した市民に対し、地域の医療機関や専門機関の周知を行っていく必要がある。

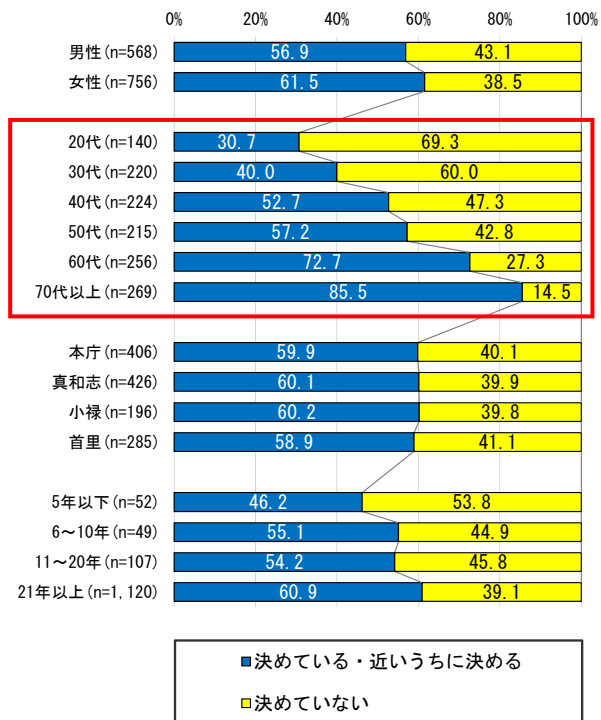


かかりつけ医を決めている市民は 58.4%(有意回答では 59.6%)で、2012 年の「めざそう値」を達成している。

〔今後の課題〕

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。
ここでは、「わからない」無回答を除いた有意回答のみで割合を算出した。

選択項目 回答者属性 (n=合計)		決めていない	決めている・近い
		決めている・近い	決めていない
男性 (n= 568)		323	245
女性 (n= 756)		465	291
20代 (n= 140)		43	97
30代 (n= 220)		88	132
40代 (n= 224)		118	106
50代 (n= 215)		123	92
60代 (n= 256)		186	70
70代以上 (n= 269)		230	39
本庁 (n= 406)		243	163
真和志 (n= 426)		256	170
小禄 (n= 196)		118	78
首里 (n= 285)		168	117
5年以下 (n= 52)		24	28
6～10年 (n= 49)		27	22
11～20年 (n= 107)		58	49
21年以上 (n= 1,120)		682	438



年代別でみると、年代に比例して、かかりつけ医を「決めている」と回答した市民の割合は高くなっており、70代以上では8割以上が、自身のかかりつけ医を決めていることがわかった。

最も低い20代と、最も高い70代以上では54.8ポイントの差があることから、2017年の「めざそう値」を達成するためには、特に若い世代へ、かかりつけ医の特定を薦めていく必要がある。

2007年に実施された、沖縄県保健医療県民意識調査と比較すると、男女共に、かかりつけ医を「決めている」と回答した割合は高くなっており、市民の意識は沖縄県全体より高い。

選択項目 回答者属性	医療機関に決める・近い	医療機関は
男性	52.1%	47.9%
女性	59.8%	40.2%
20代	28.9%	71.1%
30代	40.7%	59.3%
40代	45.1%	54.9%
50代	62.8%	37.2%
60代	69.9%	30.1%
70代以上	87.0%	13.0%

※2007年沖縄保健医療県民意識調査より

(県調査の選択項目「病気になるといつも相談するかかりつけの医師がいる」「この病気ならこの先生という意味でなら、かかりつけの医師がいる」「かかりつけの医療機関ならあるが、みてもらう医師は決まっていない」の3つをまとめて当該調査との比較を行った)

(10) バリアフリーに配慮されていると感じる人の割合（指標番号 28）

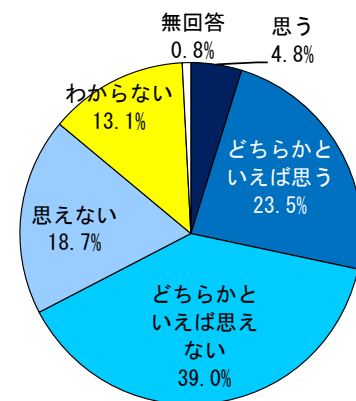
政策体系	都市像	地域力をいかし、生きがいをもって支えあう健康都市
	政策	ユニバーサルデザインのまちづくり
	施策	高齢者や障がい者が暮らしやすいまちをつくる

質問 41. 市内の道路や公園、建物のバリアフリー化（高齢者や障がい者も使いやすくすること）について、配慮されていると思いますか。

1. 思う 2. どちらかといえば思う 3. どちらかといえば思えない
4. 思えない 5. わからない

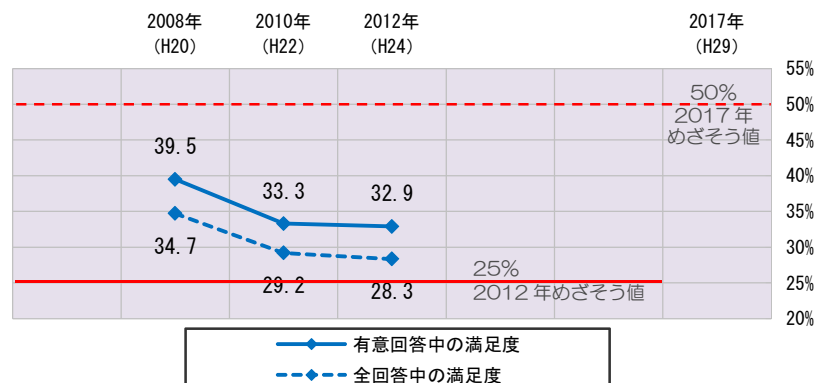
〔今回調査における指標「めざそう値」の達成状況〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
思う	65人 (4.8%)	384 人 (32.9%)	2012年目標値 (25.0%) ↓ (50.0%) 2017年目標値
どちらかといえば思う	319人 (23.5%)		
どちらかといえば思えない	529人 (39.0%)	782 人 (67.1%)	
思えない	253人 (18.7%)		
有意回答 計	1,166人 (86.1%)	1,166 人 (100%)	
わからない	178人 (13.1%)	—	
無回答	11人 (0.8%)		
合 計	1,355人 (100.0%)		



バリアフリーに対する配慮については、全回答で 28.3% の市民が満足しており、調査を開始した H20 当初から 2012 年の「めざそう値」を達成している。しかしながら、バリアフリーに対する市民の意識が年々高まっている影響か、満足度は年々減少しており、現状では 2017 年の「めざそう値」50% 達成は難しいと考えられる。

バリアフリー化は施設によっては、大掛かりな整備等が必要となることから、市民の満足度を増加させるためには、長期的な目標の設定も考慮する必要があると思われる。



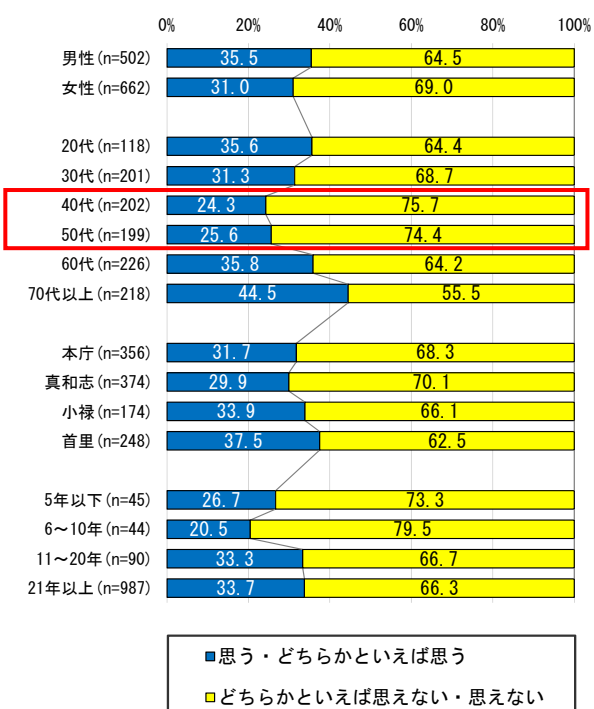
バリアフリーに配慮されていると感じている市民は 28.3%(有意回答では 32.9%)で、2012年の「めざそう値」を達成している。

市民満足度を向上させるためには、長期的な取り組みが必要と考えられる。

[今後の課題]

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、「わからない」無回答を除いた有意回答のみで割合を算出した。

回答者属性 (n=合計)	選択項目	ええ・どちらかといえば思う・ええ・どちらかといえば思う	
		ええ・どちらかといえば思う	ええ・どちらかといえば思う
男性 (n= 502)		178	324
女性 (n= 662)		205	457
20代 (n= 118)		42	76
30代 (n= 201)		63	138
40代 (n= 202)		49	153
50代 (n= 199)		51	148
60代 (n= 226)		81	145
70代以上 (n= 218)		97	121
本庁 (n= 356)		113	243
真和志 (n= 374)		112	262
小禄 (n= 174)		59	115
首里 (n= 248)		93	155
5年以下 (n= 45)		12	33
6～10年 (n= 44)		9	35
11～20年 (n= 90)		30	60
21年以上 (n= 987)		333	654



バリアフリーに対する満足度を年代別でみると、40代が24.3%と最も低く、次いで50代となっている。前回調査では30代、次いで50代が低かったことから、年代がシフトしているのではないかと考えられる。

年代別でみると、70代以上の満足度は高くなっており、比較的高い年代の市民から好評価を得ている結果となった。要因としては、世代によって利用する施設や行動範囲が異なり、高齢者は、バリアフリーが進んでいる施設等を主に利用し評価をしているのではないかと考えられる。

40代や50代が、どのような施設や場所で不満を感じているかを明らかにしていくことも2017年の「めざそう値」達成に繋がると思われる。

(11) 障がい者が共に暮らせる環境づくりの満足度（指標番号 29）

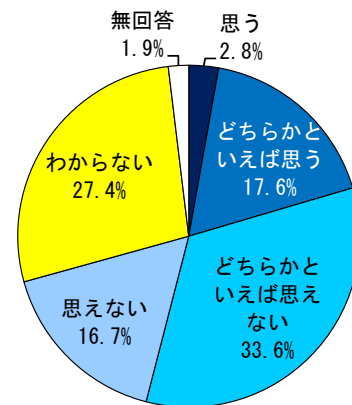
政策体系	都市像	地域力をいかし、生きがいをもって支えあう健康都市
	政策	ともに生きる心を育てる
	施策	相互に理解し、支えあう大切さを共有できるよう支援する

質問 42. 那覇市は、障がい者が地域でともに暮らせる環境整備（相談体制の整備、障がい者の介護、心のバリアフリーなど）がすすんでいると思いますか。

1. 思う 2. どちらかといえば思う 3. どちらかといえば思えない
4. 思えない 5. わからない

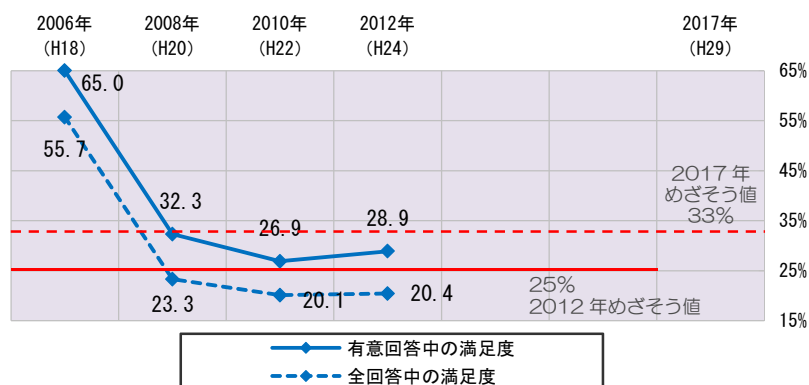
[今回調査における指標「めざそう値」の達成状況]

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
思う	38人 (2.8%)	277人 (28.9%)	2012年目標値 (25.0%)
どちらかといえば思う	239人 (17.6%)		
どちらかといえば思えない	455人 (33.6%)	681人 (71.1%)	↓ (33.0%) 2017年目標値
思えない	226人 (16.7%)		
有意回答 計	958人 (70.7%)	958人 (100%)	
わからない	371人 (27.4%)	—	
無回答	26人 (1.9%)		
合 計	1,355人 (100.0%)		



障がい者が共に暮らせる環境づくりについての満足度は、有意回答で 28.9%となっており 2012 年の「めざそう値」を達成している。

今後は「どちらかといえば思えない」と回答した市民を、「思う・どちらかといえば思う」へと移行させていくために、さらなる努力が必要である。



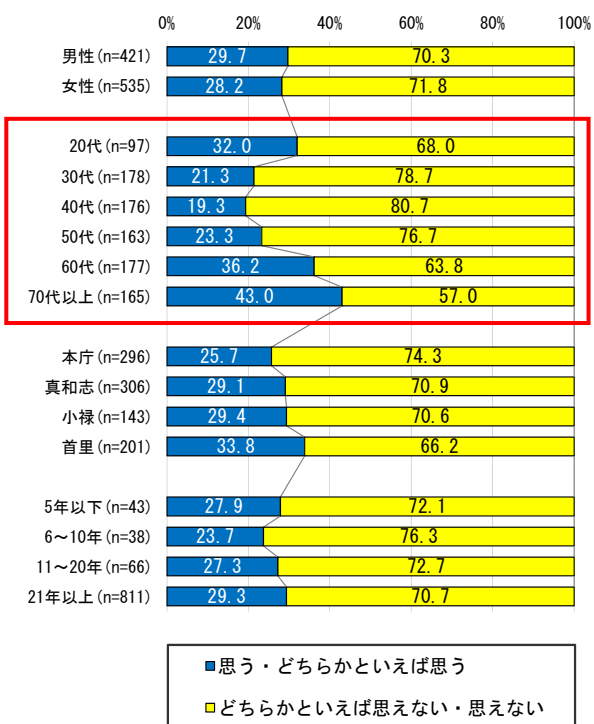
障がい者が共に暮らせる環境づくりが進んでいると感じている市民は 20.4% (有意回答で 28.9%) で、有意回答では 2012 年の「めざそう値」を達成している。

2017 年の「めざそう値」を達成するためには、「どちらかといえば思えない」と感じている市民の満足度を改善していく必要がある。

[今後の課題]

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、「わからない」無回答を除いた有意回答のみで割合を算出した。

回答者属性 (n=合計)	選択項目	割合 (%)	
		思う・どちらか 思えない・思 えない	え・どちらか 思えない・思 えない
男性 (n= 421)		125	296
女性 (n= 535)		151	384
20代 (n= 97)		31	66
30代 (n= 178)		38	140
40代 (n= 176)		34	142
50代 (n= 163)		38	125
60代 (n= 177)		64	113
70代以上 (n= 165)		71	94
本庁 (n= 296)		76	220
真和志 (n= 306)		89	217
小禄 (n= 143)		42	101
首里 (n= 201)		68	133
5年以下 (n= 43)		12	31
6～10年 (n= 38)		9	29
11～20年 (n= 66)		18	48
21年以上 (n= 811)		238	573



当該調査の年代別の割合は、前出の施設のバリアフリーに対する配慮についての質問同様、70代以上で高く評価され、40代で最も評価が低く次いで30代という結果となった。

高齢者の満足度が高くなっている一方で、実際に障がい者の介護をする30代、40代の満足度が低いという点では、より一層のサービス向上が求められている。

30代や40代が抱える不満を解消し、地域の相談体制の充実や、市民の福祉に対する理解と関心の向上が2017年の「めざそう値」達成の鍵となってくる。

(12)「困ったときに助けてくれるまちである」と感じている人の割合（指標番号 31）

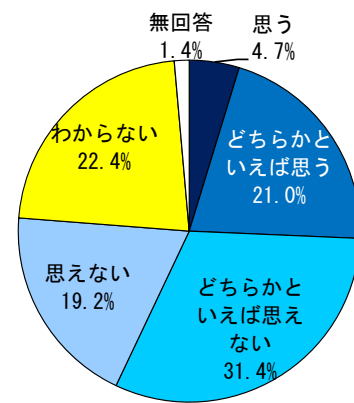
政策体系	都市像	地域力をいかし、生きがいをもって支えあう健康都市
	政策	地域の支えあい
	施策	悩みや問題の相談ができるまちをつくる

質問 43. あなたは、行政や民間相談機関、地域の人などが「困ったときには助けてくれる（相談できる）」と感じていますか。

1. 思う 2. どちらかといえば思う 3. どちらかといえば思えない
4. 思えない 5. わからない

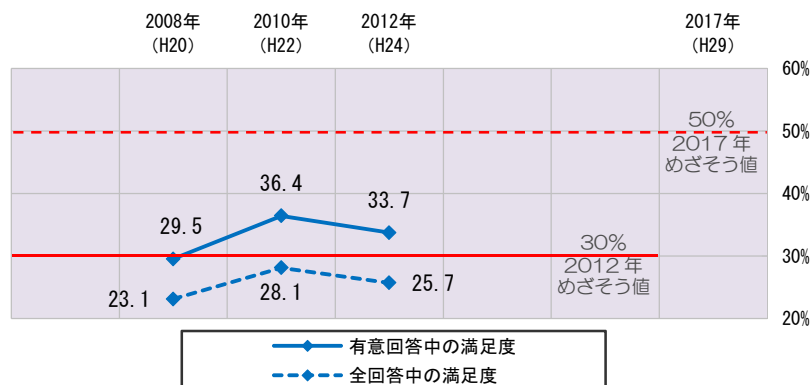
〔今回調査における指標「めざそう値」の達成状況〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
思う	64人 (4.7%)	348人 (33.7%)	2012年目標値 (30.0%) ↓ (50.0%) 2017年目標値
どちらかといえば思う	284人 (21.0%)		
どちらかといえば思えない	425人 (31.4%)		
思えない	260人 (19.2%)	685人 (66.3%)	
有意回答 計	1,033人 (76.2%)	1,033人 (100%)	
わからない	303人 (22.4%)	—	
無回答	19人 (1.4%)		
合 計	1,355人 (100.0%)		



当該指標の満足度は全回答では 25.7%、有意回答では 33.7%となっており、2012 年の「めざそう値」30%は、有意回答では達成されている結果となった。

しかしながら、前回調査から満足度は減少しており、2017 年の「めざそう値」50%を達成するためには、行政の取り組みはもちろんのこと、地域や家庭単位で協力し、支え合う意識を市民が持たなければ、大きな改善が望めないと思われる。

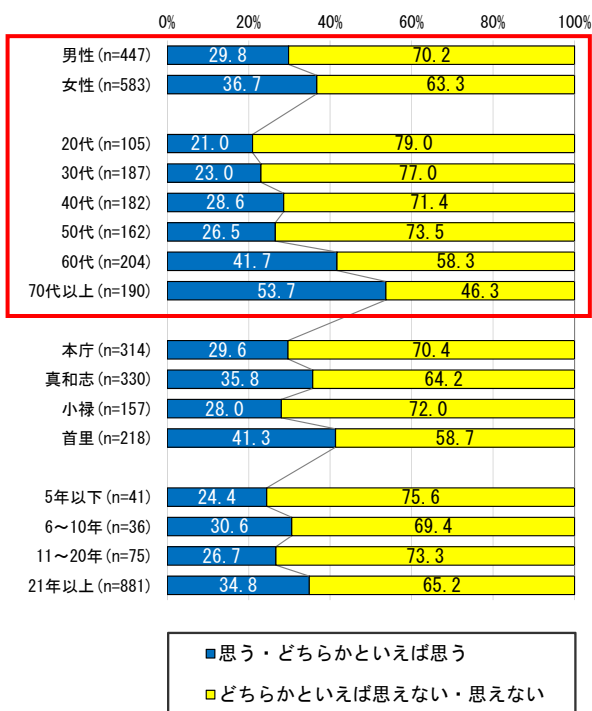


「困ったときに助けてくれるまちである」と感じている市民は 25.7%（有意回答で 33.7%）で、有意回答では 2012 年の「めざそう値」を達成している。

【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、「わからない」無回答を除いた有意回答のみで割合を算出した。

回答者属性 (n=合計)	選択項目	と思う え・ど ちう か	えばど な思 い え ら な か い と ・ い 思 え
男性 (n= 447)		133	314
女性 (n= 583)		214	369
20代 (n= 105)		22	83
30代 (n= 187)		43	144
40代 (n= 182)		52	130
50代 (n= 162)		43	119
60代 (n= 204)		85	119
70代以上 (n= 190)		102	88
本庁 (n= 314)		93	221
真和志 (n= 330)		118	212
小禄 (n= 157)		44	113
首里 (n= 218)		90	128
5年以下 (n= 41)		10	31
6～10年 (n= 36)		11	25
11～20年 (n= 75)		20	55
21年以上 (n= 881)		307	574



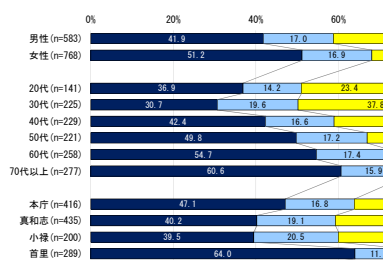
性別でみると、困った時に助けてくれるまちであると感じている割合は、女性が 6.9 ポイント高くなっている。前回調査でも女性の割合が高く、男性との差は 3.3 ポイントあり、年々その差は広がっている。

年代別でみると、概ね年代が高くなるにつれて満足度も高くなっている。

困った時に相談できる人や機関は、行政だけでなく、地域に委ねる部分も大きく、上の自治会加入率の属性グラフと比較してもわかるように、比較的地域との関わりが多い属性ほど満足度も高くなっている。

那覇市が推進している「協働によるまちづくり」をより充実・強化する事や、行政相談機関等の周知等を図ることで、2017 年の「めざそう値」達成もみえてくるのではないかと考えられる。

質問 8. 自治会加入率



(13) 地球環境保護のための実践項目数（指標番号 39）

政策体系	都市像	人・自然・地球にやさしい環境共生都市
	政策	地球環境への配慮
	施策	省エネやエコ商品の利用など市民のエコライフを促進する

質問 44. 地球環境保護のため、あなたが実践していることを次の中からお選びください。この質問では、何個選んでも結構です。

- | | | |
|----------------------|---------------------------|------------------|
| 1. 電気の節約 | 2. 水の節約 | 3. マイバッグの使用 |
| 4. ごみの減量 | 5. 紙・布・缶・ビン・ペットボトル・草木の分別 | |
| 6. 生ごみの堆肥化 | 7. エコドライブの実践 | 8. 公共交通の利用 |
| 9. ノーマイカーデーの実践 | 10. 地産地消の実践 | 11. 環境にやさしい商品の選択 |
| 12. ベランダ・屋上・壁面等緑化の実践 | 13. 太陽光発電の利用 | 14. 太陽熱温水器の利用 |
| 15. ハイブリッド車・低公害車等の利用 | 16. 省エネ家電・製品の利用 | |
| 17. エコ住宅の新築・エコ住宅への改築 | 18. その他（マイはし、マイボトル、裏紙使用他） | |

[今回調査における指標「めざそう値」の達成状況]

1 人当たりの実践項目数(平均) =

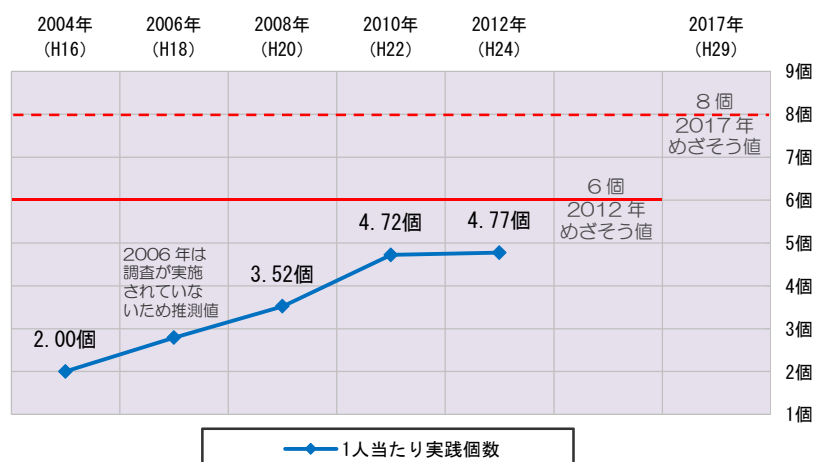
実践項目の選択総数 6,466 ÷ 回答者数 1,355 ÷ 4.77 (前回 4.72)

実践項目の選択個数	回答者数	1人当たり実践項目数	前回の1人当たり実施個数 (前回調査比)	めざそう値
6,466 個	1,355 人	4.77 個	4.72 個 (+0.05個)	6個 (2012年) 8個 (2017年)

当該調査では、選択個数の総和を、1 個も回答しなかった 27 人（実践個数 0 とみなす）を含めた 1,355 人で割り、1 人当たりの実践個数を算出した。

結果として、前回の調査よりも 0.05 ポイント向上しているが、2012 年の「めざそう値」達成には至らなかった。

H16 の調査から、毎回約 1 ポイント近い上昇率を維持していたが、今回調査ではごくわずかな増加に留まった。現状では 2017 年の「めざそう値」達成も難しいと思われ、市民の意識改革に効果的な取り組みを打ち出していかなければならない。



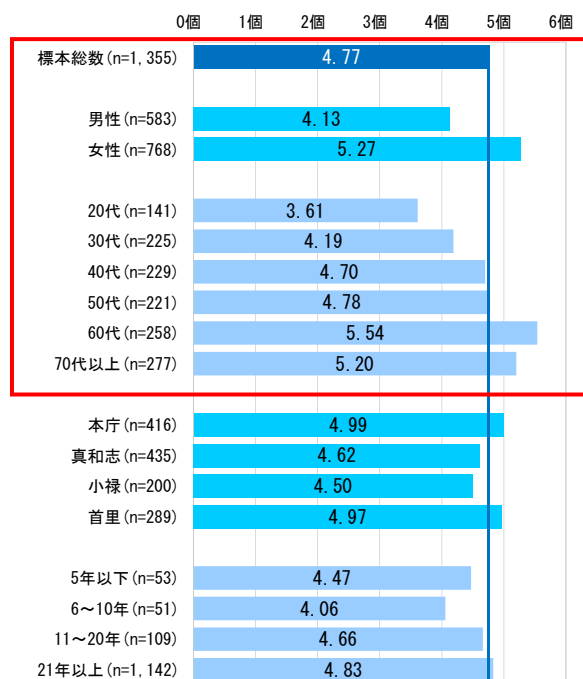
市民が実践しているエコ活動の項目数は、平均 4.77 個で 2012 年の「めざそう値」を達成していない。

2017 年の「めざそう値」を達成するためには、市民の意識改革に効果的な対策を打ち出す必要がある。

〔今後の課題〕

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、標本総数の平均実践個数 4.77 個と、属性別の平均実践個数との比較を行った。

選択項目	実践個数 (個)	実践個数/人 (個)
標本総数 (n= 1,355)	6,466	4.77
男性 (n= 583)	2,410	4.13
女性 (n= 768)	4,045	5.27
20代 (n= 141)	509	3.61
30代 (n= 225)	943	4.19
40代 (n= 229)	1,077	4.70
50代 (n= 221)	1,057	4.78
60代 (n= 258)	1,429	5.54
70代以上 (n= 277)	1,440	5.20
本庁 (n= 416)	2,075	4.99
真和志 (n= 435)	2,008	4.62
小禄 (n= 200)	899	4.50
首里 (n= 289)	1,435	4.97
5年以下 (n= 53)	237	4.47
6～10年 (n= 51)	207	4.06
11～20年 (n= 109)	508	4.66
21年以上 (n= 1,142)	5,514	4.83



全体でみても、2012 年の「めざそう値」である 6 個を上回る属性はなく、性別では、女性がエコ活動の実践個数が多くなっている。

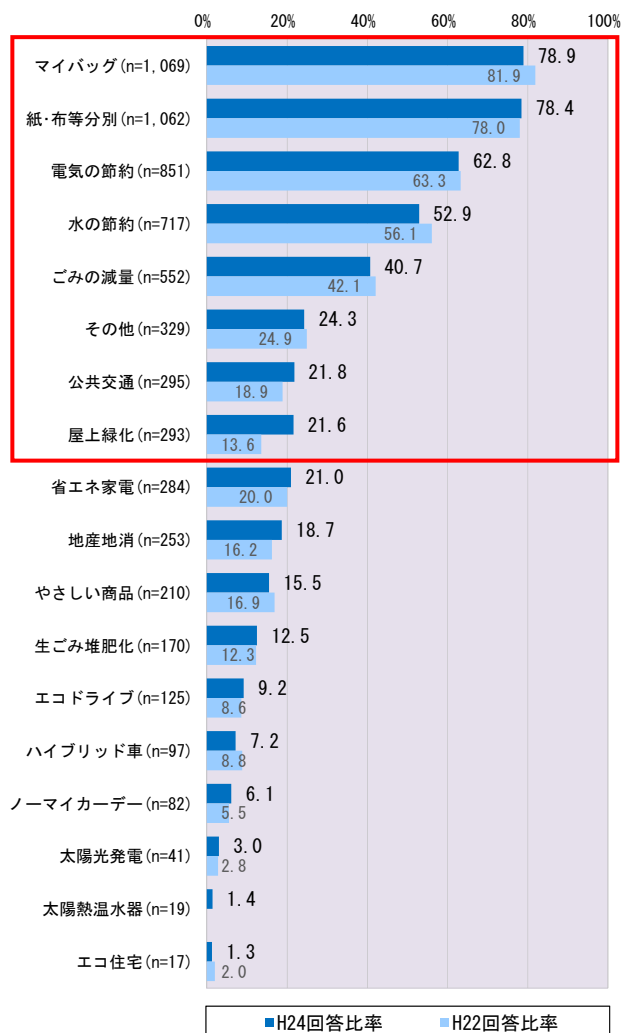
年代では 60 代の 5.54 個が最も多く、次いで 70 代以上の 5.2 個、50 代の 4.78 個となっており、以上の年代は、那覇市全体の平均個数を上回っている。エコ活動については高い年代ほど積極的に取り組んでいることが伺える。特に実践個数の少ない、20 代と那覇市全体の平均個数には 1.16 ポイントの差があり、若い世代と男性に対する意識の啓発が重点的に必要だと考えられる。

エコ活動は、地球環境への配慮として重要な市民の役割であり、継続して実施し続けなければならないことを周知、啓発していくことが重要である。

●実践項目の順位

ここでは、実践個数の多い順からグラフの掲載を行い、経年変化をみるために、前回調査の割合と共に掲載を行った。

順位	選択項目	回答数
1位	マイバッグの使用	1,069
2位	紙・布・缶・ビン・ペットボトル・草木の分別	1,062
3位	電気の節約	851
4位	水の節約	717
5位	ごみの減量	552
6位	その他（マイはし、マイボトル、裏紙使用他）	329
7位	公共交通の利用	295
8位	ベランダ・屋上・壁面緑化	293
9位	省エネ家電・製品の利用	284
10位	地産地消の実践	253
11位	環境にやさしい商品の選択	210
12位	生ごみの堆肥化	170
13位	エコドライブの実践	125
14位	ハイブリッド車・低公害車等の利用	97
15位	ノーマイカーデーの実践	82
16位	太陽光発電の利用	41
17位	太陽熱温水器の利用	19
18位	エコ住宅の新築・エコ住宅への改築	17



1位から6位までの順序は前回調査と変動はないが、前回調査より割合が減少している項目が目立つ。1位の「マイバッグの利用」は前回調査より3ポイント減少し、3位の「電気の節約」は0.5ポイント、4位の「水の節約」は3.2ポイント、5位の「ごみの減量」は1.4ポイントの減少がみられる。

「マイバッグの利用」については、レジ袋の有料化が多くスーパー等で実施され、市民にも広く浸透したが、時間の経過により意識が薄れてくる市民もいると推測される。逆に「公共交通の利用」と「ベランダ・屋上・壁面緑化」が増えたということは、この2年で那覇市の施策が少しずつ浸透しているとも考えられる。

上位6項目は、比較的实践しやすい項目であり、市民1人1人が意識して実践していくことで、2017年の「めざそう値」達成も見えてくるのではないかと考えられる。

(14) 生涯学習施策に関する市民満足度（指標番号 52）

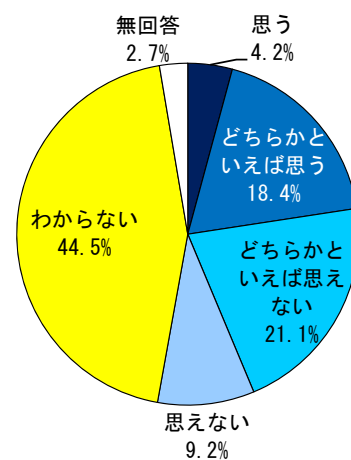
政策体系	都市像	子どもの笑顔あふれる、ゆたかな学習・文化都市
	政策	生涯学習の推進と地域の教育力の向上
	施策	どこでも誰でも生涯学習ができるまちをつくる

質問 45. 本市は、市民の学習意欲に応える学習機会づくりや地域活動の支援・促進を図っていると思いますか。

1. 思う 2. どちらかといえば思う 3. どちらかといえば思えない
4. 思えない 5. わからない

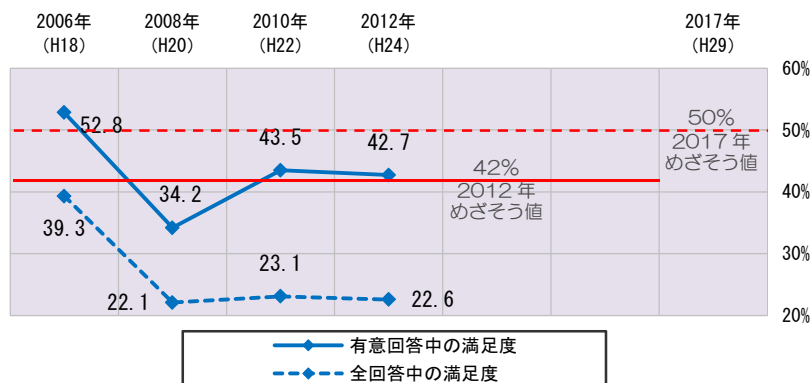
〔今回調査における指標「めざそう値」の達成状況〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
思う	57人 (4.2%)	306 人 (42.7%)	2012年目標値 (42.0%) ↓ (50.0%) 2017年目標値
どちらかといえば思う	249人 (18.4%)		
どちらかといえば思えない	286人 (21.1%)	410 人 (57.3%)	
思えない	124人 (9.2%)		
有意回答 計	716人 (52.9%)	716 人 (100%)	
わからない	603人 (44.5%)	—	
無回答	36人 (2.7%)		
合 計	1,355人 (100.1%)		



生涯学習に対する市民の満足度は、全回答で 22.6% となっているが、有意回答では 42.7% で 2012 年の「めざそう値」を達成している。「わからない」と回答した無効回答が大きな割合を占め、生涯学習に対する適正な評価が見えていない現状もある。

2017 年の「めざそう値」を達成するためには、市が推進する生涯学習の取り組みを、広く市民に周知し、その評価から改善を進めていく必要がある。



ここでは、回答数が多かった「わからない」を含めた割合で算出した。

	0%	20%	40%	60%	80%	100%
男性 (n=570)	21.2	36.5	42.3			
女性 (n=745)	24.8	27.0	48.2			
20代 (n=141)	17.0	33.3	49.6			
30代 (n=224)	18.8	35.3	46.0			
40代 (n=223)	21.5	34.5	43.9			
50代 (n=217)	17.5	36.9	45.6			
60代 (n=250)	27.6	28.0	44.4			
70代以上 (n=260)	32.7	21.5	45.8			
本庁 (n=402)	20.6	31.8	47.5			
真和志 (n=420)	24.5	33.1	42.4			
小祿 (n=197)	22.3	32.0	45.7			
首里 (n=285)	26.3	27.4	46.3			
5年以下 (n=49)	16.3	30.6	53.1			
6～10年 (n=48)	16.7	39.6	43.8			
11～20年 (n=107)	22.4	37.4	40.2			
21年以上 (n=1, 115)	23.9	30.1	46.0			

■ 思う・どちらかといえば思う
 ■ どちらかといえば思えない・思えない
 □ わからない

年代別では 70 代以上の満足度が最も高く、次いで 60 代、40 代の順となっている。「わからない」と回答した割合が高いのが 20 代、30 代の順となっており、若い世代は生涯学習に対する認識度が低いことが伺える。

今後、那覇市の定住者を増やしていくことも2017年の「めざそう値」達成のポイントであると考えられる。

(15) 子育て施策に対する満足度（指標番号 56）

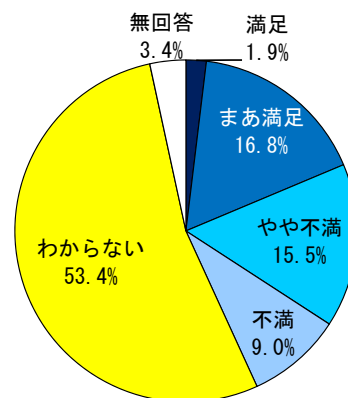
政策体系	都市像	子どもの笑顔あふれる、ゆたかな学習・文化都市
	政策	子育て支援と就学前教育・保育
	施策	家庭や子育てに夢を持てるまちをつくる

質問 46. 本市における子育て支援（保育所での延長保育、公立幼稚園での預かり保育、放課後児童クラブ等）の取り組みについて、満足していますか。

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

〔今回調査における指標「めざそう値」の達成状況〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
満足	26人 (1.9%)	253 人 (43.2%)	2012年目標値 (80.0%) ↓ (90.0%) 2017年目標値
まあ満足	227人 (16.8%)		
やや不満	210人 (15.5%)	332 人 (56.8%)	
不満	122人 (9.0%)		
有意回答 計	585人 (43.2%)	585 人 (100%)	
わからない	724人 (53.4%)	—	
無回答	46人 (3.4%)		
合 計	1,355人 (100.0%)		

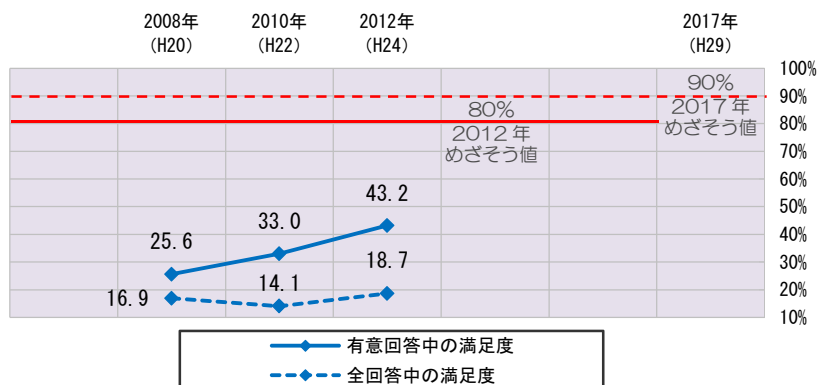


今回の調査では那覇市で実際に取り組んでいる子育て支援の具体例を示して質問した。

全回答における満足度は、前回の 14.1%を 4.6 ポイント上回り、有意回答では 10.2 ポイント増加しているが、2012 年の「めざそう値」である 80%は達成していない結果となった。

子育てに対する関心、認識度には、性別や年代で大きな差があり今回調査でも「わからない」と回答した市民の割合は 5 割を超えている。

今後、各年代のニーズに合った子育て支援の情報提供等、効果的な取り組みを打ち出していく必要がある。

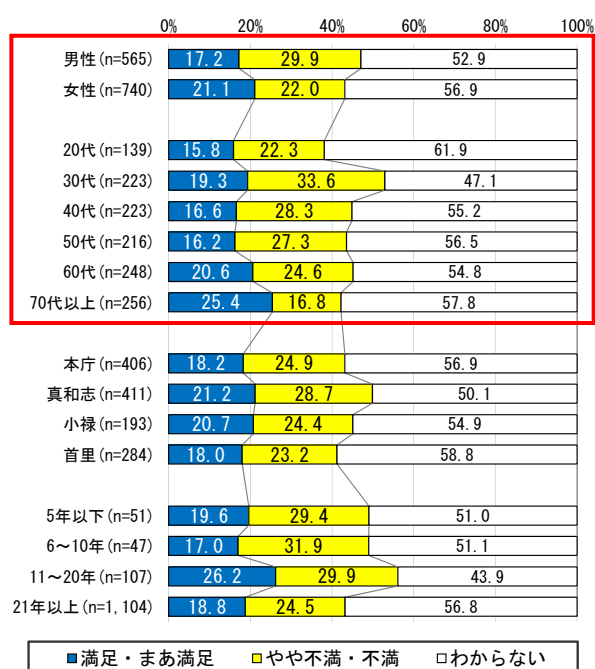


子育て支援に満足している市民は 18.7%（有意回答で 43.2%）で、2012 年「めざそう値」と大きくかけ離れており、2017 年「めざそう値」達成には、年代に適した情報の提供等で「わからない」と回答した市民を減小させる努力が必要である。

〔今後の課題〕

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、回答数が多かった「わからない」を含めた割合で算出した。

回答者属性 (n=合計)	選択項目	満足・まあ満足	やや不満・不満	わからない
男性 (n= 565)		97	169	299
女性 (n= 740)		156	163	421
20代 (n= 139)		22	31	86
30代 (n= 223)		43	75	105
40代 (n= 223)		37	63	123
50代 (n= 216)		35	59	122
60代 (n= 248)		51	61	136
70代以上 (n= 256)		65	43	148
本庁 (n= 406)		74	101	231
真和志 (n= 411)		87	118	206
小禄 (n= 193)		40	47	106
首里 (n= 284)		51	66	167
5年以下 (n= 51)		10	15	26
6～10年 (n= 47)		8	15	24
11～20年 (n= 107)		28	32	47
21年以上 (n= 1,104)		207	270	627



性別で子育て支援の満足度に対し「わからない」と回答した割合が高かったのは女性という結果となった。これには既に子育てを終え、支援体制の現状等がわからない世代も含まれていると思われる。また、男性の不満度が女性より高くなっており、要因としては、男女問わず子育てを行うことが当たり前となりつつある現代で、子育てに対する制度や支援等は、女性の立場に立って取り組まれていることが多く、男性の立場では不満に感じるケースも多いのではないと思われる。

年代別でみると、30代の不満度が最も高く、次いで40代となっており、現在子育てに関わっていると思われる世代の不満度が比較的高い結果となっている。

「わからない」と回答した割合が高いのが20代、70代以上となっており、年代によっては子育て施策の現状を把握しておらず、無効回答を減らすことが難しいと考えられ、当該質問を「子育て中の市民」に限定したほうが、適正な評価を得られるのではないと思われる。

(16) 交通手段に占める自家用車の割合（指標番号 103）

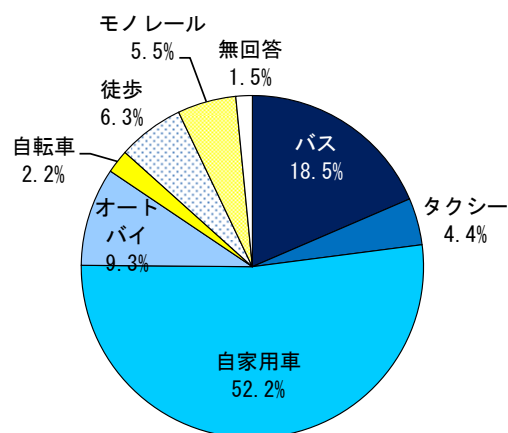
政策体系	都市像	安心、安全で快適な亜熱帯庭園都市
	政策	交通体系の整備
	施策	誰もが移動しやすいまちをつくる

質問 47. あなたが、ふだん使っている主な交通手段を次の中から 1 つお選びください。

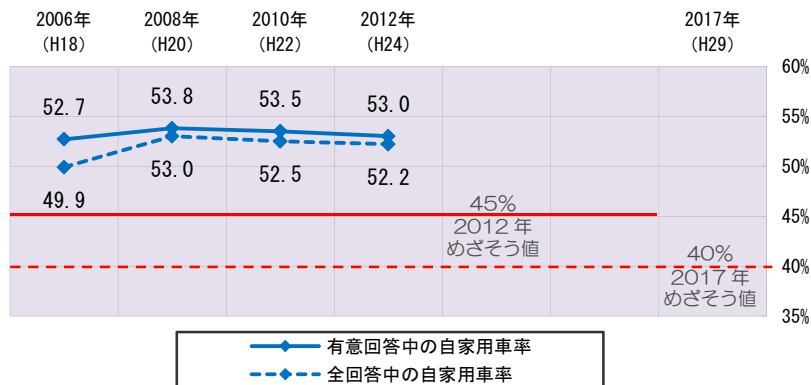
- | | | | |
|--------|---------|----------|----------|
| 1. バス | 2. タクシー | 3. 自家用車 | 4. オートバイ |
| 5. 自転車 | 6. 徒歩 | 7. モノレール | |

[今回調査における指標「めざそう値」の達成状況]

選択項目	回答数		めざそう値 (%)
	全回答%	有意回答%	
バス	251人 (18.5%)	(18.8%)	2012年目標値 (45.0%) ↓ (40.0%) 2017年目標値
タクシー	60人 (4.4%)	(4.5%)	
自家用車	707人 (52.2%)	(53.0%)	
オートバイ	126人 (9.3%)	(9.4%)	
自転車	30人 (2.2%)	(2.2%)	
徒歩	85人 (6.3%)	(6.4%)	
モノレール	75人 (5.5%)	(5.6%)	
有意回答 計	1,334人 (98.4%)	(99.9%)	
無回答	21人 (1.5%)	—	
合 計	1,355人 (100%)	—	



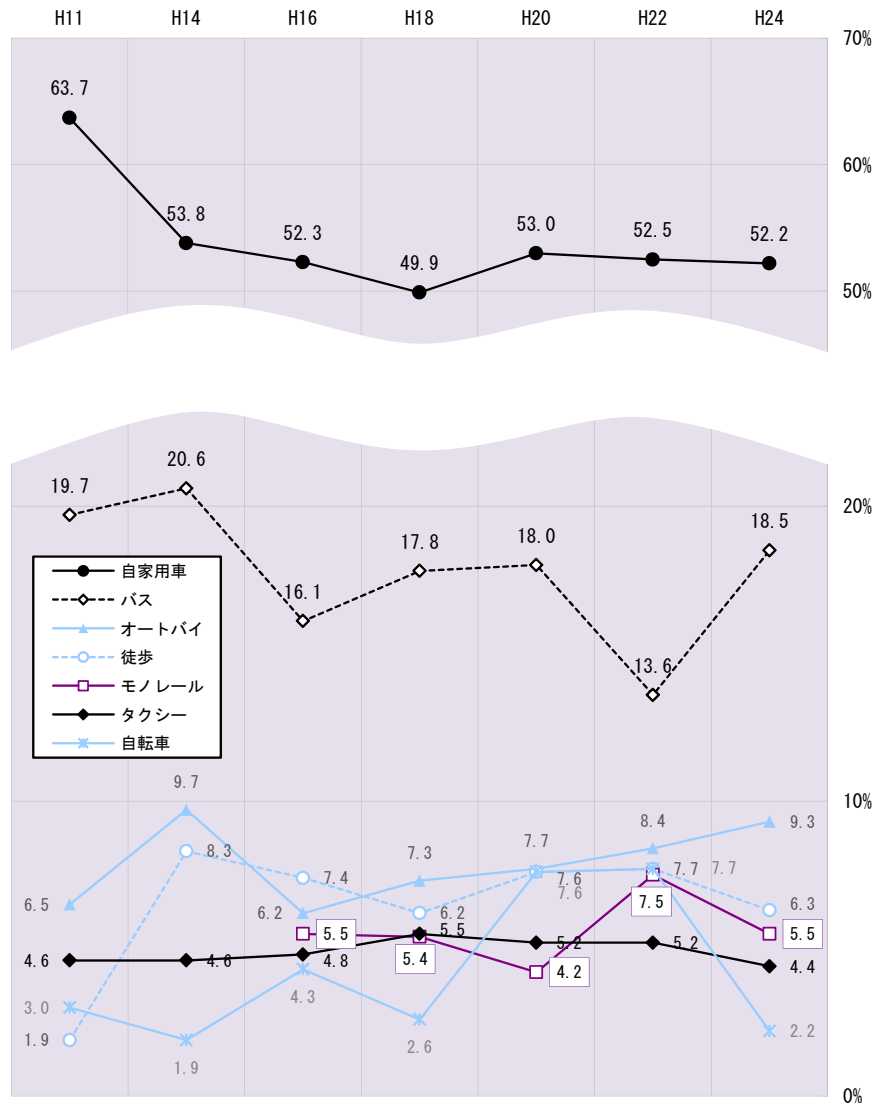
自家用車を利用する市民の割合を、2012 年には 45%、2017 年までには 40%まで減らすことを目標としている指標であり、今回調査では 2012 年の「めざそう値」は達成できない結果となった。H20 以降自家用車の利用割合は緩やかに減少しているが、2012 年の「めざそう値」である 45%には 8 ポイントの差があり、これまでの取り組みを見直し、対策を打ち出さないと 2017 年の目標達成も困難と考えられる。



市民の交通手段に占める自家用車の割合は 52.2%（有意回答で 53%）で、2012 年の「めざそう値」を達成していない。

2017 年の「めざそう値」を達成するには、効果的な対策を講じる必要がある。

●主な交通手段の経年変化の状況



自家用車の利用率については、H11 からの調査以降わずかな増減がありながらも、全体的には減少傾向となっているが、非常に緩やかな減少であり、効果的な対策を講じない限り、2017 年の「めざそう値」達成には程遠いと思われる。

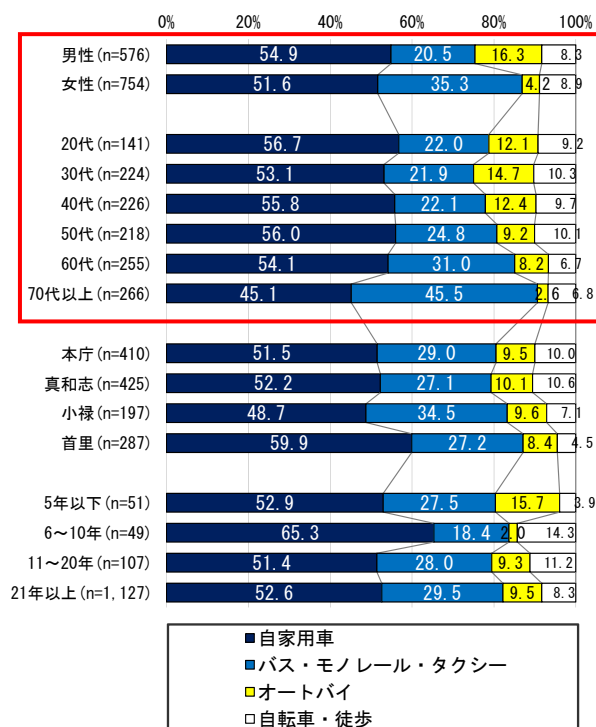
自家用車の次にバスの利用率が高く、H20 から H22 にかけては利用率が大きく減少したが、今回調査では 4.9 ポイント増加している。モノレールとバスの利用率は反比例している傾向がみられ、バスとモノレールの乗り継ぎ等がスムーズに利用出来れば、公共交通機関を利用する市民の割合も増えるのではないかと考えられる。

【今後の課題】

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。

ここでは、無回答を除き「自家用車」、「バス・モノレール・タクシー」の公共交通機関、「オートバイ」「自転車・徒歩」に分けて割合を算出した。

選択項目 回答者属性 (n=合計)	自家用車	バス・モノレール・タクシー	オートバイ	自転車・徒歩
男性 (n= 576)	316	118	94	48
女性 (n= 754)	389	266	32	67
20代 (n= 141)	80	31	17	13
30代 (n= 224)	119	49	33	23
40代 (n= 226)	126	50	28	22
50代 (n= 218)	122	54	20	22
60代 (n= 255)	138	79	21	17
70代以上 (n= 266)	120	121	7	18
本庁 (n= 410)	211	119	39	41
真和志 (n= 425)	222	115	43	45
小禄 (n= 197)	96	68	19	14
首里 (n= 287)	172	78	24	13
5年以下 (n= 51)	27	14	8	2
6～10年 (n= 49)	32	9	1	7
11～20年 (n= 107)	55	30	10	12
21年以上 (n= 1,127)	593	333	107	94



性別でみると、自家用車の利用率は男性のほうが高くなっており、公共交通機関の利用率は女性より 14.8 ポイント低くなっている。

年代別でみると、20 代が自家用車の利用率が最も高く、次いで 50 代、40 代の順となっている。30 代はオートバイの利用率が高くなっており、公共交通機関の利用率は最も低くなっている。

居住地区別でみると、小禄地区は、自家用車の利用率が最も低く、公共交通機関の利用率は最も高くなっている。

自家用車の利用を減らすためにも、公共交通機関の利用者を増加させる必要性があり、利用率の低い男性や、20 代～40 代の若い世代に利用を呼び掛けていく必要がある。

(17) 身近な道路の快適さ・使いやすさについての満足度（指標番号 104）

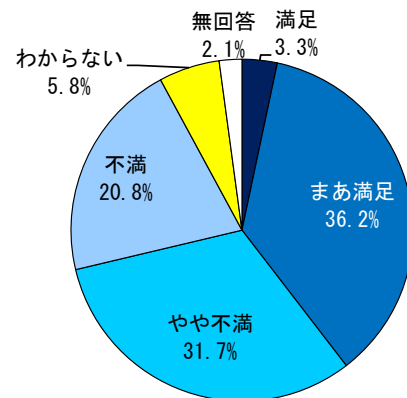
政策体系	都市像	安心・安全で快適な亜熱帯庭園都市
	政策	交通体系の整備
	施策	体系的な道路網をつくる

質問 48. 市内の身近な道路の整備について、あなたは満足していますか。

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

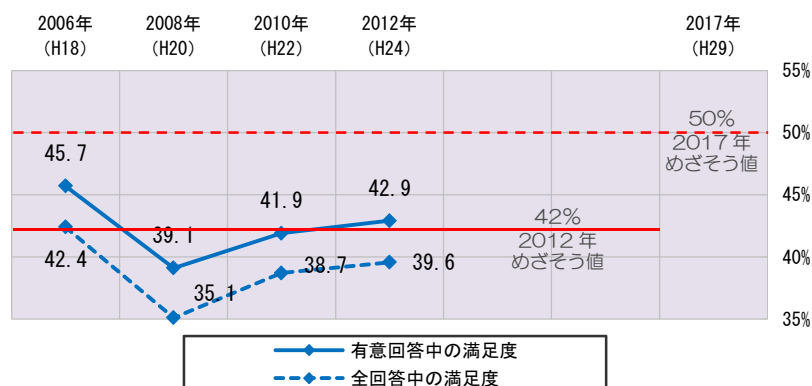
〔今回調査における指標「めざそう値」の達成状況〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
満足	45人 (3.3%)	536 人 (42.9%)	2012年目標値 (42.0%) ↓ (50.0%) 2017年目標値
まあ満足	491人 (36.2%)		
やや不満	430人 (31.7%)	712 人 (57.1%)	
不満	282人 (20.8%)		
有意回答 計	1,248人 (92.1%)	1,248 人 (100%)	
わからない	78人 (5.8%)	—	
無回答	29人 (2.1%)		
合 計	1,355人 (100.0%)		



有意回答で「めざそう値」達成目前であった当該指標は、今回調査で1ポイント増加し2012年の「めざそう値」を達成している。

ただし2017年の「めざそう値」50%を達成するには、さらなる満足度の向上が必要であり、今後の取り組みが重要となってくる。

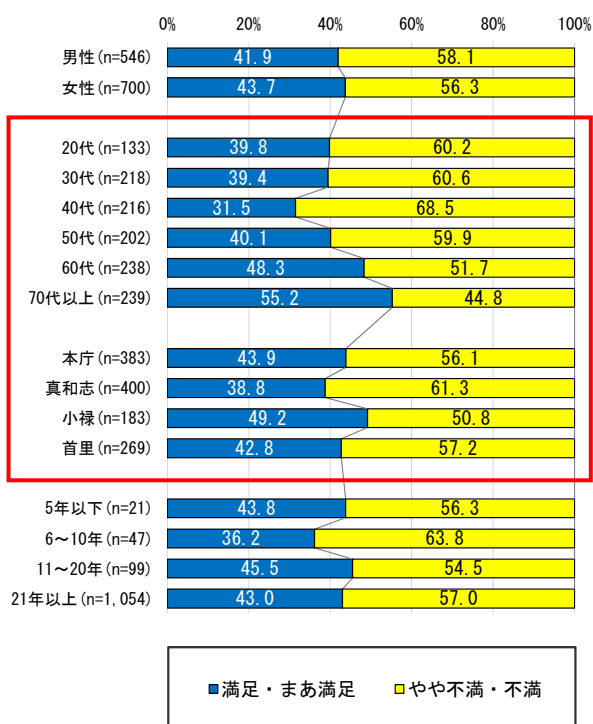


市内の身近な道路整備についての市民の満足度は 39.6%(有意回答で 42.9%)で、有意回答では2012年の「めざそう値」を達成している。

〔今後の課題〕

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、「わからない」無回答を除いた有意回答のみで割合を算出した。

選択項目		満足・まあ満足	やや不満・不満
回答者属性 (n=合計)			
男性	(n= 546)	229	317
女性	(n= 700)	306	394
20代	(n= 133)	53	80
30代	(n= 218)	86	132
40代	(n= 216)	68	148
50代	(n= 202)	81	121
60代	(n= 238)	115	123
70代以上	(n= 239)	132	107
本庁	(n= 383)	168	215
真和志	(n= 400)	155	245
小禄	(n= 183)	90	93
首里	(n= 269)	115	154
5年以下	(n= 48)	21	27
6～10年	(n= 47)	17	30
11～20年	(n= 99)	45	54
21年以上	(n= 1,054)	453	601



年代別でみると、40代が道路整備に対する満足度が最も低く、40代以降年代が高くなるにつれ満足度も高くなっている。

居住地区別でみると、小禄地区の満足度が最も高く、次いで本庁地区、首里地区、真和志地区の順となっている。狭小道路が多く存在する地域の満足度が低く、広域幹線道路や補助幹線道路の整備が主に行われる一方で、市民はより地域に密着した道路の整備を望んでいると思われる。

(18) 自然と調和したまちづくりだと感じている人の割合（指標番号110）

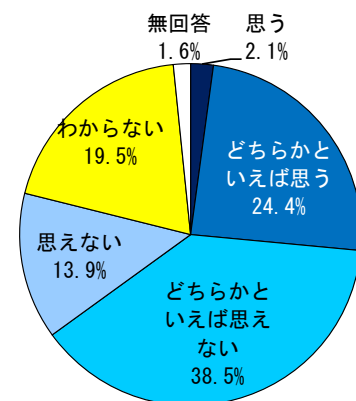
政策体系	都市像	安心・安全で快適な亜熱帯庭園都市
	政策	自然と調和したまちなみ
	施策	自然を感じられるまちをつくる

質問 49. 本市は、自然と調和したまちづくりが進んでいると思いますか。

1. 思う 2. どちらかといえば思う 3. どちらかといえば思えない
4. 思えない 5. わからない

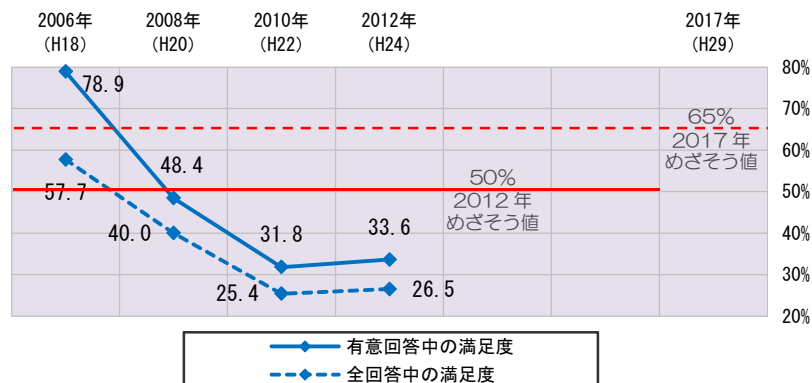
〔今回調査における指標「めざそう値」の達成状況〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
思う	29人 (2.1%)	359 人 (33.6%)	2012年目標値 (50.0%) ↓ (65.0%) 2017年目標値
どちらかといえば思う	330人 (24.4%)		
どちらかといえば思えない	522人 (38.5%)	710 人 (66.4%)	
思えない	188人 (13.9%)		
有意回答 計	1,069人 (78.9%)	1,069 人 (100%)	
わからない	264人 (19.5%)	—	
無回答	22人 (1.6%)		
合 計	1,355人 (100.0%)		



全回答でみると、自然と調和したまちづくりだと感じている市民の割合は 26.5%で、有意回答でも 33.6%となっている。2012 年の「めざそう値」は 50%となっており、達成には程遠い結果となった。

H18 以降、満足度が大幅な減少となった原因として、急速な都市開発等も考えられるが明確な要因は特定出来ない。今後は、今回調査で若干増加傾向となった満足度をさらに向上させていく取り組みを行っていかなければならない。

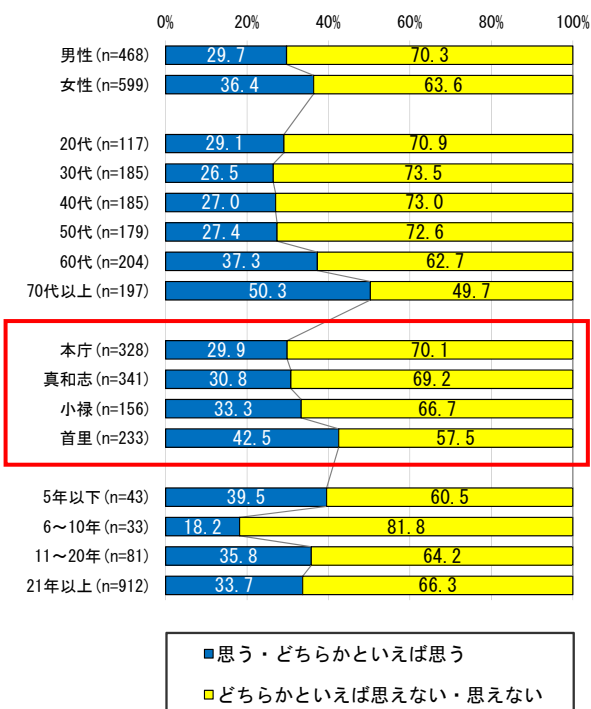


自然と調和したまちづくりだと感じている市民は 26.5%(有意回答で 33.6%)で、2012 年の「めざそう値」は達成していない。

[今後の課題]

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、「わからない」無回答を除いた有意回答のみで割合を算出した。

選択項目		と思う え・ど ちらか うか	えばど な思 いえ らな か い ・い 思 え
回答者属性 (n=合計)			
男性	(n= 468)	139	329
女性	(n= 599)	218	381
20代	(n= 117)	34	83
30代	(n= 185)	49	136
40代	(n= 185)	50	135
50代	(n= 179)	49	130
60代	(n= 204)	76	128
70代以上	(n= 197)	99	98
本庁	(n= 328)	98	230
真和志	(n= 341)	105	236
小禄	(n= 156)	52	104
首里	(n= 233)	99	134
5年以下	(n= 43)	17	26
6～10年	(n= 33)	6	27
11～20年	(n= 81)	29	52
21年以上	(n= 912)	307	605



自然と調和したまちづくりについて満足度が高かったのは、性別では女性、年代では 70 代以上、次いで 60 代となっている。

比較的高い年代は満足度も高く、70 代以上だけでみると 2012 年の「めざそう値」50%を達成している結果となった。

年代の高い市民がどのような視点で、自然と調和したまちづくりについて評価しているのか分析することも満足度の改善に繋がるのではないと思われる。

居住地区別でみると、首里地区の満足度は 42.5%と最も高く、最も低い本庁地区と 12.6 ポイント差となっている。自然や文化遺産が多く残る首里地区と、商業ビルや県の主要施設が多く存在する本庁地区では、市民の満足度も異なることが伺える。

(19) 地域に合ったまちづくりがなされていると感じる人の割合（指標番号 112）

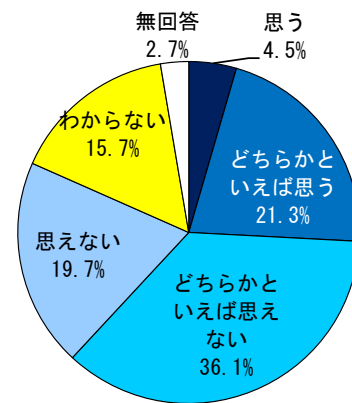
政策体系	都市像	安心・安全で快適な亜熱帯庭園都市
	政策	自然と調和したまちなみ
	施策	地域にあったまちなみをつくる

質問 50. 本市では、赤瓦や石垣、樹木などをいかした、地域に合った個性豊かな景観づくりが行われていると思いますか。

1. 思う 2. どちらかといえば思う 3. どちらかといえば思えない
4. 思えない 5. わからない

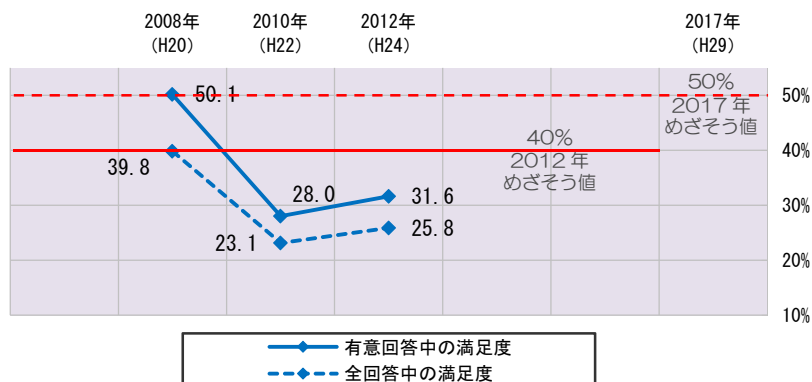
〔今回調査における指標「めざそう値」の達成状況〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
思う	61人 (4.5%)	350人 (31.6%)	2012年目標値 (40.0%) ↓ (50.0%) 2017年目標値
どちらかといえば思う	289人 (21.3%)		
どちらかといえば思えない	489人 (36.1%)		
思えない	267人 (19.7%)	756人 (68.4%)	
有意回答 計	1,106人 (81.6%)	1,106人 (100%)	
わからない	213人 (15.7%)	—	
無回答	36人 (2.7%)		
合 計	1,355人 (100.0%)		



経年変化でみると、H20 から H22 にかけて大幅に減少し、今回、有意回答で 3.6 ポイントの増加へと転じたが、2012 年の「めざそう値」達成には至らない結果となった。

2017 年の「めざそう値」を達成するためには、さらなる取り組みの強化が必要となってくる。

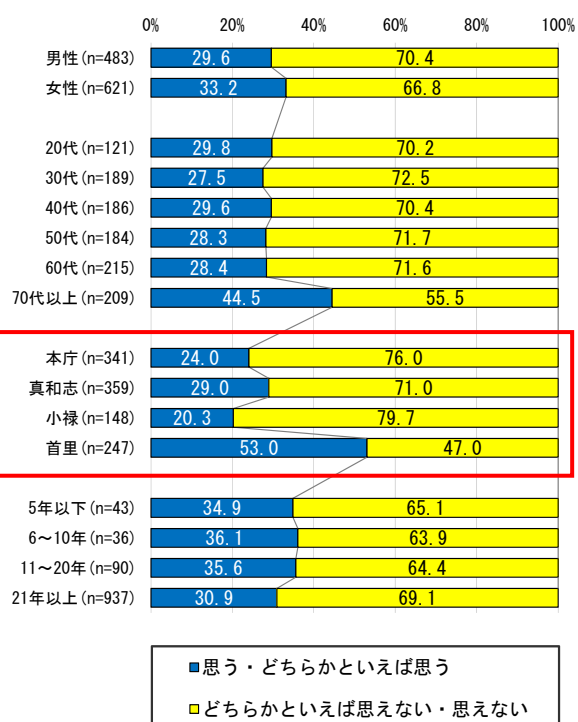


地域に合ったまちづくりがなされていると感じる市民は 25.8%(有意回答で 31.6%)で、2012 年の「めざそう値」を達成していない。

[今後の課題]

「めざそう値」達成の課題確認のため、以下の通り基本調査項目とのクロス集計分析を行った。ここでは、「わからない」無回答を除いた有意回答のみで割合を算出した。

選択項目		と思う え・ど ち ら か	えど な 思 ち い え ら な か い と ・ い 思 え
回答者属性 (n=合計)			
男性	(n= 483)	143	340
女性	(n= 621)	206	415
20代	(n= 121)	36	85
30代	(n= 189)	52	137
40代	(n= 186)	55	131
50代	(n= 184)	52	132
60代	(n= 215)	61	154
70代以上	(n= 209)	93	116
本庁	(n= 341)	82	259
真和志	(n= 359)	104	255
小禄	(n= 148)	30	118
首里	(n= 247)	131	116
5年以下	(n= 43)	15	28
6～10年	(n= 36)	13	23
11～20年	(n= 90)	32	58
21年以上	(n= 937)	290	647



年代別でみると、前問同様 70 代以上の満足度が高くなっており、2012 年の「めざそう値」40%を達成している結果となった。その他の年代はほぼ同等の割合となっている。

居住地区別では、首里地区が群を抜いて高い割合となっている。那覇市都市景観条例により、都市景観形成地域として 3 つの地域が指定されているが、そのうち 2 つの地域が首里地区に存在していることが要因ではないかと思われる。また、最も満足度の低い小禄地区については、那覇空港や自衛隊基地等が存在し、赤瓦や石垣、樹木等の景観は少ないと考えられる。

地域によって景観に対する意識や問題点は異なるが、地域の特性を上手く利用した景観づくり等の取り組みがなされることで、2017 年の「めざそう値」達成に近づけるのではないかと考えられる。

VI. 市の政策に対する満足度・ 重要度調査結果

Ⅵ. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果

1. 満足度・重要度調査の結果

平成 20 年度からスタートした第 4 次那覇市総合計画で、那覇市は、25 の政策を掲げ、各施策（さまざまな取り組み）を展開している。

満足度・重要度調査は、本市が取り組んでいる 25 の政策に対する市民の満足度と重要度を把握し、政策に対する市民意識として今後の取り組みに反映させるものである。

政策という抽象的なイメージの強い調査となったため、前回同様、全体として「わからない」の回答の比率が高かったが、考察ではそれを除いて分析を試みた。

2. 各政策に対する満足度・重要度の加点評価

（1）満足度・重要度調査の加点方法と平均評価点

満足度・重要度調査の結果は、各政策ごとに集計を行い、下記のような点数配点をもって、政策ごとの平均評価点を算出した。（※「わからない」無回答は加点から除いてある。）

満足度：「満足」＝4 点、「まあ満足」＝3 点、「やや不満」＝2 点、「不満」＝1 点
重要度：「高い」＝4 点、「まあ高い」＝3 点、「やや低い」＝2 点、「低い」＝1 点

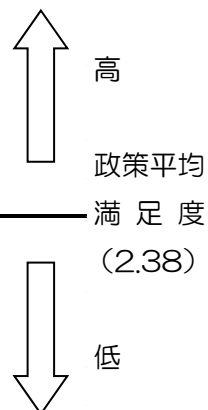
政 策	満足度			重要度		
	合計点数	有意回答者数	平均評価点	合計点数	有意回答者数	平均評価点
質問51. 協働によるまちづくり	1,557	634	2.46	2,258	783	2.88
質問52. 幸せ感のあるまちの創出	1,580	691	2.29	2,430	824	2.95
質問53. 平和交流・男女共同参画	1,768	673	2.63	2,461	832	2.96
質問54. 市民に開かれた効率的な行政	1,769	806	2.19	2,813	918	3.06
質問55. 健康づくりと地域医療の充実	2,450	942	2.60	3,331	1,036	3.22
質問56. ユニバーサルデザインのまちづくり	1,636	672	2.43	2,533	859	2.95
質問57. とともに生きる心を育てる	1,757	731	2.40	2,979	962	3.10
質問58. 地域の支えあい	1,619	691	2.34	2,891	922	3.14
質問59. 自立を支援するサービスの提供	1,594	712	2.24	2,960	951	3.11
質問60. 地球環境への配慮	1,841	759	2.43	2,963	966	3.07
質問61. 資源循環型社会	2,709	991	2.73	3,541	1,104	3.21
質問62. 自然環境の保全・再生・創造	2,157	840	2.57	2,962	1,019	2.91
質問63. 衛生的な環境の確保	2,143	838	2.56	3,112	1,002	3.11
質問64. 生涯学習の推進と地域の教育力の向上	2,331	942	2.47	3,119	1,050	2.97
質問65. 子育て支援と就学前教育・保育	1,536	759	2.02	3,014	952	3.17
質問66. 子どもの視点に立った環境づくり	1,525	749	2.04	2,981	954	3.12
質問67. 文化の継承と発展	2,147	798	2.69	3,020	982	3.08
質問68. 産業の振興	1,787	770	2.32	2,968	962	3.09
質問69. まちの活性化	1,900	881	2.16	3,018	1,033	2.92
質問70. 就労支援・相談体制	1,608	870	1.85	3,183	1,018	3.13
質問71. 都市防災と防犯	1,937	849	2.28	3,264	1,024	3.19
質問72. 市街地の整備	1,946	838	2.32	2,810	965	2.91
質問73. 交通体系の整備	2,140	1,046	2.05	3,348	1,112	3.01
質問74. 上下水道の整備	2,722	954	2.85	3,324	1,063	3.13
質問75. 自然と調和したまちなみ	2,430	1,015	2.39	3,245	1,086	2.99
平 均 値	1,944	818	2.38	2,981	975	3.06

(2) 満足度調査結果の分析

各政策を満足度調査の平均評価点（満足度）でランク付けすると下記のとおりとなる。なお、全政策の平均評価点は、2.38 点である。

前回調査の平均点は 2.32 点であり、今回調査では 0.06 ポイントの増加となった。

順位	政 策	平均評価点	有意回答者数
1	質問74. 上下水道の整備	2.85	954
2	質問61. 資源循環型社会	2.73	991
3	質問67. 文化の継承と発展	2.69	798
4	質問53. 平和交流・男女共同参画	2.63	673
5	質問55. 健康づくりと地域医療の充実	2.60	942
6	質問62. 自然環境の保全・再生・創造	2.57	840
7	質問63. 衛生的な環境の確保	2.56	838
8	質問64. 生涯学習の推進と地域の教育力の向上	2.47	942
9	質問51. 協働によるまちづくり	2.46	634
10	質問56. ユニバーサルデザインのまちづくり	2.43	672
11	質問60. 地球環境への配慮	2.43	759
12	質問57. とともに生きる心を育てる	2.40	731
13	質問75. 自然と調和したまちなみ	2.39	1,015
14	質問58. 地域の支えあい	2.34	691
15	質問72. 市街地の整備	2.32	838
16	質問68. 産業の振興	2.32	770
17	質問52. 幸せ感のあるまちの創出	2.29	691
18	質問71. 都市防災と防犯	2.28	849
19	質問59. 自立を支援するサービスの提供	2.24	712
20	質問54. 市民に開かれた効率的な行政	2.19	806
21	質問69. まちの活性化	2.16	881
22	質問73. 交通体系の整備	2.05	1,046
23	質問66. 子どもの視点に立った環境づくり	2.04	749
24	質問65. 子育て支援と就学前教育・保育	2.02	759
25	質問70. 就労支援・相談体制	1.85	870
平 均 値		2.38	818

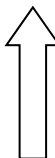
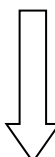


(3) 重要度調査結果の分析

各政策を重要度調査の平均評価点（重要度）でランク付けすると下記のとおりとなる。なお、全政策の平均評価点は、3.06 点である。

前回調査の平均点は 3.08 点であり、今回調査では 0.02 ポイントの減少となった。

順位	政 策	平均評価点	有意回答者数
1	質問55. 健康づくりと地域医療の充実	3.22	1,036
2	質問61. 資源循環型社会	3.21	1,104
3	質問71. 都市防災と防犯	3.19	1,024
4	質問65. 子育て支援と就学前教育・保育	3.17	952
5	質問58. 地域の支えあい	3.14	922
6	質問74. 上下水道の整備	3.13	1,063
7	質問70. 就労支援・相談体制	3.13	1,018
8	質問66. 子どもの視点に立った環境づくり	3.12	954
9	質問59. 自立を支援するサービスの提供	3.11	951
10	質問63. 衛生的な環境の確保	3.11	1,002
11	質問57. とともに生きる心を育てる	3.10	962
12	質問68. 産業の振興	3.09	962
13	質問67. 文化の継承と発展	3.08	982
14	質問60. 地球環境への配慮	3.07	966
15	質問54. 市民に開かれた効率的な行政	3.06	918
16	質問73. 交通体系の整備	3.01	1,112
17	質問75. 自然と調和したまちなみ	2.99	1,086
18	質問64. 生涯学習の推進と地域の教育力の向上	2.97	1,050
19	質問53. 平和交流・男女共同参画	2.96	832
20	質問52. 幸せ感のあるまちの創出	2.95	824
21	質問56. ユニバーサルデザインのまちづくり	2.95	859
22	質問69. まちの活性化	2.92	1,033
23	質問72. 市街地の整備	2.91	965
24	質問62. 自然環境の保全・再生・創造	2.91	1,019
25	質問51. 協働によるまちづくり	2.88	783
平 均 値		3.06	975

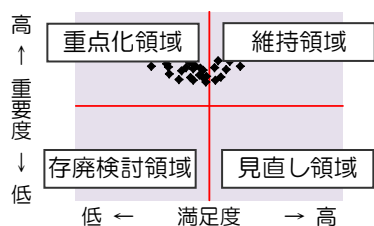
 高
 政策平均
 重要度
 (3.06)
 低

(4) 回答者数について

今回、前回調査同様平均評価点による順位付けで評価を実施したわけだが、回答者が多い政策ほど市民の関心や理解度が高いと考えられるので、回答者数が低い政策ほど政策や取り組みに対する周知に努める必要があるともいえる。

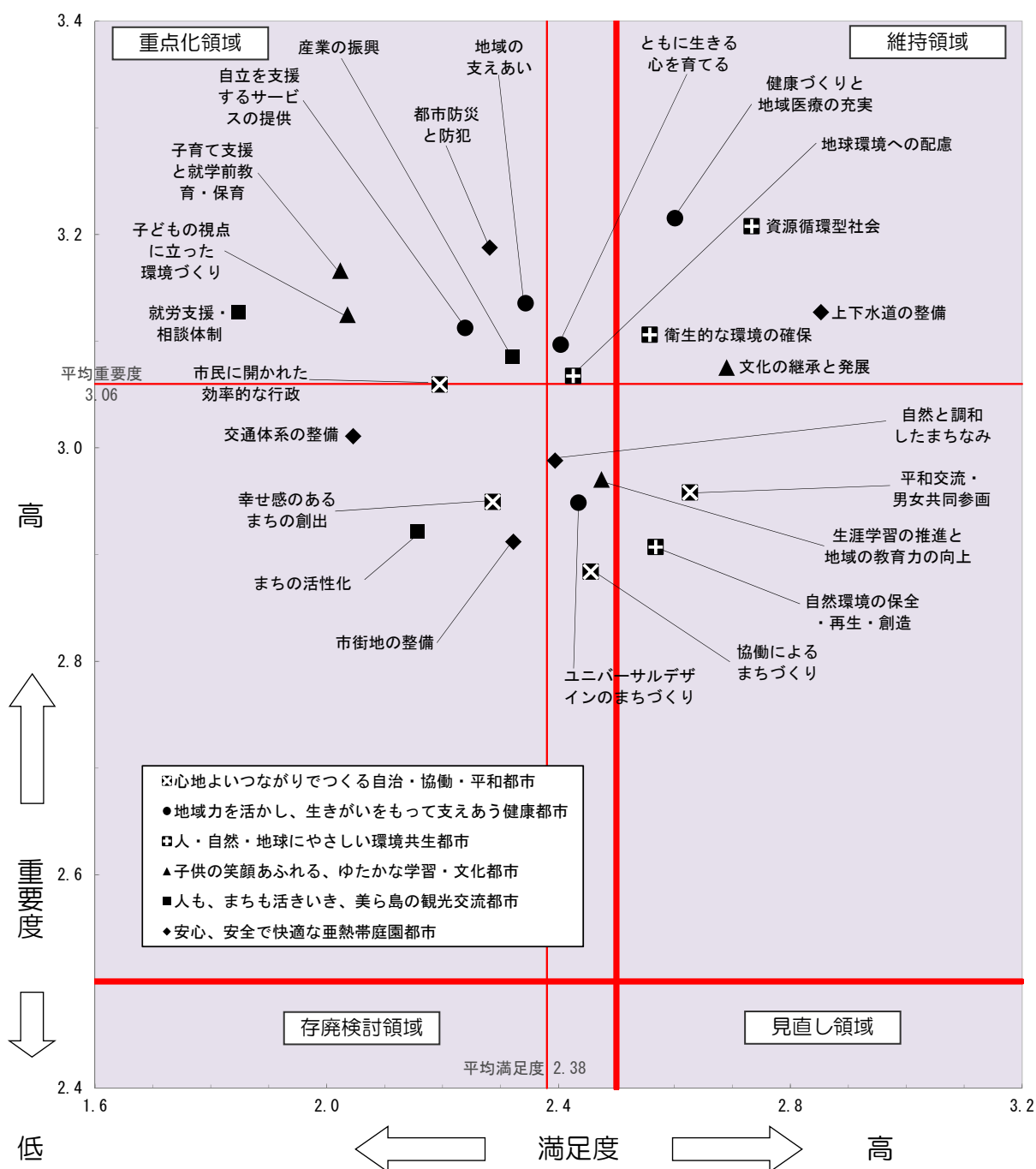
満足度と重要度の回答者数の差は、満足度について回答を避けている市民が、個々の政策については（市の政策は公的なものなので「重要」と考えているため）総じて重要とした回答状況によって引き起こされたものと考えられる。

(5) 満足度・重要度のクロス集計からみた政策に対する市民意識



一般に満足度と重要度を組み合わせて評価を行う場合、左記の図のように分類して、存廃、見直し、重点化、維持の判断を行うべきとされている。

今回の調査結果における平均満足度、平均重要度を中心とした 25 の個々の政策分布は以下のとおりとなる。



〔存廃検討領域とされる政策〕

なし

〔見直し領域とされる政策〕

なし

〔重点化領域とされる政策〕

※（計：満足度平均＋重要度平均 満：満足度平均 重：重要度平均）

1. 就労支援・相談体制	（計：4.98 満：1.85 重：3.13）
2. 交通体系の整備	（計：5.06 満：2.05 重：3.01）
3. まちの活性化	（計：5.08 満：2.16 重：2.92）
4. 子どもの視点に立った環境づくり	（計：5.16 満：2.04 重：3.12）
5. 子育て支援と就学前教育・保育	（計：5.19 満：2.02 重：3.17）
6. 市街地の整備	（計：5.23 満：2.32 重：2.91）
7. 幸せ感のあるまちの創出	（計：5.24 満：2.29 重：2.95）
8. 市民に開かれた効率的な行政	（計：5.25 満：2.19 重：3.06）
9. 協働によるまちづくり	（計：5.34 満：2.46 重：2.88）
10. 自立を支援するサービスの提供	（計：5.35 満：2.24 重：3.11）
11. 自然と調和したまちなみ	（計：5.38 満：2.39 重：2.99）
12. ユニバーサルデザインのまちづくり	（計：5.38 満：2.43 重：2.95）
13. 産業の振興	（計：5.41 満：2.32 重：3.09）
14. 生涯学習の推進と地域の教育力の向上	（計：5.44 満：2.47 重：2.97）
15. 都市防災と防犯	（計：5.47 満：2.28 重：3.19）
16. 地域の支えあい	（計：5.48 満：2.34 重：3.14）
17. とともに生きる心を育てる	（計：5.50 満：2.40 重：3.10）
18. 地球環境への配慮	（計：5.50 満：2.43 重：3.07）

〔維持領域とされる政策〕

※（計：満足度平均＋重要度平均 満：満足度平均 重：重要度平均）

1. 自然環境の保全・再生・創造	（計：5.48 満：2.57 重：2.91）
2. 平和交流・男女共同参画	（計：5.59 満：2.63 重：2.96）
3. 衛生的な環境の確保	（計：5.67 満：2.56 重：3.11）
4. 文化の継承と発展	（計：5.77 満：2.69 重：3.08）
5. 健康づくりと地域医療の充実	（計：5.82 満：2.60 重：3.22）
6. 資源循環型社会	（計：5.94 満：2.73 重：3.21）
7. 上下水道の整備	（計：5.98 満：2.85 重：3.13）

25の政策については、いずれも存廃、見直しが必要とされるものはなく、今後とも維持継続、あるいはさらに力を入れていくことが求められる結果となった。

3. 各政策に対する満足度・重要度評価の状況

都市像 心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市
政 策 協働によるまちづくり

質問 51. 市が取り組んでいる「協働によるまちづくり」の政策（自治会等の活動への支援、行政への市民参加促進等）について、あなたはどのように思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

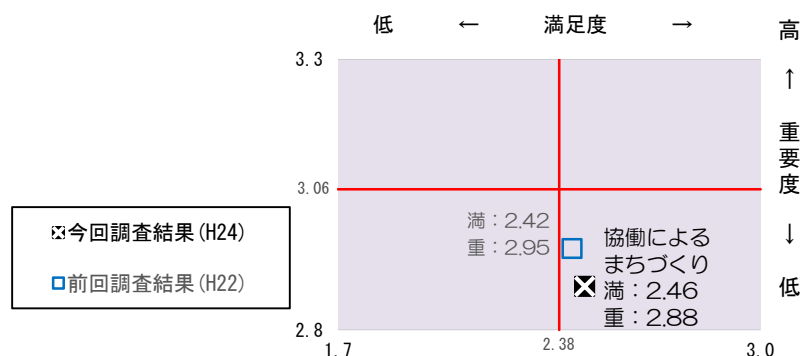
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	21 人	(1.5%)	345 人
まあ満足	324 人	(23.9%)	(54.4%)
やや不満	212 人	(15.6%)	289 人
不満	77 人	(5.7%)	(45.6%)
合 計	634 人	(46.8%)	634 人 (100%)
わからない	675 人	(49.8%)	—
無回答	46 人	(3.4%)	
合 計	1,355 人	(100%)	

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	177 人	(13.1%)	577 人
まあ高い	400 人	(29.5%)	(73.7%)
やや低い	144 人	(10.6%)	206 人
低い	62 人	(4.6%)	(26.3%)
合 計	783 人	(57.8%)	783 人 (100%)
わからない	489 人	(36.1%)	—
無回答	83 人	(6.1%)	
合 計	1,355 人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



有意回答でみると、54.4%の市民が「まあ満足」以上と回答しており、重要度では73.7%が「まあ高い」以上となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、市民は「協働によるまちづくり」政策について、満足度は高く、重要度は低く見ているといえる。

前回調査と比較すると、満足度は0.04ポイント増加し、重要度は平均値を下回り、さらに0.07ポイント減少していることが確認できた。

「協働によるまちづくり」政策の重要性を、市民に認識してもらう取り組みが必要と判断される。

都市像 心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市
政策 幸せ感のあるまちの創出

質問 52. 「幸せ感のあるまちの創出」（人権意識の普及、相談体制の整備等）の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

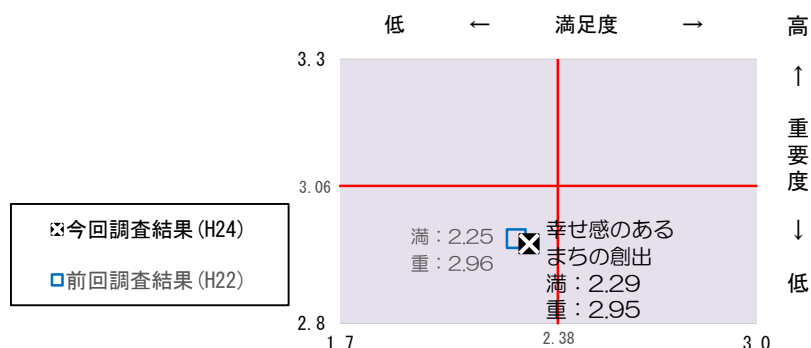
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
満足	23 人	(1.7%)	303 人	(43.8%)
まあ満足	280 人	(20.7%)		
やや不満	260 人	(19.2%)	388 人	(56.2%)
不満	128 人	(9.4%)		
合 計	691 人	(51.0%)	691 人	(100%)
わからない	621 人	(45.8%)		
無回答	43 人	(3.2%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
高い	241 人	(17.8%)	610 人	(74.0%)
まあ高い	369 人	(27.2%)		
やや低い	145 人	(10.7%)	214 人	(26.0%)
低い	69 人	(5.1%)		
合 計	824 人	(60.8%)	824 人	(100%)
わからない	450 人	(33.2%)		
無回答	81 人	(6.0%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 43.8%となっており、重要度では、「まあ高い」以上が 74%となっている。

相対分布グラフでみると、満足度、重要度共に全体平均値より低く、市民は「幸せ感のあるまちの創出」の政策について、満足度、重要度共に低く見ているといえる。

前回調査と比較して満足度は 0.04 ポイント増加し、重要度は 0.01 ポイント減少しており、満足度はわずかに向上している。

「幸せ感のあるまちの創出」の政策については、市民の満足度、重要度を高めていくために、より一層の取り組みを行う必要がある。

VI. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果

都市像 心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市
政 策 平和交流・男女共同参画

質問 53. 「平和交流・男女共同参画」（平和学習、国際交流の推進等）の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

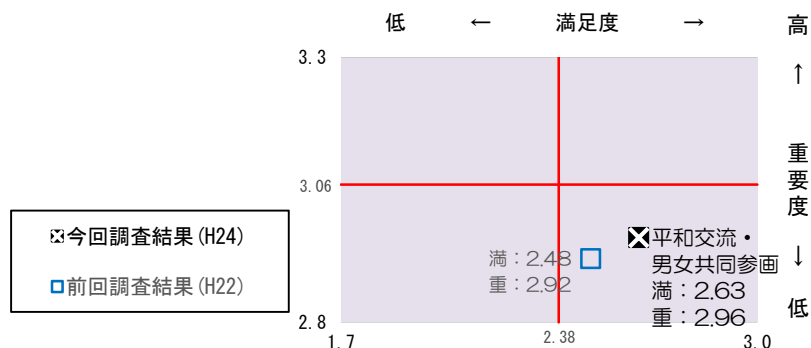
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
満足	47 人	(3.5%)	437 人	
まあ満足	390 人	(28.8%)	(64.9%)	
やや不満	174 人	(12.8%)	236 人	
不満	62 人	(4.6%)	(35.1%)	
合 計	673 人	(49.7%)	673 人	(100%)
わからない	636 人	(46.9%)	—	
無回答	46 人	(3.4%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
高い	233 人	(17.2%)	624 人	
まあ高い	391 人	(28.9%)	(75.0%)	
やや低い	148 人	(10.9%)	208 人	
低い	60 人	(4.4%)	(25.0%)	
合 計	832 人	(61.4%)	832 人	(100%)
わからない	449 人	(33.1%)	—	
無回答	74 人	(5.5%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が64.9%となっており、重要度では、「まあ高い」以上が75%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「平和交流・男女共同参画」の政策について、満足度は高く、重要度は低く見ているといえる。

前回調査と比較すると、満足度、重要度共に増加しており、当該政策に対する評価は良くなっているが、重要度が平均値未満となっている。

「平和交流・男女共同参画」の政策については、特に重要性について市民の意識を高めるための取り組みが必要と判断される。

都市像 心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市
政 策 市民に開かれた効率的な行政

質問 54. 「市民に開かれた効率的な行政」（職員の削減、組織の効率化、財政健全化の取り組み等）の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

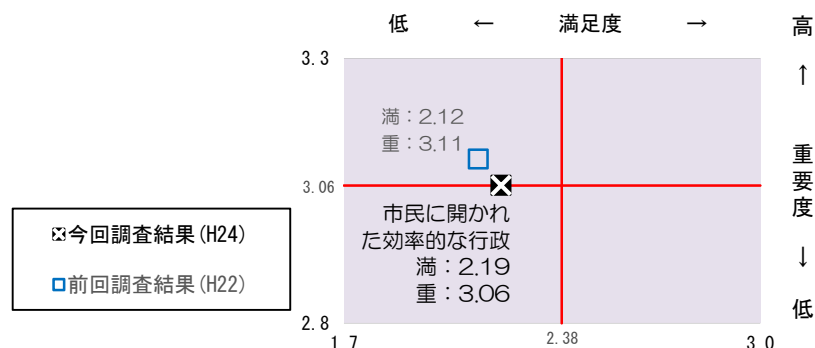
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
満足	38 人	(2.8%)	317 人	
まあ満足	279 人	(20.6%)		(39.3%)
やや不満	291 人	(21.5%)	489 人	
不満	198 人	(14.6%)		(60.7%)
合 計	806 人	(59.5%)	806 人	(100%)
わからない	505 人	(37.3%)		
無回答	44 人	(3.2%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
高い	343 人	(25.3%)	705 人	
まあ高い	362 人	(26.7%)		(76.8%)
やや低い	142 人	(10.5%)	213 人	
低い	71 人	(5.2%)		(23.2%)
合 計	918 人	(67.7%)	918 人	(100%)
わからない	369 人	(27.2%)		
無回答	68 人	(5.0%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 39.3%となっており、重要度では、「まあ高い」以上が 76.8%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「市民に開かれた効率的な行政」の政策について、満足度は平均値より低く、重要度は平均値と同値となった。

前回調査と比較すると、満足度は 0.07 ポイント増加し、重要度は 0.05 ポイント減少しており、当該政策の満足度は向上しつつあるが、平均値未満となっている。

「市民に開かれた効率的な行政」の政策については、市民の満足度、重要度を高めていくために、より一層の取り組みを行う必要がある。

都市像 地域力を活かし、生きがいをもって支えあう健康都市
政策 健康づくりと地域医療の充実

質問 55. 「健康づくりと地域医療の充実」の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

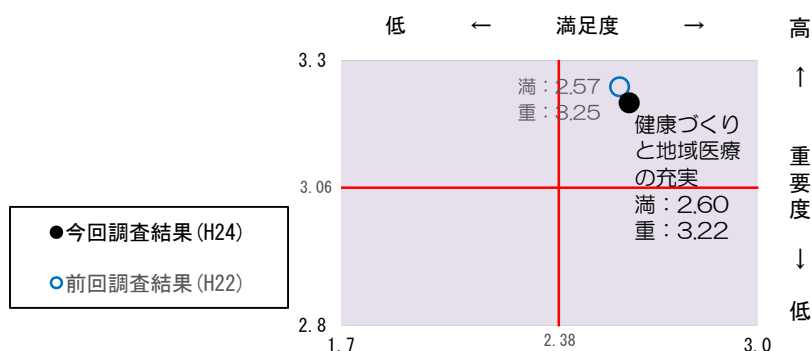
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
満足	81 人	(6.0%)	596 人	(63.3%)
まあ満足	515 人	(38.0%)		
やや不満	235 人	(17.3%)	346 人	(36.7%)
不満	111 人	(8.2%)		
合 計	942 人	(69.5%)	942 人	(100%)
わからない	381 人	(28.1%)	—	—
無回答	32 人	(2.4%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
高い	438 人	(32.3%)	879 人	(84.8%)
まあ高い	441 人	(32.5%)		
やや低い	99 人	(7.3%)	157 人	(15.2%)
低い	58 人	(4.3%)		
合 計	1,036 人	(76.4%)	1,036 人	(100%)
わからない	260 人	(19.2%)	—	—
無回答	59 人	(4.4%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が63.3%となっており、重要度では、「まあ高い」以上が84.8%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「健康づくりと地域医療の充実」の政策について、満足度、重要度共に高く見ているといえる。

前回調査と比較すると、満足度は0.03ポイント増加し、重要度は0.03ポイント減少しており、当該政策に対する市民の満足度は向上していることが確認できた。

「健康づくりと地域医療の充実」の政策については、満足度・重要度共に市民の評価は高く、今後維持、向上させるための取り組みが必要である。

都市像 地域力を活かし、生きがいをもって支えあう健康都市
政 策 ユニバーサルデザインのまちづくり

質問 56. 「ユニバーサルデザインのまちづくり」の政策について、どう思いますか。

(※ユニバーサルデザイン＝年齢、性別、国籍等に関わりなく、すべての人が利用しやすく、安全で快適なものをめざす考え方)

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

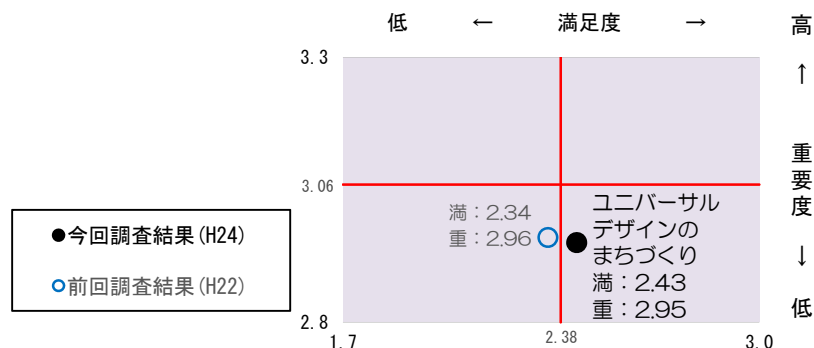
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	48 人	(3.5%)	345 人 (51.3%)
まあ満足	297 人	(21.9%)	
やや不満	226 人	(16.7%)	
不満	101 人	(7.5%)	
合 計	672 人	(49.6%)	672 人 (100%)
わからない	631 人	(46.6%)	—
無回答	52 人	(3.8%)	
合 計	1,355 人	(100%)	

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	260 人	(19.2%)	629 人 (73.2%)
まあ高い	369 人	(27.2%)	
やや低い	156 人	(11.5%)	230 人 (26.8%)
低い	74 人	(5.5%)	
合 計	859 人	(63.4%)	859 人 (100%)
わからない	422 人	(31.1%)	—
無回答	74 人	(5.5%)	
合 計	1,355 人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が51.3%となっており、重要度では、「まあ高い」以上が73.2%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「ユニバーサルデザインのまちづくり」の政策について、満足度は高く、重要度は低く見ているといえる。

前回調査と比較すると、満足度は0.09ポイント増加し平均値を上回っているが、重要度は平均値を下回り、さらに0.01ポイント減少していることが確認できた。

「ユニバーサルデザインのまちづくり」の政策については、特に重要性について、市民の意識を高めるための取り組みが必要と判断される。

都市像 地域力を活かし、生きがいをもって支えあう健康都市
政策 ともに生きる心を育てる

質問 57. 「ともに生きる心を育てる」(助け合いの心を育む取り組み等)の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

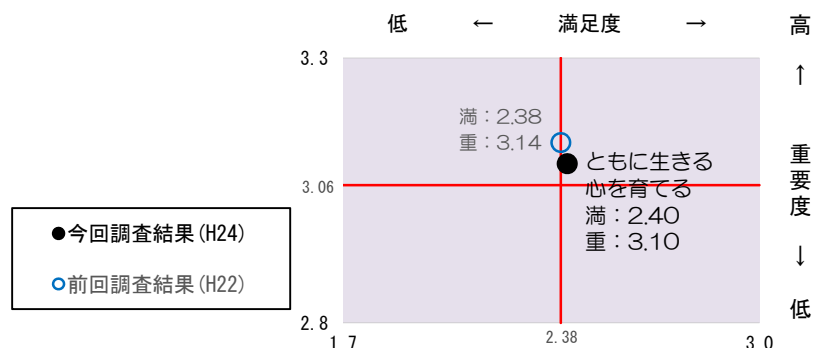
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	57 人	(4.2%)	359 人 (49.1%)
まあ満足	302 人	(22.3%)	
やや不満	251 人	(18.5%)	
不満	121 人	(8.9%)	
合 計	731 人	(53.9%)	731 人 (100%)
わからない	568 人	(41.9%)	—
無回答	56 人	(4.1%)	
合 計	1,355 人	(100%)	

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	345 人	(25.5%)	774 人 (80.5%)
まあ高い	429 人	(31.7%)	
やや低い	124 人	(9.2%)	
低い	64 人	(4.7%)	
合 計	962 人	(71.0%)	962 人 (100%)
わからない	325 人	(24.0%)	—
無回答	68 人	(5.0%)	
合 計	1,355 人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 49.1%となっており、重要度では、「まあ高い」以上が 80.5%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「ともに生きる心を育てる」の政策について、満足度、重要度共に高めに見ているが、満足度は平均値をわずかに上回った程度である。

前回調査と比較すると、満足度は 0.02 ポイント増加し、重要度は 0.04 ポイント減少しており、当該政策について、市民の重要度意識が低くなっていることが確認できた。

「ともに生きる心を育てる」の政策については、市民に評価されており、今後さらに満足度、重要度を高める取り組みが必要である。

都市像 地域力を活かし、生きがいをもって支えあう健康都市
政策 地域の支えあい

質問 58. 「地域の支えあい」（相談窓口、子育て支援策等）の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

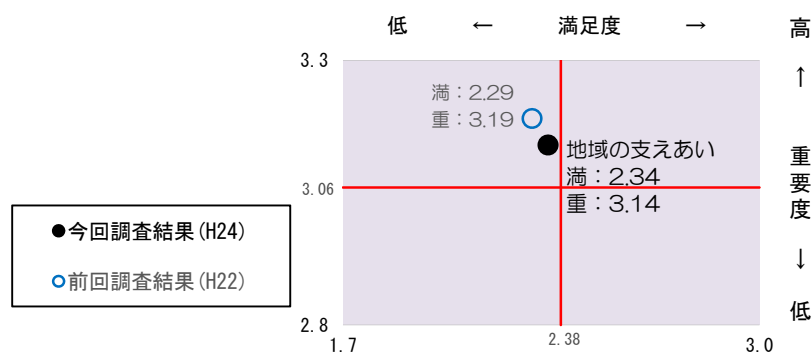
(満足度)

選択項目	回答数 (人)	(%)	有意回答数 (人)	(%)
満足	50	(3.7%)	310	(44.9%)
まあ満足	260	(19.2%)		
やや不満	258	(19.0%)	381	(55.1%)
不満	123	(9.1%)		
合 計	691	(51.0%)	691	(100%)
わからない	603	(44.5%)		
無回答	61	(4.5%)		
合 計	1,355	(100%)		

(重要度)

選択項目	回答数 (人)	(%)	有意回答数 (人)	(%)
高い	371	(27.4%)	741	(80.4%)
まあ高い	370	(27.3%)		
やや低い	116	(8.6%)	181	(19.6%)
低い	65	(4.8%)		
合 計	922	(68.0%)	922	(100%)
わからない	356	(26.3%)		
無回答	77	(5.7%)		
合 計	1,355	(100%)		

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 44.9%となっており、重要度では、「まあ高い」以上が 80.4%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「地域の支えあい」の政策について、満足度は低く、重要度は高く見ているといえる。

前回調査と比較すると、満足度は 0.05 ポイント増加し、重要度は 0.05 ポイント減少しており、重要度意識は低くなっているが、差し当たって満足度の向上を図らなければならない。

「地域の支えあい」の政策については、市民の重要性意識を維持・向上しつつ、満足度を高めていく取り組みが必要と判断される。

都市像 地域力を活かし、生きがいをもって支えあう健康都市
政策 自立を支援するサービス提供

質問 59. 「自立を支援するサービスの提供」（障がい者の自立、就労支援策等）の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

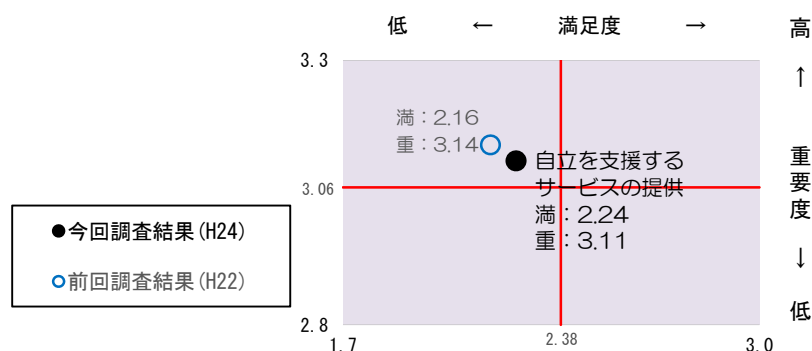
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	57 人	(4.2%)	290 人 (40.7%)
まあ満足	233 人	(17.2%)	
やや不満	245 人	(18.1%)	
不満	177 人	(13.1%)	
合 計	712 人	(52.5%)	712 人 (100%)
わからない	589 人	(43.5%)	—
無回答	54 人	(4.0%)	
合 計	1,355 人	(100%)	

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	398 人	(29.4%)	749 人 (78.8%)
まあ高い	351 人	(25.9%)	
やや低い	113 人	(8.3%)	202 人 (21.2%)
低い	89 人	(6.6%)	
合 計	951 人	(70.2%)	951 人 (100%)
わからない	334 人	(24.6%)	—
無回答	70 人	(5.2%)	
合 計	1,355 人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 40.7%となっており、重要度では、「まあ高い」以上が 78.8%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「自立を支援するサービス提供」の政策について、満足度は低く、重要度は高く見ているといえる。

前回調査と比較すると、満足度は 0.08 ポイント増加し、重要度は 0.03 ポイント減少しており、当該政策の満足度は向上しつつあるが、平均値未満であることが確認できた。

「自立を支援するサービス提供」の政策については、市民の重要性意識を維持・向上しつつ、満足度を高めていく取り組みが必要と判断される。

都市像 人・自然・地球にやさしい環境共生都市
政策 地球環境への配慮

質問 60. 「地球環境への配慮」（省エネ等のエコライフの推進）の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

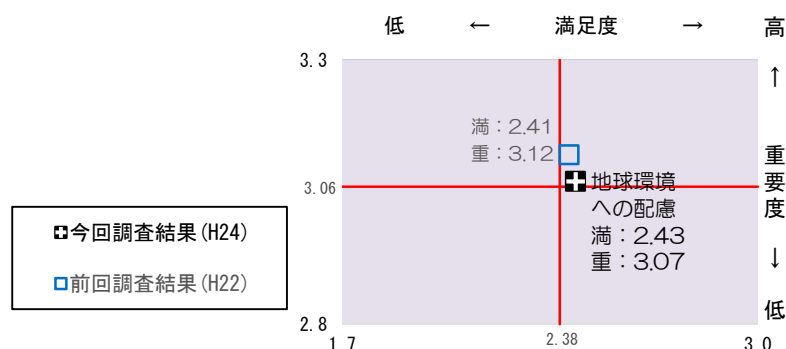
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
満足	48 人	(3.5%)	392 人 (51.6%)	
まあ満足	344 人	(25.4%)		
やや不満	250 人	(18.5%)		
不満	117 人	(8.6%)		
合 計	759 人	(56.0%)	759 人	(100%)
わからない	532 人	(39.3%)	—	
無回答	64 人	(4.7%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
高い	347 人	(25.6%)	754 人 (78.1%)	
まあ高い	407 人	(30.0%)		
やや低い	142 人	(10.5%)		
低い	70 人	(5.2%)		
合 計	966 人	(71.3%)	966 人	(100%)
わからない	315 人	(23.2%)	—	
無回答	74 人	(5.5%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が51.6%となっており、重要度では、「まあ高い」以上が78.1%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「地球環境への配慮」の政策について、満足度、重要度共に高めに見ているが、平均値との差はごくわずかである。

前回調査と比較すると、満足度は0.02ポイント増加し、重要度は0.05ポイント減少しており、当該政策に対する市民の重要度意識が低くなっていることが確認できた。

「地球環境への配慮」の政策については、市民にあらためて重要性を認識させる取り組みが必要と判断される。

都市像 人・自然・地球にやさしい環境共生都市
政策 資源循環型社会

質問 61. 「資源循環型社会」（ごみ減量、リサイクル推進）の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

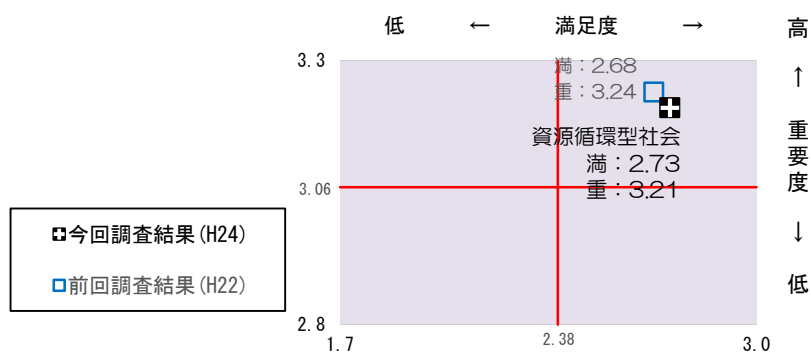
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
満足	135 人	(10.0%)	679 人	
まあ満足	544 人	(40.1%)	(68.5%)	
やや不満	225 人	(16.6%)	312 人	
不満	87 人	(6.4%)	(31.5%)	
合 計	991 人	(73.1%)	991 人	(100%)
わからない	310 人	(22.9%)		
無回答	54 人	(4.0%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
高い	444 人	(32.8%)	938 人	
まあ高い	494 人	(36.5%)	(85.0%)	
やや低い	117 人	(8.6%)	166 人	
低い	49 人	(3.6%)	(15.0%)	
合 計	1,104 人	(81.5%)	1,104 人	(100%)
わからない	178 人	(13.1%)		
無回答	73 人	(5.4%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が68.5%となっており、重要度では、「まあ高い」以上が85%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「資源循環型社会」の政策について、満足度、重要度共に高く見ているといえる。

前回調査と比較すると、満足度は0.05ポイント増加し、重要度は0.03ポイント減少しており、当該政策に対する重要度意識が低くなっていることが確認できた。

「資源循環型社会」の政策については、市民に評価されており、今後とも、この評価を維持するべく取り組むことが望まれる。

都市像 人・自然・地球にやさしい環境共生都市
政策 自然環境の保全・再生・創造

質問 62. 「自然環境の保全・再生・創造」（屋上・壁面緑化の推進等）の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

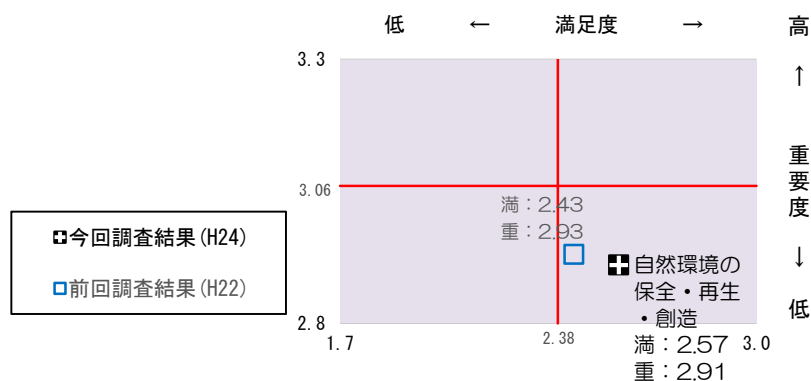
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
満足	84 人	(6.2%)	494 人	
まあ満足	410 人	(30.3%)	(58.8%)	
やや不満	245 人	(18.1%)	346 人	
不満	101 人	(7.5%)	(41.2%)	
合 計	840 人	(62.0%)	840 人	(100%)
わからない	458 人	(33.8%)		
無回答	57 人	(4.2%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
高い	287 人	(21.2%)	735 人	
まあ高い	448 人	(33.1%)	(72.1%)	
やや低い	186 人	(13.7%)	284 人	
低い	98 人	(7.2%)	(27.9%)	
合 計	1,019 人	(75.2%)	1,019 人	(100%)
わからない	268 人	(19.8%)		
無回答	68 人	(5.0%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が58.8%となっており、重要度では、「まあ高い」以上が72.1%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「自然環境の保全・再生・創造」の政策について、満足度は高く、重要度は低く見ているといえる。

前回調査と比較すると、満足度は0.14ポイント増加し、重要度は平均値未満で、さらに0.02ポイント減少していることが確認できた。

「自然環境の保全・再生・創造」の政策については、特に重要性について市民の意識を高めるための取り組みが必要と判断される。

都市像 人・自然・地球にやさしい環境共生都市
政策 衛生的な環境の確保

質問 63. 「衛生的な環境の確保」（し尿処理、害虫駆除等）の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

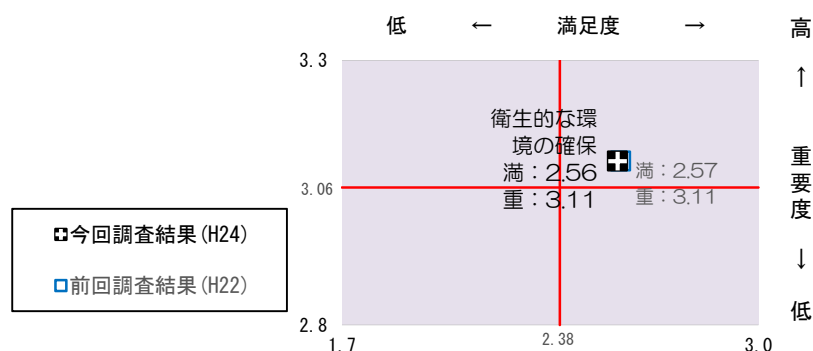
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
満足	85 人	(6.3%)	511 人	(61.0%)
まあ満足	426 人	(31.4%)		
やや不満	198 人	(14.6%)	327 人	(39.0%)
不満	129 人	(9.5%)		
合 計	838 人	(61.8%)	838 人	(100%)
わからない	461 人	(34.0%)	—	—
無回答	56 人	(4.1%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
高い	383 人	(28.3%)	800 人	(79.8%)
まあ高い	417 人	(30.8%)		
やや低い	127 人	(9.4%)	202 人	(20.2%)
低い	75 人	(5.5%)		
合 計	1,002 人	(73.9%)	1,002 人	(100%)
わからない	284 人	(21.0%)	—	—
無回答	69 人	(5.1%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が61%となっており、重要度では、「まあ高い」以上が79.8%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「衛生的な環境の確保」の政策について、満足度、重要度共に高く見ているといえる。

前回調査と比較すると、満足度は0.01ポイント減少し、重要度は同値で、市民の評価は前回とほぼ変わらないが、満足度がわずかに減少していることが確認できた。

「衛生的な環境の確保」の政策については、市民に評価されており、今後さらに満足度、重要度を高める取り組みが必要である。

都市像 子どもの笑顔あふれる、ゆたかな学習・文化都市
 政策 生涯学習の推進と地域の教育力の向上

質問 64. 「生涯学習の推進と地域の教育力の向上」（図書館・スポーツ施設等の整備）の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
 (重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

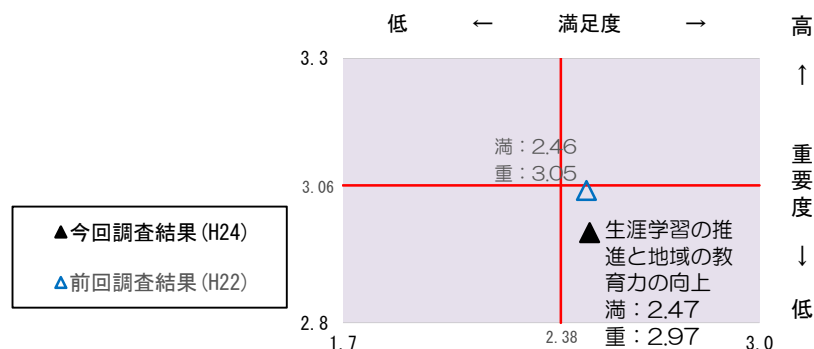
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	75 人	(5.5%)	522 人 (55.4%)
まあ満足	447 人	(33.0%)	
やや不満	270 人	(19.9%)	
不満	150 人	(11.1%)	
合 計	942 人	(69.5%)	942 人 (100%)
わからない	361 人	(26.6%)	—
無回答	52 人	(3.8%)	
合 計	1,355 人	(100%)	

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	293 人	(21.6%)	807 人 (76.9%)
まあ高い	514 人	(37.9%)	
やや低い	162 人	(12.0%)	
低い	81 人	(6.0%)	
合 計	1,050 人	(77.5%)	1,050 人 (100%)
わからない	242 人	(17.9%)	—
無回答	63 人	(4.6%)	
合 計	1,355 人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 55.4%となっており、重要度では、「まあ高い」以上が 76.9%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「生涯学習の推進と地域の教育力の向上」の政策について、満足度は高く、重要度は低く見ているといえる。

前回調査と比較すると、満足度は 0.01 ポイント増加し、重要度は平均値未満で、さらに 0.08 ポイント減少していることが確認できた。

「生涯学習の推進と地域の教育力の向上」の政策について、特に重要性について市民の意識を高めるための取り組みが必要と判断される。

VI. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果

都市像 子どもの笑顔あふれる、ゆたかな学習・文化都市
 政策 子育て支援と就学前教育・保育

質問 65. 「子育て支援と就学前教育・保育」（保育所入所待機児童の解消、学童保育の充実等）の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
 (重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

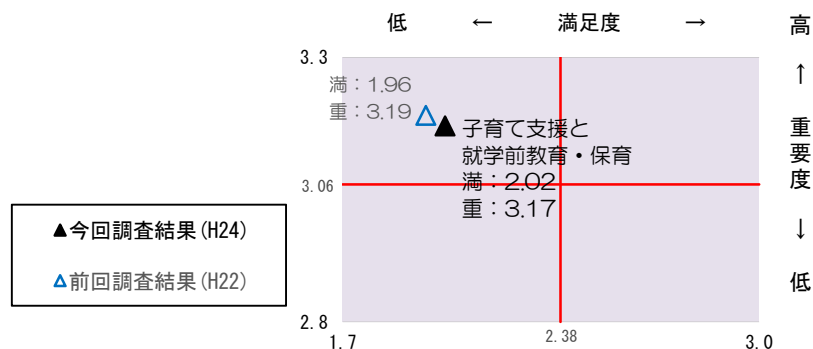
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
満足	31 人	(2.3%)	215 人	(28.3%)
まあ満足	184 人	(13.6%)		
やや不満	316 人	(23.3%)	544 人	(71.7%)
不満	228 人	(16.8%)		
合 計	759 人	(56.0%)	759 人	(100%)
わからない	534 人	(39.4%)		
無回答	62 人	(4.6%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
高い	431 人	(31.8%)	750 人	(78.8%)
まあ高い	319 人	(23.5%)		
やや低い	131 人	(9.7%)	202 人	(21.2%)
低い	71 人	(5.2%)		
合 計	952 人	(70.3%)	952 人	(100%)
わからない	328 人	(24.2%)		
無回答	75 人	(5.5%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 28.3%となっており、重要度では、「まあ高い」以上が 78.8%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「子育て支援と就学前教育・保育」の政策について、満足度は低く、重要度は高く見ているといえる。

前回調査と比較すると、満足度は 0.06 ポイント増加しているが平均値未満であり、重要度は 0.02 ポイント減少しているが、市民の重要性意識は高いことがわかる。

「子育て支援と就学前教育・保育」の政策については、市民の重要性意識を維持・向上しつつ、満足度を高めていくため、より一層力を入れて取り組むことが必要と判断される。

都市像 子どもの笑顔あふれる、ゆたかな学習・文化都市
 政策 子どもの視点に立った環境づくり

質問 66. 「子どもの視点に立った環境づくり」（学力向上、学習環境の整備等）の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
 (重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

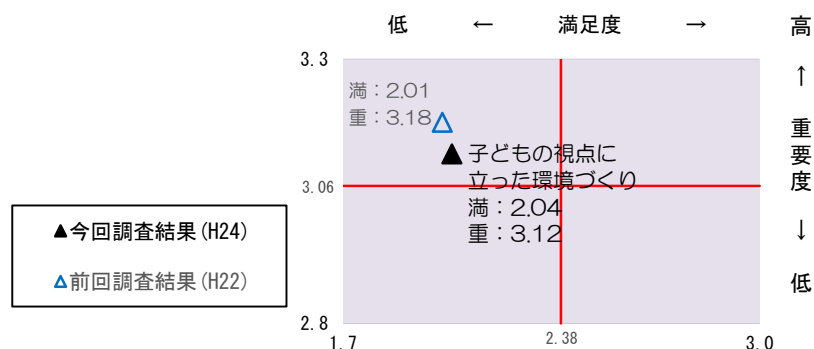
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
満足	29 人	(2.1%)	221 人	
まあ満足	192 人	(14.2%)	(29.5%)	
やや不満	305 人	(22.5%)	528 人	
不満	223 人	(16.5%)	(70.5%)	
合 計	749 人	(55.3%)	749 人	(100%)
わからない	538 人	(39.7%)		
無回答	68 人	(5.0%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
高い	429 人	(31.7%)	730 人	
まあ高い	301 人	(22.2%)	(76.5%)	
やや低い	138 人	(10.2%)	224 人	
低い	86 人	(6.3%)	(23.5%)	
合 計	954 人	(70.4%)	954 人	(100%)
わからない	322 人	(23.8%)		
無回答	79 人	(5.8%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 29.5%となっており、重要度では、「まあ高い」以上が 76.5%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「子どもの視点に立った環境づくり」の政策について、満足度は低く、重要度は高く見ているといえる。

前回調査と比較すると、満足度は 0.03 ポイント増加しているが平均値未満であり、重要度は 0.06 ポイント減少していることが確認できた。

「子どもの視点に立った環境づくり」の政策については、市民の重要性意識を維持・向上しつつ、満足度を高めていくため、より一層力を入れて取り組むことが必要と判断される。

都市像 子どもの笑顔あふれる、ゆたかな学習・文化都市
政策 文化の継承と発展

質問 67. 「文化の継承と発展」（文化財保護、文化芸術活動支援等）の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

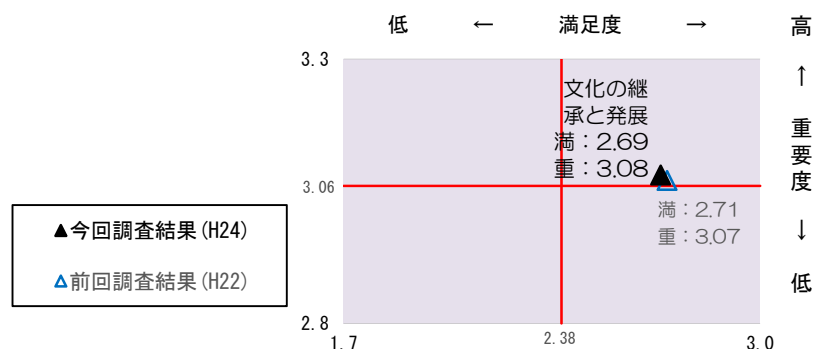
(満足度)

選択項目	回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	79 人 (5.8%)	552 人
まあ満足	473 人 (34.9%)	(69.2%)
やや不満	166 人 (12.3%)	246 人
不満	80 人 (5.9%)	(30.8%)
合 計	798 人 (58.9%)	798 人 (100%)
わからない	493 人 (36.4%)	—
無回答	64 人 (4.7%)	
合 計	1,355 人 (100%)	

(重要度)

選択項目	回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	319 人 (23.5%)	793 人
まあ高い	474 人 (35.0%)	(80.8%)
やや低い	133 人 (9.8%)	189 人
低い	56 人 (4.1%)	(19.2%)
合 計	982 人 (72.5%)	982 人 (100%)
わからない	295 人 (21.8%)	—
無回答	78 人 (5.8%)	
合 計	1,355 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が69.2%となっており、重要度では、「まあ高い」以上が80.8%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「文化の継承と発展」の政策について、満足度、重要度共に高く見ているといえる。

前回調査と比較すると、満足度は0.02ポイント減少し、重要度は0.01ポイント増加しており、市民の重要性意識がわずかにだが高くなっていることが確認できた。

那覇市が今年度より推進している「ハイサイ・ハイタイ運動」については、次回調査で検証することとする。

「文化の継承と発展」の政策については、満足度を維持、向上させつつ、重要性について市民意識をさらに高める取り組みが必要と判断される。

都市像 人も、まちも活いき、美ら島の観光交流都市
政策 産業の振興

質問 68. 「産業の振興」（観光振興、中小企業支援等）の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

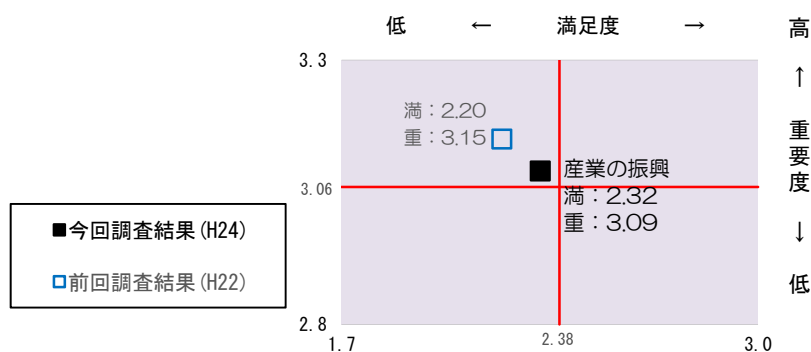
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	39 人	(2.9%)	349 人 (45.3%)
まあ満足	310 人	(22.9%)	
やや不満	280 人	(20.7%)	421 人 (54.7%)
不満	141 人	(10.4%)	
合 計	770 人	(56.8%)	770 人 (100%)
わからない	524 人	(38.7%)	—
無回答	61 人	(4.5%)	
合 計	1,355 人	(100%)	

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数
			(%)
高い	350 人	(25.8%)	756 人 (78.6%)
まあ高い	406 人	(30.0%)	
やや低い	144 人	(10.6%)	206 人 (21.4%)
低い	62 人	(4.6%)	
合 計	962 人	(71.0%)	962 人 (100%)
わからない	317 人	(23.4%)	—
無回答	76 人	(5.6%)	
合 計	1,355 人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 45.3%となっており、重要度では、「まあ高い」以上が 78.6%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「産業の振興」の政策について、満足度は低く、重要度は高く見ているといえる。

前回調査と比較すると、満足度は 0.12 ポイント増加しているが平均値未満であり、重要度は 0.06 ポイント減少していることが確認できた。

「産業の振興」の政策については、市民の重要性意識を維持・向上しつつ、満足度を高めるため、より一層力を入れて取り組むことが必要と判断される。

都市像 人も、まちも活いき、美ら島の観光交流都市
政策 まちの活性化

質問 69. 「まちの活性化」（中心商店街の振興等）の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

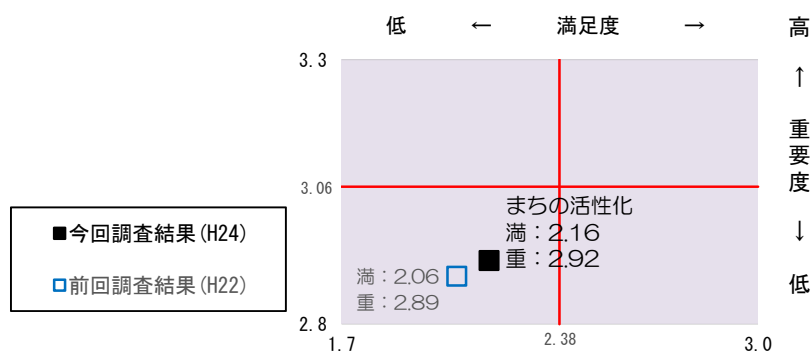
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
満足	27 人	(2.0%)	314 人	(35.6%)
まあ満足	287 人	(21.2%)		
やや不満	364 人	(26.9%)	567 人	(64.4%)
不満	203 人	(15.0%)		
合 計	881 人	(65.0%)	881 人	(100%)
わからない	416 人	(30.7%)		
無回答	58 人	(4.3%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
高い	293 人	(21.6%)	746 人	(72.2%)
まあ高い	453 人	(33.4%)		
やや低い	200 人	(14.8%)	287 人	(27.8%)
低い	87 人	(6.4%)		
合 計	1,033 人	(76.2%)	1,033 人	(100%)
わからない	253 人	(18.7%)		
無回答	69 人	(5.1%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 35.6%となっており、重要度では、「まあ高い」以上が 72.2%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「まちの活性化」の政策について、満足度、重要度共に平均値を下回っており、市民の評価は低いといえる。

前回調査と比較すると、満足度は 0.1 ポイント、重要度は 0.03 ポイントそれぞれ増加しているが、平均値未満であることが確認できた。

「まちの活性化」の政策については、市民の満足度、重要度を高めていくために、より一層の取り組みを行う必要がある。

都市像 人も、まちも活いき、美ら島の観光交流都市
政策 就労支援・相談体制

質問 70. 「就労支援・相談体制」（雇用の促進等）の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

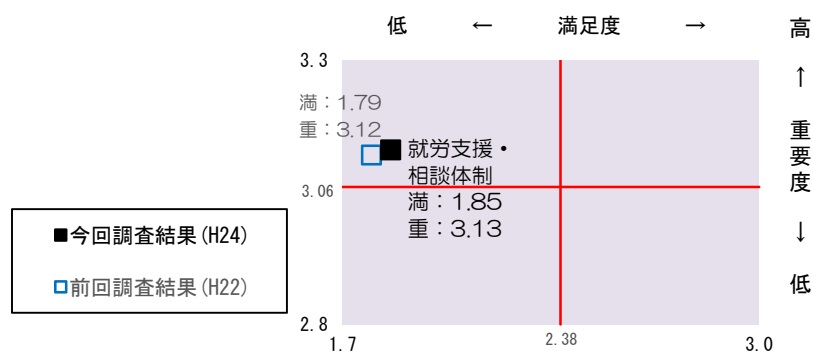
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
満足	26 人	(1.9%)	178 人	(20.5%)
まあ満足	152 人	(11.2%)		
やや不満	356 人	(26.3%)	692 人	(79.5%)
不満	336 人	(24.8%)		
合 計	870 人	(64.2%)	870 人	(100%)
わからない	429 人	(31.7%)		
無回答	56 人	(4.1%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
高い	494 人	(36.5%)	770 人	(75.6%)
まあ高い	276 人	(20.4%)		
やや低い	131 人	(9.7%)	248 人	(24.4%)
低い	117 人	(8.6%)		
合 計	1,018 人	(75.1%)	1,018 人	(100%)
わからない	272 人	(20.1%)		
無回答	65 人	(4.8%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 20.5%となっており、重要度では、「まあ高い」以上が 75.6%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「就労支援・相談体制」の政策について、満足度は低く、重要度は高く見ているといえる。

前回調査と比較すると、満足度は 0.06 ポイント、重要度は 0.01 ポイント増加しているが、満足度については平均値未満である。

「就労支援・相談体制」の政策については、市民満足度を高めるため、より一層力を入れて取り組むことが必要と判断される。

都市像 安心、安全で快適な亜熱帯庭園都市
政策 都市防災と防犯

質問 71. 「都市防災と防犯」の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

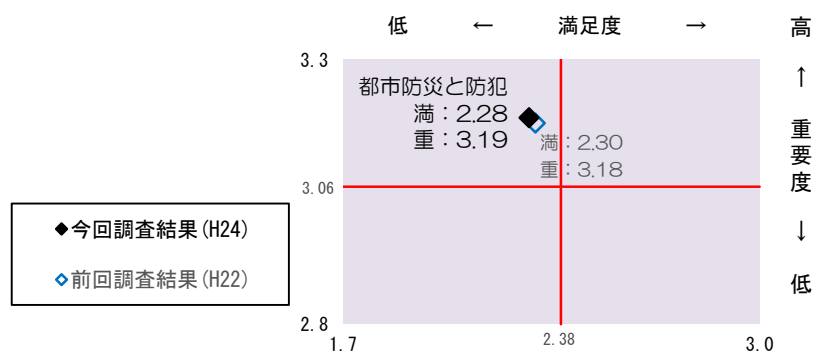
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
満足	41 人	(3.0%)	361 人	(42.5%)
まあ満足	320 人	(23.6%)		
やや不満	325 人	(24.0%)	488 人	(57.5%)
不満	163 人	(12.0%)		
合 計	849 人	(62.7%)	849 人	(100%)
わからない	450 人	(33.2%)		
無回答	56 人	(4.1%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
高い	458 人	(33.8%)	832 人	(81.3%)
まあ高い	374 人	(27.6%)		
やや低い	118 人	(8.7%)	192 人	(18.8%)
低い	74 人	(5.5%)		
合 計	1,024 人	(75.6%)	1,024 人	(100%)
わからない	266 人	(19.6%)		
無回答	65 人	(4.8%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 42.5%となっており、重要度では、「まあ高い」以上が 81.3%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「都市防災と防犯」の政策について、満足度は低く、重要度は高く見ているといえる。

前回調査と比較すると、満足度は平均値未満でさらに 0.02 ポイント減少し、重要度は 0.01 ポイント増加していることが確認できた。

東日本大震災の影響で、市民の意識が高まった事が予想され、満足度を向上させるため、重点的に取り組む必要があると思われる。

「都市防災と防犯」の政策については、市民満足度を高めるため、より一層力を入れて取り組むことが必要と判断される。

都市像 安心、安全で快適な亜熱帯庭園都市
政策 市街地の整備

質問 72. 「市街地の整備」（市街地再開発事業等）の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

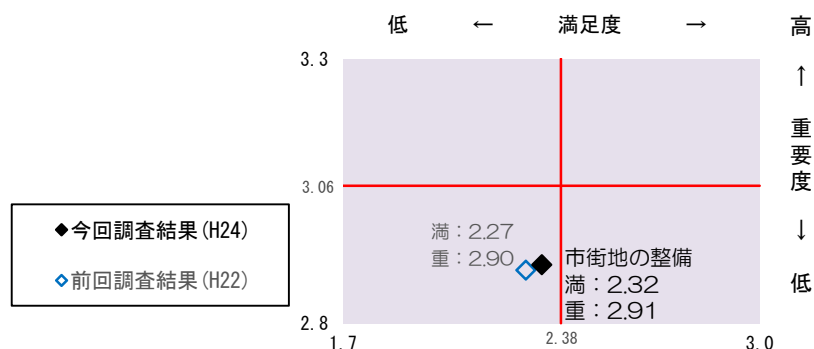
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
満足	41 人	(3.0%)	388 人	
まあ満足	347 人	(25.6%)	(46.3%)	
やや不満	291 人	(21.5%)	450 人	
不満	159 人	(11.7%)	(53.7%)	
合 計	838 人	(61.8%)	838 人	(100%)
わからない	460 人	(33.9%)	—	
無回答	57 人	(4.2%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
高い	255 人	(18.8%)	704 人	
まあ高い	449 人	(33.1%)	(73.0%)	
やや低い	182 人	(13.4%)	261 人	
低い	79 人	(5.8%)	(27.0%)	
合 計	965 人	(71.2%)	965 人	(100%)
わからない	312 人	(23.0%)	—	
無回答	78 人	(5.8%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 46.3%となっており、重要度では、「まあ高い」以上が 73%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「市街地の整備」の政策について、満足度、重要度共に平均値より低く見ているといえる。

前回調査と比較すると、満足度は 0.05 ポイント、重要度は 0.01 ポイント増加しており、市民の評価はわずかに向上しているが、平均値未滿に留まっている。

「市街地の整備」の政策については、市民の満足度、重要度を高めていくために、より一層の取り組みを行う必要がある。

都市像 安心、安全で快適な亜熱帯庭園都市
政策 交通体系の整備

質問 73. 「交通体系の整備」（市内の道路や公共交通の体系的な整備）について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

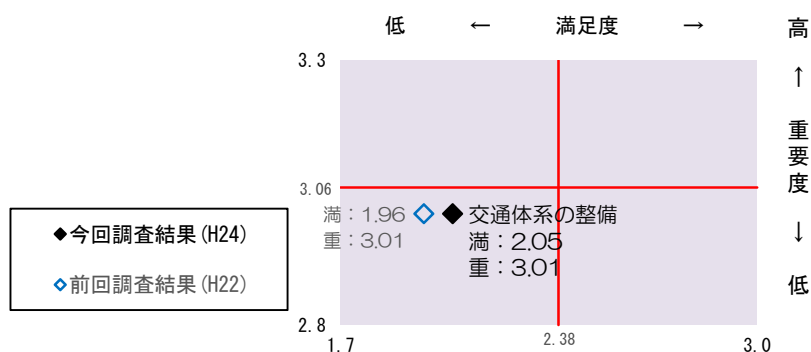
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
満足	37 人	(2.7%)	341 人 (32.6%)	(67.4%)
まあ満足	304 人	(22.4%)		
やや不満	375 人	(27.7%)		
不満	330 人	(24.4%)		
合 計	1,046 人	(77.2%)	1,046 人	(100%)
わからない	252 人	(18.6%)	—	—
無回答	57 人	(4.2%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
高い	397 人	(29.3%)	833 人 (74.9%)	(25.1%)
まあ高い	436 人	(32.2%)		
やや低い	173 人	(12.8%)		
低い	106 人	(7.8%)		
合 計	1,112 人	(82.1%)	1,112 人	(100%)
わからない	175 人	(12.9%)	—	—
無回答	68 人	(5.0%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 32.6%となっており、重要度では、「まあ高い」以上が 74.9%となっている。

相対分布グラフでみると、「交通体系の整備」政策の満足度、重要度共に平均値を下回っており、市民の評価は低いといえる。

前回調査と比較すると、満足度は 0.09 ポイント増加しているが平均値未満で、重要度は前回調査と同値となっていることが確認できた。

「交通体系の整備」の政策については、市民の満足度、重要度を高めていくために、より一層の取り組みを行う必要がある。

都市像 安心、安全で快適な亜熱帯庭園都市
政策 上下水道の整備

質問 74. 「上下水道の整備」の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

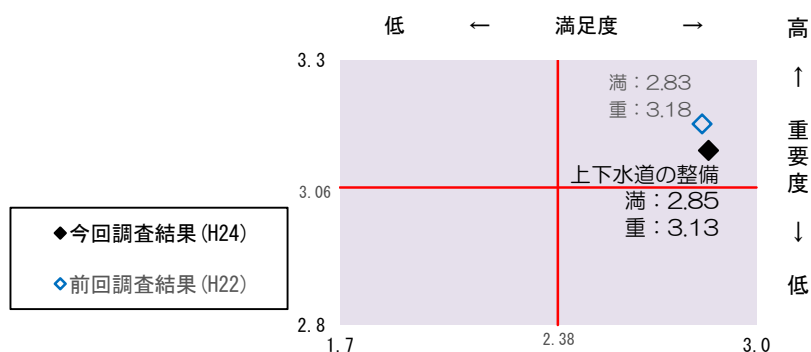
(満足度)

選択項目	回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	167 人 (12.3%)	726 人 (76.1%)
まあ満足	559 人 (41.3%)	
やや不満	149 人 (11.0%)	
不満	79 人 (5.8%)	
合 計	954 人 (70.4%)	954 人 (100%)
わからない	352 人 (26.0%)	—
無回答	49 人 (3.6%)	
合 計	1,355 人 (100%)	

(重要度)

選択項目	回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	366 人 (27.0%)	885 人 (83.3%)
まあ高い	519 人 (38.3%)	
やや低い	125 人 (9.2%)	178 人 (16.7%)
低い	53 人 (3.9%)	
合 計	1,063 人 (78.5%)	1,063 人 (100%)
わからない	223 人 (16.5%)	—
無回答	69 人 (5.1%)	
合 計	1,355 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 76.1%となっており、重要度では、「まあ高い」以上が 83.3%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「上下水道の整備」の政策について、満足度、重要度共に高く見ているといえる。

前回調査と比較すると、満足度は 0.02 ポイント増加し、重要度は 0.05 ポイント減少しており、市民の重要度意識が低くなっていることが確認できた。

「上下水道の整備」の政策については、市民に評価されており、今後とも、この評価を維持するべく取り組むことが望まれる。

都市像 安心、安全で快適な亜熱帯庭園都市
政策 自然と調和したまちなみ

質問 75. 「自然と調和したまちなみ」（公園・緑地整備等）の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
(重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

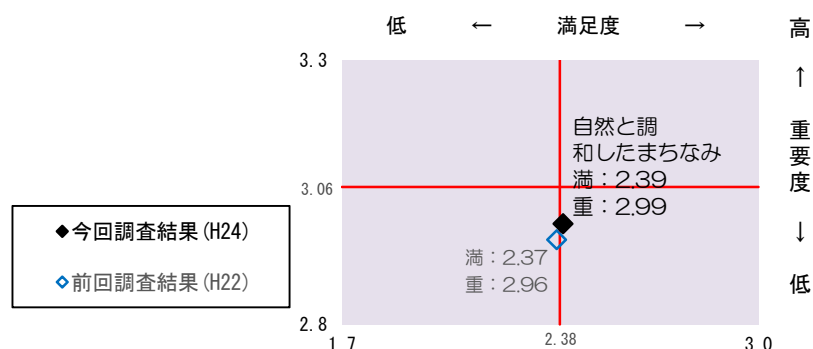
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
満足	59 人	(4.4%)	512 人	(50.4%)
まあ満足	453 人	(33.4%)		
やや不満	332 人	(24.5%)	503 人	(49.6%)
不満	171 人	(12.6%)		
合 計	1,015 人	(74.9%)	1,015 人	(100%)
わからない	266 人	(19.6%)		
無回答	74 人	(5.5%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数	(%)
高い	321 人	(23.7%)	825 人	(76.0%)
まあ高い	504 人	(37.2%)		
やや低い	188 人	(13.9%)	261 人	(24.0%)
低い	73 人	(5.4%)		
合 計	1,086 人	(80.1%)	1,086 人	(100%)
わからない	182 人	(13.4%)		
無回答	87 人	(6.4%)		
合 計	1,355 人	(100%)		

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 50.4%となっており、重要度では、「まあ高い」以上が 76%となっている。

相対分布グラフでみると、市民は「自然と調和したまちなみ」の政策について、満足度はかろうじて平均値を上回り、重要度は平均値以下となっている。

前回調査と比較すると、満足度は 0.02 ポイント、重要度は 0.03 ポイントそれぞれ増加しているが、重要度は平均値未満となっている。

「自然と調和したまちなみ」の政策については、市民の満足度、重要度を高めていくために、より一層の取り組みを行う必要がある。

発行 那覇市企画財務部 企画調整課

〒900－8585 那覇市泉崎 1－1－1

TEL：098－862－9937

FAX：098－862－4263

調査実施 株式会社 沖縄チャンドラー



はじめていやーさい!

中核市 **なは**

